

学勢調査 2024 提言書

2025 年 3 月
学勢調査スタッフ一同

第 1 版: 2025 年 3 月 28 日

第 2 版: 2025 年 4 月 7 日

学勢調査 2024 提言書

2025 年 3 月

東京科学大学

学勢調査 2024 スタッパー同



Institute of
SCIENCE TOKYO

代表からの挨拶

2005 年から本格実施された学勢調査は、大学運営に学生の声を取り入れて、本学をより魅力ある大学にすることを目的に活動が続け、今年で 20 周年を迎えました。設問検討から調査結果の集計、解析、提言書作成までを学生スタッフ主導で実施する学勢調査は、他大学には例を見ない本学独自の取り組みです。学勢調査 2022 の提言書奉呈および追加調査報告書奉呈以降、本学の授業は原則対面実施となり、キャンパスには多くの学生の姿が戻りました。そして、つばめテラスのオープンや全学 Slack の導入など、施設面やサービス面でも多くの変化がありました。さらに、2024 年 10 月には、東京医科歯科大学と東京工業大学が統合し、東京科学大学が誕生しました。本調査は統合前に実施されましたが、統合後の新大学への意見も含めた多くの意見が寄せられました。こうした変化の中で、学生スタッフ一同、寄せられた意見の重要性を自覚し、丁寧な分析を行い、提言を作成しました。本提言書が本学をより良い大学にすることの一助となれば幸いです。

学勢調査 2024 は計 2,418 名の学生から回答をいただきました。設問には、大学統合や新しく完成した施設、新制度に関する内容が含まれています。今回の調査では、学修や施設、サービスへの意見に加え、DE&I の推進や大学統合など、全学での取り組みに関する意見も数多く寄せられました。また、以前の学勢調査でも寄せられていた意見の一部が、今回の調査でも改めて寄せられました。過去の学勢調査を振り返り、どのようにすれば、学生の意見を最大限提言に反映できるのか、教職員や執行部の方々に伝えることができるのか、学生スタッフの間で積極的に意見交換を行い、提言を作成しました。その結果、23 の提言と 6 の意見まとめが完成しました。私自身、学勢調査 2024 学生スタッフ代表としての活動を進める中で、学生スタッフの仲間たちや教職員の皆様の支えを受け、協力することの大切さを学ぶことができたと思います。

最後になりますが、学勢調査 2024 に回答してくださった学生の皆様に深く感謝いたします。皆様が意見を寄せ続けてくれるからこそ、本学はより魅力ある大学へ変わることができます。今後も学勢調査へのご協力をお願いいたします。キャンパスミーティングに対応してくださった学内各部局の教職員の方々には、多くの質問にご対応いただき、心より感謝申し上げます。皆様からお話を伺う中で、共に本学をより良い大学にしたいという思いがより一層強くなりました。設問作成から提言書作成まで厳しいスケジュール中で共に活動してくれた学生スタッフの皆さん、いつも学勢調査の活動を支えてくださっている教職員 WG メンバーの皆様、大変にお世話になりました。この場を借りて御礼申し上げます。

学勢調査 2024 代表

生命理工学院 生命理工学系 4 年

松本 淳弥

目次

<u>学勢調査 2024 提言書</u>	
<u>代表からの挨拶</u>	1
<u>目次</u>	2
1 <u>学勢調査概要</u>	4
1.1 <u>調査目的</u>	4
1.2 <u>調査主体</u>	4
1.3 <u>調査時期・調査対象・調査事項</u>	4
1.4 <u>調査方法・分析方法</u>	4
1.5 <u>回答者の属性と推移</u>	5
1.6 <u>全体会議の記録</u>	5
1.7 <u>キャンパスミーティング</u>	7
1.8 <u>公表と報告</u>	8
2 <u>学修</u>	9
提言 2-1 <u>アントレプレナーシップ科目の拡充</u>	9
提言 2-2 <u>大学院での英語開講科目受講に向けた、学士課程での英語能力向上を目的としたカリキュラムの設置と英語科目のカリキュラム改善</u>	17
提言 2-3 <u>他キャンパスで開講されている授業をより履修しやすくするための環境整備</u>	21
意見まとめ 2-4 <u>学院・系・コースへの意見</u>	27
意見まとめ 2-5 <u>教養科目への意見</u>	35
3 <u>施設</u>	40
提言 3-1 <u>生協食堂の価格およびメニューに関する要望</u>	40
提言 3-2 <u>大岡山キャンパスのキッチンカーの配置変更</u>	46
提言 3-3 <u>体育館アリーナにおけるエアコンの設置</u>	49
提言 3-4 <u>飲料水確保のための給水機設置</u>	54
提言 3-5 <u>フリースペースの周知、拡充</u>	56
提言 3-6 <u>田町キャンパスの環境改善</u>	59
提言 3-7 <u>生協の営業時間の延長</u>	61
提言 3-8 <u>夏季の大岡山図書館学習棟の利用に向けた情報公開および対策立案</u>	63
提言 3-9 <u>学内図書施設の連携促進と貸出・返却・検索システムの統合</u>	67
意見まとめ 3-10 <u>施設に関する意見</u>	70

意見まとめ 3-11	生協食堂・ショップに関する意見	78
4	サービス	82
提言 4-1	理工学系全構成員を対象としたハラスメント研修プログラム強化	82
提言 4-2	留学に関する現状と促進のための提言	87
提言 4-3	公欠制度の改善	97
提言 4-4	教育システムの改善要求	102
提言 4-5	Slack を活用した新入生向け相談窓口の設置	108
提言 4-6	防災訓練の参加促進	114
意見まとめ 4-7	奨学金支援の強化	118
意見まとめ 4-8	学生間交流を促進するための施策	120
5	DE&I	123
提言 5-1	DE&I に関する講義の必修化	123
提言 5-2	対象者を拡大したリフレッシュスペースの設置	127
提言 5-3	入試改革目標の明確化	130
6	その他	134
提言 6-1	「すずかけ」名称の継続的な使用	134
提言 6-2	大学執行部との対話機会の設置	137
7	調査資料集	141
7.1	基本情報	141
7.2	大学生生活	146
7.3	学修	146
7.4	学修サービス	151
7.5	食事	154
7.6	施設	156
7.7	大学全般	158
7.8	その他	161
7.9	学勢調査 2024 設問一覧(日本語)	162
7.10	Questions of Student Survey 2024 (English)	169
8	謝辞	177
9	学勢調査 2024 学生スタッフ	179
10	学勢調査 2024WG 教職員スタッフ	181

1 学勢調査概要

1.1 調査目的

学勢調査は、本学における教育システムや施設、学内サービスなど、大学の運営全般に対して学生の声を取り入れ、本学をより魅力ある大学とすることを目的として行われます。

1.2 調査主体

学生支援センター未来人材育成部門¹に置かれている学勢調査 2024WG が、学生スタッフを募集し、アンケート調査を実施しました。

1.3 調査時期・調査対象・調査事項

本調査は 2024 年 6 月 24 日～同年 7 月 24 日に実施しました。調査対象は東工大に在籍していた全学生です。調査事項については、「7. 調査資料集」に掲載しましたので、そちらをご参照ください。

1.4 調査方法・分析方法

本調査は、教務 Web システムのアンケート機能を利用して行われました。これは本学学生のみが回答できるようにするためですが、学生スタッフには個人情報は一切開示されていません。

調査項目は設問検討会議を通じて学生スタッフが決定しました。回答データの解析についても、学生スタッフがデータの分析、議論を行い、その結果に基づいて提言を作成しました。

¹ 2024 年 10 月より大岡山学生支援センター未来人材育成支援室

1.5 回答者の属性と推移

学勢調査 2024 を含む全 10 回のこれまでの学勢調査への回答者数の遷移と内訳を図 1-5.1 に示します。前回、前々回の実施に比べ、回答者数が減少しました。内訳で見ると、前回の実施より学士課程の回答者数は増加しましたが、大学院修士・博士後期課程の回答者数が減少しています。回答者 2,418 人の男女比率については、男性 1,916 人(79%)、女性 408 人(17%)、回答しない 52 人(2%)、非選択 42 人(2%)²と男性が多数を占めています。

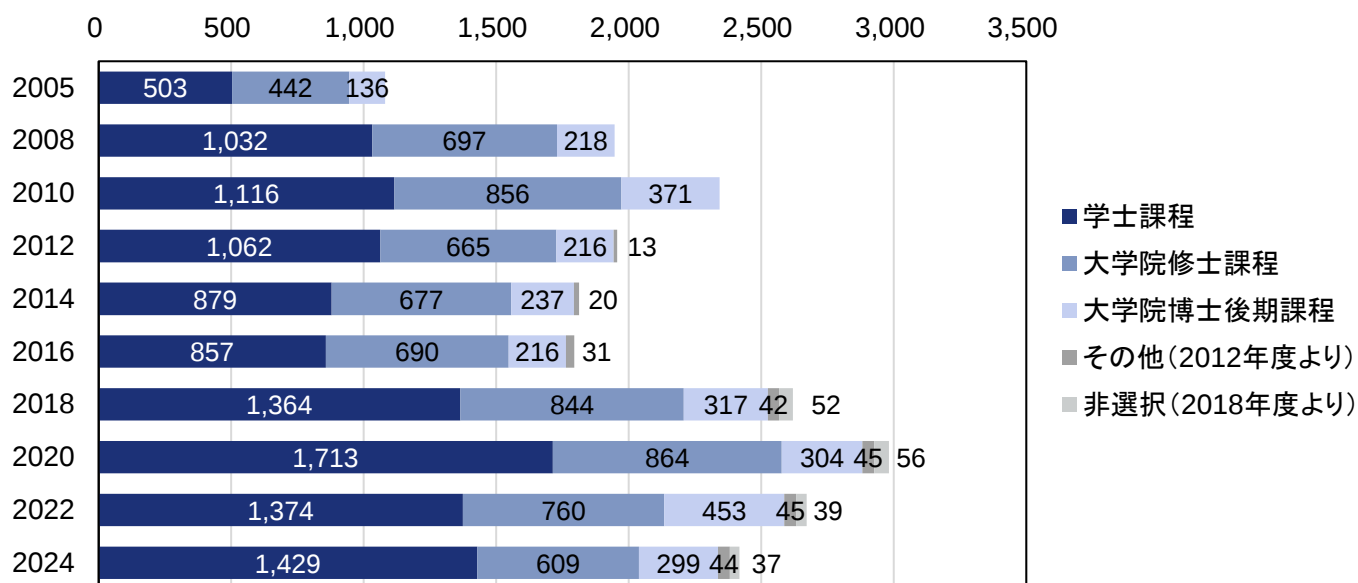


図 1-5.1 学勢調査回答者数の遷移

1.6 全体会議の記録

● 設問検討会議

計 15 回にわたり調査項目の検討を実施し、学勢調査 2022 からの不必要調査項目の削除、新たに追加する調査項目の選定を行いました。全て対面と Zoom のハイブリッド形式で行いました。学勢調査 2024 設問検討会議の日時・議題は以下の通りです。

第 0 回 2023 年 11 月 9 日（木）スケジュール決定、学生スタッフの役職割り振り

第 1 回 2023 年 11 月 17 日（金）設問決定の方針・活動の日程検討

第 2 回 2023 年 12 月 11 日（月）項目検討

² 学勢調査 2024 提言書「7. 調査資料集」図 7-1.9 性別 を参照

- 第 3 回 2023 年 12 月 18 日（月）項目検討
- 第 4 回 2023 年 12 月 25 日（月）項目検討
- 第 5 回 2024 年 1 月 11 日（木）項目検討
- 第 6 回 2024 年 1 月 22 日（月）項目検討
- 第 7 回 2024 年 1 月 29 日（月）項目検討
- 第 8 回 2024 年 2 月 16 日（金）項目検討
- 第 9 回 2024 年 2 月 19 日（月）項目検討
- 第 10 回 2024 年 3 月 8 日（金）項目検討、学勢調査 2024 広報活動検討
- 第 11 回 2024 年 4 月 4 日（木）項目検討、学勢調査 2024 広報活動検討
- 第 12 回 2024 年 4 月 12 日（金）項目検討
- 第 13 回 2024 年 5 月 13 日（月）項目検討、学勢調査 2024 広報活動検討
- 第 14 回 2024 年 5 月 16 日（木）学勢調査 2024 調査実施期間、検討
- 第 15 回 2024 年 6 月 28 日（金）学勢調査 2024 広報活動検討

● 提言書作成会議

計 6 回にわたり、提言書作成に関する議論等を学生スタッフ全体で行いました。全体会議は Zoom を用いたオンラインと対面のハイブリッド形式により行いました。加えて、作成する提言の属性ごとに少人数での班（学修班、施設班、サービス班、DE&I 班、その他班）で分担し、提言を作成しました。各班でもハイブリッド形式で会議を行いました。学勢調査 2024 提言書作成にかかる会議の日時・議題は以下の通りです。

全体会議

- 第 1 回 2024 年 9 月 18 日（水）学生スタッフ及び教職員 WG の顔合わせ、データ配布と取り扱い方の説明
- 第 2 回 2024 年 10 月 11 日（金）自由記述解析班分け
- 第 3 回 2024 年 10 月 22 日（火）自由記述、数値分析振り分け
- 第 4 回 2024 年 12 月 6 日（金）提言案作成
- 第 5 回 2025 年 1 月 28 日（火）数値データ解析共有
- 第 6 回 2025 年 1 月 30 日（木）提言書構成検討

学勢調査概要

班会議

学修班	2024 年 11 月 6 日（水）	数値解析結果共有、提言案作成
DE&I 班	2024 年 11 月 11 日（月）	自由記述分析共有、提言案作成
サービス班	2024 年 11 月 19 日（火）	提言案作成
施設班	2024 年 11 月 20 日（水）	自由記述分析共有、提言案作成
その他班	2024 年 11 月 21 日（木）	自由記述分析共有
学修班	2025 年 2 月 19 日（水）	提言の学生間確認
施設班	2025 年 2 月 19 日（水）	提言の学生間確認
サービス班	2025 年 2 月 20 日（木）	提言の学生間確認
DE&I 班	2025 年 2 月 21 日（金）	提言の学生間確認
その他班	2025 年 2 月 21 日（金）	提言の学生間確認

1.7 キャンパスミーティング

キャンパスミーティングとは、調査結果ならびにそれに基づいて作成された提言案について、本学の事務局各部局へ質問書を提出し、話し合いを通じて学勢調査スタッフと各部局教職員の方々との意見交換を行うものです。キャンパスミーティングを行うことにより、大学と学生との間の情報共有不足による誤解を避け、双方の実態や価値観を照らし合わせることで、相互理解を促進させ、より現実的で実効性のある提言案を作成することができます。今回、ご協力いただいた事務局担当ならびに教職員の方は以下の通りです。ご多用の中、キャンパスミーティングにご協力いただきまして誠にありがとうございました。

—社会連携・DE&I 本部

…DE&I 施策について

—総務企画部総務課

…理事長、学長の学生への説明会の方針について

—総務企画部企画戦略課

…大学統合に関する学生説明会について

—総務企画部広報課

…キャンパスマップについて

—総務企画部ダイバーシティ推進課

…DE&I 施策について

—総務企画部環境安全課

…防災訓練について

—総務企画部すずかけ台総務課

…キャンパス名称変更について

—人事部人材育成課

…ハラスメント対策について

—施設部再開発推進課	…キャンパス名称変更について
—情報部情報企画課	…学修システム、Slack、Box について
—情報部図書館情報管理課	…図書館システムについて
—情報部図書館利用支援課	…図書館設備について
—教育推進部教務課	…本学の教育やサービスについて
—教育推進部学生支援課	…学生生活全般について
—教育推進部入試課	…女子枠・学生説明会について
—教育推進部全学教育推進課	…アントレプレナーシップ科目について
—教育推進部国際教育課	…留学について
—学院等事務部環境・社会理工学院業務推進課	…田町キャンパスについて
—学院等事務部リベラルアーツ研究教育院業務推進課	…教養科目・立志プロジェクトについて
—リベラルアーツ研究教育院	…教養科目・立志プロジェクトについて
—データサイエンス・AI 全学教育機構	…講義の開講時間について
—学生支援センター	…学修コンシェルジュについて
—東京科学大学つばめ生活協同組合	…食堂について

1.8 公表と報告

本提言書は、理事長および学長への奉呈後、インターネットの学勢調査専用サイトおよび冊子で公表されます。冊子は大岡山、すすかけ台、御茶ノ水、国府台の附属図書館で閲覧できます。

※学勢調査専用サイト：<http://www.siengp.titech.ac.jp/gakuseichousa/>

学勢調査 2024 データを利用する際には、学内外に関わらず、事前に大岡山学生支援センター未来人材育成支援室 [gakuseichousa1\[at\]jim.titech.ac.jp](mailto:gakuseichousa1[at]jim.titech.ac.jp) へご連絡ください。

2 学修

2 学修

提言 2-1 アントレプレナーシップ科目の拡充

学生の意見

設問 No. 3-4「教養科目(理工系教養科目、文系教養科目、英語科目、第二外国語科目、日本語・日本文化科目、広域教養科目、教職科目、キャリア科目(2023 年度まで)、アントレプレナーシップ科目(2024 年度以降))への意見があれば教えてください。」に対する意見としてキャリア科目、アントレプレナーシップ科目について寄せられた意見を以下に示します。

- アントレプレナーシップ科目の意義が理解できない(同様意見 7 件)
- 履修できる科目が多様すぎてよくわからない(同様意見 5 件)
- 学士課程科目を増やしてほしい、学士課程でキャリアに関する科目をするべき(同様意見 5 件)
- 就活スケジュールとカリキュラム内容が合っていないように感じる(同様意見 3 件)
- 実用的に使える科目にしてほしい(同様意見 3 件)
- 学外研修のバリエーションを増やしてほしい(ビジネスコンテストへの参加、インターンシップ起業のバリエーション)
(同様意見 2 件)

現状分析

アントレプレナーシップ科目¹とは、2024 年度に本学理工学系に設置された新たな科目群です。2024 年度現在、アントレプレナーシップ科目は 2023 年度まで大学院課程で開講されていたキャリア科目や、学士課程からの教育プログラムであったグローバル理工人育成コースで開講されていた科目などを踏襲しつつ、新たな科目も設置されています。

学勢調査の回答を継続的にみることにより、「積極的にアントレプレナーシップ養成に取り組むべき」と考える学生が増加傾向にあることがわかりました。図 2-1.1 は、過去 3 回の調査(学勢調査 2022、学勢調査 2022 追加調査、本調査)での本学が育成すべき人材について問う設問²の各選択肢の回答選択率を比較したものです(学士課程、大学院修士課

¹ 本学ではアントレプレナーシップを現代の予測困難な「VUCA の時代」を生き抜くために必要な「新たな価値を開発・開拓し、それを社会に事業として設定する行動体系」として定義し、そのアントレプレナーシップを培うための科目としてアントレプレナーシップ科目は設置されました。具体的には、「先見性」、「国際性」、「リーダーシップ」、「価値創造」、「キャリア構築」の5つの要素に関係する能力、知識やスキルを修得することを目的とし設置されています。(出典:東京科学大学大学院学修案内 2024「アントレプレナーシップ科目」:https://www.titech.ac.jp/guide/guide_2024/graduate/(最終閲覧日:2025年2月15日))

² 本学の人材育成の進むべき方向性について問う設問については、年度ごとに設問の文章表現の変更が行われています。ここでは、下記設問を本学の人材育成の進むべき方向性についての設問として、同一設問と扱い表を作成しました。学勢調査 2022:設問 No. 3-1「あなたが思う東工大の人材育成における進むべき方向性を教えてください。」、学勢調査 2022 追加調査:設問 No. 2-2「統合後の新大学が人材育成において目指すべき方向性を教えてください。」、学勢調査

程、博士後期課程の学生の回答に限る)。図 2-1.1 より、すべての選択肢において選択率は上昇傾向であることから、年々、本学が掲げる人材育成の目的が認知され浸透しつつあると考えられます。特に増加傾向が顕著にみられたのは、「グローバルな人材」「リーダーシップのある人材」「専門力を持つ人材」であり、前者 2 つは本提言で取り扱うアントレプレナーシップ科目に関連する選択肢です。

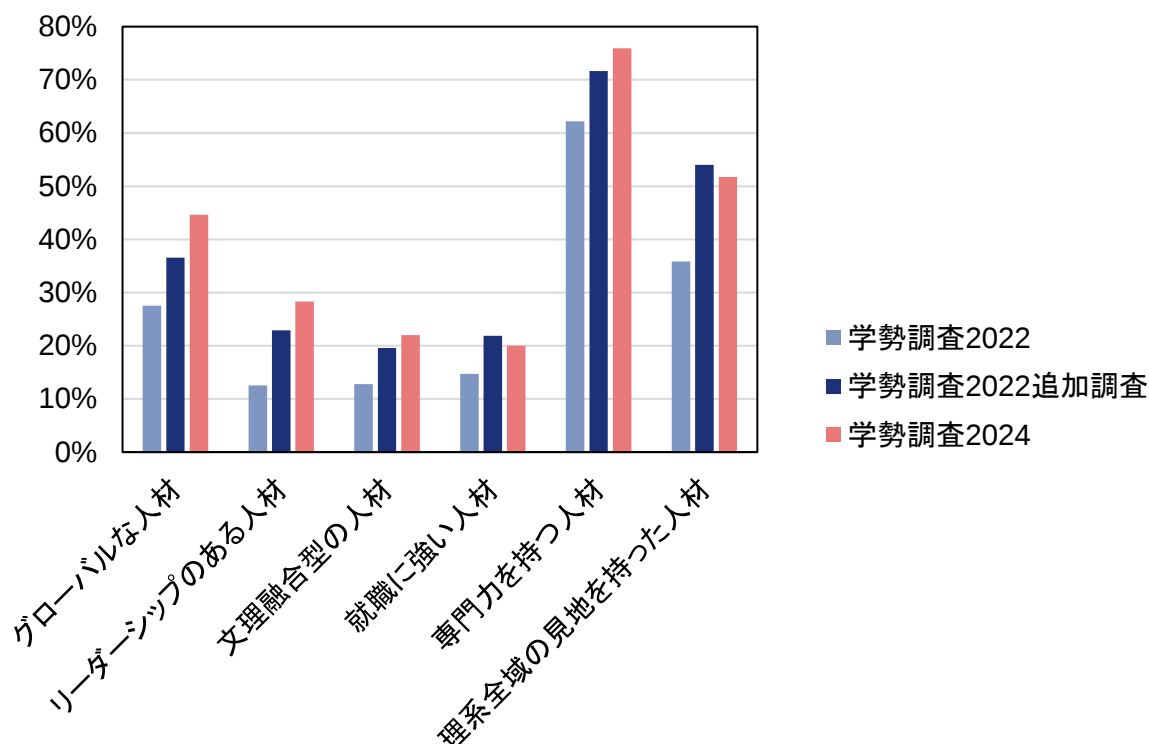


図 2-1.1 本学の人材育成における進むべき方向性について問う設問での各選択肢の回答選択率について学勢調査 2022、学勢調査 2022 追加調査、本調査を比較

また、学生の所属課程が進むにつれて、本学が積極的にアントレプレナーシップ養成に取り組むべきだと考える学生が増加傾向にあることがわかります。図 2-1.2 では、本調査の本学の人材育成における進むべき方向性を問う設問 No. 3-1「東工大(科学大)がどのような人材を育成していくべきかについて教えてください。」の各選択肢の回答選択率を、学士課程、修士課程、博士後期課程で比較しています。図 2-1.2 より、所属課程が進むにつれ、主に専門科目群のカリキュラムの目的として設定されている「専門力を持つ人材」と「理系全域の見地を持った人材」の 2 つの選択肢を選ぶ割合が減少傾向にあり、「グローバルな人材」「文理融合型の人材」「リーダーシップのある人材」といった、主に教養科目群のカリキュラムの目的として設定されている 3 つの選択肢の回答選択率が増加傾向にあることがわかります。このことから、学术界や産業界など多様な領域で活躍するには、専門的知識だけでなく国際性やリーダーシップが重要であると学

2024:設問 No. 3-1「東工大(科学大)がどのような人材を育成していくべきかについて教えてください。」なお、これらすべて複数選択可の設問として設定しています。

生が認識しているとも捉えることができます。アントレプレナーシップ科目に対する潜在的な学生ニーズがあると示唆します。

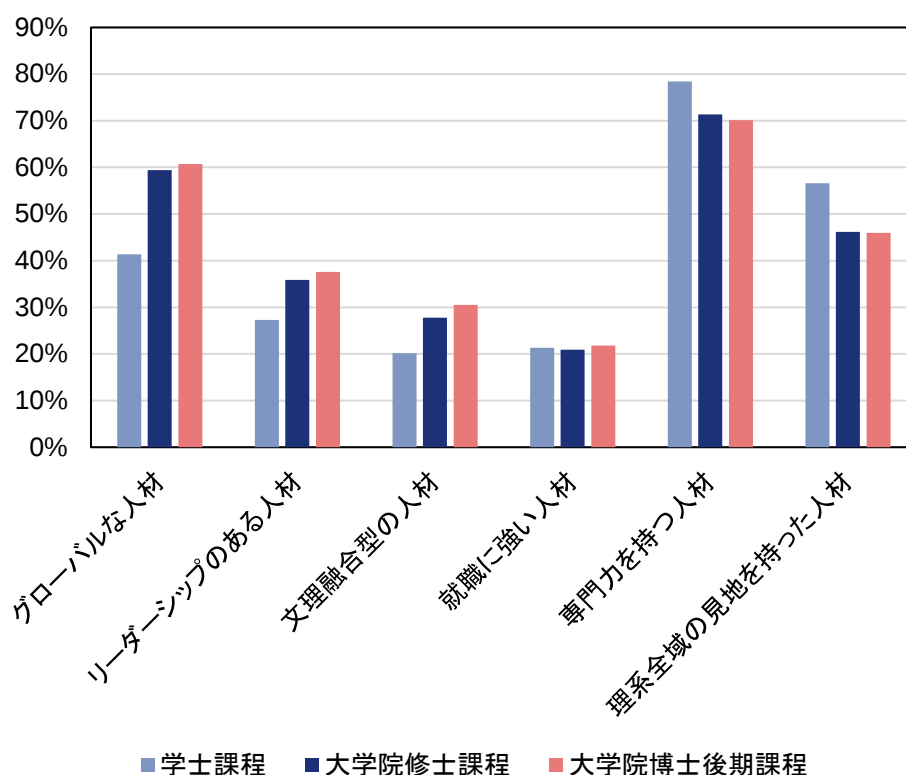


図 2-1.2 設問 No. 3-1「東工大(科学大)がどのような人材を育成していくべきかについて教えてください。」の

各選択肢の回答選択率について所属課程での比較

しかしながら、アントレプレナーシップ科目は設置されて間もない科目であるため、学生の科目に対する理解を十分に得られていない点やカリキュラムとして発展途上な部分も多く存在すると示唆される意見が寄せられました。設問 No. 3-4「教養科目への意見があれば教えてください。」という設問に対する意見を、ここでは大きく 2 つの傾向に分けて取り上げます。

1 つ目は、カリキュラムの目的に沿っており、かつ学生からのニーズがあるものの、科目が開講されていないことに対する意見です。具体的には、「学外研修のバリエーションを増やしてほしい」(同様意見 2 件)や「実用的に使える科目にしてほしい」(同様意見 3 件)といったより実用的な経験や知識を獲得できる科目を増やしてほしいという意見や、「学士課程科目を増やしてほしい、学士課程でキャリアに関する科目をするべき」(同様意見 5 件)や「就活スケジュールとカリキュラム内容が合っていないように感じる」(同様意見 3 件)といったキャリアを構築する力を育む科目を年次が低い学生を対象に開講してほしいという意見です。

「実用的な経験や知識を獲得できる科目を増やしてほしい」という意見に関連する現行の制度としては、企業でのインターンシップ経験を単位として取得できる科目、リーダーシップ教育院が開講する事業化検証プログラム「リーン・ローン

チパッド・プログラム³」など、ビジネスコンテストと形態の似たプログラムへ参加することにより単位取得できる科目があります。一方で、博士後期課程以外では、企業でのインターンシップを単位取得できる科目は全学的に開講されていません。また、先述した「リーン・ローンチパッド・プログラム」は、学士課程所属学生は単位取得ができず、全課程において学内外で行われているビジネスコンテストへの参加を単位として認める制度は 2024 年度現在整っていません。

グループワーク・課題解決型の授業に対するニーズがあることが別の設問に対する意見で確認ができました。設問 No. 9-1「学生間の交流を推進するために、どのような取り組みがあれば良いか教えてください。」に対する意見の中に、「グループワーク・課題解決型の授業を増やす」(同様意見 8 件)との意見がありました。具体的には、「どの系でもある程度のグループワーク・実習を確保してほしい」という意見で、系やコースでの科目の中でも問題解決型学習を取り入れ学んでいきたいと考える学生がいることが確認できます。

「キャリアを構築する力を育む科目を年次が低い学生を対象に開講してほしい」という意見に関しては、修士課程に 4 月に入学する学生の場合、1Q から夏インターンの選考が始まるなど、就職活動の早期化が背景にあると考えられます。2024 年度現在では、キャリア構築を目的とする科目は 400 番台以降しか設置されておらず、修士課程 1 年の 1Q にはすでに就職活動をしている学生がいるため、就職活動を開始する前に履修したかったと感じる学生が多いことが要因であると考えられます。

「学士課程でキャリアに関する科目を設置するべき」という意見の中には、周りに流されて修士課程に進学したことにより、研究活動とのミスマッチが起こっている、という指摘もありました。この指摘については、「修士課程・博士後期課程に進学を希望する理由、希望しない理由」を調査した項目でもその傾向を見ることができます。図 2-1.3 は、設問 No. 3-13「修士課程に進学した、または進学希望なのはなぜですか。」の各項目の回答選択率を、設問 No. 3-14「本学での博士後期課程進学を選択しないのはなぜですか。」に対して、「研究に興味がない」を選択した層(133 名)、選択していない層(1,429 名)を、全体で比較したグラフです。「研究に興味がない」を選択した学生は、修士課程への進学理由として「就活のため」「まだ学生でいたいから」「周りの学生の多くも進学するから」「なんとなく」と回答する割合が多く、「研究したいテーマがあるから」「実験がしたいから」と研究活動に興味を持って進学希望する学生が少ないことがわかりました。修士課程に進学すると研究活動が多く時間を占めるため、研究に興味を持っていない学生が「就活のため」「まだ学生でいたいから」「周りの学生の多くも進学するから」「なんとなく」というような理由で進学すると、学生生活自体に対するミスマッチが起きる可能性があると考えられます。このことから、学士課程でのキャリア構築を目的とする科目にて、就職や修士課程進学などの学士課程卒業後の進路について知り、自らの進路を考える機会を設けることで、修士課程進学後のミスマッチを防ぐ可能性が高いと考察します。

³ 東京科学大学 リーダーシップ教育院【参加者募集・説明会案内】2025 年度 1Q2Q 開催 ビジネス・クリエーション・ワークショップ「リーン・ローンチパッド・プログラム(LLP)」: https://www.total.titech.ac.jp/open_20250408/ (最終閲覧日: 2025 年 3 月 1 日)

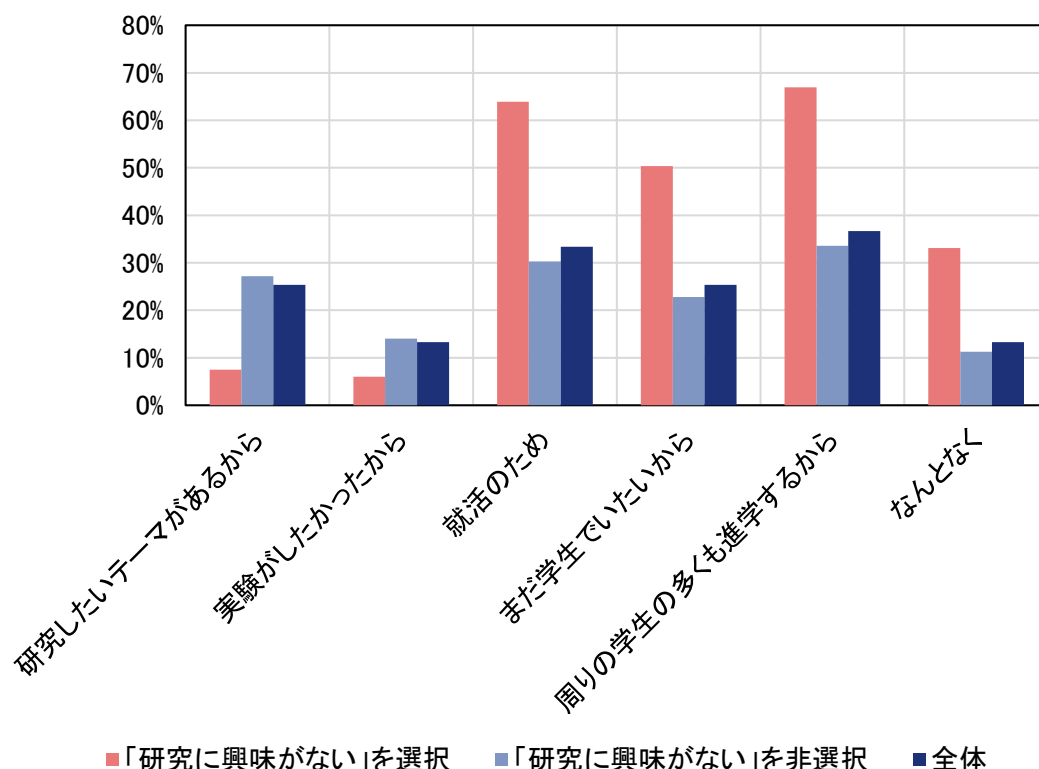


図 2-1.3 設問 No. 3-13「修士課程に進学した、または進学希望なのはなぜですか。」に対する回答割合（設問 No. 3-14「本学での博士後期課程進学を選択しないのはなぜですか。」に対して「研究に興味がない」を選択した層、非選択の層を比較）

2 つ目の意見の傾向としては、「アントレプレナーシップ科目の意義が理解できない」（同様意見 7 件）「履修できる科目が多様すぎてよくわからない」（同様意見 5 件）といった、科目への理解不足が要因と考えられるものがありました。アントレプレナーシップ科目は、多様な履修形態を可能にすることが求められる一方で、多様な履修形態を認めるあまり制度が複雑になり理解しにくさが生まれているのではないかと考えられます。

大学院では、アントレプレナーシップ科目が必修単位となっていますが、その必修単位は、専門科目やリーダーシップ教育院等の開講科目の中の「アントレプレナーシップ科目対応科目」でも取得が可能です。修了要件として、単位数とは別に、アントレプレナーシップ科目やアントレプレナーシップ科目対応科目に附番されている GA を、所定の種類すべて満たすように履修を組まなければなりません。アントレプレナーシップ科目対応科目については、学修案内のアントレプレナーシップ科目や各コースの該当ページに各科目に附番している GA の記載がありますが、履修申告時に主に閲覧すると考えられるシラバス(OCW)には特に記載がなく、教務 Web の科目検索機能に附番されている、GA 毎に科目検索できる機能は実装されていません。そのため、アントレプレナーシップ科目対応科目に関する検索性は著しく低いと考えられます。

これらの現状を踏まえ、教務課とのキャンパスミーティングを実施し、以下のような回答をいただきました。

- Q1. 学士課程で大学院の授業を先取りできる制度があると思います。履修できる科目が専門科目群に限られている理由があれば教えていただきたいです。
- A1. 「くさび型教育」では、教養教育と専門教育を有機的に関連付け、知識や能力をスパイラルアップさせることを目的としており、そのためには卒業・修了まで継続的に教養科目群（アントレプレナーシップ科目を含む。）を履修することが重要であるとしていることから、学士課程において先取りできる修士課程の科目については専門科目群に限定し、教養科目群の科目については修士課程入学後に履修していただくこととしています。
- Q2. GA が取得できる科目をまとめて閲覧できるものは存在しますか。学修案内にはコースごとの開講科目をまとめていることは存じていますが、コースや〇〇教育院（例：卓越教育院、リーダーシップ教育院）などの開講科目でその所属学生以外を対象としている科目があると認識しています。アントレプレナーシップ教育機構以外の開講科目（特に履修対象が特定のコース・教育院所属者に限られない科目）をまとめて学生が確認できるようにすることは可能でしょうか。
- A2. 現在、GA が取得できる科目一覧はありませんが、今後作成を検討します。
- Q3. GA が取得できる科目で、その学期に開講される科目をまとめて閲覧できる科目は存在しますか。また、教務 Web で履修登録する際に GA がある科目の検索機能を付与することは可能でしょうか。
- A3. A2 と同様。教務 Web システムでは、GA がつく科目＝キャリア科目/アントレプレナーシップ科目となります。学生の履修申告時の科目検索画面において、「科目区分」を「アントレプレナーシップ科目」（～2023 年度入学の学生は「キャリア科目」）として検索することで、アントレプレナーシップ教育機構が開講している科目だけでなく、その他の機関が開講している「アントレプレナーシップ科目」を出すことができます。（ただし、「アントレプレナーシップ科目」として開講されている科目の中で GA がない科目も存在し、それらは登録上の都合として、「GA 無し」として GA を登録しています。）学生の履修申告時の科目検索画面において、現在「取得できる GA」を示す情報がありません。もしそれを表示することで利便性が上がるのであれば、システム改修を検討します。

また、全学教育推進課とのキャンパスミーティングを実施し、以下のような回答をいただきました。

- Q1. GA を取得できる授業として、大学院修士課程・博士後期課程の多くのコースで独自の科目が設置されています。コース独自の科目については、どのような科目をいくつくらい設置するようになどといった指示はアントレプレナーシップ教育機構からなされていますか。
- A1. コースが開設しているアントレプレナーシップ科目対応科目は、コースの設置基準に基づき開設しているため、アントレプレナーシップ教育機構から開設数について指示はありません。なお、GA の基準を満たす科目であるかについては、アントレプレナーシップ教育機構で審議を行っています。

- Q2. GA が取得できる科目をまとめて閲覧できるものは存在しますか。学修案内にはコースごとの開講科目をまとめていることは存じていますが、コースや〇〇教育院(例:卓越教育院、リーダーシップ教育院)などの開講科目でその所属学生以外を対象としている科目があると認識しています。アントレプレナーシップ教育機構以外の開講科目(特に履修対象が特定のコース・教育院所属者に限られない科目)をまとめて学生が確認できるようにすることは可能でしょうか。
- A2. GA が取得できる科目について把握はしておりますが、アントレプレナーシップ科目以外のアントレプレナーシップ科目対応科目につきましては、それぞれを開講しているコース等、または年度によって科目の取扱いが異なることから、それぞれを確認・精査することができる状況にないため、一覧表を作成公開することができません。
- Q3. アントレプレナーシップ入門はどのような科目になりますか。
- A3. アントレプレナーシップ入門では、社会構造の変革に伴うスタートアップを含む広義のアントレプレナーシップの理解を深めることを狙いとしています。また、社会システムがアントレプレナーシップに与える影響や関係について、学際的な視点から経済、政治、地政学、安全保障、マーケティング、マネジメントなど、アントレプレナーシップを取り巻くシステムの基本を理解することを目指します。受講者が、AI と共存する社会におけるアントレプレナーシップの重要性と、それを取り巻く社会のフレームワークを理解することを目的としています。アントレプレナーシップを構成し支える社会科学(経済学、政治学、地政学、マーケティング、マネジメント)について、多様な視点から基礎的な知識を学び、これらの要素がどのようにアントレプレナーシップに影響を与えるかを受講者が理解することを目指します。
- Q4. 就職活動の早期化や研究に興味がないがなんとなく修士課程に進学する学生が多いことから、学士課程でのキャリア教育、アントレプレナーシップ教育が重要であると考えています。修士課程で行われている内容を学士 4 年で受講可能にする、または学士課程に対しての教育の拡充が考えられると思いますが、その点についてご意見がありますでしょうか。
- A4. R6 年度以降アントレプレナーシップ教育を実施しており、今後、随時拡充していきます。なお、キャリアについて考える科目として、R7 年度から、学士課程の学生向け 200 番台科目として、「将来のキャリアを考えるためのロールモデル理解【ENT.C261】」を設置・開講いたします。
- Q5. アントレプレナーシップ育成のためには、学内活動だけでなく学外や課外活動に関わることも重要であると考えています。学士～博士にかけて、学外活動や課外活動について単位認定をする制度について検討されていれば教えてください。
- A5. R7 年度以降、学内のものに限定して科目を実施していく予定ですが、来年度以降、引き続き検討いたします。

提言

以上を踏まえて、アントレプレナーシップ科目の拡充について次のように提言します。

1. アントレプレナーシップ科目の多様な科目形態の理解促進のための整備を行う

アントレプレナーシップを育成するうえで必要な、多様なアントレプレナーシップ科目の形を、学生が理解しやすく、自分らしい履修選択ができるようにするための制度の整備を提案します。具体的には、必修科目やコア科目を設定し、その科目の中でアントレプレナーシップ科目の意義や重要性、履修の組み方に関する講義を行い、各課程での学修の導入をスムーズに行えるような工夫をすることが考えられます。

2. 大学院課程のアントレプレナーシップ科目対応科目における GA の閲覧性向上を行う

大学院課程で設定されているアントレプレナーシップ科目対応科目、その科目に附番する GA の閲覧性の向上を要望します。具体的に以下 3 つの案を要望します。

- 時間割の表の「備考」に GA が附番されている科目については、附番している GA を記載する
- GA が附番されている科目については、その科目のシラバスに附番している GA を記載する
- 教務 Web の科目検索機能に附番している GA で絞り込みができる機能を付ける

3. 学士課程におけるキャリア科目を充実させる

学士課程学生に対するキャリア教育の充実を求めます。例えば、学士・修士・博士後期課程それぞれの修了学生の話聞き、自身のキャリアプランについて考える授業を学士課程で開講するなどの方法が考えられます。令和 7 年度から新たに始まる 200 番台科目の中で「将来のキャリアを考えるためのロールモデル理解」でのキャリア教育に期待しています。

4. 学外での学びに対しての単位認定制度の拡充を行う

学外のビジネスコンテスト参加やインターンシップできる企業を増やし、学外で得られる学びに対しての単位認定制度の拡充を要望します。修士課程では企業でのインターンシップを単位として取得できる科目を開講しているコースもありますが、全学的な開講ではないため、全学的にインターンシップの科目の設置を求めます。

5. 学士課程の専門科目での問題解決型学習の強化を行う

学士課程のカリキュラムについては、全学教育だけでなく、専門科目の中でも問題解決型学習の時間をより多く設けるなど、アントレプレナーシップを育む科目の設置を求めます。

提言 2-2

大学院での英語開講科目受講に向けた、学士課程での英語能力向上を目的としたカリキュラムの設置と英語科目のカリキュラム改善

学生の意見

設問 No. 3-7「英語で開講される科目について意見があれば教えてください。」に以下の意見が寄せられました。

- 日本語開講の講義と比べて、英語開講では講義の理解度が低い(同様意見 47 件)
- 大学院から英語開講を行うのであれば、学士課程から専門的な講義も英語開講で行なってほしい(同様意見 6 件)
- 学士課程の英語クラス振り分けの段階を増やしてほしい

設問 No. 3-4「教養科目(理工系教養科目、文系教養科目、英語科目、第二外国語科目、日本語・日本文化科目、広域教養科目、教職科目、キャリア科目(2023 年度まで)、アントレプレナーシップ科目(2024 年度以降))への意見があれば教えてください。」において、「英語科目」に関して以下の意見が寄せられました。

- 実用的なカリキュラムにしてほしい(同様意見 31 件)
- 高校の授業と同等もしくはレベルが低いと感じる(同様意見 8 件)
- 研究に役立つスキルを身に着けるような英語の授業にすべき(同様意見 3 件)

現状分析

過去の学勢調査においても、英語開講科目に関する意見を聞く設問を設けており、「日本語開講の講義と比べて、英語開講では講義の理解度が低い」との声が挙がっていました¹。例年同様の声が見られることから、英語開講科目の教育内容や英語学修の支援体制の改善は、引き続き重要な課題であると考えられます。

学勢調査 2022 において、提言 2-11「英語開講科目に関する改善要求」²では、「学士課程の専門科目講義から資料に専門用語を載せるなど工夫を行い、大学院課程を見据えた対策を行っていく」という提言をしました。これに対し、本学から「大学院課程を見据えた学士課程における英語教育については、現在、教育本部内に専門の WG を設置し、検討しているところです」という回答をいただきました³。学修一貫のカリキュラムを構築している本学理工学系において、大学院課程を見据えた学士課程における英語教育は、専門的な知識と英語能力を段階的に高めていく上で重要な意味を持つと

¹ 学勢調査 2018: http://www.siengp.titech.ac.jp/gakuseichousa/2018/2018_gakusei_teigensyo.pdf
(最終閲覧日: 2025 年 3 月 17 日)

² 学勢調査 2022: http://www.siengp.titech.ac.jp/gakuseichousa/2022/2022_gakusei_teigensho.pdf
(最終閲覧日: 2025 年 3 月 17 日)

³ 学勢調査 2022 大学の対応:
http://www.siengp.titech.ac.jp/gakuseichousa/2022/gakuseichosa2022_daigakunotaio.pdf
(最終閲覧日: 2025 年 3 月 1 日)

考えます。

現行の学士課程における英語科目のカリキュラムは、外国語としての英語の運用能力を高め、将来的な英語での学修や研究活動に対応するために必要な各種技能の習得を目的として体系的に構築されています。まず、必修科目として英語第一から英語第九までの9科目が設けられており、英語第一から第四は100番台、英語第五から第八は200番台に位置づけられ、指定されたクォーターにおいて全学生が履修することになっています。英語第三/第四および英語第五/第六、第七/第八の各ペアにおいては、読解・作文に重点を置く「RW」クラスと、聴解・口頭表現に重点を置く「LS」クラスに分かれ、それぞれのクラスを履修します。英語第三から英語第八までの「LS」クラスでは、大学入学後のTOEFL ITPのスコアを基に、「LS-ADV(上級)」「LS」クラスの2段階のクラス編成を行っています。英語第九は300番台に位置し、TOEFL ITP や TOEFL iBT、TOEIC Listening & Reading などの試験で定められた基準を満たすことで単位が認定される仕組みとなっています。また、必修科目に加えて、100番台から300番台まで複数の選択科目が用意されており、補完的な学びの機会として履修することが推奨されています。

このような現行のカリキュラムに対して、改善を求める学生の声が寄せられました。具体的には、「実用的なカリキュラムにしてほしい」という意見が最も多く、将来的な英語での学修に即したカリキュラムを学生が求めていることがわかります。「高校の授業と同等もしくはレベルが低いと感じる」という意見も多く、現行の必修科目のクラス編成や講義内容に問題意識を持っている学生がいることがわかります。

これらの現状を踏まえ、教務課、リベラルアーツ研究教育院業務推進課、リベラルアーツ研究教育院とのキャンパスミーティングを実施し、以下のような回答をいただきました。

Q1. 学勢調査2022の提言2-11において、「学士課程の専門科目講義から資料に専門用語の英語を載せるなど工夫を行い、大学院課程を見据えた対策を行っていく」という提言を行い、本学から「大学院課程を見据えた学士課程における英語教育については、現在、教育本部内に専門のWGを設置し、検討しているところです。」という回答をいただきました。現在、具体的にどのような検討がなされていますでしょうか。

A1. WGでは、専門科目を英語で実施する大学院授業科目を見据えた対策として、学士課程の高学年の段階で予備的な英語教育を導入することについて検討しています。導入にあたっては、英語に苦手意識のある学生、英語での専門科目の学修に積極的ではない学生に重点を置き、これらの学生の英語力を向上させるための施策を考えております。なお、施策の実施については、系ごとに英語開講科目等の事情が異なることから、全学一律に実施するのではなく、系ごとに適切な方法を検討の上、実施することとしております。

Q2. 検討している中でどのような問題がありますでしょうか。

A2. 系ごとに英語開講科目等の事情が異なるため、全学で一律に実施することが困難であることです。

Q3. どのような講義形式を考えていますでしょうか。

A3. 系によって実施方法は異なりますが、英語による授業科目を実施する場合は、講義または演習による形式を想定しています。

Q4. 学修一貫のカリキュラムを構築している本学理工学系において、英語が不得意な学士課程の学生を支援するための講義やサポート体制は整備されていますでしょうか。

A4. リベラルアーツ研究教育院(ILA)外国語セクションの英語科目では、まずは全ての学生が必修科目の履修を通じて一定以上の英語力をつけることを目指しています。1～2 年生の必修科目(英語第一～第八)については、通常クラスに加えて前期・後期に再履修クラスを開講しており、英語が不得意な学生もスムーズに履修が進められるよう配慮しています。3 年次必修科目には TOEFL 等のスコアで判定される英語第九がありますが、こちらを推奨学期に習得できなかった場合には、第九再履修クラスを履修することで継続的に学修を続けられるようにしています。

選択科目では 100 番台から TOEFL 対応の科目、スピーキング系の科目等が各種開講されており、学生は各自の習熟度に合わせて英語開講の授業に向けた準備を進めることができます。また、夏と春には英語母語話者の教員による集中講義も開講され、主に留学(英語で学ぶこと)を考えている学生を対象にした授業を提供しています。

学修方法について相談したい場合には「外国語学修相談室」で相談に対応しており、また具体的な英語学修の質問や、英語で話す機会を持ちたい学生には、「English Open Office Hours」や「English Café」で母語話者教員が対応しています。英語のレポートや論文の書き方に困った場合には「東京科学大学ライティングセンター」が学生をサポートします。

これらの制度については ILA 外国語セクションの HP⁴に紹介があり、面談等の予約方法もそちらで調べることができます。学生の積極的な利用を期待しています。2028 年度以降に向けてカリキュラムの大幅な改定が予定されていますが、様々な習熟度の学生にきめ細かく対応するために、リメディアル(補修教育)の選択科目の開設や新たなレベル別クラスの設定なども検討されています。

キャンパスミーティングを通じて、学士課程の高学年から系ごとに予備的な英語教育を導入する検討が進められていることがわかりました。一方で、現状の英語学修に対する大学のサポート体制は、選択科目やイベントの提供など、学生の能動性に依存している部分が大きく、英語を苦手とする学生に対する十分な施策とは言えません。そのため、こうした取り組みだけでは英語能力の底上げにつながりにくいと考えられます。

⁴ 東京科学大学 リベラルアーツ研究教育院 外国語セクション HP: <https://www.fl.ila.titech.ac.jp/index.html> (最終閲覧日: 2025 年 3 月 9 日)

提言

以上を踏まえて、大学院での英語開講科目受講に向けた、学士課程での英語能力向上を目的としたカリキュラムの設置について次のように提言します。

1. 各系で実施を検討中である、専門科目を英語で行う大学院授業を見据えた英語教育において、英語が苦手な学生にも積極的に履修してもらうための施策を検討・実施する

一つ目の施策として、各系の必修科目、選択必修科目などの履修カリキュラムに組み込む方法が考えられます。英語に苦手意識を持つ学生が、自発的に英語教育を行う科目を選択して履修するのは容易ではないため、必修科目や選択必修科目に組み込むことで、これらの学生にも最低限必要な英語能力を確実に習得させる仕組みを整えることが求められます。

二つ目の施策として、英語の語学力を授業の評価対象に含めないという方法が考えられます。生命理工学院の100番台の「国際バイオ創造設計【生命理工学院】」⁵では、専門分野に関する最新の研究を英語でグループディスカッションし、英語でプレゼンテーションを行う授業が実施されています。この授業では、英語の語学力自体を評価対象とせず、ディスカッションの積極性やプレゼンテーション、創造性などを評価基準とすることで、英語に苦手意識を持つ学生でも積極的に履修できるよう工夫されています。このように、評価方法の工夫によって、英語が苦手な学生にも実践的な英語能力の習得の機会を提供し、より多くの学生が英語教育に取り組みやすい環境を実現することが可能となります。

2. 英語科目における必修科目のカリキュラムの改善

必修科目は、全学生が一定の英語能力を身につける機会を与え、大学全体としての英語能力の底上げを図ることができます。しかし、こうした必修科目の利点が現状では十分に生かされていないと考えられます。学生の多様な学修ニーズや将来的な専門性の高い学修に対応することができるカリキュラムの検討が必要だと考えます。

一つ目のカリキュラムの改善として、キャンパスミーティングでも述べられている新たなレベル別クラスの設置が考えられます。具体的には、現状の2段階クラス編成を見直し、習熟度に応じたより細分化されたクラス分けを行うことが考えられます。現行の上級位置づけのクラスを設けるだけでなく、英語を苦手とする学生に対しても、適切なレベルで学修を進められる支援体制を整える必要があります。

二つ目の改善として、英語科目の必修科目における専用教科書を作成することが考えられます。現状では、各クラスの教員が指定した教科書を用いて授業を行っているため、授業の目標設定や評価基準が完全に統一されているとは言えない状況です。必修科目専用の教科書を作成することで、カリキュラム全体の一貫性が確保されるとともに、すべての学生が統一された学修目標に沿って着実に英語力を向上させる環境が整います。また、専用教科書の内容を本学理工学系の学生が習得すべき英語能力に即したものにすることで、より実践的な英語教育が実現できると考えられます。

⁵ TOKYO TECH OPEN COURSE WARE 「2024 年度 国際バイオ創造設計【生命理工学院】」:
<https://www.ocw.titech.ac.jp/index.php?module=General&action=T0300&GakubuCD=10&KamokuCD=120900&KougiCD=202424065&Nendo=2024&vid=03>（最終閲覧日: 2025 年 3 月 17 日）

提言 2-3

他キャンパスで開講されている授業をより履修
しやすくするための環境整備

学生の意見

設問 No. 3-8「授業の録画配信について意見があれば教えてください。」に以下の意見が寄せられました。

- 他キャンパスの講義を録画配信等で履修しやすくしてほしい(同様意見 3 件)
- 四大学連合(現在は三大学連合)において、他大学ではオンデマンドを利用していたため、本学(理工学系)も柔軟な講義スタイルを設けてほしい

設問 No. 3-10「前問¹で選んだものに対して、参加したい、参加している、または参加していた理由を教えてください。」という設問に対して以下の意見が寄せられました。

- 四大学連合に関して
 - 授業が被る、移動時間が考慮されていないなどの理由で時間割を組むことが難しく取ることができない(同様意見 10 件)

また、田町キャンパスを主な活動場所とする学生から以下の意見が寄せられました。

- 設問 No. 3-4「教養科目(理工系教養科目、文系教養科目、英語科目、第二外国語科目、日本語・日本文化科目、広域教養科目、教職科目、キャリア科目(2023 年度まで)、アントレプレナーシップ科目(2024 年度以降))への意見があれば教えてください。」
 - 社会人学生のため興味のある科目があっても平日の昼間開催で受講できないため、オンラインとハイブリッドの開催を検討してほしい
 - ライブ授業になると受講しやすい
- 設問 No. 3-5「現在在籍している系・コース等の授業・制度への意見があれば教えてください。」
 - 技術経営専門職学位課程は社会人学生を広く募集しているにも関わらず、専門科目の授業が水曜日の 16 時台から実施されるなど、社会人が受講するのが不可能な科目が存在する点について、運営体制を考えていただきたい

¹ 設問 No. 3-9「以下の教育プログラムの中で参加したい、参加している、または参加していたものがあれば教えてください。(複数選択可)」

☐四大学連合複合領域コース ☐グローバル理工系育成コース(アントレプレナーシップ教育グローバル教育オプション科目の履修) ☐データサイエンス・AI 全学教育プログラム ☐リベラルアーツ探究プログラム ☐Tokyo Tech Summer Program ☐Tokyo Tech Winter Program ☐B2D スキーム ☐リーディング大学院 ☐リーダーシップ教育課程 ☐物質・情報卓越教育課程 ☐超スマート社会卓越教育課程 ☐エネルギー・情報卓越教育課程 ☐日中韓新先進科学技術 4 大学(T2KN)共同教育プログラム(キャンパスアジア+(プラス)) ☐清華大学との大学院合同プログラム ☐その他(自由記述)

- 地方で仕事をしている方の学修機会を損なわないよう、土曜日も引き続き Zoom での配信を継続してほしい
- 設問 No. 3-10「前問で選んだものに対して、参加したい、参加している、または参加していた理由を教えてください。」
 - データサイエンス・AI 全学教育プログラム：スキルとして身に着けたいので参加したいが、技術経営専門職学位課程の社会人学生なので時間が合わない
 - 社会人を受け入れる体制になっておらず、参加しづらい
- 設問 No. 8-2「現行の東工大の制度のうち、統合を機に変わって欲しい制度は何かありますか、またどう変わって欲しいですか。」
 - 校内施設の相互利用に加え、AI 専修プログラムが社会人学生にとって受講しにくい時間帯に開講されている現状を踏まえ、社会人向けの AI 専修プログラムを平日夜間や土曜日に開講してほしい

現状分析

2024 年 10 月に東京医科歯科大学と東京工業大学の統合により、本学は、6 つのキャンパスを有する国立大学となりました。図 2-3.1 は、学勢調査 2022 追加調査²の設問 No. 10「統合後の新大学が人材育成において目指すべき方向性を教えてください」の回答結果を示しており、これにより学生が、高度な専門力や理工系全域の知見に関する講義に加えて医歯学系の講義に対して興味を抱いていることが推測されます。これらの結果を踏まえ、理工学系および医歯学系の学生が、6 つのキャンパスにまたがって柔軟に講義を受講できる体制の整備が求められていると考えられます。

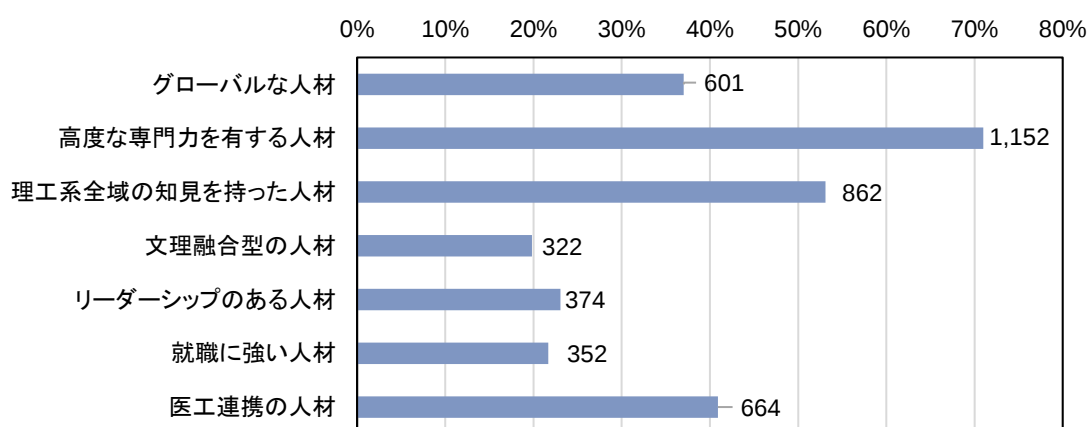


図 2-3.1 学勢調査 2022 追加調査 設問 No. 10「統合後の新大学が人材育成において目指すべき方向性を教えてください」の回答結果

² 学勢調査 2022 追加調査:

http://www.siengp.titech.ac.jp/gakuseichousa/2022/gakuseichosa2022_houkokusyo_ver3.pdf (最終閲覧日: 2025 年 3 月 1 日)

また、三大学連合（旧四大学連合）に関しても多くの学生が興味を示しています。図 2-3.2 は、設問 No. 3-9「以下の教育プログラムの中で参加したい、参加している、または参加していたものがあれば教えてください。」の回答結果を示しており、教育プログラムの中で四大学連合複合領域コースに最も高い関心が寄せられていることがわかります。一方で、授業時間が被ることや、移動時間が考慮されていない時間割のために履修することが難しいという学生の声があります。

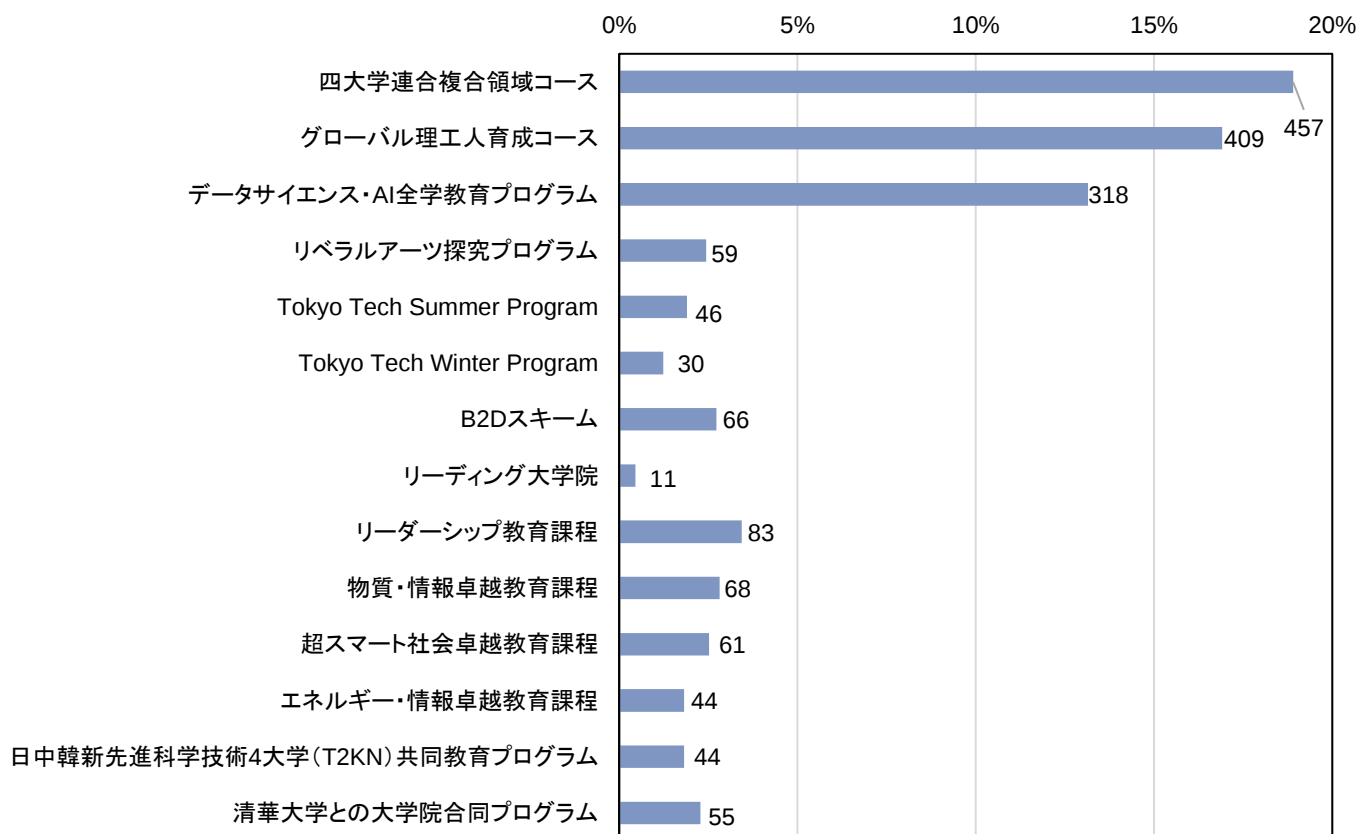


図 2-3.2 教育プログラムの中で参加したい、参加している、または参加していたもの

田町キャンパスを主な活動場所とする学生からは、講義の受講においてオンラインやハイブリッド形式での参加を希望する声が多く寄せられています。特に平日昼間の時間帯に物理的にキャンパスへ通えない社会人学生にとっては、より柔軟な学修環境の提供が求められています。

これらの現状を踏まえ教務課、環境・社会理工学院業務推進課、リベラルアーツ研究教育院業務推進課、全学教育推進課、リベラルアーツ研究教育院、データサイエンス・AI 全学教育機構とのキャンパスミーティングを実施し、以下のような回答をいただきました。

Q1. 理工学系と医歯学系とで相互履修することができる仕組みを構築する³となっていますが、具体的にどのような仕

³ 旧・東京工業大学「大学統合時の教育・学生生活について」

<https://www.titech.ac.jp/student/students/news/2024/068809>（最終閲覧日: 2025 年 3 月 9 日）

組みの構築を考えていますでしょうか。

A1. (学士・大学院共通)

特定のコース・プログラムに参加せずとも医歯学系の授業科目を履修できる「相互履修科目」を選定し、提供します。

(学士課程)

統合前より実施している「三大学連合複合領域コース」に加え、2025 年度から、新たに「医歯理工融合プログラム」を開始します。医歯理工融合プログラムでは、講義の相互履修に加え、理工学系の学生が医歯学系の研究室で、医歯学系の学生が理工学系の研究室において、研究活動に一定期間携わる授業科目「異分野研究プロジェクト」を新規に開講します。

(大学院課程)

医歯学と理工学が融合した大学院教育コースとして「人間医療科学技術コース」を 2025 年 4 月に開設します。理工学系は、カリキュラムに医歯学系との共通科目や医歯学系開講科目を標準学修課程に取り入れた、学位プログラムとしてのコースを設置します。なお、医歯学系には特別専門学修プログラムとしてコースを設置します。

Q2. 学勢調査 2022 の「大学の対応」⁴において「ハイフレックス講義室を増やしたいとは考えておりますが、慎重に検討します」とありましたが、その後検討がなされているかについてお聞きしたいです。

A2. 講義室改修や新規整備の際は、部屋の規模等に応じて可能な限りハイフレックスを取り入れています。ハイフレックス講義室数は、2022 年度は大岡山 31 室・すずかけ台 16 室でしたが、2024 年度は大岡山 45 室・すずかけ台 19 室となっています。

Q3. 医歯学系の講義履修のために、オンライン講義等を増やす場合、理工学系のみの講義に関してもオンライン、ハイフレックス講義を増やすことは可能でしょうか。

A3. 検討中です。

Q4. 技術経営専門職学位課程の授業のハイブリッド形式は継続予定という認識で大丈夫でしょうか。

A4. 2025 年度は継続です。平日はオンライン形式ライブ型、土曜日は原則対面形式で事情によってはオンライン受講を認めるハイフレックス型です。

Q5. 教養科目について、MOT(技術経営専門職学位課程)学生を想定した科目の設置はされていますでしょうか

A5. リベラルアーツ研究教育院としては、全学の方針に従って対面で授業を提供することを基本とし、学士課程は大岡山キャンパスで、修士課程は大岡山とすずかけ台キャンパスで対面授業を展開してきました。しかし、修士課程に

⁴ 学勢調査 2022 大学の対応:

http://www.siengp.titech.ac.jp/gakuseichousa/2022/gakuseichosa2022_daigakunotaio.pdf (最終閲覧日: 2025 年 3 月 1 日)

関しては数科目ではあるものの、ライブ型、ハイフレックス型講義を展開しています(*)。博士後期課程については、社会人学生が多いことからオンラインで授業を提供しています。MOT 学生向けに田町キャンパスで授業を開講することはしてきていません。2028 年以降の統合カリキュラムにおいては、医歯学系学生も履修できるように、オンラインやハイフレックス型での授業を増やしていく予定です。ただし、どこまで柔軟に提供できるかは現段階では未定です。

* 修士課程のライブ型、ハイフレックス型講義で行っている教養科目

- ・リーダーシップ道場【1】【4】【7】【9】(400 番台/ライブ型)
- ・文系エッセンス 47: 意思決定論 D (400 番台/ハイフレックス型)
- ・文系エッセンス 39: 意思決定論 E (500 番台/ハイフレックス型)
- ・文系エッセンス 24: 社会思想史【1】【2】(500 番台/ハイフレックス型)
- ・横断科目 6: 長寿社会と生命(400 番台/ライブ型)
- ・横断科目 22: 水俣病から考える(400 番台/ライブ型)
- ・横断科目 23: 東工大のキャンパスに親しむ(400 番台/ハイフレックス型)

Q6. データサイエンス・AI 全学教育プログラム(エキスパート(プラス)レベル)の対象者の想定に社会人学生(企業などで働き、給与を得ながら大学にも通う、大学院課程に在籍する学生)は入っていますか。

A6. エキスパートレベル及びエキスパートレベルプラスは、修士課程・博士後期課程学生向けの教育プログラムなので、令和 5 年度(2023 年度)以降の修士課程・博士後期課程入学者であれば、社会人学生の方も対象となります。

A1.で紹介された相互履修科目⁵は、医歯学系科目が 4 科目開講されており、大岡山 DAY ⁶の一環として実施される「人文社会科学概論 I」は大岡山キャンパスにて対面で、残りの 3 科目はライブ型・オンデマンド型で実施されます。同様に A1.で紹介された「医歯理工融合プログラム⁷」では、理工学系科目は 76 科目、医歯学系科目は 83 科目選定されています。医歯学系科目の多くがライブ・ハイフレックス・オンデマンド形式で提供されているのに対し、理工学系科目は対面のみの開講が多い状況です。

⁵ 旧・東京工業大学「学士課程相互履修科目時間割(2025 年度前期)」: <https://www.titech.ac.jp/student/pdf/life-undergraduatetimetables-2025st-05.pdf> (最終閲覧日: 2025 年 3 月 1 日)

⁶ 旧・東京工業大学「大学統合時の教育・学生生活について」: <https://www.titech.ac.jp/student/students/news/2024/068809> (最終閲覧日: 2025 年 3 月 1 日)

⁷ 東京科学大学「医歯理工融合プログラム選定科目一覧」: http://www2.gakumu.titech.ac.jp/program/Program_Courses.pdf (最終閲覧日: 2025 年 3 月 1 日)

提言

以上を踏まえて、他キャンパスで開講されている授業をより履修しやすくするための環境整備について次のように提言します。

1. ライブ・ハイフレックス講義形式の拡充

現在公開されている医歯理工融合プログラム科目は、理工学系の学生にとっては医歯学系の講義を履修しやすい環境が整っている一方で、理工学系の講義の半数近くが対面実施のため、医歯学系の学生が理工学系の講義を受講しにくいという課題が生じています。プログラム開始初年度で講義の需要規模が不確定ではあるものの、より多くの学生が幅広く講義を受講できるよう、理工学系講義のライブ・ハイフレックス講義形式の拡充が望まれます。

また、本学理工学系内においても、社会人学生や開講キャンパス以外のキャンパスに所属する学生が希望する講義を受講できない場合があります。学生の履修機会の均等化を図るためにも、理工学系で開講されている教養科目やデータサイエンス・AI 全学教育プログラムなどについてもライブ・ハイフレックス形式の拡充が重要です。これにより、キャンパス間の移動や時間的制約を抱える学生でも学びの機会を得やすくなります。

学生の意見

設問 No. 3-5「現在在籍している系・コース等の授業・制度への意見があれば教えてください。」と設問 No. 3-6「学士課程の研究室所属について意見があれば教えてください」に寄せられた主な意見のうち、他提言や意見まとめで扱われていない内容をまとめました。これらの意見をもとに、各系で現状把握ならびに改善が試みられることが望ましいと考えます。

理学院

理学院全体への意見

- 系所属において数学系への集中傾向がある(同様意見 7 件)
- 数理・計算科学系に進学できるようにしてほしい(同様意見 2 件)

数学系・コース

- 大学院入試に A 日程がほしい(同様意見 5 件)
- B2D スキームに参加してほしい
- 大学院の講義ではオンライン授業を取り入れてほしい

物理学系・コース

- 研究室所属に関する意見(同様意見 4 件)
 - 決定方法は GPT より GPA を使用してほしい(同様意見 2 件)
- 演習の授業が週 2 回あるにもかかわらず、1 単位であるのはおかしい(同様意見 3 件)
- 大学院入試に A 日程がほしい(同様意見 2 件)

化学系・コース

- 必修科目が多く、履修の自由度が低い(同様意見 3 件)
- 教員免許の認定科目が少ない

地球惑星科学系・コース

- 専門科目数を増やしてほしい(同様意見 2 件)
- 研究室所属を話し合いで決めるのはよくない。成績や意欲を優先してほしい(同様意見 2 件)
- 大学院課程において専門に関係ない授業が多い

工学院

機械系・コース

- 授業に関する意見
 - 開講してほしい授業
 - ◇ 航空宇宙に関する授業(同様意見 2 件)
 - ◇ 機械に利用できるような電気、化学、物理学の知識をつけるための授業
 - ◇ ロボット分野の授業
 - ◇ プログラミングの授業
 - すずかけ台の研究室が多い一方で、講義が大岡山で対面実施されており、移動の負担が大きい。大学院における授業はオンラインまたはハイフレックス形式での開講が望ましい(同様意見 2 件)
 - 必修科目の授業内容への意見
 - ◇ 専門科目の開講時間を午後からではなく、午前中から開講してほしい
 - ◇ 専門科目を 4 限連続ではなく、2 限連続の実施にしてほしい
- 大学院における卒業要件の単位数が多い(同様意見 3 件)
 - 著名な学会での研究発表に対する単位付与
- 大学院入試について A 日程を増やしてほしい(同様意見 4 件)
- 授業がない日に行う研究構想説明や中間発表などは早めの連絡が欲しい
- 研究室所属に関する意見
 - B2D スキームに参加してほしい(同様意見 2 件)
 - GPT を用いてほしい(同様意見 2 件)

システム制御系・コース

- 授業・制度への意見
 - 開講してほしい授業
 - ◇ 最新の研究動向を知る授業
 - ◇ 制御の基礎となる数学や最適化の授業
 - 実習が少ない(同様意見 2 件)
 - 再履修しやすい時間割が良い
 - 単位変換の基準に不満がある
 - 2~4 限、5~7 限という中途半端な開講時間のため、他講義の履修が難しい
 - 重要な連絡を Slack 等でアナウンスしてほしい
 - 講究科目が 8 単位で大変であるため、6 単位にしてほしい
- 研究室所属への意見
 - 研究室配属が志望順位で決定されており、成績の高い人が損をするシステムである(同様意見 2 件)
 - 時期やフロー、決定方法が不透明

- 説明会をもっと早く開いてほしい
- 研究室所属基準が GPA+GPT ではない基準を用いてほしい
- 研究プロジェクトに関して、二つのグループではなく、希望調査をしてほしい

電気電子系・コース

- 授業に関する意見
 - 講義間のカリキュラムの連携をとってほしい
 - 物理学の講義がほしい
 - 量子物理学に関連する講義を卒業単位としてカウントしてほしい
 - 学士課程 3 年目の 2Q に必修科目があり、留学が難しい
 - すずかけ台の研究室が多い一方で、講義が大岡山で対面実施されており、移動の負担が大きい。大学院における授業はオンラインまたはハイフレックス形式での開講が望ましい
 - 博士後期課程にも通常の講義スタイルの授業がほしい
- 研究室所属に関する意見
 - 学士特定課題研究の開始要件を緩和してほしい
 - 研究プロジェクトの実施時期が早い
 - B2D を積極的に周知してほしい
 - 研究室の体験機会を増やしてほしい
 - 決定方法に関する意見
 - ◇ GPT での決定をやめてほしい(同様意見 4 件)
 - ◇ 研究室所属の決定方法がよくわからない(同様意見 2 件)

情報通信系・コース

- 授業に関する意見
 - すずかけ台の研究室が多い一方で、講義が大岡山で対面実施されており、移動の負担が大きい。大学院における授業はオンラインまたはハイフレックス形式での開講が望ましい(同様意見 3 件)
 - 情報通信実験の内容が研究活動につながるよう、数年に一度は内容を点検してほしい(同様意見 2 件)
- 研究室所属に関する意見
 - 研究プロジェクトにおける配属先研究室は希望制にしてほしい(同様意見 2 件)
 - 数理・計算科学系のようなシステムを取り入れてほしい(同様意見 2 件)

経営工学系・コース

- 授業に関する意見
 - 課題の多い時期と少ない時期がはっきりしているメリットもあるが、負担を分散してほしい(同様意見 2 件)
 - 経済学の授業を開講してほしい

- 数学の授業ではスライドだと進度が速いため、板書スタイルも取り入れてほしい
- 研究室配属の明確なルールを早い段階で通達すべき(同様意見 2 件)
- マーケティング系の研究室を設置してほしい

物質理工学院

材料系・コース

- 試験問題の回収や毎年問題を変えるなどの対応を行い、授業の理解度をしっかりと測ることができる評価方法にしてほしい(同様意見 2 件)
- 大学院における卒業要件の単位数が多い(同様意見 2 件)
- 卒業要件の表記(特にフォーカスに関する表記)を見直してほしい
- 有機、無機、金属の概論を複数取れるようにしてほしい
- 研究室所属に関する意見
 - 学生間の話し合いで研究室配属を決定するのではなく、成績で決めてほしい(同様意見 6 件)
 - 決定方法を早めに周知してほしい(同様意見 3 件)

応用化学系・コース

- 授業に関する意見
 - 2 クラス開講の授業では、双方のクラスで配布される資料や講義内容を統一してほしい(同様意見 4 件)
 - 学士課程における必修科目の開講時間を文系教養科目と同じにしないでほしい(同様意見 3 件)
- フォーカス制度をなくさないでほしい(同様意見 5 件)
- 研究室配属の決定方法を具体的により早い段階で説明してほしい(同様意見 3 件)

ライフエンジニアリングコース

- ライフエンジニアリング実践プロジェクトの活動時間が研究室間で異なるため、統一してほしい

情報理工学院

数理・計算科学系・コース

- 系全体に関する意見
 - 情報理工学基礎でもっと数理・計算科学系の魅力をアピールしてほしい
- 授業に関する意見
 - 開講してほしい講義について
 - ◇ 基本的な幾何学
 - ◇ 多様体論
 - ◇ ネットワーク分野
 - 3、4Q の講義を履修しにくい

- 研究室所属に関する意見
 - 現行の研究室所属決定方法は良いと思う(同様意見 2 件)
 - 学士 1、2、3 年から夏休みなどに研究室体験をできる機会を増やしてほしい(同様意見 2 件)
 - 研究室配属や大学院入試に関する内容を今よりも早く教えてほしい(同様意見 2 件)

情報工学系・コース

- 学士課程の研究室配属と大学院入試における研究室配属の成績基準や定員が異なり、同じ研究室に所属し続けることが難しいため、配属の基準や定員、仕組みを見直してほしい(同様意見 4 件)
- 系の入学時のガイダンスの情報が不正確なので、情報の正確性を確認してからガイダンスをしてほしい
- 内容が重複している授業が多い
- 研究室所属に関する意見
 - 研究室決定方法について
 - ◇ GPA を用いてほしい(同様意見 3 件)
 - ◇ 成績順で決めないでほしい(同様意見 3 件)
 - ◇ 安定マッチングを検討してほしい
 - 研究室配属を半年早くしてほしい (同様意見 3 件)
 - 研究室の体験をする機会を早い段階から設けてほしい(同様意見 2 件)
 - 予備調査を実施してほしい
 - 成績順位を公開してほしい

知能情報コース

- 講義の設置に関する意見
 - 博士後期課程の学生により多くの授業を提供してほしい(同様意見 2 件)
 - 授業がハイフレックス形式であるにもかかわらず、生徒が教室まで出向かなければならないのは非効率なので改善してほしい(同様意見 2 件)

生命理工学院

生命理工学系・コース

- 系全体に関する意見
 - 系を分割してほしい(同様意見 7 件)
 - ◇ 生命理工学基礎実験のような物理化学、有機化学、生物化学、分子生物学の 4 分野
 - 学士特定課題研究履修・卒業要件の専門科目が多すぎる(同様意見 2 件)
- 授業に関する意見
 - 生命理工学基礎実験のレポートはフィードバックがほしい
 - オムニバス形式の講義では、先生ごとの講義スタイルに差が大きく勉強しにくい

- 学士課程における英語開講の講義設置
- 研究室所属に関する意見
 - 体験期間がほしい・もっと研究室を知りたい（同様意見 5 件）
 - ◇ 他系の研究プロジェクトのように、研究室の体験期間を設置してほしい
 - ◇ 2 週間ほどの仮配属を複数の研究室で実施したい
 - 研究室配属に用いる単位の数依然として多いので、減らしてほしい（同様意見 4 件）
 - 異なる評価軸を用いてほしい
 - ◇ 物理化学、有機化学、生化学、分子生物学の 4 分野別の GPA から研究室の分野に合わせて決定する方法
 - ◇ 希望もある程度考慮してほしい

環境・社会理工学院

建築学系・コース

- 授業に関する意見
 - 設計製図における課題の量が膨大である（同様意見 3 件）
 - ◇ 学修規定における「単位の計算方法」で計算した 2 単位で求められる以上の学修時間を求められ、健康にも影響が出る。世間的にも「建築学科は忙しくて当然」という風潮もあるが、本学が日本の建築学科全体の状況改善における先駆けとなるように、カリキュラムの改善を求める
 - 同一の授業で広く浅く学ぶより、回を追うごとに理解を深める授業設計にしてほしい
 - 設計の講義で求められる模型等の材料費の補助が必要
 - 建築デザイン、ソフトウェアベース、プロジェクトマネジメント関連の授業を英語で開講してほしい
 - 製図室は作業場のようなイメージなので、設計の後に行う作品の展示は人が来やすい場所で実施したい
- 建築学コースの大学院博士後期課程に中間審査を設置してほしい
- 研究室所属に関する意見
 - 人数が少ないに関わらず、各研究室に 1 人以上所属するルールは希望しない研究室に所属されやすいので反対（同様意見 2 件）
 - 研究室に所属するために用いる成績指標を学生同士で決める方法は廃止すべき
 - 成績順で決めるのではなく、教員と面談をした結果で選考することを検討してほしい
 - 希望の研究室に行けない人が多い
 - B2D スキームはもう少し認知してほしい

土木・環境工学系、土木工学コース

- 授業に関する意見
 - プログラミング・シミュレーションなどに関する授業を設置してほしい（同様意見 6 件）
 - 業界の最新技術や実践的な内容に関する講義を設置してほしい

学修

- 英語開講の授業に技術的なものが少ない
- 教員・研究室の層に関する意見
 - 景観やソフト面の都市計画を専門とする教員が少ない
- 履修システムに関する意見
 - 時間割配置における特定コマへの集中・重複
 - 必修実験の前提となる科目が必修でない
 - 学修案内に新科目の記載がなく、単位数に含むのかわからなかった
- 研究室所属に関する意見
 - 研究室決定の時期が遅いという意見
 - ◇ 研究室決定が B4 の 1Q が始まってからで、1Q の授業もとりにくい(同様意見 3 件)
 - 研究室の決定方法についての意見
 - ◇ 決定方法が系から知らされない
 - ◇ 優先所属者が GPT で決まるため、GPT を稼ぐために専門外の科目ばかりを履修する人がいる
 - ◇ じゃんけんで決定してほしい
 - 研究室の受け入れ状況についての意見
 - ◇ 優先枠で 2 枠がすべて埋まってしまうのは良くない
 - ◇ 複合系コースの研究室には主担当以外の系からも所属できるようにしてほしい
 - 研究室所属の準備段階についての意見
 - ◇ 研究プロジェクトですべての研究室に一度は訪れられるようにしてほしい
 - ◇ 1 年生など早期から研究室と触れ合えるような機会がもっとほしい

融合理工学系

- 国際的な多様性を確保し続けてほしい(同様意見 3 件)
- 広範囲の学修ができるが、研究室の選択肢が少なく、分野が偏っている(同様意見 3 件)
- 系の専門科目にすることのできる他系科目が少ないので、増やしてほしい(同様意見 2 件)
- 2 年の必修の範囲が広すぎて専門性を深めにくい(同様意見 2 件)
- 就活に関する制度をもっと充実させてほしい
- 研究室配属ルール
 - 同学年の学生が研究室に最大 2 人、基本的に 1 人なのはかなり寂しい
 - 配属直前の調査まで選択肢がわからないのはその後を考えても厳しい
 - 「成績の順位が上位半分未満だと、希望する研究室にすでに希望者がいる場合は定員内でも入れない」というルールは、学生の研究意欲を下げかねないため、もう少し単純化した方が良くと思う
- 現在の配属に用いられる成績について
 - GPA で決めるべき
 - GPT は負担が大きく、他系も変更になっているので、他の方法を考えてほしい

- 英語開講科目履修による GPT への加算制度は学修の本質から外れているので、なくすべき
- 研究室配属時期、情報の得られる時期について
 - 知らないものに積極的に関わりにいきづらいので、早期から関わる機会が欲しい(同様意見 2 件)
 - 実験装置の操作など、研究室でしか得られない経験もあるので、配属は早ければ早いほど良いと思う
 - 見学に来る学生が表層的な面に振り回されているように感じ、残念
- 研究プロジェクトで 1 人 1 回は第 1 希望の研究室に見学ができるといい
- 研究室の志望アンケートは成績がどのくらいの人が第 1 希望から第 3 希望くらいまで、どの研究室をどのくらいの熱意で希望しているのかを知りたい

地球環境共創コース

- 授業と研究室の内容が離れすぎているので、より多くの研究において役立つ技術的なことについて教えてほしい(同様意見 2 件)
- 英語で履修できる科目が限られすぎている
- 卒業の為に必要な単位数を減らしてほしい

エンジニアリングデザインコース

- デザイン思考の講義を増やしてほしい
- プロジェクトベースの講義を増やしてほしい

社会・人間科学系・コース

- 統計学を扱う講義をさらに設置してほしい
- 専門科目群の内訳が分かりにくい
- 講義が多すぎて研究を進める時間がない

イノベーション科学系・コース / 技術経営専門職学位課程

- 増やしてほしい講義について
 - 英語での講義(同様意見 2 件)
 - 情報・IT に関する講義
 - 数理系の講義
 - 世界の最先端の研修を紹介する講義
- グループワークが多すぎる、座学を増やしてほしい
- 講義同士の関連性を高めてほしい

意見まとめ 2-5 教養科目への意見

学生の意見

設問 No. 3-4「教養科目(理工系教養科目、文系教養科目、英語科目、第二外国語科目、日本語・日本文化科目、広域教養科目、教職科目、キャリア科目(2023 年度まで)、アントレプレナーシップ科目(2024 年度以降))への意見があれば教えてください。」に対する意見として寄せられたものを以下に示します。(キャリア科目、アントレプレナーシップ科目に関しては提言 2-1 で、英語科目については提言 2-2 で取り扱っているため省略)

文系教養科目について

- もっと自由に選択したい(同様意見 30 件)
- 増やしてほしい科目がある(同様意見 10 件)
 - 地理学を増やしてほしい(同様意見 4 件)
 - 音楽を増やしてほしい(同様意見 3 件)

第二外国語について

- 履修できる言語の選択肢を増やしてほしい(同様意見 5 件)
- 再履修の要件がきつすぎるので緩和してほしい(同様意見 3 件)

日本語・日本語文化科目について

- 上級科目を増やしてほしい、GSEP 以外の学生には意味がない(同様意見 5 件)

教職科目について

- 教育工学の改善要求(同様意見 4 件)
- 公欠が認められないのはおかしい(同様意見 3 件)

現状分析

全体傾向について

学勢調査では、本学の人材育成における進むべき方向性について継続的に調査をしています。表 2-5.1¹は本学の人材育成進むべき方向性について「文理融合型の人材」と回答した学士課程所属学生の割合推移を示しています。表 2-

¹ 本学の人材育成の進むべき方向性について問う設問については、年度ごとに設問の文章表現の変更が行われています。ここでは、下記設問を本学の人材育成の進むべき方向性についての設問として、同一設問と扱い表を作成しました。学勢調査 2022: 設問 No. 3-1「あなたが思う東工大の人材育成における進むべき方向性を教えてください。」、学勢調査 2022 追加調査: 設問 No. 2-2「統合後の新大学が人材育成において目指すべき方向性を教えてください。」、学勢調査 2024: 設問 No. 3-1「東工大(科学大)がどのような人材を育成していくべきかについて教えてください。」なお、これらすべて複数選択可の設問として設定しています。

5.1 より、「文理融合型の人材」と回答した学士課程の学生の割合は年々増加傾向にあることがわかります。そこで、本意見まとめでは、教養科目について意欲的に取り組む姿勢によって生まれたと考えられる学士課程学生からの意見を中心に取り上げます。

表 2-5.1 本学の人材育成の進むべき方向性について「文理融合型の人材」と回答した学士課程の割合推移

学勢調査	本学の人材育成の進むべき方向性について「文理融合型の人材」と回答した学士課程の割合
2022	13%
2022 追加調査	18%
2024	20%

文系教養科目について

文系教養科目について、主に学士課程の学生から「もっと自由に選択したい」(同様意見 30 件)という意見が寄せられました。この意見は、主に 100 番台の文系選択必修科目の『人文学系』『社会科学系』『融合系』の 3 つのカテゴリーからそれぞれ 1 科目ずつ履修しなければならない²というルールに対しての意見でした。このルールに対して、「カテゴリー分けの必要がないと感じる」「同じクォーターに複数取りたい」「このカテゴリー分けがあるせいで自分の好きな科目を履修できない」などの意見が寄せられました。100 番台の現行の制度により、自分の興味関心に合わせた受講を困難に感じている学生が多くいる現状があると考えられます。

また、現在文系教養科目として開講されていない分野の科目を履修したいという意見も 10 件寄せられました。その中でも特に開講に対する要望が多く寄せられた分野は、地理学(同様意見 4 件)、音楽(同様意見 3 件)がありました。音楽については、現在学士課程では「人文学系ゼミ(インプロ/吹奏楽)」が開講されており、「吹奏楽曲の合奏を重ね、スコア読解、レパートリー研究、楽曲の文化・歴史的背景の研究、指揮法実習³」を行う科目が用意されています。一方で、音楽科目の開講を望む 3 件中 2 件では「音楽理論」を学びたいという意見があり、現状開講されている開講科目とは別のアプローチで音楽を学びたいという需要と思われます。

第二外国語について

「第二外国語の履修できる言語の選択肢を増やしてほしい」(同様意見 5 件)という意見が寄せられました。具体的には、

² 旧・東京工業大学「2024 年度 学修案内(学士課程)」p. 46

³ TOKYO TECH OPEN COURSE WARE「2024 年度 人文学系ゼミ(インプロ・吹奏楽)導入2」

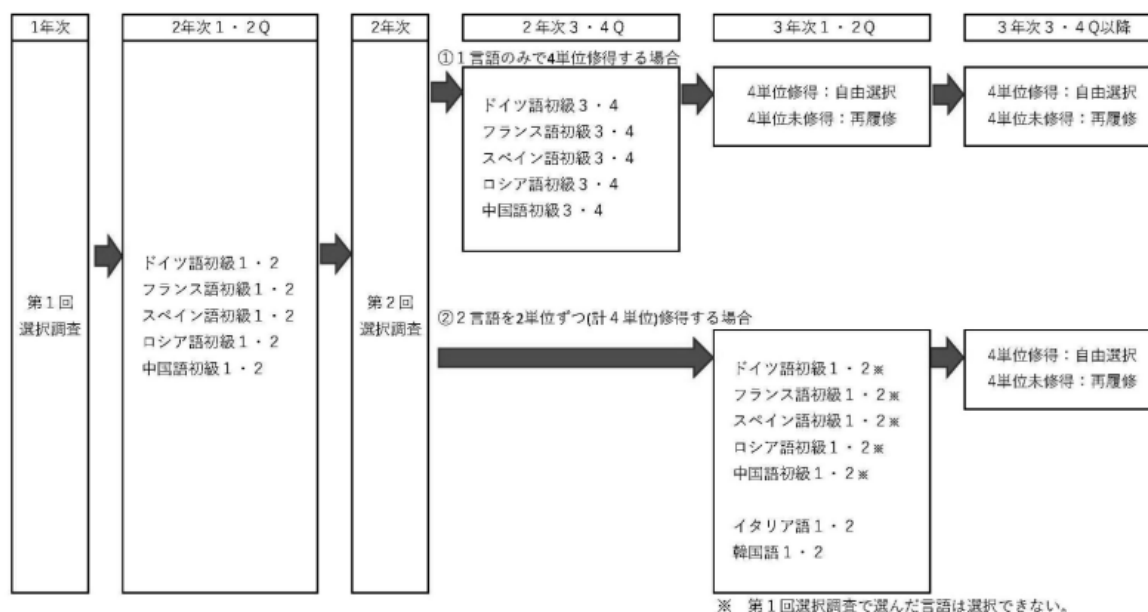
: <https://www.ocw.titech.ac.jp/index.php?module=General&action=T0300&JWC=202433663&lang=JA&vid=03> (最終閲覧日: 2025 年 2 月 16 日)

アラビア語の開講をしてほしいという意見や、2 年次からイタリア語、古典ラテン語、古典ギリシア語の開講をしてほしいという意見がありました。第二外国語は学士課程の選択必修科目となっており、所定のフローに従って 4 単位取得する必要があります。図 2-5.1 は、第二外国語選択必修 4 単位の履修方法のフローチャートです。今回意見が寄せられたアラビア語については本学では開講されていませんが、イタリア語、古典ラテン語、古典ギリシア語は開講されており、系所属後の 2 年次での単位履修が可能です。一方で、イタリア語は 3 年次に取得すると選択必修の単位として利用することが可能ですが、古典ラテン語、古典ギリシア語については選択必修の単位として利用できません。また選択必修の要件を満たすためには、2 年次に「ドイツ語」「フランス語」「スペイン語」「ロシア語」「中国語」のどれかを選択する必要があるため、本調査で寄せられたイタリア語、古典ラテン語、古典ギリシア語についての意見は 200 番台の必修科目として開講してほしいという意見だと考えられます。

また、「再履修の要件がきつすぎるので緩和してほしい」(同様意見 3 件)という意見も寄せられました。第二外国語の選択必修科目 4 単位の履修方法は、図 2-5.1 に示す通り大きく 2 つの方法が認められています。1 つ目は 2 年次に初級科目を 1～4Q 通年で受講する方法で、2 つ目は 2 年次 3 年次の 1、2Q に 1 言語ずつ履修する方法です。さらに追加のルールとして学修案内では、「選択調査で回答した言語を履修登録しなかった場合や、単位を修得できなかった場合は、翌年度以降に同じ科目の再履修が必要です(原則として、別の言語を履修した場合は「選択必修科目」として認められません)」⁴と定められています。このルールが適応されるので、例えば初級科目を 2 年次で 3、4Q に継続して履修することを希望し、4Q で初級 4 の科目の単位を落としたとすると、翌年 3 年次の 4Q に再度初級 4 の科目を履修する必要があります。本学理工学系で開講される第二外国語は通年での履修を推奨しており、1～4Q に進むにしたがってカリキュラムが段階的に進み、内容が難化する傾向があります。2 年次の 4Q に単位を落としてしまった場合、本学理工学系では一度単位取得した科目の再履修は認められていないため、1 年後に前提知識を忘却してしまった状態で難しい 4Q の単位を取得しないといけな状況になります。本調査に寄せられた意見は、このような状況での再履修を困難だと感じることが背景だと考えられます。

⁴ 旧・東京工業大学「2024 年度 学修案内(学士課程)」p. 51

第二外国語選択必修4単位の履修方法フローチャート

図 2-5.1 第二外国語選択必修4単位の履修方法フローチャート⁵

日本語・日本語文化科目について

「上級科目を増やしてほしい、GSEP 以外の学生には意味がない」(同様意見 5 件)という意見が寄せられました。現在、本学では GSEP(The Global Scientists and Engineers Program 日本語訳: グローバル科学者・技術者育成プログラム)という英語だけで学士課程が卒業できるプログラムとして留学生向けのコースが設置しています。GSEP 以外に留学生が本学理工学系に入学する方法として、主に日本語で授業を受けることを前提とした「私費外国人留学生特別選抜試験」に合格して入学する方法があります。上記のどの形式で入学してきたとしても、留学生は日本語・日本文化科目を所定の範囲内で最大 12 単位まで卒業等の要件に関わる必要単位数に含めることができます⁶。この日本語・日本文化科目は、日本語第一から第八までの基礎的な授業の他、「日本語文化演習」という発展的な科目が 4 科目(100 番台に 1 単位、200 番台に 1 単位、300 番台に 2 単位)用意されています。「私費外国人留学生特別選抜試験」に合格して入学した留学生にとっては、日本語第一から第八までの基礎的な授業は内容としてももの足らず、「日本語文化演習」は開講数が少ないと感じていると考えられます。

教職科目について

「教育工学を改善してほしい」(同様意見 4 件)、「公欠が認められないのはおかしい」(同様意見 3 件)という意見が寄せられました。こちらの意見に関しては、学勢調査 2022 の提言 2-3「教職課程に対する認識の改善」にて同様の意見を取

⁵ 旧・東京工業大学「2024 年度 学修案内(学士課程)」p. 51

⁶ 旧・東京工業大学「2024 年度 学修案内(学士課程)」p. 70

り扱った提言を行っています。学勢調査 2022 では、「教育学の前提試験及び中間試験の難易度調整」、「中間試験不合格者に対する補講の実施や補助課題の配布」を提言し、各提言について対応策・実施方法の回答をいただいています。「教育学の前提試験及び中間試験の難易度調整」という提言については、「教職科目については、文部科学省が教職課程コアカリキュラムで各科目の到達目標を定めています。そのため、難易度を下げることは、適切ではないと考えています。前提試験の例題は1年中公開されており、多くはそこから出題され、20 問中 10 問を選択する方式で行っています。」という回答をいただきました⁷。また、「中間試験不合格者に対する補講の実施や補助課題の配布」という提言については、「中間試験の例題を 1 年中公開し、それを活用して試験に臨むよう指導しています。」という、補講の実施や補助課題の配布を行う予定はないという意図の回答をいただきました⁷。本調査では、「前回の提言で取り上げられていたが全く改善されていない」という意見が複数あり、また前提試験についても「前提試験を公開しているページの使い勝手が悪い」、「教職概論の授業内容を正しく把握していない内容になっており、科目間の連携が取れていないと感じる」などの意見が寄せられました。さらに、集中講義などでは公欠が認められないため、単位を取得できず、結果として教育実習に必要な単位が不足する状況となり、教職課程の履修を断念せざるを得ないと感じる学生もいるようです。

要望まとめ

今回は、教養科目に関する意見の中で、意欲的に取り組む姿勢によって生まれたと考えられる意見を中心に上げました。具体的には、教養科目についても幅広く学びたいというニーズや、現状のカリキュラム自体への改善を求める意見がありました。本意見まとめを参考に、学生のニーズを反映した教養科目の展開を行っていただきたいです。

⁷ 学勢調査 2022 大学の対応: http://www.siengp.titech.ac.jp/gakuseichousa/2022/gakuseichosa2022_daigakunotaio.pdf (最終閲覧日: 2025 年 3 月 8 日)

3 施設

3 施設

提言 3-1 生協食堂の価格およびメニューに関する要望

学生の意見

生協食堂について、以下のような意見が寄せられました。

- 価格を安くしてほしい(同様意見 104 件)
 - コスパ(量と価格)を良くしてほしい(同様意見 42 件)
- 栄養バランスの良い、ヘルシーなメニューを増やしてほしい(同様意見 68 件)
 - 野菜が摂れるメニュー(同様意見 28 件)
 - 揚げ物でないもの(同様意見 23 件)
- 食の制限や文化に配慮したメニューを充実させてほしい(同様意見 29 件)
 - ハラル対応(同様意見 19 件)
 - ビーガン、ベジタリアン対応(同様意見 9 件)

現状分析

本学には、大岡山キャンパスのつばめテラスと第二食堂、すずかけ台キャンパスの 3 か所に生協食堂があり、共通のメニューもありますが、一部は異なっています。

設問 No. 5-2「平日の昼食をとる際に重視している点を教えてください。」では、回答者のうち 76%の学生が「価格」を重視していることがわかりました(図 3-1.1)。次に多かったのは、約半数の学生が選択した「おいしさ」と「食事の量」です。「栄養バランス」や「アクセスの良さ」を重視している学生も全体の 4 分の 1 ほどを占めています。「その他」を選択した学生の自由記述では、「混雑・キャパシティ」(同様意見 5 件)、「食事の種類」(同様意見 4 件)、「生協マネーの利用」(同様意見 2 件)などが挙げられました。

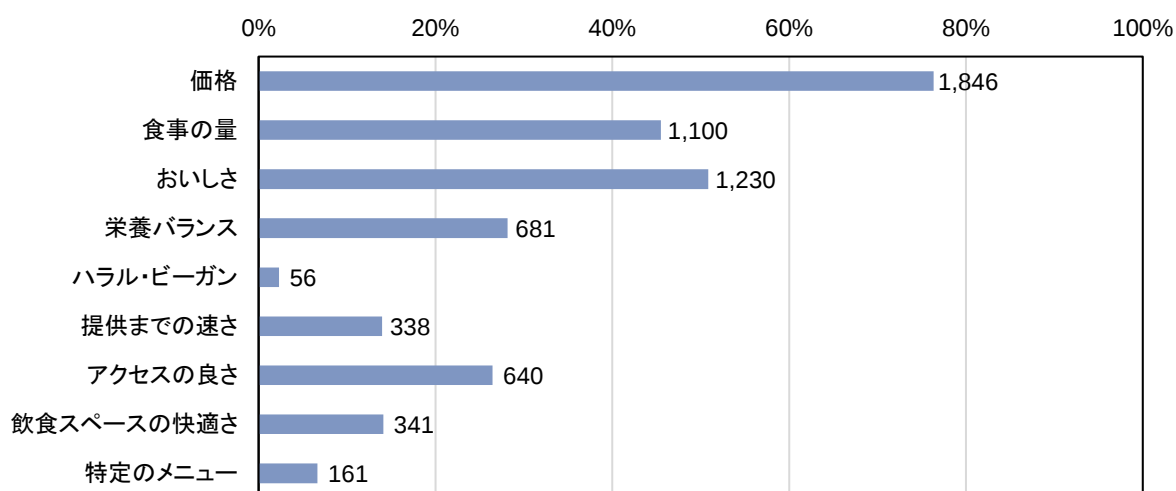


図 3-1.1 平日の昼食をとる際に重視していること(複数選択可)

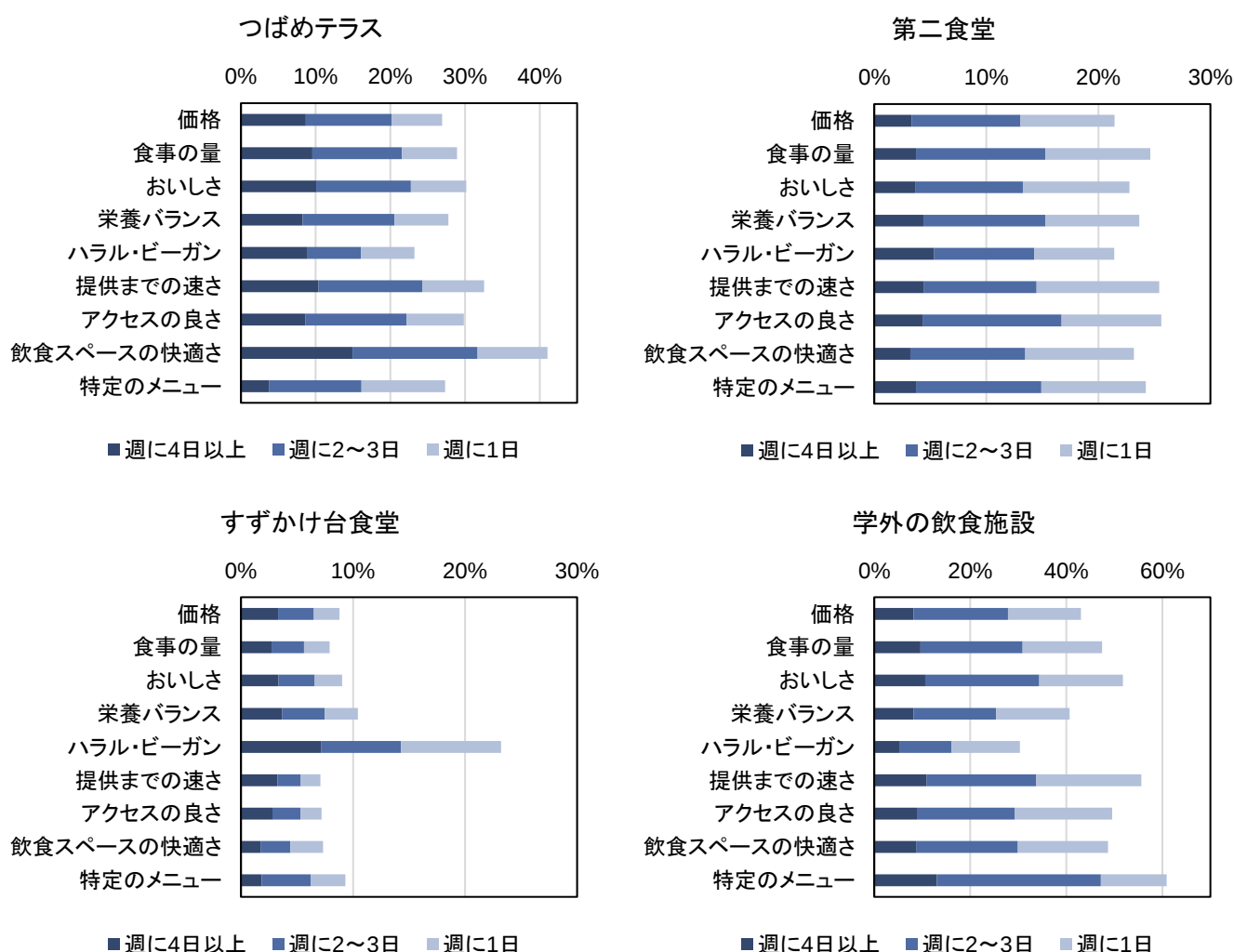


図 3-1.2 平日の昼食をとる際に重視している項目別 全数に対する各飲食施設利用者の頻度別割合

設問 No. 5-1「平日の昼食は主にどこを利用していますか。」と設問 No. 5-2「平日の昼食をとる際に重視している点を

教えてください。」の回答をクロス集計すると(図 3-1.2)、学外の飲食施設は「おいしさ」や「特定のメニュー」を求める人から支持を受けていることがわかります。対して、学内の生協食堂利用者の中には、学外の飲食施設で満たすことが難しい「ハラル・ビーガン」対応を求める人が一定数見受けられます。

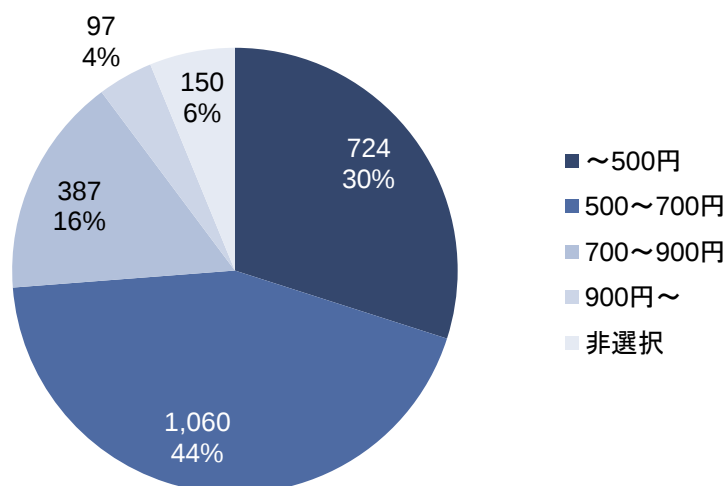


図 3-1.3 平日の昼食の平均予算

設問 No. 5-3「平日の昼食の予算は平均いくらくらいですか。」に対する回答の分布は図 3-1.3 のようになりました。学生の平日の昼食の予算は500～700円が最多で、500円以下で収めたい学生も全体の約3割を占めています。さらに、設問 No. 5-4「生協食堂のメニューで増やしてほしいものがあれば教えてください。」の自由記述の回答でも、「500円以内で量と栄養バランスが十分な食事をとれるようにしてほしい」といった意見が16件寄せられています。

設問 No. 5-1「平日の昼食は主にどこを利用していますか。」と照合して、飲食施設の利用頻度別に平日の昼食の平均予算を比較した結果が図 3-1.4 です。つばめテラスと第二食堂を週に1日以上利用する学生のうち過半数が、平日の昼食の平均予算を500～700円と回答しています。大岡山キャンパスには、大学生協のミール定期マネーを利用する学士課程の学生が多く、ミール定期マネーの1日の利用上限である600円を基準にしている人も多いと予想されます。ミール定期マネーの利用上限は2025年度から700円に引き上げられる予定です。また、生協食堂を週に1日以上利用する学生のうち20%ほどは平日の昼食の平均予算が500円以内となっています。

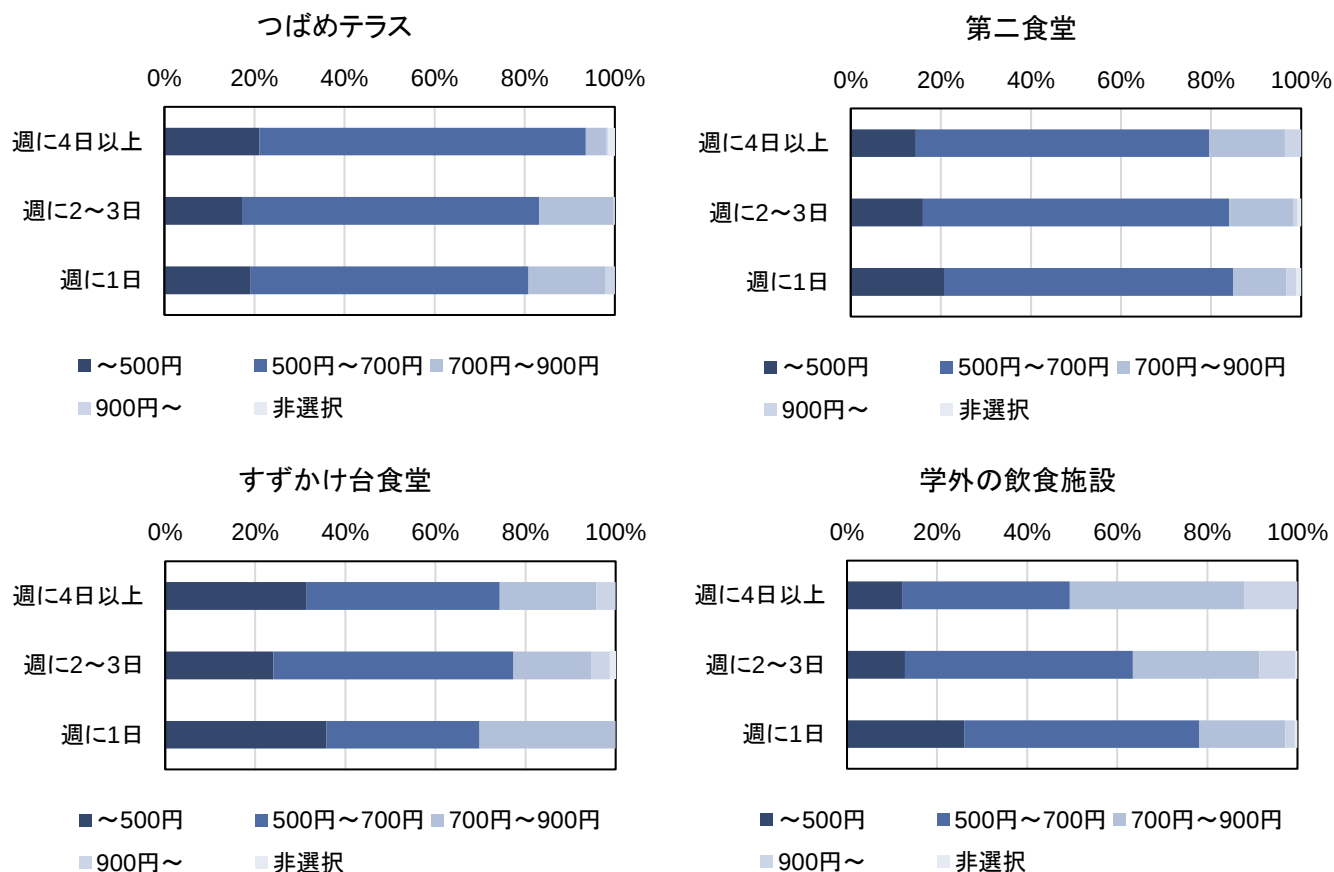


図 3-1.4 飲食施設の利用頻度別 平日の昼食の平均予算

設問 No. 5-5「学内レストラン(生協食堂含む)・ショップ・キッチンカーについて要望があれば教えてください。」においても、現在の生協食堂は量や質に対して価格が高いため、学外の飲食店に対して優位性がないという指摘が 185 件ありました。

現在のメニューは主菜が肉系や揚げ物ばかりで、毎日通うには栄養バランスや野菜が十分に摂取できるメニューが少ないという意見もありました。学勢調査 2022¹のキャンパスミーティングでは、生協食堂が実施したアンケートに健康面や栄養バランス、野菜についての意見が多かったことを受け、小鉢を増やしているとの回答をいただきました。しかし、メニューの価格が高いと感じている学生にとって、定食や丼に小鉢を追加して野菜を摂ることはハードルが高く、メイン料理の段階で栄養バランスを考慮したメニューを提供する方がより効果的だと考えられます。

生協食堂ではおかずやごはんの単品購入も可能ですが、そのことを知らない学生もいます。揚げ物以外の副菜にも需要はありますが、現在の一品おかずや小鉢は配置上目立ちにくく、追加料金が発生するため、閉店間際のつばめテラスでは小鉢が売れ残ることも少なくありません。定食や丼に小鉢をあわせたセット、小鉢 2~3 個とごはん・味噌汁のセットなどを価格とともに提示することで、定食に含まれないメニューも選びやすくなると考えられます。

¹ 学勢調査 2022 提言書: http://www.siengp.titech.ac.jp/gakuseichousa/2022/2022_gakusei_teigensho.pdf (最終閲覧日: 2025 年 2 月 19 日)

留学生を中心に、ハラルやビーガン、ベジタリアンに対応してほしいという要望も多く寄せられました。生協食堂では学内ムスリム団体 TTMC と協力しながら、ハラル推奨メニューを提供しています²。これまでにハラル推奨のケバブやビーガン対応の野菜カレーなどが提供されてきましたが、提供されるメニューの種類はまだ限られており、さらなる充実が求められています。

上記の状況を踏まえ、本学生協とのキャンパスミーティングを実施し、以下のような回答をいただきました。

- Q1. 価格が学食どっとコープに記載されている価格³より 1 割ほど高いのはなぜですか。また、組合員でも非組合員でも価格が一律なのはなぜですか。
- A1. 生協食堂では、GakuPay によって 10%のポイント還元を行っています。生協組合員の方は、ポイント還元によって実質的に一般の方より低価格で利用できるようになっています。以前は割引による組合員還元を行っていましたが、2022 年夏よりレジシステムの更新によって運用が難しくなり、GakuPay ポイントでの還元に変更となりました。本学では 97%の学生が生協に加入しているため、組合員の方には GakuPay でポイント還元を利用させていただきたいと思います。現状、つばめテラスでは 7 割前後、第二食堂では 5 割強が GakuPay での決済となっています。
- Q2. 割安な朝食の提供や 100 円夕食の資金はどのようにやりくりしているのでしょうか。セット販売などで、恒常的に定価より低価格で提供することは可能ですか。
- A2. 朝食は料理の提供や会計をセルフとして営業をほぼ無人化しているため、削減できた分の人件費を価格に反映しています。朝食は平均 10 名前後、曜日によっては最大 40 名近くの利用があります。100 円夕食は企業の協賛企画として実施し、定価と提供価格の差額を企業に負担してもらっています。恒常的に価格を下げるサービスは難しいですが、期間限定のポイント還元企画やミール定期マネーなどの形で還元を図っていきます。
- Q3. すずかけ台キャンパスの生協食堂に常設メニューが少ない、フェアメニューが展開されてないことが多いといった意見が寄せられていますが、何か難しい点があるのでしょうか。
- A3. すずかけ台キャンパスは大学院生の利用が中心で、1 日に複数回来店していただくことも多いと思われます。2 回目以降も楽しんでいただけるよう、2024 年 9 月から日替わりメニューと時間帯別メニューを実施しています。さらに、授業の合間にも楽しんでいただけるよう、フライやスナックメニューの充実も図っていきます。以前はフェアメニューの食材を少なめに発注していましたが、来年度からは夕方にも残るように発注量を増やす予定です。

² 旧・東京工業大学「東工大が取り組むダイバーシティ&インクルージョンとは？」:

<https://admissions.titech.ac.jp/public-relations/school/features/whats-tokyotech-di> (最終閲覧日: 2025 年 2 月 21 日)

³ 大学生協事業組合 学食どっとコープ: <https://gakushoku.coop/> (最終閲覧日: 2025 年 2 月 21 日)

提言

以上を踏まえて、生協食堂の価格およびメニューに関して次のように提言します。

1. 揚げ物や肉以外の主菜を増やし、メイン料理で栄養バランスがとれるようにする
2. 一品おかずとごはん・味噌汁・小鉢を組み合わせで 500 円や 700 円に収まる組み合わせ例を複数考案し、生協食堂の注文コーナーへのポップ掲示などの形で提示する
3. ハラル、ビーガン、ベジタリアン対応のメニューを拡充し、対応の程度を明記する

要望まとめ

生協食堂に関して、価格やメニューに関する要望に加え、増やしてほしいメニューの具体的な希望、運営や設備に関する意見も寄せられました。特に多かったメニューの希望は下に抜粋し、その他は意見まとめ 3-11 に掲載しています。

● 増やしてほしいメニューの具体的な希望

➤ 特に希望が多かったメニュー

- ◇ 麺類:焼きそば(13 件)、パスタ(11 件)、油そば(6 件)、そうめん(5 件)
- ◇ ごはんもの:カツ丼(9 件)、チャーハン(9 件)、オムライス(7 件)、親子丼(5 件)
- ◇ その他:麻婆豆腐(6 件)、インドカレー(6 件)、シチュー(5 件)、デザート・スイーツなど(5 件)

➤ シンプルな麺類を安く提供してほしい(5 件)

➤ 菓子パン・惣菜パンだけでなく、食パンやロールパンも置いてほしい

増やしてほしいメニューの希望は、肉系の丼や油そばといったボリュームのあるメニューと魚や定食といった健康バランスを重視したメニューに二分しています。

学生が希望したメニューには、生協食堂で既に提供されていたものや学勢調査実施後に提供が開始されたものも多く含まれています。「今日のメニュー」は本学生協の LINE アカウントと大学生協アプリから見ることはできますが、例えば SNS など、より多くの学生の目に触れる形で提示することで、利便性が向上するとともに、生協食堂の利用頻度が低い人にも提供している多様なメニューを認知してもらうことができると考えます。

生協では、つばめテラスの出入口など、生協が管理する学内施設の各所に意見箱を設置し、学生からの声を常時受け付けています。今回の調査で寄せられたメニューの希望のように、食堂メニューに関する要望や購買書籍店で入荷してほしい商品をはじめ、生協に関する意見をお持ちの方はぜひ意見箱をご利用ください。

3 施設

提言 3-2 大岡山キャンパスのキッチンカーの配置変更

学生の意見

設問 No. 5-5「学内レストラン（生協食堂含む）・ショップ・キッチンカーについて要望があれば教えてください。」に対して、以下のような回答が寄せられました。

- 石川台地区の近くにも食堂やキッチンカーを設置してほしい（同様意見 12 件）
- 本館～西地区にすべての学内飲食施設が集中しているが、中心部から遠い場所にこそキッチンカーなどを配置すべきである（同様意見 4 件）
- 本館横にできるキッチンカーに並ぶ人の行列が建物の入口や道を塞いでいる（同様意見 3 件）
- 緑が丘地区から学内飲食施設が遠い（同様意見 2 件）

現状分析

現在、大岡山キャンパス本館横に、基本的に月曜日から金曜日まで、曜日ごとに 2 台のキッチンカーが出店しています。講義室や主要施設が集中している大岡山キャンパスの中心部には、キッチンカーの他につばめテラス、第二食堂、フードショップ、西 5 号館ショップ、シアトルエスプレッソカフェなどの学内飲食施設が存在します。

一方、南地区にはセブンイレブン、石川台地区には生協の弁当販売所があるのみで、緑が丘地区と北地区には飲食施設がありません。設問 No. 2-1「キャンパスでの主な活動場所を教えてください。」と設問 No. 5-1「平日の昼食は主にどこを利用していますか。」を照合すると、中心部へのアクセスが悪い石川台地区や緑が丘地区では「学外のスーパー、コンビニ」や「学外の飲食施設」を利用する人が多いことがわかります（図 3-2.1、図 3-2.2）。

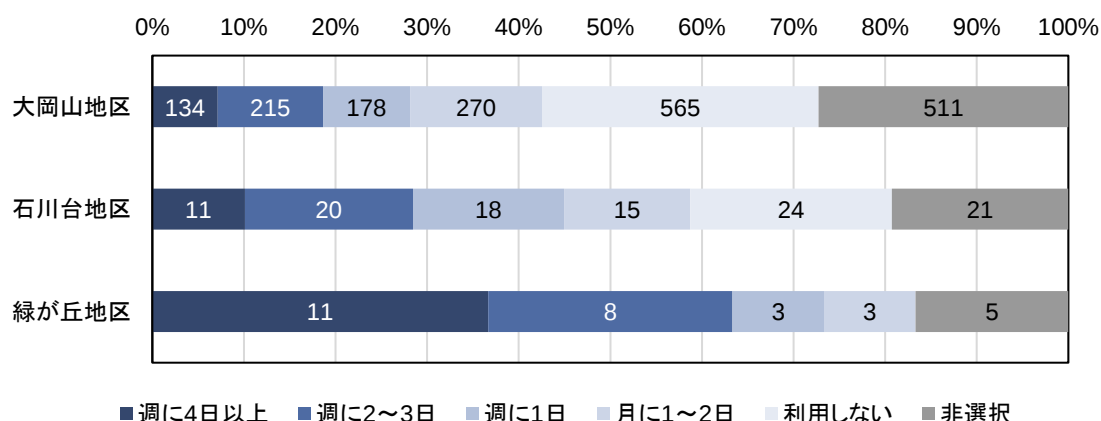


図 3-2.1 キャンパスでの主な活動場所別 平日の昼食に「学外のスーパー、コンビニ」を利用する頻度

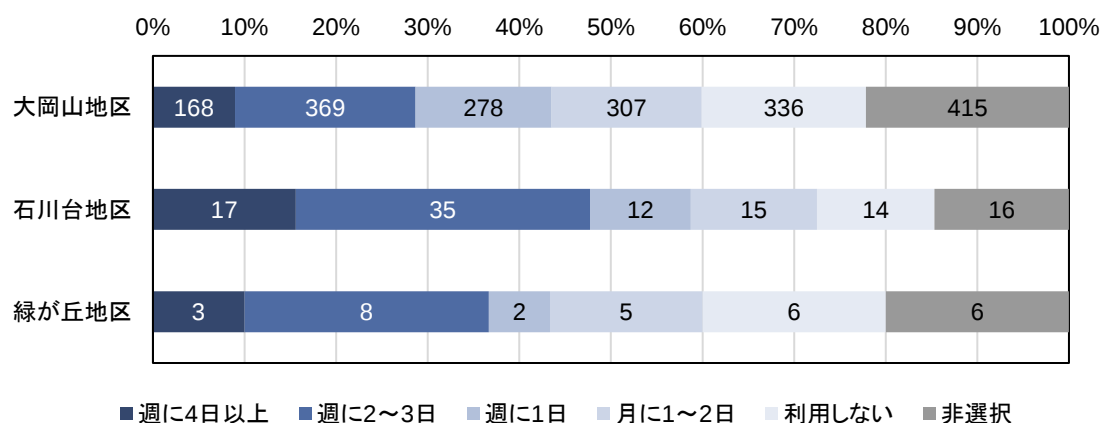


図 3-2.2 キャンパスでの主な活動場所別 平日の昼食に「学外の飲食施設」を利用する頻度

大岡山キャンパス内の飲食施設が偏在しているため、石川台地区や緑が丘地区などを拠点とする学生は学外のスーパー、コンビニや飲食施設を利用せざるを得ず、昼食の選択肢が少ないという格差が生じていると考えられます。

学勢調査 2022 における学生支援課とのキャンパスミーティングでは、2022 年 7 月 4 日から 1 か月間、石川台地区へキッチンカーのトライアル出店を行った際には採算が取れなかったとの回答をいただきました¹。しかし、その後対面授業等の増加に伴い、キャンパスに通う学生の総数も増加したことから、現在では石川台地区におけるキッチンカーへの需要が増加していると考えられます。

上記の状況を踏まえ、学生支援課とのキャンパスミーティングを実施し、以下のような回答をいただきました。

Q1. キッチンカーの出店場所が本館横になったのはなぜですか。

A1. 理由として、キャンパスの中心に近いこと、駐車スペースが確保できることがあります。

Q2. 2022 年以降、石川台地区や緑が丘地区へのキッチンカーの出店は新たに検討されましたか。

A2. 2025 年 4 月以降、本館横の設置は継続し、それに追加する形での再トライアルを予定しています。

提言

以上を踏まえて、大岡山キャンパスにおけるキッチンカーの配置について次のように提言します。

1. 現在本館横に設定されているキッチンカーの配置を大岡山南地区および北地区に変更する

当該地区に加え、南地区は石川台地区、北地区は緑が丘地区を拠点とする学生の昼食の選択肢を増やすことにも寄与すると考えられます。南地区および北地区は、石川台地区や緑が丘地区と比較して大岡山キャンパス中心部からもアクセスしやすいため、ある程度の利用者が見込め、昼食時の大岡山キャンパス中心部の混雑緩和も期待されます。

¹ 学勢調査 2022 提言書: http://www.siengp.titech.ac.jp/gakuseichousa/2022/2022_gakusei_teigensho.pdf (最終閲覧日: 2025 年 2 月 7 日)

要望まとめ

今回の学勢調査には、以下のような意見も寄せられました。

- キッチンカーの選択肢を増やしてほしい(同様意見 17 件)
- すずかけ台キャンパスにおける食事の選択肢が少ない(同様意見 7 件)

キッチンカーを適切に配置し、出店内容の多様化を図ることは、より多くの学生にとっての昼食の利便性と豊かさにつながると考えられます。

提言 3-3 体育館アリーナにおけるエアコンの設置

学生の意見

設問 No. 6-9「学内の施設に関しての意見があれば教えてください。」に次のような意見がありました。

- 体育館アリーナにエアコンを設置してほしい(同様意見 63 件)
 - ウェルネス科目の履修の際、熱中症の危険があるという理由(うち 4 件)
- 体育館アリーナの上にある窓の開閉を自由にできるようにしてほしい

現状分析

大岡山キャンパス内にある体育館アリーナには、空調設備がありません。そのため、特に夏場はアリーナ内の気温が高くなり、館内で活動を行う上で熱中症による体調不良者が出ることが懸念されています。学勢調査 2022 では、「体育館アリーナにおける冷房の設置」として、スポットエアコンの導入を提言しました。しかし、2025 年現在、エアコンは設置されていません。

環境省では 2020 年に試行を行なったのち、2021 年から熱中症警戒アラート¹を発表しています。この熱中症警戒アラートは、「熱中症の危険性に対する『気づき』を促すものとして、府県予報区等内において、いずれかの暑さ指数情報提供地点における、翌日・当日の日最高暑さ指数(WBGT²)が 33(予測値)に達する場合に発表」されます。発表開始以降、熱中症警戒アラートが発表される日は毎年増え続けています(図 3-3.1)。2024 年の東京都での熱中症警戒アラート発表日数は 37 日で、前回調査を行った 2022 年の 10 日と比べると 3.7 倍となっており、熱中症の危険性はますます高まっています。実際に、学勢調査 2024 でも「体育館で大会を行った際に熱中症で倒れる人が出ている」という声も含め、夏の体育館の環境がただ暑いだけではなく、危険な状態であるという声が多く寄せられています。

¹ 環境省「熱中症警戒情報とは」: https://www.wbgt.env.go.jp/about_alert.php (最終閲覧日: 2025 年 2 月 18 日)

² 暑さ指数である WBGT(Wet Bulb Globe Temperature、湿球黒球温度)は、熱中症を予防することを目的として、世界中で広く活用されている指標です。熱中症の発症に関与するとされている、気温、湿度、日射、気流の 4 要素を総合的に評価することができるため、人が受ける暑熱環境による熱ストレスを評価し、熱中症を予防するための指標として活用が推進されています。

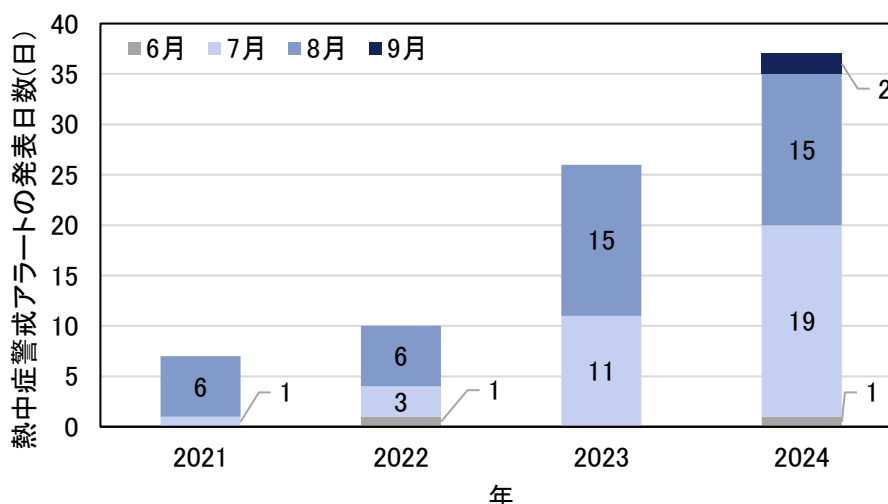


図 3-3.1 東京都における月別熱中症警戒アラートの発表日数の推移³

学勢調査 2022 の提言「体育館アリーナにおける冷房の設置」に対して、大学から「設置予算の確保を目指す。」という回答をいただきました⁴。これらの現状を踏まえて、学生支援課とのキャンパスミーティングを実施し、以下の回答をいただきました。

Q1. 学勢調査 2022 で、体育館アリーナへのエアコン設置を提言させていただきました。大学の対応では設置予算の確保を目指すとお答えいただきましたが、その後、エアコン設置は進んでいますか。

A1. 2023 年度、2024 年度と施設運営部へ予算申請しておりますが、現在措置されておりません。2025 年度も引き続き予算要求しておりますが、まずは先行して 2025 年夏までに送風機を導入する予定です。送風機とエアコンでは予算の規模が異なり、体育館アリーナが古い構造で冷却効率の高いエアコン導入には費用対効果の面でハードルが高いという課題もあります。

現在、体育館アリーナで可能な暑さ対策は、扇風機と下側にある窓の開閉です。このため、送風機は改善につながる可能性があります。しかし、先述したようにここ数年、暑さが一層深刻化し、熱中症の危険性が高まっていることから、根本的な暑さ対策には空調設備の導入が求められます。

体育館に導入可能な空調設備として、エアハンドリングユニット、パッケージエアコン、スポットエアコンの 3 種類があり

³ 環境省「熱中症警戒アラート」の発表履歴 2024 年: https://www.wbgt.env.go.jp/alert_record.php, 2023 年: https://www.wbgt.env.go.jp/alert_record_2023.php, 2022 年: https://www.wbgt.env.go.jp/alert_record_2022.php, 2021 年: https://www.wbgt.env.go.jp/alert_record_2021.php (最終閲覧日: 2025 年 2 月 18 日)

⁴ 学勢調査 2022 大学の対応: http://www.siengp.titech.ac.jp/gakuseichousa/2022/gakuseichosa2022_daigakunotaio.pdf (最終閲覧日: 2025 年 2 月 18 日)

ます。それぞれの特徴は表 3-3.1 の通りです。

表 3-3.1 空調設備の特徴

	エアハンドリングユニット	パッケージエアコン	スポットエアコン
概要	大空間向けオーダーメイドの空調設備	既製品の業務用エアコン	局所冷房に特化した空調設備
長所	気温を調整するエアコンの機能に加え、湿度の調整や換気機能があり、最適な空調が実現可能	広い空間の気温調整に適している	コストを抑えて導入可能
短所	設置には工事が必要なため、非常に高額	本学アリーナに設置するには工事が必要	空間全体の冷却には不向き

体育館アリーナの構造が古いため、設置に工事を要するエアハンドリングユニットやパッケージエアコンの導入は、費用対効果の面で優れないと考えられます。一方、スポットエアコンは局所冷房に特化しており、体育館のような広い空間全体を冷却するには適していません。しかし、人がいる場所に冷風を送ることで、熱中症の予防効果が期待されます。また、工事が不要なため、コストを抑えて導入できる点もメリットです。

これらの空調設備は消費電力が大きく、設置後もコストがかかる欠点があります。電力を使用しない暑熱対策として、太陽から伝わる日射による輻射熱の影響を軽減する遮熱シートの使用があります。遮熱シートを体育館の天井に設置することで、館内の温度上昇を抑える効果が期待されますし、さらにエアコンと併用することで消費電力を下げる効果も期待されます⁵。

他に、暑さ対策の一つとして、窓を開けることも考えられますが、アリーナ上部の窓につながるスペースは学生が立ち入り禁止となっているため、学生はアリーナ下側にある窓しか開けることができません。**根本的な暑さ対策にはエアコンが必要**だと考えられますが、送風機導入と窓の開閉を組み合わせることで風通しをよくすることで多少は暑さを軽減することが可能ではないかと考えられます。

⁵ 文化シャッター ニュースリリース「気候変動への緩和に貢献する“遮熱事業”を BX グループとして本格展開」:
https://www.bunka-s.co.jp/news_info/20241017news/（最終閲覧日: 2025 年 2 月 18 日）

提言

以上を踏まえて、体育館アリーナの設備について次のように提言します。

1. 体育館アリーナへのスポットエアコンの導入

学勢調査 2022 で提言した、体育館アリーナへのスポットエアコンの導入を再提言します。スポットエアコンであれば、工事が不要で、費用を抑えながら暑さ対策の効果が期待できます。

2. 送風機導入に加え、アリーナ上部にある窓も学生が開閉できるようにすること

3. 遮熱シートの導入

根本的な熱中症対策として空調設備の導入が求められます。空調設備導入までの**暫定措置**として、アリーナ上部にある窓の開閉許可と遮熱シートの導入を提言します。

トレーニングルームへの意見

設問 No. 6-9「学内の施設に関しての意見があれば教えてください。」では、トレーニングルームについての意見も寄せられました。

● 大岡山トレーニングルーム

- トレーニングルームの開館時間を延長してほしい(同様意見 20 件)
- トレーニングルームの設備を充実させてほしい(同様意見 4 件)

● すずかけ台トレーニングルーム

- トレーニングルーム、卓球場の開館時間を延長してほしい(同様意見 2 件)
- トレーニングルームを整備してほしい(同様意見 2 件)
- トレーニングルームのサイトがあるかよくわからず、学生が利用しにくい

学勢調査 2018 では、「トレーニングルームの時間外利用」を提言しています。その際、大学からは「予算削減によりトレーニング機器の更新が困難な状況であり、大学としては時間外営業よりも機器の老朽化対策を優先すべき課題と考えています。そのため、時間外営業は今後の検討課題とします。」との回答をいただきました⁶。学勢調査 2024 での学生からの意見を踏まえ、学勢調査 2018 以降のトレーニングルームについての検討状況を確認するため、学生支援課とのキャンパスミーティングを実施し、以下の回答をいただきました。

Q1. 学勢調査 2018 の提言でトレーニングルームの時間外利用を提言させていただきました。大学の対応では、機器の更新を優先して行うとの回答をいただきましたが、その後時間外利用の検討は進んでいますか。

A1. 時間外利用については、現状検討しておりません。管理しているリベラルアーツ研究教育院と引き続き検討していきます。

⁶ 学勢調査 2018 大学の対応: http://www.siengp.titech.ac.jp/gakuseichousa/2018/2018_gakusei_follow.pdf (最終閲覧日: 2025 年 2 月 19 日)

施設

Q2. トレーニング機器の更新は進みましたか。

A2. 2、3 種類の機器を更新しました。費用も考慮し、中古機器の導入も行いました。トレーニングセンターはリベラルアーツ研究教育院の管理ですが、要望があれば学生支援課の予算で購入します。すずかけ台のトレーニングルームでは、多くの要望があったことから、機器の大規模更新をしています。

Q3. 大岡山トレーニングルーム HP のトレーニングルームの利用者数を拝見したところ、朝～昼時間帯の利用者が多い印象を受けました⁷。学勢調査 2018 のキャンパスミーティングで質問させていただいた際、利用人数が 10 人以下だと時間外利用は難しいとのご回答をいただきました。利用人数が比較的多いと予想される朝の 1 限 (8:50～) 時刻からトレーニングルームを試験的に開放することは可能でしょうか。

A3. リベラルアーツ研究教育院との相談になります。管理コストがかかりますので、予算と合わせて検討が必要です。

以上の回答を踏まえ、トレーニング機器の更新が進みつつあることを確認できたため、学勢調査 2024 ではトレーニングルームに関する提言を見送りました。

⁷ 東京科学大学(旧東工大) 大岡山トレーニングルーム : <https://tokyotechtoresen.wixsite.com/toresen> (最終閲覧日: 2025 年 3 月 8 日)

提言 3-4 飲料水確保のための給水機設置

学生の意見

設問 No. 6-6「Taki Plaza の設備やイベントに対する要望があれば教えてください。」と設問 No. 6-9「学内の施設に関しての意見があれば教えてください。」に以下の意見が寄せられました。

- 給水機を設置してほしい（同様意見 23 件）

現状分析

2025 年 2 月現在、学内では大岡山キャンパス屋内運動場地下 1 階に 1 台のみ給水機が設置されています。屋内運動場は多くの講義室から離れた場所にあるため、多くの学生にとって普段使いに適した場所ではありません。本調査では、Taki Plaza をはじめとして、本館や屋内運動場 1 階など、様々な学内施設に対して給水機設置を希望する意見が多く寄せられました。これらの意見から、学生がキャンパス内に広く給水機の設置を望んでいることがわかります。

給水機設置はゴミ削減につながる、というメリットがあると考えられており、設置拡大の動きが広まっています。例えば、慶應義塾大学では、ペットボトルの利用削減によるゴミの排出量削減と、ペットボトルの生産や廃棄・リサイクルにかかる二酸化炭素排出量削減を目的とし、給水機を各キャンパスに設置しています¹。この取り組みは「地球環境との“協生”」と題して 2023 年から開始され、2024 年 7 月現在も給水機を設置しており、継続的な利用実験を進めています²。また、東京都水道局も水道水の飲料促進とマイボトルの利用による環境配慮行動の促進を目的として、「Tokyowater Drinking Station³」という公共のウォーターサーバーを、都内約 900 箇所に設置しています。また、学勢調査 2024 の設問 No. 6-6「Taki Plaza の設備やイベントに対する要望があれば教えてください。」や設問 No. 6-9「学内の施設に関しての意見があれば教えてください。」についても、大岡山キャンパスにゴミ箱を増設してほしいという要望が数多く寄せられていました。このことから、大岡山キャンパスでのペットボトルゴミ排出量が、大岡山キャンパス内のゴミ箱の量に収まりきらないことが想定されます。

上記の本学理工学系及び慶應義塾大学や東京都水道局の状況を踏まえ、学生支援課とのキャンパスミーティングを実施し、以下の回答をいただきました。

¹ 慶應義塾 協生環境推進室「『マイボトル』ではじめる『地球環境との“協生”』!」:
<https://www.diversity.keio.ac.jp/news/2023/07/202307.html>（最終閲覧日: 2025 年 2 月 25 日）

² 慶應カード「キャンパスでの水分補給」:
<https://www.keiocard.com/blog/2024/07261802.html>
（最終閲覧日: 2025 年 2 月 25 日）

³ 東京都水道局「Tokyowater Drinking Station」:
https://www.waterworks.metro.tokyo.lg.jp/kurashi/drinking_station/（最終閲覧日: 2025 年 3 月 2 日）

Q1. キャンパス内に給水機を設置するための議論がなされたことはありますか。

A1. 増設についての議論はなされたことはありません。学生からの要望がなかったのが原因です。

Q2. キャンパス内に給水機を設置する上でのボトルネックは、こういったものがありますか。

A2. メンテナンス費用が嵩んでしまうと行った問題がございます。

Q3. 屋内運動場の地下1階に設置されている給水機は、どのような経緯で設置されましたか。

A3. 詳しい経緯は不明ですが、ウェルネス科目の受講者や運動系サークルへの配慮が原因として推測されます。

提言

以上を踏まえて、キャンパス構内の給水機への導入について、次のように提言します。

1. 大岡山キャンパスの理工学系の学生が日常的に立ち寄る場所に給水機を設置する

ボトルディスペンサー型水飲栓に代表される、直接口をつけずにボトルに水を注ぐことが可能な給水機の設置を提案します。これは、水を飲む際に口をつける必要がある飲み口型水飲栓³とは異なり、直接水飲栓に口をつける必要がなくて済むため、より衛生的であると考えられます。また、給水機は Taki Plaza に代表される、理工学系の学生が日常的に立ち寄る場所への設置を提言します。その給水機の利用状況を加味して今後の給水機の設置に関しても検討することを提言します。



図 3-4.1 ボトルディスペンサー型水飲栓³

3 施設

提言 3-5 フリースペースの周知、拡充

学生の意見

設問 No. 6-6「Taki Plaza の設備やイベントに対する要望があれば教えてください。」と設問 No. 6-9「学内の施設に関しての意見があれば教えてください。」に以下の意見が寄せられました。

- Taki Plaza の座席、スペースを増やしてほしい(同様意見 50 件)
- Taki Plaza 地下 2 階で試験期間にイベントをするのはやめてほしい、イベントを減らしてほしい(同様意見 13 件)
- 個人やサークルが講義施設を利用しやすくしてほしい(同様意見 11 件)
- Taki Plaza 以外に、話しながら勉強できる場所がほしい(同様意見 3 件)
- つばめテラスを Taki Plaza のように活用できると良い(同様意見 3 件)

現状分析

これまでも、フリースペースが欲しいという声は学勢調査に多く寄せられており、大学には複数回に渡り提言してきています。

- 学勢調査 2020 提言 3-2 「非公認サークルなどの活動場所」
 - 非公認サークルや個人の自由な活動の場として以下の 2 点の提言
 - ✧ 講義室を利用できるようにすること
 - ✧ さらなる活動の場の追加を検討すること
 - 大学の対応
 - ✧ トラブル防止の観点から、活動場所を提供することは難しい
 - ✧ 空いている枠をうまく利用いただきたい
 - ✧ 大きなイベントであれば事前予約を受け付けることもあるため、まずは企画書を提出してください
- 学勢調査 2022 提言 3-2 「Taki Plaza の席数の拡充」
 - Taki Plaza の席数の拡充に関して以下の 3 点の提言
 - ✧ 地下 2 階と地下 1 階をつなぐ部分の大階段に座ることが可能であることを周知
 - ✧ 大階段に座ることを促すために誰でも自由に使える座布団などを階段前に用意
 - ✧ 地下 2 階に大型の机を設置する
 - 大学の対応
 - ✧ 大階段に座ることが可能であると周知するため、誰でも自由に使える座布団の設置を検討
 - ✧ 「つばめテラス」オープン後の Taki Plaza の混雑状況や利用状況を考慮した上で、設置する予定
 - ✧ 地下 2 階に大型の机を新たに設置するのはスペース上困難

- ☆ 一人席としては石灰岩の近くの長椅子と丸テーブルがある
- ☆ 座席は必要に応じて動かして、自由に使用していただきたい

学勢調査 2020 では非公認サークルの活動場所として、講義室を利用できるようにすることを提言し¹、「大学の対応」として、トラブル防止の観点から学生の講義室利用は公認サークルおよび部活による利用に限定している、との回答をいただきました²。学勢調査 2022 では Taki Plaza の座席の拡充に関して³提言し、大学側からは、つばめテラスのオープン後の混雑状況や利用状況を考慮した上で検討する、との回答をいただきました⁴。その後、Taki Plaza の地下 1 階に長机、椅子が増設されましたが、依然として混雑している状況は続いています。

今回の学勢調査 2024 においても、フリースペース、特に話し合いながら学修をするスペースの拡充を求める声が多く寄せられました。なかでも特に、試験期間中の Taki Plaza の混雑解消が求められています。

Taki Plaza 以外にグループで話し合いながら勉強できる場所としては、グループ学修可能な自習室⁵や、大岡山図書館のグループ研究室⁶があります。また、2023 年にオープンしたつばめテラスでは平日のランチタイム営業終了後の 14:00~18:00 で学生ラウンジ利用として一部スペースを開放しており⁷、会話をしながら勉強をすることが可能な場所となっています。その学生ラウンジ利用をより活性化してほしい、つばめテラスを学修目的で利用する際の環境をより良くしてほしいという声も寄せられました。

以上の現状を踏まえて、学生支援課とのキャンパスミーティングを実施し、以下のような回答をいただきました。

Q1. Taki Plaza ができる前とできた後での自習室の利用状況の変化はありましたか。

A1. 利用状況の把握を行っていないため、変化は把握できていません。

Q2. グループ学修可能な自習室の数を増やすことは可能でしょうか。

A2. 増やすことが可能であるかを検討します。

¹ 学勢調査 2020 提言書: http://www.siengp.titech.ac.jp/gakuseichousa/2020/2020_gakusei_teigensyo.pdf (最終閲覧日: 2025 年 2 月 16 日)

² 学勢調査 2020 大学の対応: http://www.siengp.titech.ac.jp/gakuseichousa/2020/2020_gakusei_follow.pdf (最終閲覧日: 2025 年 2 月 16 日)

³ 学勢調査 2022 提言書: http://www.siengp.titech.ac.jp/gakuseichousa/2022/2022_gakusei_teigensho.pdf (最終閲覧日: 2025 年 2 月 16 日)

⁴ 学勢調査 2022 大学の対応: http://www.siengp.titech.ac.jp/gakuseichousa/2022/gakuseichosa2022_daigakunotaio.pdf (最終閲覧日: 2025 年 2 月 16 日)

⁵ 旧・東京工業大学「自習・グループ学修室」: <https://www.titech.ac.jp/student-support/students/facilities/study-room> (最終閲覧日: 2025 年 2 月 16 日)

⁶ 東京科学大学図書館 大岡山図書館・すずかけ台図書館「グループ研究室の利用【大岡山】」: https://www.libra.titech.ac.jp/guide/members/group_study (最終閲覧日: 2025 年 2 月 16 日)

⁷ 旧・東京工業大学「大岡山キャンパス西 5 号館 2 階に新食堂『つばめテラス』がオープン」: <https://www.titech.ac.jp/news/2023/067907> (最終閲覧日: 2025 年 2 月 16 日)

Q3. つばめテラスのラウンジ利用はどの程度されていますか。

A3. 時期によって異なりますが、休業期間は利用者が少なく、試験期間になると昼食後に残って勉強するという使い方をする学生が増えています。ただし、収容人数いっぱいまで人がいることはまずなく、Taki Plaza のような混雑状況になることはありません。

Q4. つばめテラスの開館時間を延長することは可能でしょうか。

A4. 利用状況によっては延長も検討します。ただし、管理に委託費が必要であり、予算が増大しない範囲での対応になります。

提言

以上を踏まえて、大岡山キャンパスのフリースペースについて次のように提言します。

1. つばめテラスの学生ラウンジ利用を活性化させるため、つばめテラスが会話をしながら勉強をすることが可能な場所であることの周知を行う
2. 周知によって Taki Plaza からつばめテラスに学生を分散させた後、期末試験期間および試験前 1 週間程度は、学生が話し合いながら勉強できる場所を確保するため、以下の対応をとる
 - つばめテラスの学生ラウンジ利用時間の延長
 - 講義室の追加開放による、グループ学修可能な自習室の拡充

提言 3-6 田町キャンパスの環境改善

学生の意見

田町キャンパスについて、以下の意見が寄せられました。

- 田町キャンパスが閑散としている(同様意見 2 件)
- 社会人学生に自席が与えられていない
- 設備に関しても、サポートに関しても、大岡山キャンパスとの差が激しい
- 田町キャンパスに図書館を整備してほしい

現状分析

田町キャンパスには、主に技術経営専門職学位課程、イノベーション科学系、建築学系の学生が所属しています。学生が利用するキャンパス・イノベーションセンター(CIC)は、2～4 階が INDEST¹、5・6 階が建築学系、7・9 階がイノベーション科学系、8 階が事務室および蔵前ベンチャー相談室²、社会人アカデミー³のフロアとなっています。

技術経営専門職学位課程の学生は、入学後最初のクォーターは研究室に所属していないため、授業を受けるためだけに田町キャンパスを利用します。同様に研究室所属前の学生が多くいる大岡山キャンパスには、Taki Plaza など、誰でも気軽に利用できるフリースペースが整備されていますが、田町キャンパスにはそのようなスペースはありません。結果として、田町キャンパス開講の授業を受講する際に学生が利用できる場所は、授業が開講される講義室のみです。また、研究室に所属している社会人学生も固定席が与えられていないため、気軽にキャンパスに訪れて研究活動を行うことが難しい状況です。

以上の現状を踏まえて、環境・社会理工学院業務推進課とキャンパスミーティングを実施し、以下のような回答をいただきました。

Q1. 社会人学生には自席が与えられていないという意見が寄せられていますが、学生に席を与えるかどうかの判断は誰がしているのでしょうか。

A1. イノベーション科学系および技術経営専門職学位課程の社会人学生は、固定席のないフリーアドレスの居室が利用できます。指導教員より居室開錠のためのパスコードを取得してください。

技術経営専門職学位課程でいうと、一学年 40 人程度の学生が土曜日に集中的に集まることになります。そうする

¹ 東京科学大学イノベーションデザイン機構「INDESTトップ」: <https://www.idp.ori.titech.ac.jp/indest/top/> (最終閲覧日: 2025 年 3 月 19 日)

² 蔵前工業会「蔵前ベンチャー相談室」: <https://www.kuramae.ne.jp/kvs/> (最終閲覧日: 2025 年 3 月 19 日)

³ 東京科学大学社会人アカデミー「社会人アカデミーとは」: <https://www.academy.titech.ac.jp/mission.html#mission04> (最終閲覧日: 2025 年 3 月 19 日)

と建物のスペースの都合上、全員に席を割り当てるのは難しいです。

Q2. CIC706 リフレッシュルームや、CIC804 休養室の利用方法について教えてください。

A2. 706 リフレッシュルームは、イノベーション科学系が持っている部屋になるため、他の系に所属する人は利用できません。利用するには先生に連絡をして、鍵を借りることになっています。利用方法は、新入生オリエンテーション時に教員よりお知らせしています。

804 休養室は体調の悪い人が休養するスペースです。体調が悪くなった際には事務室に来て鍵を借りて使用してください。

Q3. 田町キャンパス内で、技術経営専門職学位課程の研究室所属前の学生や、田町キャンパス開講の授業を取りに来た他キャンパス所属の学生が授業前後に自習やグループワークなどで自由に使えるスペースはありますか。

A3. フリーアドレスの居室(CIC712)のパスコードを9階の事務室で伝えることは可能です。また、土曜日には技術経営専門職学位課程の学生が昼食を取るために CIC913 の鍵を開けています。

ただ、自習などの目的で使えるスペースに関していえばありません。イノベーション科学系が持っている部屋の開放は先生と相談の上、検討できると思います。

提言

以上を踏まえ、田町キャンパスのフリースペースについて以下のように提言します。

1. 田町キャンパス内に自習やグループワークを目的として利用できるフリースペースを整備する

フリースペースを整備すると同時に、利用可能なスペースについての情報の周知も必要です。CIC に関する情報は大学 HP で検索してもほとんど表示されません。このため、田町キャンパスを訪れる頻度が低い社会人学生や、田町キャンパス開講の授業を履修しに来る他キャンパス所属の学生にとっては、学生生活に必要な情報入手が難しい状況にあります。そのような学生に、各種の情報が確実に伝わるような仕組みの整備が望まれます。

要望まとめ

田町キャンパス所属と回答した人から、田町キャンパスに欲しいという声が上がったものについてまとめます。

- 図書館の本を受け取れるサービスが欲しい(同様意見 3 件)
- 生理用品の設置をしてほしい(同様意見 3 件)
- 学食が欲しい(同様意見 2 件)
- 自動証明書発行機が欲しい

他のキャンパスにはあるものの、田町キャンパスにはない設備が欲しいという意見が寄せられています。学生生活を送る上で必要な書類、学修で必要となる文献、大学にいる際の食事など、田町キャンパスにいただけでは手に入らないものが多くあります。できるだけキャンパス内で学生生活を完結させられるように施設を整備することが必要だと考えます。

提言 3-7 生協の営業時間の延長

学生の意見

設問 No. 6-2 「生協購買部に対する要望があれば教えてください。」に、以下のような意見が寄せられました。

- 営業時間が短い(同様意見 28 件)

現状分析

大岡山キャンパスにおける生協施設の営業時間は以下の通りです¹。

大岡山キャンパス

大岡山 購買書籍店	平日	10:00～17:00
	土曜	休業
	日祝	休業
大岡山 フードショップ ※2023年10月より営業時間変更	平日	10:00～17:30
	土曜	休業
	日祝	休業
大岡山 西5号館ショップ ※2023年10月 新西5号館1Fに新規オープン	平日	10:00～17:15
	土曜	休業
	日祝	休業
大岡山 つばめテラス ※2023年10月 新西5号館2Fに新規オープン	平日	11:00～14:00 ※ホール開放14:00～18:00
	土曜	休業
	日祝	休業
大岡山 第二食堂	平日	11:00～20:00 ※朝営業8:15～10:00
	土曜	休業
	日祝	休業
本部	平日	10:30～16:30
	土曜	休業
	日祝	休業

図 3-7.1 大岡山キャンパスでの生協の営業時間一覧

現在、大岡山購買書籍部の営業時間は 10 時から 17 時、大岡山フードショップの営業時間は 10 時から 17 時 30 分、大岡山西 5 号館ショップの営業時間は 10 時から 17 時 15 分となっています。現行の営業時間を変更・延長することにより、利用者数や売り上げが増え、学生と生協の両者に利があるような状況が理想的な形になると考えます。

¹ 東京科学大学つばめ生活協同組合「営業時間」:
<https://www.univcoop.jp/isct-t/time/> (最終閲覧日: 2025 年 2 月 22 日)

これらの現状を踏まえて、本学生協とのキャンパスミーティングを実施し、以下のような回答をいただきました。

Q1. 生協購買部で物価上昇に対しての取り組みなどがありましたら、教えていただきたいです。

A1. ポイント還元など、次回利用する組合員に対して割引をする形を取っています。また、一部の食品や文具に対しては、すでに定価から割引をした値段で提供しております。

Q2. 大岡山フードショップは 2023 年 10 月以前 17 時閉店でありましたが、17 時 30 分閉店に変更されています。この変更の理由を教えてください。また、この営業時間の延長により、利用者や売り上げにどのように影響したのかも教えてください。

A2. 2023 年 10 月に営業時間を変更した理由としては、学士課程の授業時間割が変更されたためです。7-8 時限が終了する 17 時 05 分以降にも利用してもらえるように延長いたしました。この営業時間の延長により、17 時 05 分以降の利用者数の多い時間帯があり、利用してもらっている傾向はあと思っています。

Q3. 購買書籍部での営業時間の延長は実現可能なことでしょうか。

A3. 購買書籍部は百年記念館内にあり、同建物内にある博物館の閉館時間は 16 時 30 分であることから、17 時閉店としています。今後の営業時間に関しては検討できればと思います。

提言

以上を踏まえて、生協の営業時間について次のように提言します。

1. 大岡山購買書籍部および、大岡山西 5 号館ショップの営業時間を 17 時 30 分まで延長

大岡山フードショップでの 2023 年 10 月以降の営業時間延長は、7-8 限終わりに何かを買いたい学生と、多くの方に利用してほしい生協の双方にとって有益であったと考えられます。購買書籍部や西 5 号館ショップにおいても、その可能性が高いことから、営業時間の延長を提言いたします。

提言 3-8

夏季の大岡山図書館学習棟の利用に向けた
情報公開および対策立案

学生の意見

設問 No. 6-4「附属図書館に対する要望があれば教えてください。」と設問 No. 6-9「学内の施設に関しての意見があれば教えてください。」に以下の意見が寄せられました。

- 大岡山図書館の学習棟の夏季閉鎖や空調管理に対する意見（同様意見 92 件）

現状分析

大岡山図書館は 2022 年から 2024 年にかけての 3 年間、7 月中旬から 8 月末ごろまでの約 1 か月半の間、学習棟を閉鎖しています^{1, 2, 3}。2024 年の学習棟閉鎖の理由としては、「夏季期間、学習棟の室温が空調設備やスクリーンだけでは適温に調整できず、室内にて熱中症となる恐れがあるためです。昨年度より各種の遮熱対策について検討しましたが、解決に至りませんでした。」と、本学図書館ホームページにて説明されています（図 3-8.1）。



図 3-8.1 本学図書館ホームページでの学習棟閉鎖のお知らせ³

大岡山図書館は、本学の安田幸一名誉教授および株式会社佐藤総合計画の鳴海雅人氏らが設計し、地上 2・3 階の

¹ 東京科学大学図書館 お知らせ「【大岡山】2 階、3 階の利用停止について(8/2 - 8/31)」:
<https://www.libra.titech.ac.jp/info/news/20220802>（最終閲覧日：2025 年 2 月 22 日）
² 東京科学大学図書館 お知らせ「【大岡山】学習棟(2 階・3 階)の閉鎖について(予定:7/15-8/31 の土日祝および 8/10 - 8/31 の平日)※本日は閉鎖しています。」:
<https://www.libra.titech.ac.jp/info/news/20230711>（最終閲覧日：2025 年 2 月 22 日）
³ 東京科学大学図書館 お知らせ「【大岡山】学習棟(2 階・3 階)の閉鎖について [7 月 12 日(金)～9 月 1 日(日)]」:
<https://www.libra.titech.ac.jp/info/news/20240624>（最終閲覧日：2025 年 2 月 22 日）

学習棟(愛称:チーズケーキ)は、方立一体型ルーバーとセラミックプリントを施した Low-E ガラス⁴により、日射の負荷軽減を図っている建物⁵であり、学習棟に対する外部環境の影響を考慮して設計されています。



図 3-8.2 学習棟の外観および断面図⁵



図 3-8.3 学習棟のカーテンウォールおよびルーバー⁶

また、過去の学勢調査(学勢調査 2018、学勢調査 2014、学勢調査 2012)で大岡山図書館の空調についてはたびたび取り上げており、キャンパスミーティングおよび提言をおこなっております。学勢調査 2014 において、大岡山図書館の冷暖房の調整に関する意見が71件寄せられ、提言 5-16「冷暖房の調整」で情報図書館課の方々とキャンパスミーティングをおこないました。その際、大岡山図書館の空調は、「各階ごとの温度管理は可能ですが、特に 2、3 階の室温は外気温に左右されやすいため、自動での管理は難しいです。温度計をこまめにチェックしたり現地に行ったりするなどして調

⁴ ガラス表面に金属膜をコーティングした複層ガラスであり、断熱や遮熱に効果があるガラスのことを指します。

⁵ 一般社団法人 建設設備総合協会「第 13 回環境・設備デザイン賞」第Ⅱ部門:建築・設備統合デザイン部門優秀賞:
<http://abee.or.jp/designaward/past/13/docs/12.pdf> (最終閲覧日: 2025 年 2 月 22 日)

⁶ 銭高組 ZENITAKA Topics 工事レポート「東京工業大学附属図書館」:
<https://www.zenitaka.co.jp/topics/reports/tokodaireport.html> (最終閲覧日: 2025 年 2 月 22 日)

節はしています。」といった回答を受けました⁷。2018 年の夏季には学習棟に扇風機が導入され、また、学勢調査 2018 の提言を受けて、2019 年の夏季は学習棟の空調開始時間を開館時間よりも 1 時間早めるといった対応もなされています⁸。

これらの現状を踏まえて、図書館情報管理課とのキャンパスミーティングを実施し、以下のような回答をいただきました。

A0. （全体的な説明）ここ数年の夏場の異常な暑さであることは十分承知しております。学習棟がガラス張りであるため、夏場に高温になることは避けられないものの、大岡山図書館が新しくなってから数年前までは、学修環境として提供できる状態にありました。しかし、ここ数年は具合が悪くなってしまう学生が出てきてしまい、室内の温度が下がり切らないなど、学修環境として適さない状況であるため、やむを得ず閉鎖しています。

Q1. 大岡山図書館の学習棟の、夏場における閉鎖の判断基準を教えてください。

A1. 熱中症警戒アラートが東京都で発令される可能性の高い日を、学習棟の閉鎖日として設定しています。2Q の期末試験期間と被ってしましますが気温の高い 7 月や夏季休業中の 8 月を中心に閉鎖をしています。事前に閉鎖する日程を定めた上で、ホームページなどで周知をしていますが、臨時で閉鎖する場合もあり、ホームページや Slack・X などの SNS で周知しています。

Q2. Low-E ガラスによる遮熱対策や空調設備を駆使しても、最近の酷暑に現在の学習棟は耐えられなかったという理解でよろしいですか。

A2. 2023 年に大学の施設課および設計者の安田幸一先生に協力をいただき、温度測定や空調の確認、スクリーンを遮熱性能の高いものに変更するなどの調査を行いました。

調査の結果、どれか 1 つを行えば十分であるというわけではなく、複数の対策を講じる必要があると分かりました。費用の面から、それらの対策を一度に取ることは難しいため、現在は温度測定を進めており、学習棟の環境の把握に努めています。

Q3. 学習棟 6 か所にデータロガーを設置して、計測をしているということですが、このデータロガーの計測結果について公開することは可能でしょうか。

A3. 計測結果の一般公開は現在しておりません。また、リアルタイムで公開することはできません。

計測結果を公開することを前提として取得していないため、一般公開については、現時点ではご回答できません。

Q4. 閉鎖した時期の室温は 1 日の中でどう推移していましたか。また、日の出ていない夕方・夜であれば、室温が下が

⁷ 学勢調査 2014 :

http://www.siengp.titech.ac.jp/gakuseichousa/2014/2014_gakusei_teigensyo.pdf

(最終閲覧日:2025 年 2 月 22 日)

⁸ 学勢調査 2018 大学の対応:

http://www.siengp.titech.ac.jp/gakuseichousa/2018/2018_gakusei_follow.pdf (最終閲覧日:2025 年 2 月 22 日)

り利用可能な場合があると思いますが、計測結果からどのような状況になっていると判断できますでしょうか。

A4. 夜間でも室温が高い日はあり、36 度を超えている日もあります。明け方など下がっている時間帯もありますが、ほとんどの時間帯で暑く、冷房をつけたとしても 30 度を超えています。

また、カウンターが 17 時以降、業務委託のスタッフに移行しており、学習棟の利用に関する広報や学習棟の入口を開放するなどの設定ができないため、対応できることが限られています。

Q5. 夏季の学習棟の閉鎖に関する取り組みは、いつごろから実施されているのですか。

A5. 2019 年から実施しています。2018 年には、利用者が熱中症の疑いで救急搬送されることが 2-3 回ありました。2019 年は、学習棟 2 階入口の自動ドアを閉鎖することで、学習棟の暑さの軽減を試みましたが、効果が見られませんでした。2020 年は、コロナ禍により学習棟を閉鎖しております。2021 年の夏場は、例年に比べて過ごしやすく、閉鎖には至りませんでした。

しかし、2022 年から急激に暑くなり、学生が汗を垂らしながら学習棟を利用しているという状況になってしまったため、臨時に閉鎖しており、翌年の 2023 年から期間を決めて学習棟の閉鎖をしております。

このキャンパスミーティングの際に、図書館情報管理課の方から、夏場の学習棟に設置されたデータロガーでの計測結果を示していただきました。キャンパスミーティングでご回答いただいた通り、特に 7 月下旬や 8 月の学習棟の室温は非常に高く、学修環境として適さないことを確認しました。

提言

以上を踏まえて、夏季の大岡山図書館の学習棟の閉鎖について次のように提言します。

1. 夏場の学習棟の室温や湿度など詳細な情報を、サイトや SNS で公開する

現状、利用者からすると、「室内温度が高温のため学習棟が閉鎖される」ということしか分からないため、利用者からの理解を得づらい可能性があります。キャンパスミーティングにおいて、学勢調査の学生スタッフおよび教職員 WG に夏場の学習棟に設置されたデータロガーでの計測結果を示してくださったように、学習棟内がどれくらいの室温であるかなどを示し、学習棟の状況を公開することで、利用者の理解が得られると考えられます。

2. 夏季の学習棟利用に向けて対策立案を実施する

現在、大岡山図書館で検討していただいていることではありますが、夏季の学習棟の利用に向けた最適な改修(ガラス面の改修・空調設備の更新、自然換気の調整など)とは何であるかを改めて検討することで、夏季の学習棟の利用に向けて一歩近づきます。また、過去の対策事例を含めて、検討内容や対策結果を公開することで、提言 1 と同様に、利用者の理解が得られると考えられます。

提言 3-9

学内図書施設の連携促進と貸出・返却・検索
システムの統合

学生の意見

- 小説や人文科学系などの図書を置いてほしいという要望（同様意見 25 件）
- オンラインジャーナルやデジタルライブラリの拡充（同様意見 11 件）

現状分析

本学図書館は大学の統合により、4 館（大岡山・すずかけ・御茶ノ水・国府台）となりましたが、貸出・返却、および検索システムなどはまだ統合されておらず、蔵書検索・電子ジャーナル・電子ブックの検索についても、同様に統合されていません。一方、電子ジャーナル・電子ブック・データベースについては、東京工業大学・東京医科歯科大学で契約しているものは、一部のサービスを除き、2025 年 1 月もしくは 2025 年 4 月から、4 キャンパスでも利用可能になる予定と発表されています^{1, 2}。

大岡山キャンパスには図書館だけでなく、人文科学系の書籍や資料、新書などを所蔵しているリベラルアーツ図書室があります。この図書室はリベラルアーツ研究教育院に設置された図書室であり、図書館とは別の機関です。そのため、所蔵する図書の管理や貸出・返却は、図書館と別扱いになります。例えば、蔵書検索はリベラルアーツ図書室内の検索システムや、ホームページで公開されている蔵書一覧の Excel ファイルや、ブックログ（図 3-9.1）というサービスから確認することが可能です。

¹ 東京科学大学図書館 大岡山図書館・すずかけ台図書館「医歯学系所属の方の大岡山図書館・すずかけ台図書館の利用案内」:

https://www.libra.titech.ac.jp/guide/fromoctober_m（最終閲覧日：2025 年 2 月 22 日）

² 東京科学大学図書館 御茶ノ水図書館・国府台図書館「2024 年 10 月 1 日からの図書館サービスについて」:

https://www01s.ufinity.jp/tmdu_lib/?page_id=5033（最終閲覧日：2025 年 2 月 22 日）

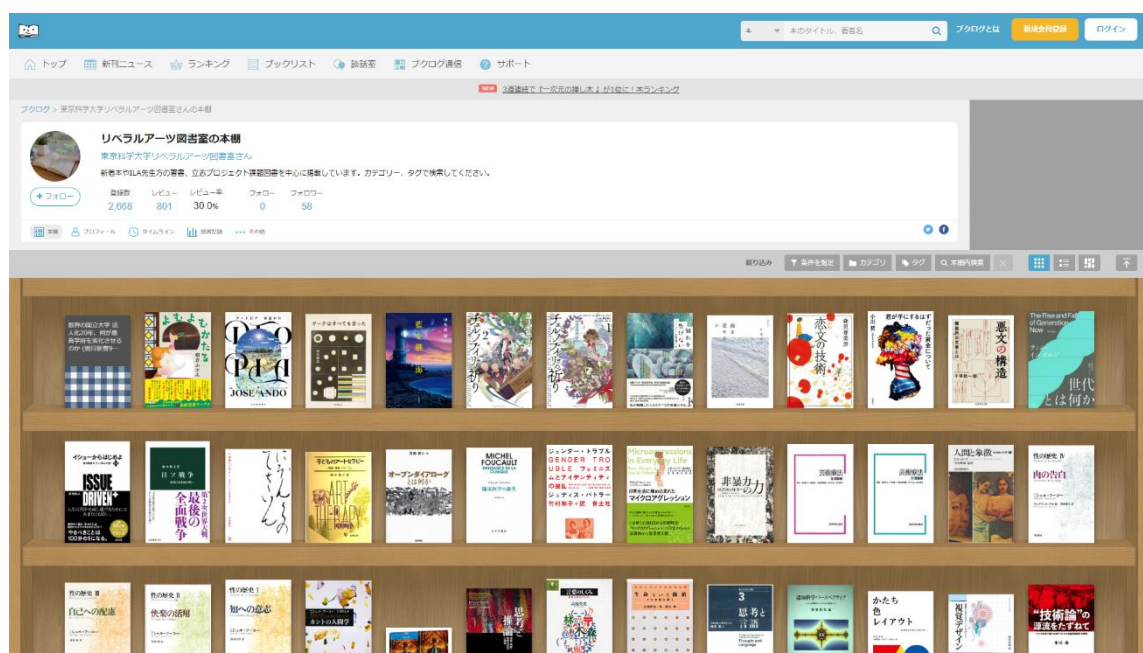


図 3-9.1 リベラルアーツ図書室のブックログ³

大学の統合により、東京科学大学として、多種多様な書籍やジャーナルを保有することになりました。しかし、蔵書の検索システムは統合がされておらず、また、大岡山図書館では化学や電気など理工系、御茶ノ水図書館では医学系、リベラルアーツ図書室では人文社会・小説などの書籍・資料を管理するなど、それぞれが独立した機関となっています。そのため、利用者からすると、よく行くキャンパスの図書館に借りたい図書がない場合、大学ではその図書を所蔵していないものだと思うのかもしれません。

これらの状況を踏まえ、図書館情報管理課と図書館利用支援課とのキャンパスミーティングを実施し、以下の回答をいただきました。

Q1. 東京工業大学と東京医科歯科大学の図書館のシステム統合について、スケジュールを教えてください。

A1. 2028 年 1 月に、大岡山・すずかけ・御茶ノ水・国府台で図書館システムを統合予定です。また、図書館システムではありませんが、図書館の入館や図書の貸出・返却など学生証の IC カードの利用が必要なサービスに関しては、統合がまだ先であるため、ご不便をおかけしている状況ではあります。

Q2. 図書館とリベラルアーツ図書室は、別組織であります、交流などはありますでしょうか。

A2. 図書館内で立志プロジェクトの課題図書を展示しており、協力はしております。

³ ブクログ「リベラルアーツ図書室の本棚」：<https://booklog.jp/users/jinbuntosyo>
(最終閲覧日：2025 年 2 月 22 日)

Q3. 立志プロジェクトの課題図書の展示といった交流は、年に何回ありますでしょうか。

A3. 立志プロジェクトは学士課程 1 年の 1Q に開講されるため、年に 1 回です。

Q4. リベラルアーツ図書室は、別組織ということは十分承知しておりますが、連携することは難しいことなのでしょうか。

A4. 連携については、現時点では話や相談などは出ていません。リベラルアーツ図書室は、別組織として独立して運営されている状況であり、そういった背景から、連携については検討したことがなかったのかもしれません。

提言

以上を踏まえて、学内の図書施設について次のように提言します。

1. リベラルアーツ図書室と大岡山図書館や、御茶ノ水図書館と大岡山図書館において連携を進め、それぞれのおすすめの本を紹介するコーナーの常時設置することにより、様々な分野の専門書や文庫・小説が本学で利用可能であることを、今までよりも強く発信する
2. 東京科学大学にある図書館（大岡山・すずかけ台・御茶ノ水・国府台など）で、統合した図書システムや貸出・返却システムを提供する

システムの統合につきましては、キャンパスミーティングでの回答から、2028 年 1 月に図書館システムの統合が予定されていることが分かりました。統合後のシステムが、学生・教職員にとって快適に不自由なく利用できるシステムであることを望みます。

図書館とは別組織であるリベラルアーツ図書室や、大学の統合により新しく加わった御茶ノ水・国府台図書館との連携およびシステム統合により、東京科学大学が保有する図書という資産を知ることができ、活用できるようになります。「伝統ある東京医科歯科大学・東京工業大学それぞれの専門分野のみならず、人文科学・社会科学的な視点をも含めた『科学』の発展を担い、社会とともに活力ある未来を築くこと」⁴を目指す東京科学大学にとって、図書施設が知識と情報の拠点となり、その役割を十分に発揮できるよう、組織間の確かな連携が実現することを求めます。

⁴ 東京科学大学「Science Tokyo について」

<https://www.isct.ac.jp/ja/001/about>（最終閲覧日：2025 年 2 月 24 日）

3 施設

意見まとめ 3-10 施設に関する意見

学生の意見

設問 No. 6-9「学内の施設に関しての意見があれば教えてください。」には、学内の様々な施設に対して、多くの意見が寄せられました。ここでは、施設への提言で取り上げきれなかった意見を紹介します。

建物、設備への意見

- エアコン
 - (ハード)
 - ◇ エアコンが故障している(同様意見 3 件)
 - 具体的な場所
 - 石川台 3 号館(同様意見 2 件)
 - 西 9 号館
 - 石川台 1 号館
 - ◇ サークル棟 2 の室外機の位置を空気が通る位置にしてほしい
 - (ソフト)
 - ◇ 28℃の自動設定を止めてほしい(同様意見 13 件)
 - 具体的な温度の希望:26℃
 - ◇ 講義室によって冷暖房の効き方が異なる(同様意見 9 件)
 - 具体的な場所
 - M-374 の冷房が効きすぎて寒い
 - 本館地下 1 階の講義棟が暑い
 - ◇ 70 周年記念講堂の空調が弱い(同様意見 2 件)
- トイレ
 - (ハード)
 - ◇ 和式トイレを洋式トイレにしてほしい(同様意見 9 件)
 - 具体的な場所
 - サークル棟
 - 石川台 1 号館
 - 西 8 号館
 - 南 7 号館
 - ◇ 綺麗なトイレを増やしてほしい(同様意見 4 件)

- ◇ 女子トイレを増築してほしい(同様意見 2 件)
- ◇ オールジェンダートイレが欲しい
- ◇ トイレにパウダールームが欲しい
- ◇ 各建物に対しての要望
 - 西 3 号館
 - 改修してほしい(同様意見 6 件)
 - ◇ 具体的な階数
 - 5 階の女子トイレ
 - 入って右の個室のドアが閉まりにくい
 - 3 階の男子トイレ
 - 本館側のドアの開く向きを逆にしてほしい
 - 西 6 号館
 - 女子トイレの一つが使用禁止なのを解消してほしい
 - 本館
 - 2 階の音姫が鳴らない
 - 第二食堂付近のトイレのドアが自動で閉まらない
- (ソフト)
 - ◇ 便座を拭くアルコールを置いてほしい(同様意見 2 件)
 - ◇ 洗面台にコンタクトのゴミやメイクを直したティッシュを捨てるゴミ箱が欲しい(同様意見 2 件)
 - ◇ 西講義棟のハンドソープが使いにくい(同様意見 2 件)
- ゴミ箱
 - (ハード)
 - ◇ ゴミ箱を増やしてほしい(同様意見 20 件)
 - 具体的な場所
 - Taki Plaza 1 階
 - 各施設入口
 - (ソフト)
 - ◇ 回収頻度を上げてほしい
 - ◇ 講義室のゴミ箱のうち一つは燃えるゴミにしてほしい
- 講義室
 - (ハード)
 - ◇ すべての講義室で充電できるようにしてほしい(同様意見 8 件)

- ◇ 椅子が硬い(同様意見 5 件)
- ◇ 椅子を可動式にしてほしい(同様意見 3 件)
- (ソフト)
 - ◇ 講義室を学生が予約して使用する際に音響設備やプロジェクターが使えない
- 各建物に対する意見
 - 本館
 - ◇ 建物内がわかりにくいので、地図や案内を増やしてほしい(同様意見 2 件)
 - ◇ 本館講義棟に行くための扉が片方壊れているのを直してほしい
 - 西 3 号館
 - ◇ エレベーターの待ち時間が長い
 - 西 5 号館
 - ◇ 建物内に自動販売機が欲しい
 - 西 6 号館
 - ◇ トイレ等の軽い用事にも学生証の携帯が必要で不便(同様意見 2 件)
 - ◇ 研究室の人数に対するキャパシティが足りず、学生が移動する必要がある
 - ◇ 水道が少ない
 - 西 8 号館
 - ◇ W8E-101 講義室に喫煙所の煙が入ってくる¹
 - ◇ エレベーターの待ち時間が長い
 - ◇ 展望台を開放してほしい
 - 西 9 号館
 - ◇ 棟間の移動がわかりにくい
 - 西講義棟 1
 - ◇ 机の傾斜がきつい(同様意見 2 件)
 - ◇ 机と椅子の使い心地が悪い
 - ◇ 机が古く、試験の際に文字が書きにくい

¹ 学勢調査 2020 では「喫煙所環境改善・キャンパス内禁煙の推進」を提言しており、大学からは 2025 年度の全面禁煙実施を目標とした「受動喫煙防止対策(キャンパス内全面禁煙に向けて)ロードマップ(出典: 東京科学大学 安全部門: https://www.gsmc.titech.ac.jp/hyoushi/gakunaimukeijyouhou/kakono%20keisaijyouhou/R2/kinenroadmap_j.pdf)」を示し周知を図ったとの回答をいただいています(出典: 学勢調査 2020 大学の対応: http://www.sienp.titech.ac.jp/gakuseichousa/2020/2020_gakusei_follow.pdf)。しかし、今年度に新たに公開されたロードマップでは、2028 年度 10 月から喫煙所の維持及び全面禁煙の可能性の検討(出典: 「【安全企画課】受動喫煙防止対策(キャンパス内全面禁煙に向けて)ロードマップについて(お知らせ)」(学内限定): <https://science-tokyo.app.box.com/file/1649087092231>)となっており、キャンパス内禁煙の見通しは立っていません。

施設

- 南 3 号館
 - ◇ 施設が古い
- 北地区
 - ◇ 内装が古いので、改善してほしい(特にトイレ)
- 70 周年記念講堂
 - ◇ 2 階の屋根裏部屋が汚いので、掃除してほしい
 - ◇ 音楽的環境
 - 声が響くようにしてほしい
 - ピアノの状態が悪い
- 学術国際情報センター
 - ◇ 外階段の上から雨が降ってくるので、補修してほしい

Wi-Fi に関する意見

- 全体的に接続状態が良くない場所が多い、つながりにくいところを減らしてほしい(同様意見 7 件)
- 具体的なエリアとしての要望
 - 大岡山キャンパス
 - ◇ サークル棟 3(同様意見 7 件)
 - ◇ 第二食堂(同様意見 3 件)
 - ◇ セブンイレブン(同様意見 2 件)
 - 現在アクセスポイントなし
 - ◇ 西 2、3 号館
 - ◇ 西 8 号館 11 階
 - ◇ 本館地下階
 - ◇ 石川台
 - ◇ 各建物の地下部分
 - すずかけ台キャンパス
 - ◇ G3 棟
 - 田町キャンパス(CIC)

課外活動施設への意見

- サークル棟
 - 音楽系サークルに防音の環境を与えるか、音楽系サークルでサークル棟を独立させた方が良いと思う(同様意見 3 件)

- 部室の数を増やしてほしい、非公認サークルも部室を使えるようにしてほしい(同様意見 3 件)
- 移転によって部室が狭くなった、広くしてほしい(同様意見 2 件)
- 更衣室
 - グラウンド脇の更衣室が特定の部活に占領されていることが多いため、広く使いやすいようにしてほしい(同様意見 4 件)
 - 女子更衣室のロッカーのうち、鍵がかかったまま使えないものの数が多い(同様意見 3 件)
 - 体育館更衣室の冷房や換気を自由にできるようにしてほしい(同様意見 2 件)
 - 女子更衣室の治安が悪い
- テニスコート
 - 大岡山のテニスコートを部活以外の人も使えるようにしてほしい(同様意見 11 件)
 - ナイターがほしい
- 体育館
 - (ハード)
 - ◇ エレベーターが欲しい(同様意見 2 件)
 - (ソフト)
 - ◇ 一般利用枠を増やしてほしい(同様意見 6 件)
 - ◇ 卓球台が幅を取り、倉庫が狭いので、管理方法を工夫してほしい(同様意見 2 件)
 - ◇ 実験利用についての講習をしてほしい
- グラウンド
 - (ハード)
 - ◇ ナイターを付けてほしい(同様意見 4 件)
 - ◇ 影が少ない、ベンチに屋根が欲しい(同様意見 2 件)
 - ◇ 芝を整備してほしい
 - ◇ バasketゴールがほしい
 - (ソフト)
 - ◇ グラウンド脇のテニスコートの草取りをしてほしい(同様意見 2 件)
- プール
 - 利用可能時間を延ばしてほしい(同様意見 3 件)
 - 利用料金を安くしてほしい(同様意見 2 件)
 - 実験など、遊泳以外の目的で気軽に利用できるようにしてほしい
- その他課外活動施設
 - (ハード)

- ◇ 個人でピアノなどを練習できる場所が欲しい(同様意見 2 件)
- ◇ コラボレーションルームの利用によって西 9 号館の音楽練習室利用が制限されるため、そのような制限のない音楽練習施設が欲しい
- ◇ 陸上競技場が欲しい
- ◇ ロボコンの競技用練習場所が欲しい
- ◇ バーベキュースペースが欲しい

大岡山キャンパス全体への意見

- キャンパス内の水捌けの悪い地面を整備してほしい(同様意見 14 件)
 - 具体的な場所
 - ◇ 西講義棟への通路(同様意見 8 件)
 - ◇ ウッドデッキ(同様意見 2 件)
 - ◇ つばめテラスのテラス席
- 駐輪場
 - 屋根のある駐輪場を増やしてほしい
 - 駐輪場の利用ルールが守られておらず、他の交通の妨げになっているから対処してほしい
 - ◇ 具体的な場所
 - 学術国際情報センター裏
 - 本館
 - 現状使えないものを利用できるようにしてほしい
 - ◇ 具体的な場所
 - 西 5 号館
 - 正門近くのオートバイ駐輪場
 - オートバイ駐輪場に放置されている車両の撤去をしてほしい
 - ◇ 具体的な場所
 - 石川台
 - 緑が丘
- 不審者・学外者対策
 - 不審者が出たときに警備室で対応ができるような体制を整えてほしい(同様意見 2 件)
 - 学外者の入構が許可されている範囲、ボール遊びの制限などを明確にしてほしい(同様意見 2 件)
 - 正門付近を通る学外者の自転車が危ないので、乗り入れをできないようにしてほしい
- バリアフリー
 - 斜面の多い土地だが、車椅子ユーザーが過ごしやすいようにしてほしい

- 学内の点字ブロックの配置が不適切なので、見直した方が良いと思う
- 正門から石川台方面へ歩く道の右手側に大きな穴があり、柵が低いため落下の危険がある
- 保健管理センター
 - 今の位置だと遠いので、一部施設に応急処置ができる場所があると良い
 - どのようなときにどうしたら利用できるのかをわかりやすくしてほしい
- キャンパス全体について
 - 新しい建物を建てる時には、デザイン性よりも使いやすさを念頭に置いて設計をしてほしい(同様意見 4 件)
 - 講義棟と研究棟は分離してほしい
 - 遺失物センターをどこからでも行きやすいところに設置した方が良いと思う

すずかけ台キャンパスへの意見

- すずかけ台キャンパス全体
 - (ハード)
 - ◇ フリースペース・リフレッシュスペース
 - Taki Plaza 同様の誰でも利用できるスペースが欲しい(同様意見 4 件)
 - 休憩スペースが欲しい(同様意見 3 件)
 - 女性用リフレッシュスペースを増やしてほしい
 - ◇ 課外活動施設
 - 体育館が欲しい(同様意見 3 件)
 - プールが欲しい(同様意見 3 件)
 - 音楽室が欲しい(同様意見 3 件)
 - ◇ その他施設・設備
 - コンビニが欲しい(同様意見 2 件)
 - 街灯を増やしてほしい
 - (ソフト)
 - ◇ J 棟の管理会社を元に戻してほしい(同様意見 2 件)
 - ◇ 大学会館多目的ホールを小規模の演奏会などに使わせてほしい
 - ◇ 講義室に延長コードを置いてほしい
 - ◇ シャワー室を綺麗にしてほしい

その他

- 個人ロッカーが欲しい(同様意見 5 件)
 - 主に学士課程低学年の学生からの意見

施設

- 施設の利用情報
 - 使えることを知らなかった施設があるので、もっとわかりやすくしてほしい(同様意見 4 件)
 - わかりやすいキャンパスマップが欲しい
 - 講義室の旧名称の併記を続けてほしい
- 礼拝所が欲しい(同様意見 4 件)

意見まとめ 3-11 生協食堂・ショップに関する意見

学生 의견

設問 No. 5-4「生協食堂のメニューで増やしてほしいものがあれば教えてください。」、設問 No. 5-5「学内レストラン(生協食堂含む)・ショップ・キッチンカーについて要望があれば教えてください。」および、設問 No. 6-2「生協購買部に対する要望があれば教えてください。」には、生協食堂や生協が運営するフードショップ・西 5 号館ミニショップ、学食 BENTO に関して、学生からさまざまな意見が寄せられました。ここでは、提言 3-1・提言 3-7 で取り上げきれなかったものを紹介します。

生協食堂の設備およびサービスについて

- 量を増やしてほしい(同様意見 71 件)
 - ごはんを今より増やせるまたは食べ放題の仕組みがほしい(同様意見 11 件)
 - おかずを増量できるようにしてほしい
- 質(味や適温での提供など)を改善してほしい(同様意見 50 件)
 - 特に多かった指摘:ごはんの水分量(同様意見 6 件)
- お昼のピーク時は混雑していて利用しづらい(同様意見 14 件)
- 電波が弱く、スマホでの決済時に不便(同様意見 10 件)
- 生協食堂(特につばめテラス)の営業時間を前後に延ばしてほしい(同様意見 9 件)
- より時間のかかる現金の方が GakuPay よりもレジの数が少ない(同様意見 6 件)
- 量が少ないメニューも用意してほしい(同様意見 5 件)
- 第二食堂の湯呑をこぼれにくい大きめのコップにしてほしい(同様意見 5 件)
- サンプル写真と実際に提供される商品に乖離がある(同様意見 4 件)
- 客が学生ということで、雑な接客をされているように感じる(同様意見 4 件)
- GakuPay ポイントを他の一般的なポイント(またはキッチンカー)で利用できると良い(同様意見 4 件)
- GakuPay はポイント還元でなく割引にしてほしい(同様意見 3 件)
- 様々な決済方法(QR 決済など)に対応してほしい(同様意見 3 件)
- 注文台にもメニューを置いて指差し注文できるようにしてほしい(同様意見 2 件)
- つばめテラスは出入りで同じ場所を通るため、混乱が生じている(同様意見 2 件)
- 売り切れが多い(同様意見 2 件)
 - つばめテラスの週替わりメニューは食べられず終わってしまうことが多いため、設置期間を延ばしてほしい
- サラダバーを補充してほしい(同様意見 2 件)

施設

- 学食や弁当のデリバリーサービスがほしい(同様意見 2 件)
 - ピーク時間帯はデリバリーサービスを休止すれば、オフピーク利用の促進にもなるのではないかな
- 手を洗った後に精算があり、また洗う必要がある
- メニューはライスの量で値段が変わるかわかるように表示してほしい
- 並ぶ前に各レーンの混み具合がわかるようにしてほしい
- 無駄に並ぶことになるので、残数が少なくなったら早めに教えてほしい
- 麺類は人気に偏りがあるものを 1 つのレーンにまとめており効率が悪い
- 味噌汁のお椀を深くこぼれにくいものにしてほしい
- ラーメンに入れるニンニクをセルフサービスにしてほしい
- 無料でお茶を提供してほしい
- 食器返却の列を整理してほしい
- 第二食堂のテラス側のエアコンを直してほしい

生協食堂のメニューについて

- メニューの種類に関する希望
 - タンパク質が多くとれるもの(同様意見 10 件)
 - 中華料理(同様意見 6 件)
 - 魚料理(同様意見 5 件)
 - 日替わりメニューがほしい(同様意見 5 件)
 - すずかけ台に常設メニューを増やしてほしい(同様意見 4 件)
 - 卵料理(同様意見 3 件)
 - 調子が悪くても食べやすいあっさりメニュー(同様意見 2 件)
 - すずかけ台にもサラダバーを置いてほしい(同様意見 2 件)
 - 和食(同様意見 2 件)
 - じゃがいも系(同様意見 2 件)
 - 辛いもの(同様意見 2 件)
 - グルテンフリー、アレルギー対応メニュー
 - 品数の多い定食
 - 廃棄予定の食材を使うなどした安さ重視の日替わりメニュー
 - 韓国料理、タイ料理
- 具体的なメニューの希望(提言 3-1 に記載したものは除く)
 - 麺類
 - ◇ 冷たいそば・うどん(4 件)、焼きうどん(2 件)、かき揚げ、月見、釜玉うどん、カレーうどん

- ◇ ジェノベーゼ(2件)、ボンゴレ、ミートソース、ナポリタン、たらこパスタ、スパゲッティ以外のパスタ
- ◇ 豚骨ラーメン(4件)、熊本ラーメン、トマトラーメン、二郎系ラーメン
- ◇ つけ麺(4件)、まぜそば(2件)、フォー、太麺
- ◇ [常設希望] 冷やし担々麺(2件)、辛みそラーメン
- 丼もの
 - ◇ 牛丼(3件)、天丼(2件)、焼き鳥丼(2件)、ビビンバ丼(2件)、海鮮丼(2件)、かき揚げ丼、唐揚げ丼、ザンギ丼、ガリ玉丼、ハンバーグステーキ丼、豚味噌焼き丼、ねぎ塩豚丼、チャーシュー丼、中華丼、麻婆丼、ネバねば丼
 - ◇ [常設希望] さらさらトン茶(3件)、パワー丼(3件、うちすずかけ台 2件)、塩だれ唐揚げ丼、鶏そぼろ丼、鮭丼、ネギトロ丼、山かけとろろ丼
- その他主食系
 - ◇ 寿司(3件)、炊き込みごはん(2件)、ドリア(2件)、カツカレー、肉入りカレー、グラタン、ハヤシライス、タコライス、石焼きビビンバ、チキンライス、ペッパラーライス、ナシゴレン、おにぎり、お茶漬け、おかゆ
 - ◇ ハンバーガー(4件)、サンドイッチ(2件)、揚げパン、総菜パン(ベーコンエビ・焼きそばパンなど)
 - ◇ 一枚ピザ(2件)、お好み焼き(2件)、たこ焼き、タコス
- おかず・定食系
 - ◇ 唐揚げ(4件)、チキン南蛮(2件)、チキンカツ、かき揚げ、海老天、海老フライ、カキフライ、コロケ、カニクリームコロケ
 - ◇ 焼き鳥(3件)、ケバブ(2件)、ステーキ(2件)、つくねハンバーグ、焼肉、生姜焼き、牛たん、サイコロステーキ、大岡山でもハンバーグのソースを選べるようにしてほしい
 - ◇ 煮物(2件)、野菜炒め(2件)、鶏肉と野菜の黒酢あん、肉じゃが
 - ◇ 魚・海鮮系(7件): 刺身(2件)、焼き魚、焼き鮭、煮魚、カレイの揚げだし
 - ◇ 回鍋肉(4件)、餃子(4件)、八宝菜(2件)、青椒肉絲、酢豚、エビチリ、スンドゥブ、プルコギ
 - ◇ [常設希望] 鶏天(2件)、白身魚フライ
- 副菜・その他
 - ◇ 茶碗蒸し(2件)、サラダチキン、ブロッコリーと蒸し鶏、ポテト
 - ◇ 卵かけごはん用の生卵、豚汁
 - ◇ サラダボウル、蒸し鶏のごまだれサラダ、海老のサラダ、チョレギサラダ、漬物系・豆系・フルーツを含むサラダバー
 - ◇ ごまドレッシング(3件)、和風ドレッシング、シーザードレッシング
 - ◇ パンケーキ(2件)、フルーツ(2件)、ソフトクリーム(2件)、クレープ、クレームブリュレ、マフィン、モンブラン、シュークリーム、小さいデザート(みかんゼリー、わらび餅など)、アサイーボウル、フルーツポンチ、アイス、ハーゲンダッツ

学食 BENTO について

- リサイクル可能な弁当容器で提供されているため、容器の回収場所がほしい(同様意見 4件)
- 値段に対して量が少ないと感じる(同様意見 2件)
- 本館フードショップでも 300 円のミニ弁当を販売してほしい

- 石川台の弁当販売を1階で行ってほしい
- 石川台の弁当のバリエーションを増やしてほしい

フードショップ・西5号館ミニショップについて

- スーパーやコンビニと比較してあまり安くない(同様意見6件)
- 西5号館ミニショップに給湯器や電子レンジを置いてほしい(同様意見4件)
- 少し遅めの時間に行くと売り切れが多い(同様意見2件)
- 学食マネーで買えるものと買えないものをわかりやすくしてほしい
- 日による需要の変化に合った仕入れ・生産を頑張してほしい
- 商品への要望・取扱希望
 - パン
 - ◇ 焼き立てパンが焼き立てで提供される時間帯を教えてください(同様意見2件)
 - ◇ ベーコンポテトドッグの大きさを以前の大きさに戻してほしい
 - ◇ パンの栄養成分を表示してほしい
 - ◇ MUJICOのパン(2件)、みかんパン、たまごカレーパン
 - 飲料
 - ◇ 爽健美茶、アーモンドミルク、ココナッツミルク
 - ◇ 夏でも温かい飲み物を入荷してほしい
 - その他食料品
 - ◇ レトルトカレー、米、駄菓子、塩分チャージタブレット、杏仁豆腐バー
 - ◇ エースコックの野菜が取れるシリーズ
 - ◇ 落雁以外の東工大要素のあるお茶菓子
 - ◇ グルテンフリー食品
 - ◇ ハラル食品

4 サービス

4 サービス

提言 4-1

理工学系全構成員を対象とした
ハラスメント研修プログラム強化

学生の意見

設問 No. 7-5「教員・職員の対応に関して意見があれば教えてください。」に、以下の意見が寄せられました。

- 教員の学生に対する対応が不適切だと思う(同様意見 9 件)

設問 No. 7-5 に寄せられた具体的な意見

- 指導教員以外にも、研究室内の状況を理解し、ハラスメントについて気軽に相談できる教員が必要

また、設問 No. 7-8「ハラスメント相談窓口について要望があれば教えてください。」に、以下の意見が寄せられました。

- 学生の相談を受け身で待つのではなく、定期的に学生が困っていないか確認する制度があれば利用しやすいかもしれない

現状分析

本学(理工学系)では、「ダイバーシティ&インクルージョン推進宣言¹」として、「誰もが隔てなく、学び、働く場を創造し、知的活力に溢れた環境のもと、本学の目的及び使命である文化の進展及び人類の福祉への貢献を目指し、ダイバーシティ&インクルージョンを強力に推進することを宣言します」と掲げています。この宣言は、全学での人権意識向上も目指していると思われます。しかし、残念ながら、学勢調査 2024 において、「教員の学生に対する対応が不適切だと思う」という意見が複数あったことは、教員から学生への対応を是正いただきたいという要望であると思われます。学勢調査 2024 の設問 No. 7-6「ハラスメント(アルコール・セクシャル・アカデミック・パワーハラスメント・その他のハラスメント)を見聞きしたことがありますか。」では、ハラスメントを見たことがないと回答した学生は多いものの、次ページの図 4-1.1 にも示される通り、約 12%の学生がハラスメントを「現在見ている」または「以前に見たことがある」と回答しています。このことから、大学としてハラスメント防止に向けた取り組みを進めてきてはいるものの、依然としてハラスメントの発生件数を 0 件にすることは難しいという現状がうかがえます。

¹ 旧・東京工業大学「東工大ダイバーシティ&インクルージョン」: <https://www.titech.ac.jp/diversity-inclusion>
(最終閲覧日:2025 年 2 月 20 日)

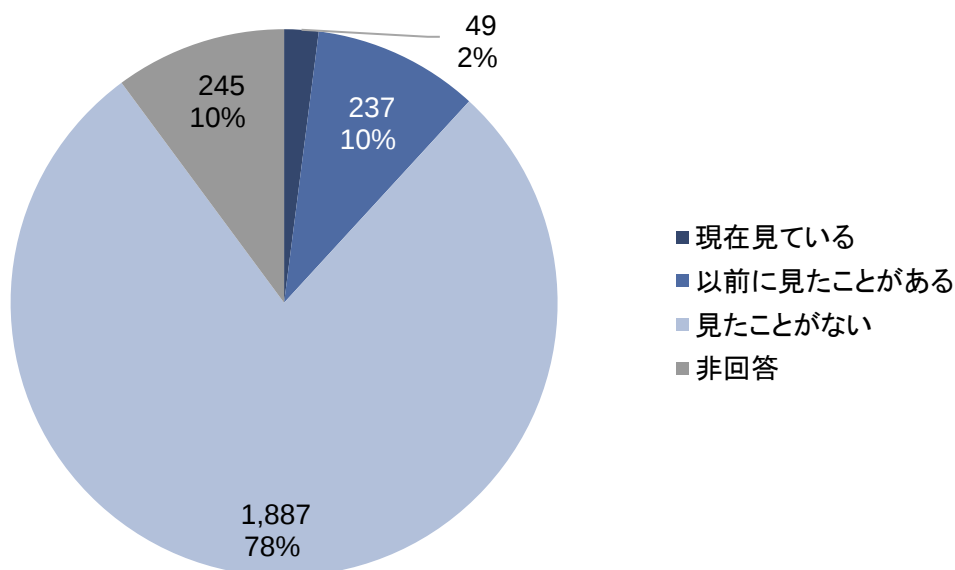


図 4-1.1 ハラスメント目撃件数及び割合

学勢調査 2024 における設問 No. 7-7「どのようなハラスメントを見聞きしたことがありますか。」についての回答を集計した結果、「立場の優位性を背景にした不適切な言動」が 180 件、「教育研究上の権力を利用した不適切な言動」が 144 件、「性的で不快な言動」が 84 件、「飲酒の強要等」が 75 件、「国籍人種に関する不適切な言動」が 65 件でした。

「立場の優位性を背景にした不適切な言動」については、学勢調査 2022²の 169 件より増加し、コロナ禍以前に行われた学勢調査 2018³での 149 件を上回る結果となっています。「飲酒の強要等」についても、学勢調査 2022 での 37 件より増加し、学勢調査 2018 での 64 件を上回る結果となっています。この 2 種類のハラスメントについては、コロナ禍よりも発生件数が増加し、ハラスメントの状況が学勢調査を実施するごとに悪化していることが、ハラスメント目撃件数のデータから読み取れます。

「教育研究上の権力を利用した不適切な言動」や「飲酒の強要等」のハラスメントについても、学勢調査 2018 での目撃件数より増加しました。「性的で不快な言動」での目撃件数についても、コロナ禍以前に行われた学勢調査 2018 での目撃件数と同程度の水準に増加しました。コロナ禍で行われた学勢調査 2020⁴ではリモート故、ハラスメントの目撃件数は全般的に減少している傾向がありました。しかし、コロナ禍が明けて対人接触が増加し、教育機関における立場の違う人々同士の間で、ハラスメントが生じてしまっていることがうかがえます。

² 学勢調査 2022: http://www.siengp.titech.ac.jp/gakuseichousa/2022/2022_gakusei_teigensho.pdf
(最終閲覧日:2025 年 2 月 28 日)

³ 学勢調査 2018: http://www.siengp.titech.ac.jp/gakuseichousa/2018/2018_gakusei_teigensyo.pdf
(最終閲覧日:2025 年 3 月 10 日)

⁴ 学勢調査 2020: http://www.siengp.titech.ac.jp/gakuseichousa/2020/2020_gakusei_teigensyo.pdf
(最終閲覧日:2025 年 3 月 13 日)

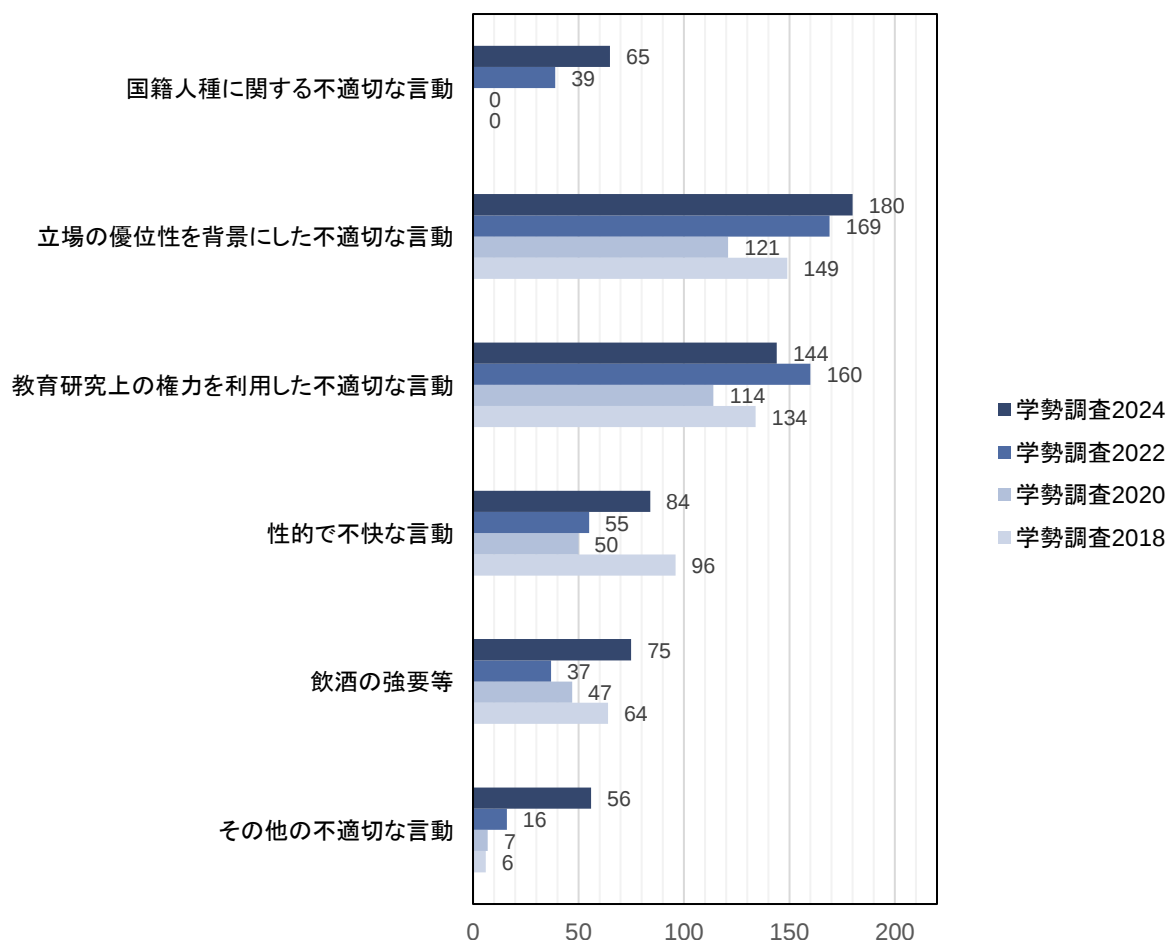


図 4-1.2 学勢調査 2018・学勢調査 2020・学勢調査 2022・学勢調査 2024 におけるハラスメント件数
(学勢調査 2018・学勢調査 2020 では「国籍人種に関する不適切な言動」の選択肢がありませんでした)

これらの結果から、アカデミックハラスメントやパワーハラスメントは依然として発生件数が多いことが読み取れます。また、セクシュアルハラスメントについても、見聞きした件数が増加していることから、全般的なハラスメント防止に向けた対策が急務だと考えられます。

本学(理工学系)では、ハラスメント対策資料⁵を作成し学内限定で公開されています。また、学内(理工学系)でのハラスメント相談窓口の情報等をまとめた学生向けのリーフレット⁶も公開されています。どちらの資料にも、セクシュアルハラスメントやアカデミックハラスメント、パワーハラスメントの具体例が掲載されており、ハラスメントの具体例や、ハラスメントに直面した際の相談先などを、教職員や学生が一度に学ぶことができるようになっています。このようにハラスメント抑止に繋がる情報を開示してもなお、ハラスメントを見聞きした件数が増えてしまっているのが現状です。全学的なハラスメン

⁵旧・東京工業大学「ハラスメント対策」: <https://www.titech.ac.jp/0/about/policies/efforts/harassment>
(最終閲覧日: 2025 年 2 月 28 日)

⁶旧・東京工業大学「リーフレット(学生用)」: <https://www.titech.ac.jp/0/pdf/leaflet-students-2019.pdf>
(最終閲覧日: 2025 年 2 月 28 日)

ト防止研修を実施している他大学の例として、例えば、東京大学では「全学ハラスメント防止研修 2024⁷」が挙げられます。また、東京大学の工学系研究科・工学部でのハラスメント研修の一つである、「【E-learning】次世代育成支援:PI のための問題集」については、受講後に研修の内容に関するテストを受験することが可能です。研修の受講後にテストを受験することにより、研修で学んだ内容やテストで間違えた箇所の復習につながり、研修の受講者自身がハラスメントを行わないことや、周囲の人々にハラスメントをさせないという効果が期待されます。

以上を踏まえ、本学のハラスメント対策の現状を調査するため、人材育成課とのキャンパスミーティングを実施し、以下の回答をいただきました。

Q1. 学内(理工学系)での教職員間でのハラスメント研修は既にありますか。

A1. 本学では、ハラスメント防止に関するファカルティ・ディベロップメント(FD 活動)の一環として、年 2 回程度のオンラインでの研修を実施しています。また、ハラスメントに関する個別での対応が必要な場合には、副学長(コンプライアンス担当)が関与し、時間を確保して対応しています。また、全ての教職員が一堂に会することが難しいこともあり、研修は動画を活用し、いつでも視聴できる形式を採用しています。

Q2. 教職員間でのハラスメント防止研修や、SNS コンプライアンス研修を行うにあたり、何かボトルネックになっているものはありますか。

A2. ハラスメントは多様な人間関係が背景となっていますが、当事者の職種や職階などの属性にも応じた特徴があることから、それぞれの属性に応じた啓発が必要であると考えています。しかしながら、現在、物理的制約からそれぞれの属性に応じた研修が十分に行えていると言える状況ではないため、今後とも多様な機会をとらえた啓発事業を進めていこうと考えています。

Q3. 教職員内でのハラスメント関連の施策について、学内(理工学系)での部署間での連携はどういった形で行われているのでしょうか。

A3. 現状としては残念ながらあまり行われておりません。教職員の方々からは、学院や部署毎でもハラスメント関連の研修を行なってほしいという要望が出ています。

Q4. 学生に伝えたいことはありますか。

A4. ハラスメント加害者は自らがハラスメントを行ったことを認識はしておりません。そのため、今までの研修の内容をハラスメントの加害者がしっかりと認知できているかどうかは不透明です。ハラスメントの拡大を防ぐには、周囲の人が止めることが重要だと考えます。誰かに任せるのではなく、身近な人が手を差し伸べる姿勢が求められると考えます。

⁷ 東京大学ハラスメント相談所「防止・研修」: <https://har.u-tokyo.ac.jp/prevention/> (最終閲覧日: 2025 年 2 月 28 日)

提言

以上を踏まえて、学内(理工学系)でのハラスメント研修施策について次のように提言します。

1. 学内(理工学系)でのハラスメント研修について、特に理工学系の教職員および学生の受講を必須にする。オンデマンド形式の映像配信型講義を複数本用意し、講義視聴後にランダムで確認テストが複数問出題される形式を取る。確認テストで満点を取ればハラスメント研修の受講を修了したと認定されるような仕組みを構築する。
2. 「ハラスメントが行われている場面に遭遇した際、被害の拡大を防ぐにはどうすればよいか」ということにもハラスメント研修の中でフォーカスする。
3. 数年に1度、匿名アンケートなどによる現状把握を行い、ハラスメント研修内容の更新を行う。

全学でのハラスメント研修については、「どのような行動がハラスメントにあたるか」と、「ハラスメントを抑止するためにはどのように行動すれば良いか」という2点が重要だと考えます。ハラスメント研修自体を受講してもらう機会を設け、確認テストの受講を必須にすることで、構成員に、今一度ハラスメントを行わないという自覚を持ってもらうことが可能になると考えます。また、ハラスメントを抑止するための行動については、本学(理工学系)の構成員全員がハラスメント抑止のための行動を理解することで、周囲でハラスメントが起こった際に、毅然とした対応を取ることが可能になり、ハラスメントの更なる発生や被害の拡大防止につながるということが考えられます。

現状に合わせたハラスメント対策を取るため、匿名アンケートを定期的実施することにより、全学的に状況を精査し、ハラスメント対策の見直しを図ることも併せて提言いたします。

提言 4-2 留学に関する現状と促進のための提言

学生の意見

設問 No. 4-7「留学を考える上での障壁を取り除くために、どのような新しい制度、授業科目、サービスがあれば良いか教えてください。」と設問 No. 4-8「東工大の現在の留学制度について意見があれば教えてください。」に以下の意見が寄せられました。

- 経済的支援の不足(同様意見 120 件)
- 制度的な障壁(同様意見 93 件)
- 情報不足(同様意見 77 件)
- 言語的障壁(同様意見 49 件)

現状分析

意見が寄せられた上記 2 設問に加えて、設問 No. 4-1「あなたは留学したことがありますか。」、設問 No. 4-3「在学中に留学したいと思いますか。」、設問 No. 4-4「留学しようと思ったきっかけを教えてください。」、設問 No. 4-6「留学を考える上でなにか障壁はありますか。」をもとに分析を行いました。

設問 No. 4-1 留学経験

- 図 4-2.1 A より、本学では留学を強く推奨¹していますが、日本人学士課程の学生は入学前も在学中もほとんど留学していません。また、学年が上がるにつれ在学中の留学者は増加すると予想していましたが、ほとんど増加が見られていません。

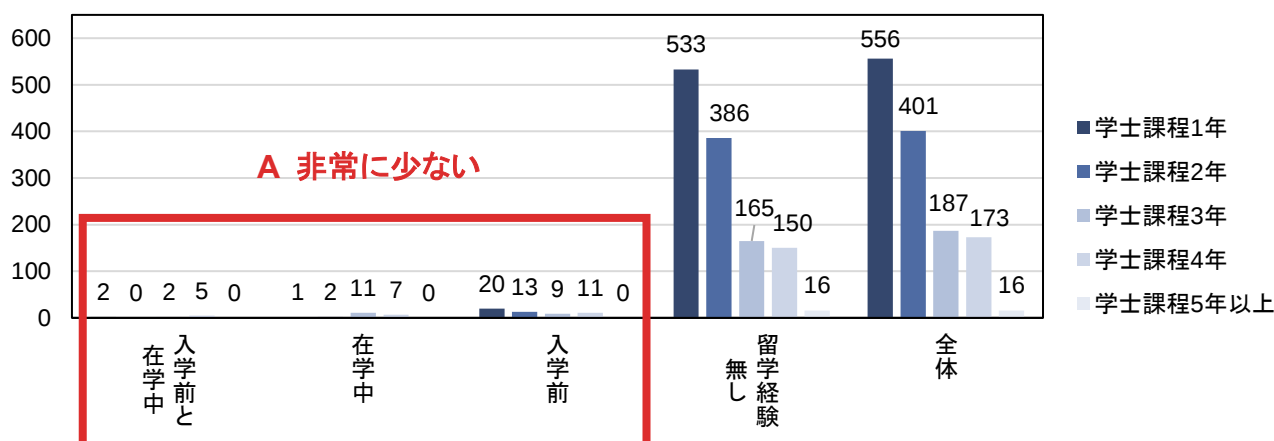


図 4-2.1 設問 No. 4-1「あなたは留学したことがありますか。」(日本人、学士課程)[人]

¹ 旧・東京工業大学「東京科学大学 国際経験規範 (学生向け)」:

<https://www.titech.ac.jp/international-student-exchange/pdf/99-experience-enrolled.pdf> (最終閲覧日: 2025 年 2 月 26 日)

設問 No. 4-3 留学希望

- 図 4-2.2 A より、学士課程の中で若い学年の留学希望者は多いですが、実際に留学に行く学生は少ないです。
- 「積極的にしたい」「機会があればしたい」を選んだ回答者は、具体的な計画はまだないが留学したいと思う意思のある層です。留学計画の策定を促せば実際に留学する可能性があると思われます。その中でも特に低学年への支援が留学者数増加の鍵になると考えられます(図 4-2.2 B)。

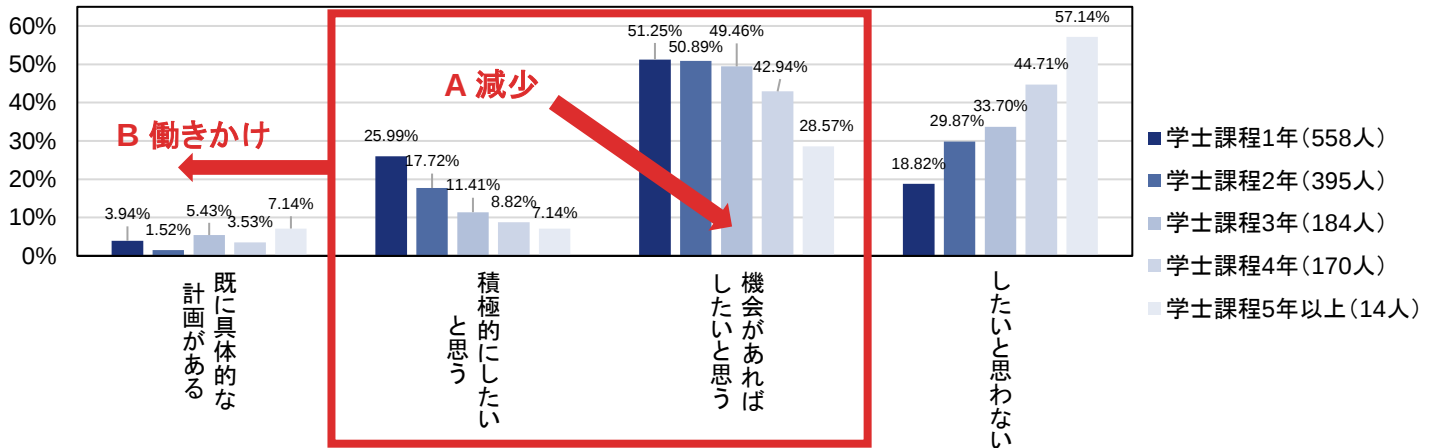


図 4-2.2 設問 No. 4-3「在学中に留学したいと思いますか。」(日本人、学士課程) 注:「その他」除く[%]

設問 No. 4-4 留学のきっかけ

- 図 4-2.3 で示されるように、留学の動機は多様で、個人の成長、学問的目的、周囲の影響、キャリア形成が絡み合っていると思われます。また、「『海外留学の手引き』を見て」選択者は、所属課程別で見ると、「その他(自由記述)」以外の選択肢と比較して、最も多い、もしくは 2 番目に多いため、大学からの留学促進に向けた働きかけの有効性が確かめられると思われます。

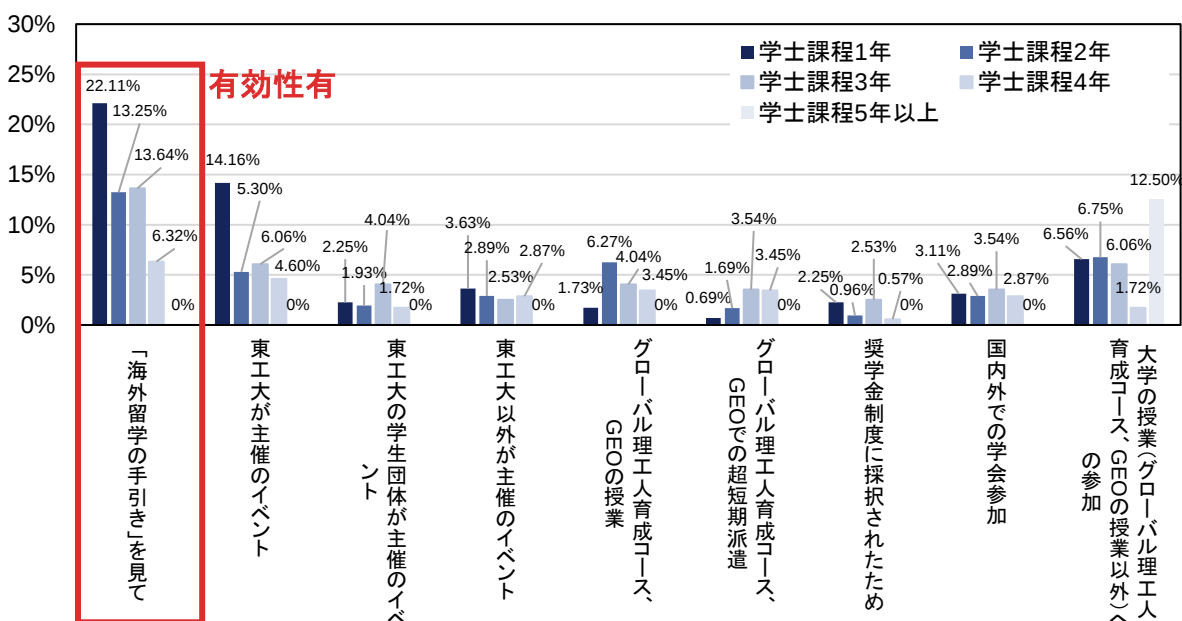


図 4-2.3 設問 No. 4-4「留学をしようと思ったきっかけを教えてください。」

(日本人、学士課程、「その他(自由記述)」の選択肢を除く) [%]

「その他」の自由記述では、日本人学士課程学生から 142 件の以下の意見が寄せられました。

- 大学の制度やサービスに直接関連するもの(9 件)
 - B2D の制度要件(同様意見 3 件)
 - 大学の Web ページ(同様意見 3 件)
 - 理学院リテラシーの講義
 - 研究室が国際色豊かだったから
 - 留学生との交流(応用化学系 2 年)
- 大学の制度やサービスに直接関連するもの以外(133 件)
 - 周囲の影響(31 件)
 - ◇ 周囲の人間が勧めてきた(同様意見 15 件)
 - ◇ 周囲の人間に留学経験がある(同様意見 13 件)
 - ◇ 経験者の話を聞いた(同様意見 2 件)
 - ◇ よく話題にされる
 - 自己成長・学びのため(28 件)
 - ◇ 異国の地に行く経験を積むため(同様意見 12 件)
 - ◇ 英語の習得(同様意見 4 件)
 - ◇ 価値観の更新(同様意見 4 件)
 - ◇ 海外の研究内容を見てみたい(同様意見 3 件)
 - ◇ 海外でも勉強がしたい(同様意見 3 件)
 - ◇ グローバルな人材になりたい
 - ◇ インターンを経験したい
 - 興味・憧れ(27 件)
 - ◇ 海外に行ってみたい(同様意見 9 件)
 - ◇ 留学自体への興味があった(同様意見 8 件)
 - ◇ 留学の経験は他では補えない(同様意見 4 件)
 - ◇ 違う世界を見てみたい(同様意見 4 件)
 - ◇ 英語を使ってみたい
 - ◇ Apple(IT 企業)への憧れ
 - 高校時代からの目標(26 件)
 - ◇ 大学入学前から目標に掲げていた(同様意見 19 件)
 - ◇ 高校時代から目標に掲げていた(同様意見 7 件)
 - その他(21 件)

- ◇ なんとなく(同様意見 12 件)
- ◇ 海外に行けるのは留学が最後だと思った(同様意見 2 件)
- ◇ 帰国子女だから
- ◇ 講義の一環
- ◇ 様々な援助があると知った
- ◇ 海外で日本人が活躍しているテレビ番組を見た
- ◇ 彬子さまの留学記を読んだから
- ◇ 東工大生は皆留学するものだと思っていた
- ◇ 世界史が好きだから

設問 No. 4-6 留学を考える上での障壁-日本人学士課程学生

- 図 4-2.4 A より、「経済的理由」の選択者は半数近くにのぼり、学年が上がるごとに増加傾向にあります。
- 図 4-2.4 B より、「語学に自信がない」はどの学年でも半数を超えています。特に学士課程 1、2 年生は 3 人中 2 人が語学力を障壁と感じています。ただし学年が上がると減っていることから、大学の語学サポートが功を奏しているのではないかと推察できます。
- 図 4-2.4 C より、「在学年数延長が不安」の選択者は、系所属後の 2 年生・研究室所属後の 4 年生で増加します。図 4-2.5 より、所属別は建築学系・情報通信系が 35%以上と多いです。系所属後は数理・計算科学系を除く全系で 5～20%増加します。
- 図 4-2.4 D より、「海外生活が不安」は約 4 割が選択しています。学士課程 1～4 年生では学年ごとに年々減少傾向が見られます。語学力と同様に、学年が上がると選択者が減ることから、ここでも大学の語学サポートが功を奏しているのではないかと推察できます。

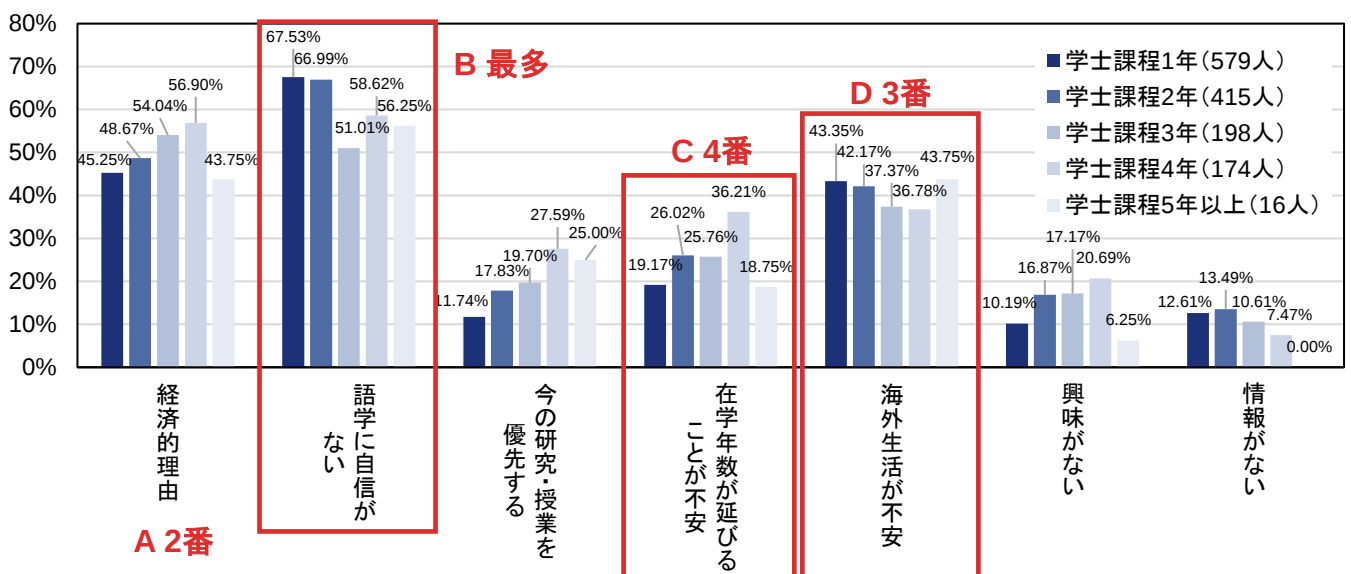


図 4-2.4 設問 No. 4-6「留学を考える上で何か障壁はありますか。」(日本人、学士課程) [%]

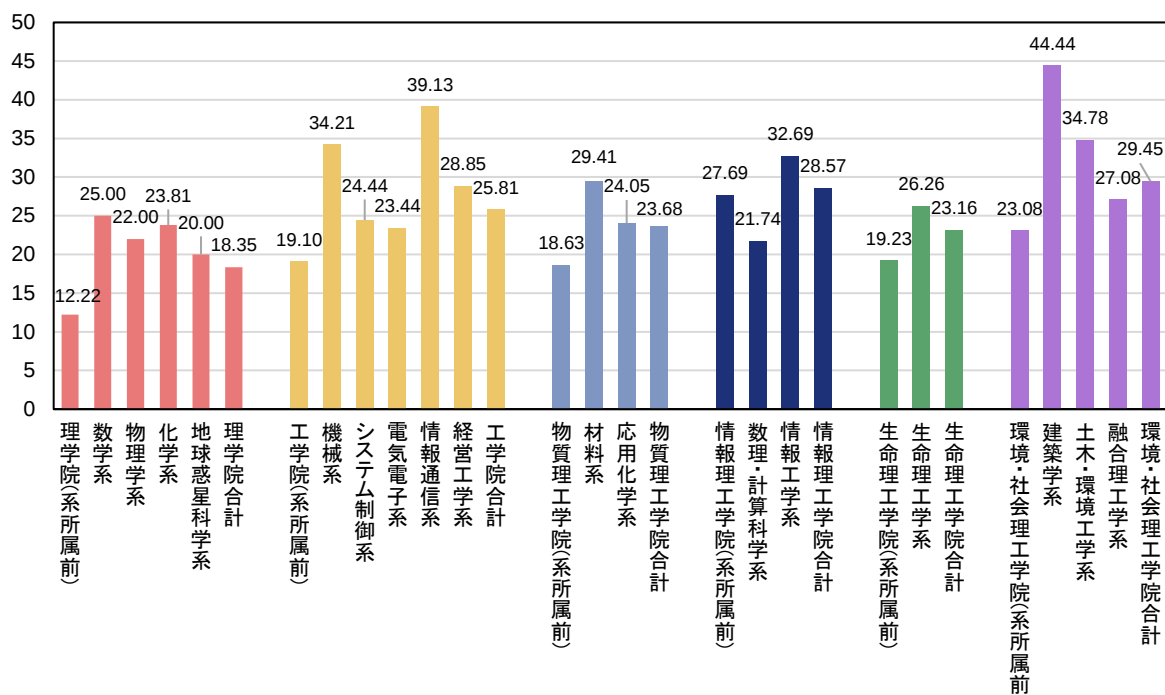


図 4-2.5 設問 No. 4-6 の設問における「在学年数が伸びることが不安」選択者の所属内訳[%]

※ $\alpha \div \beta$ 、但し、 α :各学院・系別の「在学年数が伸びることが不安」と回答した人数、 β :各学院・系の合計人数

設問 No. 4-7 留学障壁を取り除く新しい制度案/設問 No. 4-8 大学に求めるもの

- 以下に示す通り、学生からは、経済的負担の軽減や、語学力による留学に対する障壁の克服、留学に関する情報不足の解消、そして留学制度の柔軟性の向上が要望として挙げられました。

1. 経済的負担の軽減をしてほしい(同様意見 67 件)

- 給付型奨学金の増額や新設をしてほしい(同様意見 47 件)
 - 世帯収入制限のない奨学金制度増設
 - 成績に応じた資金援助
 - 保険制度の充実
 - 東工大生向けの留学奨学金の設立
- 留学費用や奨学金の情報提供を充実させてほしい(同様意見 8 件)
 - 奨学金についての情報をもっとまとめてほしい(同様意見 8 件)
- 円安や物価上昇に対応した柔軟な支援をしてほしい(同様意見 4 件)
 - 円安の中、40 万円のプログラム奨学金が 8 万円では経済的理由で諦める人のサポートにならない
- 外部英語試験の受験料の補助がほしい

2. 語学力による障壁の克服(同様意見 27 件)

- 英会話や日常英語に特化した授業の開設・増設(同様意見 16 件)
 - もっと英会話力のつく対面講義が欲しい(同様意見 3 件)

- ii. 曜日が偏っているので、幅広い時間帯に英会話の授業を配置してほしい(同様意見 2 件)
 - 1) 系の授業の都合上履修が難しい(応用化学系)
- iii. 大学院生向けの英語科目(特に日常会話などに焦点をあてたもの)
- b. 語学力を高めるプログラムや機会の提供(同様意見 4 件)
 - i. 単位無しで受講可能な英会話等の留学前実践プログラム開設(同様意見 2 件)
 - ii. オンライン英会話を利用せずとも英会話学習可能なプログラム(既存のプログラムは演習量不足)
 - iii. 語学について、英語だけでなく、他言語ももっと積極的に学べる制度を整えてほしい
 - iv. 英語勉強法(具体的には第二言語習得論)を教授するプログラムが欲しい
- c. 留学に必要な語学力の具体的基準提示(同様意見 2 件)

3. 情報不足の解消(同様意見 43 件)

- a. 留学プログラムや手続きの詳細な案内(同様意見 14 件)
 - i. 授業で情報を伝えてほしい(同様意見 3 件)
 - 1) 英語の授業
 - 2) 1 年次の講義(英語教養/立志プロジェクト/科学・技術の最前線など)
 - 3) 留学先の情報や、そこに行くメリットを明確に分かるような講義が欲しい
 - ii. 留学の日程についてわかりやすくしてほしい(同様意見 3 件)
 - iii. プログラムの特徴に関する説明会(同様意見 2 件)
 - iv. 研究室に入った後の留学についての情報がない(同様意見 2 件)
 - 1) 情報工学系
 - 2) 生命理工学院
 - v. 留学に必要な準備を、わかりやすくフローチャートでまとめた資料があると良い
 - vi. 学士ですが、修士の留学・インターンの制度が分かりにくい(システム制御系)
 - vii. 必要な語学力レベルの明示(英検取得レベル、TOEIC 点数)
- b. 体験談や成功事例を共有するイベントの実施(同様意見 9 件)
 - i. 留学に興味がない学生向けの動機付けイベント(同様意見 4 件)
 - ii. 留学報告会は都合が合いにくいこともあるので、経験者の事例を紹介するのに動画等の様々な形態を準備してほしい(同様意見 2 件)
- c. 情報へのアクセス性向上(同様意見 4 件)
 - i. 留学交流課がいくつもあるのがややこしい(同様意見 2 件)
 - ii. 全学 Slack で留学情報専門のチャンネルを設けてほしい(材料系)
 - iii. 対面相談はハードルが高いので、チャット等で気軽に相談できる場があれば嬉しい
 - iv. VISA 取得等をサポートしてほしい

4. 制度的な柔軟性(同様意見 51 件)

- a. 3 年 2Q に留学を推進している割に、選択必修や研究室選択に向けて重要な授業が多かったり、研究室配属の基準が GPT だったりして、実際は行きにくい(同様意見 13 件)
- b. 新規プログラムの増設(同様意見 16 件)
 - i. 気軽に参加できるプログラムが欲しい(同様意見 5 件)
 - 1) 初学者向けの海外大との交流機会
 - 2) 国内留学のようなプログラム
 - 3) 語学留学の拡充
 - 4) 少人数のゼミなどで留学プログラムを組むといったこと
 - 5) 東工大が主催のホームステイなどがほしい
 - ii. 留学必修化(同様意見 4 件)
 - iii. 国の選択肢を増やしてほしい(同様意見 4 件)
 - 1) シンガポールやタイ等の身近な国へ短期留学
 - 2) 近場の国
 - 3) オーストラリア
 - 4) 米英向けの交換留学プログラム
 - iv. 短期派遣の種類や時期を増やしてほしい(同様意見 2 件)
 - 1) もう少し期間を延ばしたプログラムもほしい
 - v. 対象となる学院・系が限定なものが多いので、対象を拡大してほしい(同様意見 2 件)
 - vi. 大学院進学後の、交換留学形式の長期(約 1 年)留学プラン増設
- c. 単位互換やカリキュラムの工夫をしてほしい(同様意見 18 件)
 - i. 単位互換制度(現状、東工大にある科目のみ可/条件が厳しい等)を柔軟にしてほしい(同様意見 6 件)
 - ii. 系の学修と両立をしやすくしたり、留学の影響がわかりやすくなったりすると良い(同様意見 5 件)
 - iii. 早期卒業を上手く取り入れられるようにしてほしい(同様意見 3 件)
 - iv. 海外留学中でも東工大の講義に参加できるようにしてほしい(同様意見 3 件)
 - v. 開始・終了がクォーター区切りとなるプログラムがあると履修不可能数が最小で済む(同様意見 2 件)

これらの現状を踏まえ、国際教育課とのキャンパスミーティングを実施し、以下のような回答をいただきました。

学勢調査学生スタッフからは、設問 No. 4-6、留学を考える上での障壁について、障壁が取り除かれる実現可能性を中心に設問を設計したこと、Q1～3 は「経済的支援」、Q4～6 は「留学情報の広報」、Q7、8 は「在学年数延長の不安」、Q9 は「留学プログラムの拡大縮小」を質問したことを報告いたしました。

Q1. 昨年度の日本からの留学における奨学金の規模(金額と期間)とその対象者を教えていただけないでしょうか。ま

た、昨年度の日本からの留学における各奨学金制度の制度別利用者数と利用率を教えてくださいませんか。

- A1. 国際教育課のプログラムであれば、大半の学生が JASSO・東工大基金・外部奨学金を受給しています。本学と協定を締結する大学への派遣交換留学だと毎年約 50 名が留学しています。1～2 か月の協定校シーズンプログラムや、TASTE 短期語学学習プログラムは各 20 名程、1～2 週間の超短期派遣プログラムは 100 名弱です。
- Q2. 円安に対応した奨学金の設計は可能でしょうか。また、円安による経済的負担軽減策は実施されていますか。
- A2. 日本学生支援機構の海外留学奨学金は最大規模ですが、為替レートに対応せず金額は一律です(例:ヨーロッパ 8 万円/月)。半年以上の渡航には一時金 13 万円が支給され、国の予算に余裕があれば追加支給の場合もありました。
- Q3. 今後の奨学金の拡大/縮小予定・見込みがありましたら、その背景を教えてくださいませんか。
- A3. 大学独自の奨学金は寄付者の基金からです。東京工業大学基金からの支援増額要望中ですが現状難しいです。
- Q4. 留学広報の方法(ツール、頻度、必須情報)と、それぞれの効果(有効性・課題)はどの程度あるのでしょうか。
- A4. Slack や国際交流メールニュースなどで、プログラム募集がある度、不定期に広報しています。Slack の効果は低いですが、メールは意外と読まれています。紙媒体は関心のある学生が気づく程度です。学生からの口コミでプログラムを知ったという口コミは多く、特に効果が高いと感じます。
- Q5. パンフレットはどの部署が作成しているのでしょうか。
- A5. 「留学のてびき」というパンフレットは国際教育課で作成しています。
- Q6. 学士課程学生向け、特に、1～3 年生向けの告知はどのように行なっているのでしょうか。
- A6. 国際交流メールニュース・Slack・掲示板への掲示等。系所属や、学院の説明会で告知を行っていただくこともあります。
- Q7. 系や課程別の、カリキュラムと留学の設計時期は、留学生交流課と系での連携はありますでしょうか。
- A7. グローバル教育オプション(旧グロ理)の超短期派遣プログラムは春・夏休みに実施しますが、海外留学プログラムは受入れ先大学のスケジュール次第で休み期間外のものも多いです。系や学院のカリキュラムに含まれていないこともあり、連携はほぼ無いです。留学推奨の立場としては必須化を望みますが、専門・他の教育が優先され、現状は難しいです。グロ理の方とは協力しています。留学の面接は先生方に担当していただいております。
- Q8. 留学しやすい系・コースはあるのでしょうか。
- A8. 融合理工学系が多いです。理学院の学生は少ないです。
- Q9. 今後のプログラムの拡大/縮小見込み等ありましたら、その背景を教えてくださいませんか。
- A9. 2024 年 10 月から東京科学大学として新たに発足し、旧両学の留学プログラム相互利用や新プログラム構築が

期待されますが、拡大の目途は立っていません。旧東京医科歯科大学のプログラムは医歯学系学生限定です。

提言

以上を踏まえて、留学制度の改善について次のように提言します。

- 1. 経済的負担の軽減
 - (ア) 給付型奨学金の増額や新設
 - (イ) 円安や物価上昇に対応した柔軟な支援
 - (ウ) 留学費用や奨学金の情報提供の充実
- 2. 語学力による障壁の克服
 - (ア) 英会話や日常英語に特化した授業の開設
 - (イ) 語学力を高めるプログラムや機会の提供
 - (ウ) 留学に必要な語学力の具体的基準提示
- 3. 情報提供不足の解消
 - (ア) 留学プログラムや手続きの詳細な案内
 - (イ) 体験談や成功事例を共有するイベントの実施
 - (ウ) 情報へのアクセス性向上(例:学内の一元化した窓口やデータベース)

学士課程1～2年に向け、留学情報伝達ガイド

- 目的:
 - 既に大学側で実施している留学関連のプログラムについて、周知による留学推進をはかる。経済的障壁、言語的障壁、制度的な障壁(例:大学の系ごとのカリキュラム)と比べ、情報不足の障壁は取り除きやすい。
- 提案:
 - 学士課程1,2年生の必修である英語教養科目において、留学関連プログラムの周知をする。特に、学生の授業出席率が高い、初回での周知が最も望ましい。
- これまでの、必修内での紹介との違い
 - 必修担当の先生へ、紹介時のガイド(例を、表として以下に記載)を提供し、情報伝達を一元化。このガイドに添った、英語必修内の周知によって、留学を支援する部署が周知したい要件に漏れなく・情報が埋もれることなく、学生へ伝達可能。
 - 以上の取り組みは、英語学習のモチベーションを持ってもらいたい、英語教養の先生方にもメリットがあるのでは、と推察。

授業内で、5分ほどで説明できるような簡易的な要点メモ		
	TO DO	関連資料
☐	認知度の高い(下記の資料より)、海外留学の手引きの見方を、1分ほどで説明する。	大学留学HP 海外留学の手引き
☐	締切の近い奨学金や留学プログラムの記載のHPへ誘導し、内容を1分ほどで説明する。どの程度準備に時間がかかるのか(短期の場合は6ヶ月~長期だと1年程度)と念を押す。	同上
☐	留学情報記載のSlackチャンネルへ学生を誘導し、内容を1分ほどで説明する。	Slack URL
☐	相談窓口(留学関連の部署、留学コンシェルジュ、グロリ等)の所在や目的を知ることができるHPへ誘導し、内容を1分ほどで説明する。	相談窓口

図 4-2.5 留学情報伝達ガイド

設問 No. 4-7、4-8 の留学を考えるうえでの障壁の解決策において、学生からの寄せられている意見は、大学の留学制度としてすでに設けられていることもあることがわかりました。このことは、大学側は Slack 等で情報提供しているものの、学生が情報を受け取っていない場合が多いことも明らかになりました。

そこで、留学希望が高い学士課程 1・2 年生を対象とする、具体的な情報伝達方法を提案します(図 4-2.5)。

4. 柔軟性のある制度の拡充

- (ア) 短期留学プログラムの充実
- (イ) 単位互換や在学年数延長への配慮
- (ウ) フレキシブルなカリキュラム編成
- (エ) 新プログラムの増設

要望まとめ

本提言の趣旨及び要約

留学に関する学生の現状を大学側に知ってもらうことが、まず喫緊の課題です。本提言が、本学が強く推奨する、留学の推進²についての力添えとなることを強く期待しています。

設問 No. 4-1「あなたは留学したことがありますか。」、設問 No. 4-3「在学中に留学したいと思いますか。」の回答から、「留学希望者は多いが、実際に行く学生は少ない」という現状が明らかになりました。学生が留学を考えるうえでのいくつかの障壁のうち、大学が取り除ける可能性の高い障壁として、「①経済的支援不足」「②言語的障壁」「③情報不足」「④制度的障壁」の 4 つが挙げられました。

他の提言が理工学系の課題解決に向けた具体策を示しているのに加え、本提言では「学生の意見」の伝達も重視します。既に制度として存在していることについての要望もありますが、学生からすると周知不足という現状にあることをお伝えします。

² 旧・東京工業大学「東工大教育の特徴」: <https://www.titech.ac.jp/public-relations/education/features> (最終閲覧日: 2025 年 3 月 18 日)

提言 4-3 公欠制度の適用拡大

学生の意見

公欠制度の適用条件拡大に関して以下の意見が寄せられました。

- 病気・心身の不調
 - 高熱・体調不良(同様意見 19 件)
 - 学校感染症以外の病気・持病・怪我(同様意見 12 件)
 - 精神的な不調(同様意見 10 件)
 - 入院を伴う心身の不調(同様意見 5 件)
- 家庭の事情
 - 家族の病気や入院に伴う看病・手続き(同様意見 4 件)
- 重要な行事への参加
 - 学会参加(同様意見 15 件)
 - 部活動・サークルにおける上位大会への参加(同様意見 12 件)
 - 就職活動(同様意見 5 件)
 - 民間奨学団体の面接・イベント(同様意見 3 件)
 - 成人式(同様意見 2 件)

公欠制度の適用条件以外の体制に関して以下の意見が寄せられました。

- 利便性向上への要望
 - 情報提供の方法の改善(同様意見 6 件)
 - オンラインフォームの作成(同様意見 5 件)
- 授業間の対応の違い
 - 公欠に対する評価が教員によって異なる(同様意見 3 件)
 - 集中講義や実験などでは公欠の対応を行ってもらえない(同様意見 3 件)

現状分析

本学の公欠制度は、一定の事由によりやむを得ず授業を欠席した場合に、授業担当教員の判断により欠席扱いとしない制度です。この制度は、学勢調査 2016 提言 3-9¹および学勢調査 2018 提言 2-1²を契機に 2018 年に導入されました。

¹ 学勢調査 2016 提言書: http://www.siengp.titech.ac.jp/gakuseichousa/2016/2016_gakusei_teigensyo.pdf (最終閲覧日: 2025 年 3 月 15 日)

² 学勢調査 2018 提言書: http://www.siengp.titech.ac.jp/gakuseichousa/2018/2018_gakusei_teigensyo.pdf (最終閲覧日: 2025 年 3 月 15 日)

導入の背景としては、学校保健安全法施行規則第 19 条に基づく学校感染症罹患時の取扱いが整備されていなかったことがあります。

公欠の申請手続きは以下のように進められます。

1. 学生に公欠適用事由が発生(表 4-3.1 参照)。
2. 学生が授業担当教員に公欠申請。
3. 学生が公欠届と必要書類を教務課等を通じて学長に提出。
4. 教務課等が公欠適用事由に該当するか確認し、担当教員へ照会。
5. 担当教員が可否を判断し、公欠期間や配慮内容を通知。

表 4-3.1 公欠制度における「公欠期間の目安、公欠届出時の必要書類、届出時期の目安³⁾」

公欠事由	公欠として認められる期間の目安		届出時必要書類	届出時期の目安 (注2)
2. (1) (学校感染症)	学校保健安全法施行規則第19条に規定する出席停止期間の基準のとおり(右記診断書等に記載されている出席停止の期間のとおり) ※新型コロナウイルス感染症に罹患した場合は、本学が定める「学生がCOVID-19に感染した場合のマニュアル」(注3)に定める出校停止期間のとおり		医療機関発行の診断書、治癒証明書など ※診断名、診断を受けた日、出席停止の期間が特定できる書類でも可 ※抗原検査結果の場合は、①陽性反応が出た検査キット(検査日・氏名を記載)、②学生証の2点が一緒に写っている写真の提出でも可	公欠事由該当期間終了後1週間以内
2. (2) (忌引き)	配偶者及び1親等(父母・子)	連続する7日以内(休日を含む。)	会葬礼状その他事実が確認できる書類	公欠事由該当期間終了後1週間以内
	2親等(祖父母、兄弟・姉妹、孫)	連続する3日以内(休日を含む。)		
2. (3) (裁判員等)	事実が確認できる書類により、学長及び授業担当教員が必要と認めた期間		裁判所又は検察審査会事務局からの通知書その他事実が確認できる書類	事実が確認できる書類到着後から公欠事由期間開始前まで
2. (4) (災害等)	事実が確認できる書類により、学長及び授業担当教員が必要と認めた期間		罹災証明書、公的機関等の証明書その他事実が確認できる書類	公欠事由が発生してから相当の期間内

公欠制度に対する学生の意見を分析すると、現状の課題点として4つあることが分かりました。

(1) 公欠にならない場合、無理をしてでも出席せざるを得ない

公欠届は後日提出する必要がありますが、現状の制度においては、休んだ結果、学校感染症でなかった場合は欠席扱いとなります。このため、出席点や授業内小テストを重視する授業では、体調が悪くても無理をして出席する学生が散

³⁾ 東京科学大学「公欠制度について」: <https://www.titech.ac.jp/student/pdf/certificates-submitting-forms-current-koketsu-seido.pdf> (最終閲覧日:2025年2月26日)

見されます。これは、本来の感染症拡大防止という観点からして不適切であるといえます。また、本学医歯学系の公欠制度に対応する「出席停止」の制度には、「体温 37.5℃以上＋咽頭痛・咳のどちらか」で「出席停止」とする仕組みがありますが、現状の本学理工学系の制度にはそのような仕組みがないことは、学内において不平等な事態が生じているといえます⁴。

この状況を改善するための方法として、学校感染症の疑いがある場合の公欠届を2段階にすることがあります。まず、授業前の初期段階で体調不良を報告します。その後、学生は病院へ行き、診断結果を提出します。診断結果が学校感染症であった場合は、従来通り公欠となります。そして、診断結果が学校感染症でなかった場合でも、この手順を踏んでいれば、公欠を認定します。この制度は、学生・教員・教務課が情報を共有し、建設的に感染症拡大の予防に努める上で重要であると考えます。

(2) 教員による対応のばらつき

公欠の認定基準は、表 4-3.1 に示されているものではありませんが、最終的な判断は授業担当教員に委ねられています。このため、集中講義や一部の教職科目では公欠が認められないケースがあります。また、試験において追試が実施されない場合や、授業ごとに公欠の扱いや成績評価の対応が異なるため、学生にとって公平性に欠ける状況が発生しています。

この状況を改善するための方法として、公欠に対する取扱い基準を統一し、同じ科目や、系内での教員間の対応差をなくすことがあります。具体的には、公欠した学生の評価をその回の他の学生の評価の平均値などとして成績を処理するなどです。特に系所属点に大きな影響を受ける、学士1年の科目については、数学、物理学、化学などの科目ごとに統一した公欠取扱いを徹底することが望ましいです。

(3) 公欠適用範囲の狭さ

現在の公欠適用範囲は、

- 法律で感染拡大防止が必要とされる感染症
- 本人に起因せず、欠席回避が極めて困難な場合(2親等以内の忌引き、裁判員等、被災等)

に限定されています。しかし、本人に起因せず、欠席回避が極めて困難な場合として、以下のようなケースも公欠が適用されるべきとの意見があります。

- 病気・心身の不調(高熱、持病・怪我、入院、精神的不調)
- 家庭の事情(家族の看病・入院対応)
- 大学の教育・研究活動に関わる行事への参加(学会、サークル上位大会)
- 社会的に不可避な活動(就活、奨学金面接、成人式)

⁴ 東京科学大学「風邪症状またはコロナ陽性の学生(Students with cold symptoms or positive for coronavirus)」:
<https://www.tmd.ac.jp/hsc/absence/covid/> (最終閲覧日: 2025年3月9日)

持病や怪我のとき、平日の限られた時間の中で受診に行く必要がある場合があります。このとき、受診予約が授業と重なることを避けられないならば、公欠対象に含める必要があります。入院を伴う病気やけがのとき、欠席回避が不可能であるため、公欠対象とする必要があります。精神的不調についても、適切な診断を受けた場合、公欠対象とすることが望ましいです。

家庭の事情について、多様な家庭の形を考慮すると、家族の介護や入院手続きが必要な場合、公欠対象とすることが望ましいです。

学会参加は、大学の研究機関としての側面を考慮すると、公欠適用を行うべき事由に相当すると考えます。サークル・部活動の活性化は、「自ら学び考えて物事に取り組むことができる人材を養成することを目的としている本学の重要な使命」であり、その最たる例ともいえる上位大会への参加は、教育上重要であり、公欠を認めるべきです⁵。

就職活動は、将来のキャリア形成に関わる、学生にとって重要なイベントであるため、公欠の適用が妥当であると考えます。同様に、民間奨学団体の面接やイベントも、学生の生活に関わる重要なイベントであるため、公欠相当であると考えます。成人式は、社会的に意義がある行事である一方で、出身が東京近郊ではない学生にとって、参加のための欠席が避けられないため、公欠対象とすべきです。

(4) 公欠申請手続きの煩雑さ

公欠届の申請には、HP から PDF を印刷し、手書きで記入・提出する必要があります。ここには、手続きのオンライン化等で簡便にする余地が残されていますが、現状は学生にとって手間が大きいものとなっています。また、学生は、現在教員に欠席連絡を行い、別途教務課にも連絡する必要がある点で二度手間な状態となっています。

オンラインフォームの導入によって、学生はウェブ上で申請を行うようにし、教員や教務課も同期的に公欠の情報を管理することが可能になります。これにより、学生、教員、職員の 3 者の手続きをスムーズに行うことが可能になります。

これらの現状を踏まえ、教務課とのキャンパスミーティングを実施し、以下のような回答をいただきました。

Q1. 現在の公欠制度を設定した目的について教えてください。

A1. 授業を欠席した学生が、本学が認める一定の事由によりやむをえず授業を欠席した場合、授業担当教員の判断によりこれを欠席扱いとはしない取扱いとすることで、必要に応じて、授業担当教員の判断で、公欠期間中の授業において使用した教材及び補足資料等の提供、追試験の実施等、一定の配慮を行うことを目的としています。

Q2. 公欠制度の運用方針について教えてください。

A2. 公欠制度の運用にあたっては「東京科学大学における公欠の制度に関する要項」に基づき運用を行っています。

⁵ 旧・東京工業大学「課外活動ハンドブック 2024」: <https://www.titech.ac.jp/student-support/pdf/64ca082552c5ce7ee4a53ce3547a8efd.pdf> (最終閲覧日: 2025 年 3 月 9 日)

Q3. 学生からは次のような場合に関して公欠制度を適用してほしいとの意見が上がっています。これらは、現状の公欠制度の目的や運用方針に照らして公欠と認めてよいものがあるでしょうか。また、その理由を教えてください。体調不良(学校感染症ではない病気・怪我)、家庭の用事(学生の子供の用事など)、学会参加、サークル活動の大会参加、社会的慣習行事(成人式・就職活動等)。

A3. 現在、要項により定める公欠事由は、法律に基づき感染拡大を防止する必要がある感染症や本人に起因せずかつ欠席を回避することが極めて難しいと考えられる事由としております。そのため、今回の質問においてあげられた事由については、公欠として適用される事由はないものと考えております。

なお、公欠事由に当たらない欠席については、授業担当教員の判断により欠席扱いとはしない等の特別の配慮ができることとしています(東京科学大学における公欠の制度に関する要項第8条第2項)。

Q4. 現在の公欠制度の手続き手順について教えてください。

A4. 「在学生に係る書類一覧」の、公欠届の備考に「公欠制度について」がリンクされていますので、参照してください。URL: <https://www.titech.ac.jp/student/pdf/certificates-submitting-forms-current-koketsu-seido.pdf>

Q5. 公欠の認否の最終的な判断は誰によってどのように行われるのか教えてください。

A5. 授業担当教員が判断します。

Q6. 公欠制度の手続きをオンラインで行うことは検討されていますか。

A6. 現時点では検討していません。

Q7. 手続きオンライン化にあたっての課題等があれば、教えてください。

A7. オンラインでは「公欠届」の記載間違いや必要書類不備などへの対応を即時性をもって行うことが難しいと判断しているためです。

提言

以上を踏まえて、公欠制度について次のように提言します。

1. 感染症拡大防止のために公欠制度を改善すること
2. 次の場合に対して、公欠制度の適用範囲を拡大すること
 - (1) 病気・心身の不調(高熱、持病・怪我、入院、精神的不調)
 - (2) 家庭の事情(家族の看病・入院対応)
 - (3) 大学の教育・研究活動に関わる行事への参加(学会、サークル上位大会)
 - (4) 社会的に不可避な活動(就活、奨学金面接、成人式)
3. 公欠申請手続きをオンライン化すること

提言 4-4 教育システムの改善要求

学生の意見

本学の教育システムについての学生の意見として次のようなものがあります。

1. Slack 関連(計 15 件)

- Slack の情報が多すぎて見なくなる(同様意見 10 件)
-
- チャンネルが細分化されすぎていて分かりにくい(同様意見 5 件)

2. OCW・シラバス関連(計 17 件)

- OCW の動作が重い・遅い(同様意見 6 件)
- OCW のシラバス情報が見つらい(同様意見 5 件)
- シラバスに正しい情報を書いていない教員がいる(同様意見 3 件)
- OCW での検索結果の表示順を改善してほしい(同様意見 2 件)
- OCW のシラバスの更新を早めてほしい

3. 教務 Web 関連(計 4 件)

- メンテナンス時間を 1 時限目開始前に終わるようにしてほしい(同様意見 4 件)

現状分析

本学には、T2SCHOLA、教務 Web システム、Slack、Box など様々な IT システムが存在します。近年の Slack や Box の導入、大学統合による影響で、学生が扱う学内 IT システムは一時的ではあるかもしれませんが、増えています。今回は、本学が用いる学内 IT システムの将来の方向性を踏まえ、これからのシステム構築・運用の改善の一助となるために学生の主要な意見を取り上げます。特に、学生が接する機会が多い Slack、OCW(シラバス)、教務 Web システムについて取り上げます。

1. Slack

Slack は、本学で用いている情報コミュニケーションツールの一つであり、日々授業や学生が所属するコミュニティの情報、イベント情報、大学からの情報など様々な情報が発信されています。Slack では、テーマごとにチャンネルが分けられており、その中でチャットベースのコミュニケーションを取ることができます。このため、気軽に投稿や返信ができる点が魅力です。しかし、その気軽さが故に、日々 1 人で処理しきれないほどの情報が流れてきます。また、チャンネルも細分化されており、探したい情報が掲載されている場所を突き止めることや、今持っている情報をどこに投稿するべきかを検討することに多くの時間を要します。

2024 年 11 月 13 日に、このような Slack の使用感について有志の学生から意見が挙がりました¹。この中で、全学 Slack のデメリットとして、チャンネルや通知が多く、情報を見逃してしまうこと、情報の階層が分かりにくいこと、求めている情報へのアクセスが難しいことの 3 点が挙げられました。この投稿には、70 件以上のリアクションと 18 件の返信があり、本学情報企画課はこれらの意見を基に情報通知における環境整備を行いました。

情報通知における環境の改善はなされたとはいえ、学生にとっては未だ流れてくる情報が多いのが実情です。より整理された使いやすい Slack となるために、生成 AI などを利用した情報の個別最適化を行うことが必要であると考えます。また、先に挙げた事例のように学生にとって使いやすいシステムを学生自身が発案し実装まで行うために、学内情報システムに関する RA を雇用することで、学生にとっての利便性が高いシステムを比較的低いコストで開発することが可能ではないかと考えます。

2. OCW(シラバス)

OCW は、本学の講義に関する情報(シラバス)が掲載されているシステムであり、学生が履修科目を決める際に重要な情報源となっています。OCW の Web サイト自体と、そこに掲載されているシラバスについては以前から学生から不満の声が上がっており、学勢調査 2020 では OCW の利便性向上のためにサイトの読み込み速度を向上させる提言を²、学勢調査 2022 では、シラバスの内容充実のための提言を行いました³。しかし、現在においても、OCW の動作が遅いという意見や、シラバスに正しい情報が掲載されていないという意見が学生から挙がっています。

以前から提言に挙げているような、OCW のサイト自体とその中身に対しての適切な処置がなされなければ、学生にとって利用しにくいシラバスのままとなってしまいます。OCW のサイトについては、学勢調査 2020 で提言しているように、トップページの改善を行うことと、検索機能の改善を行うことが重要であると考えます。中身のシラバスについても、教員への周知を徹底するほか、オリエンテーション動画を掲載するなど、学生にとってその講義がどのようなものであるかを分かりやすく示すための工夫を行う必要があると考えます。

3. 教務 Web システム

学生は、本学理工学系の教務に関する情報を教務 Web システムから閲覧することができます。特に講義が行われる講義室の情報が明記されていて、簡単に確認できるシステムであるということもあり、多くの学生はクォーターの変わり目の時期などで講義室を確認する手段として教務 Web システムを頻繁に利用します。しかし、教務 Web システムは、毎週火曜日・金曜日の 4:00-8:50 にメンテナンスが行われています。1 時限目の開始時刻は 8:50 であるため、毎週火曜日と金曜日に学生は講義室を確認することができず、不便に感じる場合が多いです。

教務 Web システムのメンテナンス終了時刻は、学勢調査 2020 にて提言が行われ、元々 9:00 終了であったものが、

¹ 本学 Slack の当該投稿: <https://all-science-tokyo.slack.com/archives/C07CDCSPW4F/p1731501662621329>

² 学勢調査 2020 提言書: http://www.siengp.titech.ac.jp/gakuseichousa/2020/2020_gakusei_teigensyo.pdf (最終閲覧日: 2025 年 2 月 28 日)

³ 学勢調査 2022 提言書: http://www.siengp.titech.ac.jp/gakuseichousa/2022/2022_gakusei_teigensho.pdf (最終閲覧日: 2025 年 2 月 28 日)

2021 年 4 月から 8:50 に変更になった背景があります⁴。そして、「現状の体制では、現在の開放時間(8:50)をさらに繰り上げることは不可能」という大学側の回答がありました⁵。

学生の教務 Web システムの利用用途は、基本的に講義関連の情報の取得であり、限定的な用途であると考えます。このために現在のシステム管理体制を変更することは、合理的であるとは言えません。そこで、メンテナンスが早朝に行われていない、T2SCHOLA に教務 Web システムに掲載されている情報を掲載するということで、現状の学生側の課題を解決できると考えます。具体的には、利用講義室、講義開始時刻の 2 つの情報を T2SCHOLA の時間割表及び講義ページ内に記載することです。

以上の内容を踏まえ、情報企画課とキャンパスミーティングを行いました。

Q1. Slack による情報提供によっておこる情報過多改善のための現状施策を教えてください。

A1. 特に利用開始初期においてはチャンネル増加に追い付かず、チャンネルが探せなくなる・どのチャンネルに自分に関係するメッセージがあるか分からなくなる、ということが発生します。このため基本操作説明会やナレッジ共有チャンネルを通じて、「サイドバーのカスタマイズ」「後で」「アクティビティ」等の情報整理機能の使い方を重点的に案内しています。なお、説明会はレコーディングを公開しているので、出席できなかった方もご覧いただけます。

全学一斉通知を追うのが大変、というご意見も頂戴しています(Slack 上で学生有志による改善検討スレッドも立ち、大変参考にさせて頂きました)。これを受け、昨年 12 月に、一斉通知チャンネルのレイアウト変更(自分にどのくらい関わりがあるかを判別しやすい情報を追加する)、一斉通知を一覧化したリストの提供を開始しています。

人により必要な情報は様々ですが、学内メンバーが欲しい情報を探しやすくする・届きやすくする、という両面から、引き続き改善施策を検討していきたいと思います。

Q2. 情報提供の個人最適化にあたっての課題点を教えてください。

A2. 情報提供する機会の多い部署間の連携により実現できる改善もあると思うので、この点は職員間でコミュニケーションをしていきたいと思います。

AI などの自動化技術を導入する場合は、技術としてまだ発展途上にあるということもあるかと思います。また上記に関連しますが、コストは重要な要素です。

⁴ 学勢調査 2020 提言書: http://www.siengp.titech.ac.jp/gakuseichousa/2020/2020_gakusei_teigensyo.pdf (最終閲覧日: 2025 年 2 月 28 日)

⁵ 学勢調査 2020 大学の対応: http://www.siengp.titech.ac.jp/gakuseichousa/2020/2020_gakusei_follow.pdf (最終閲覧日: 2025 年 2 月 28 日)

提言

以上を踏まえ、以下の 3 点を提言します。

1. Slack について、学生の意見を取り入れた開発を行うために学内情報システムに関する RA を雇用すること
2. OCW について、トップページの改善と検索機能の改善を行うこと。また、オリエンテーション動画などによってシラバス内容を学生にとってわかりやすいものにすること
3. T2SCHOLA について、講義の教室情報と講義開始時刻を掲載すること

要望まとめ

今回提言にはしなかったものの、情報システムについて学生から意見が挙がっていた点について各種システムごとに以下にまとめています。なお、以下の意見は本調査を行った 2024 年 6 月～7 月時点でのシステムに対するものです。本提言書を大学へ提出する 2025 年 3 月時点では、大学統合の影響により Extic の導入など IT システムに変更があったため、必ずしも 2025 年 3 月現在の各種システムに対して学生が同様の意見を持っているとは限らないことに注意してください。

Slack 関連

- Slack の活用意義が不明(使用しない)(同様意見 3 件)
- 授業関連の情報をメールでも提供してほしい(同様意見 2 件)
- Slack の通知が見づらい(同様意見 2 件)
- Slack が使いにくい
- Slack を導入したことで連絡が便利になった
- Slack だけで情報発信するのをやめてほしい
- 研究室ごとに Slack ワークスペースを作るのではなく、公式 Slack を統合してほしい
- 講義ごとのワークスペースを減らして Slack Connect を利用してほしい

Box 関連

- Box の使い勝手が悪い(同様意見 3 件)
- ログイン不要で Box の講義情報を確認できるようにしてほしい(同様意見 3 件)
- Google Drive/OneDrive を使いたい(同様意見 2 件)
- Box の容量を増やしてほしい
- Box の用途が不明

T2SCHOLA 関連

- 授業カレンダーを外部出力できるようにしてほしい
- 科目コードや担当教員情報を T2SCHOLA で確認できるようにしてほしい
- T2SCHOLA のアナウンスが分かりにくい
- T2SCHOLA の時間割に授業時刻も記載してほしい
- Moodle アプリが使いにくく、頻繁にログアウトされる

メールシステム関連

- メール検索機能を改善してほしい(同様意見 2 件)
 - メールリングリストがなくなり、検索性が悪くなった
- メールシステムの UI/UX が使いにくい(同様意見 2 件)
- 新着メールの編集時に不便な挙動がある
- メールシステムをスマホで見やすくしてほしい

Tokyo Tech Portal 関連

- 東工大ポータルへのログインが面倒(同様意見 7 件)
- 東工大ポータルのデザインが古くて使いづらい
- 東工大ポータルのインターフェースが使いにくい
- 学部生ポータルのセキュリティを緩和してほしい

教務 Web システム関連

- 教務 Web で選択肢の上にマウスを置くと赤く光る

図書館関連

- 図書館の蔵書検索ページが分かりにくい位置にある

システム全般

- システムの統合を進めて、ログイン不要で全てのサービスを利用できるようにしてほしい
- システムが新入生にとって分かりにくい
- 各種システムが乱立しすぎている
- Microsoft Office を提供するなら Box よりも他のストレージを採用してほしい
- セキュリティ強化よりも使いやすさを重視してほしい

サービス

肯定的な意見

- 現状のシステムで問題ない・良いと思う(同様意見 6 件)

提言 4-5 Slack を活用した新入生向け相談窓口の設置

学生の意見

設問 No. 9-4「最後に全体を通して意見があれば自由に記入してください。」へ、本学理工学系に修士課程から入学した学生から以下の意見が寄せられました。

- 入学直後、困っていたのにどこに相談すればいいか分からなかった上、情報提供も不足していた(同様意見 2 件)
- また、本学理工学系に入学した留学生から以下の意見が寄せられました。
- 相談内容に応じて、どの部署に相談すればいいか教えてくれる仕組みが欲しい

現状分析

多くの学生は、学士課程入学者選抜を経て、学士課程 1 年次から本学に入学します。大学では高校までとは学修の内容だけでなくシステムも異なっており、さらに生活面でも大きな変化があるために、新入生は短期間で大学生生活に適応する必要があります。

新入生の学修や学生生活をサポートするため、本学理工学系では、学修コンシェルジュをはじめとする本学の各部署や本学生協が説明会を実施しています。大学 HP においても、2020 年春から「ようこそ東京工業大学へ¹」というページにおいて、新入生向けに在学生向けサイトの案内を行っており、その内容は年々充実していています。本学理工学系では、ピアサポートという、所定の研修を受けた学生が自身の体験に基づき、大学生活についての相談に対応する学生の活動があります²。春や秋には、主に学士課程の新入生を対象に、履修を始めとする大学生活についての様々な相談にのるための相談会を集中的に開催しています。また、本学理工学系では、同じクラスで授業を受ける仲間により構成される「ユニット」があります。ユニットは 15 人程度の学生で構成されているため、互いに交流しやすく、学修や学生生活に関する情報を共有しやすいものとなっています。さらに、公認サークルは、新入生歓迎のために各種イベントを開催しており、新入生の身近な相談相手ともなっています。以上のように、学士課程入学者選抜を経て学士課程 1 年次から入学する新入生には、学修や大学生活に早く適応できるような支援がおこなわれています。

その一方で、学士課程編入生や大学院から入学した学生など、異なるタイミングで入学した学生や、留学生や社会人学生など、周囲の多くの学生とバックグラウンドが異なる学生は、前述のサポートを活用することが難しいだけでなく、個別の状況に合わせたサポートが必要になる場合が多いと考えます。

学修や大学生活に必要な情報を得るために利用する媒体を調査する目的で、設問 No. 7-1「授業や学内行事など大

¹ 旧・東京工業大学「2020 年春ようこそ東京工業大学へ」:

<https://www.titech.ac.jp/public-relations/about/stories/welcome2020> (最終閲覧日: 2025 年 3 月 16 日)

² 旧・東京工業大学「ピアサポート」: <https://www.titech.ac.jp/student-support/students/counseling/peer> (最終閲覧日: 2025 年 3 月 16 日)

サービス

学の発信する情報を得るために主に利用するものを選択してください。」の回答選択率を分析しました。全体として、どの属性の学生でも本学のホームページや教務 Web システムを選択した学生の割合が 50%以上と高く、在学生向けのお知らせや学修システムが主要な情報源となっていることがうかがえます(図 4-5.1、4-5.2)。

留学生について分析するために、設問 No. 7-1「授業や学内行事など大学の発信する情報を得るために主に利用するものを選択してください。」の回答選択率を、設問 No. 1-4 における「留学生である」の選択有無ごとに分析しました(図 4-5.1)。留学生は、留学生ではない学生に比べ、教員や大学の掲示板から情報を得る割合が高く、X から情報を得る割合が低いことがわかりました。

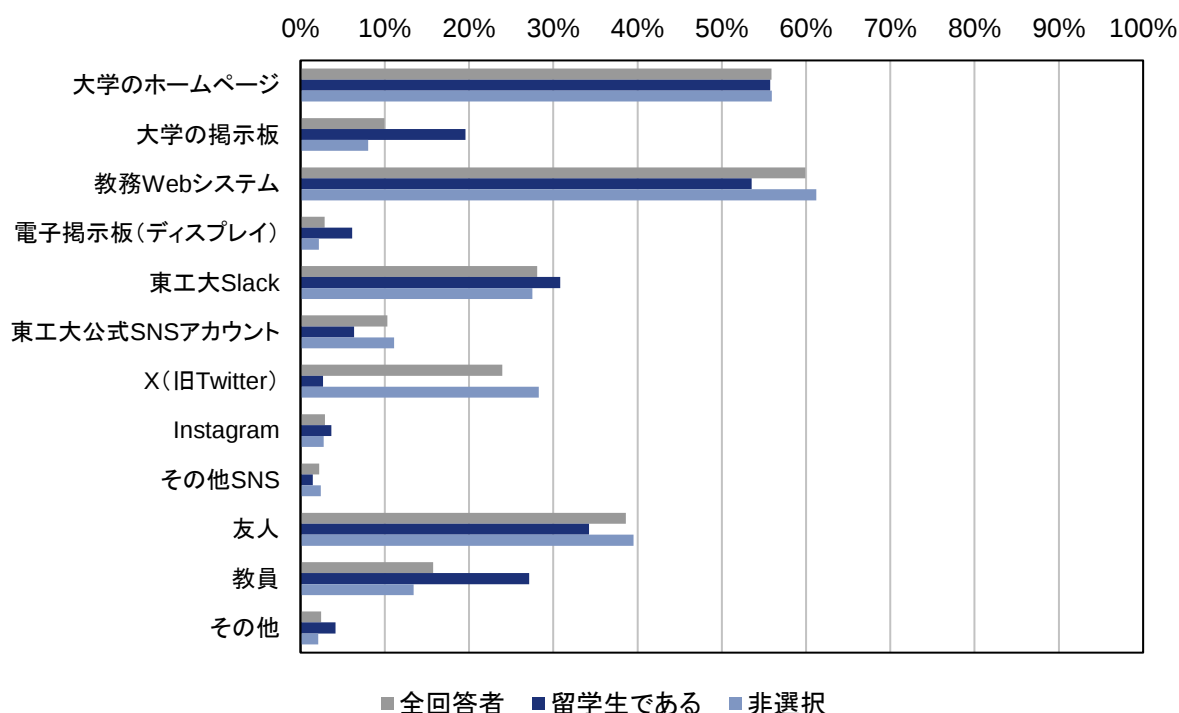


図 4-5.1 設問 No. 1-4 における「留学生である」の選択有無ごとの

設問 No. 7-1「授業や学内行事など大学の発信する情報を得るために主に利用するものを選択してください。」選択率

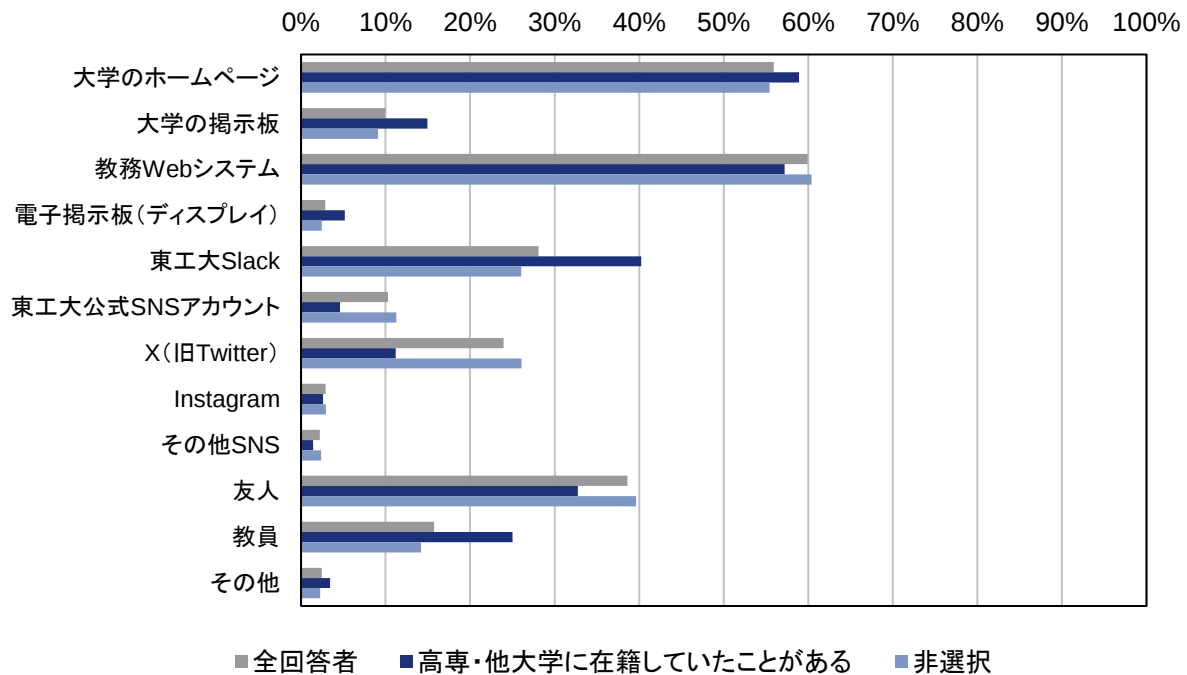


図 4-5.2 設問 No. 1-4 における「高専・他大学に在籍したことがある」の選択有無ごとの

設問 No. 7-1 「授業や学内行事など大学の発信する情報を得るために主に利用するものを選択してください。」選択率

編入生について分析するため、設問 No. 7-1 「授業や学内行事など大学の発信する情報を得るために主に利用するものを選択してください。」の選択率を、設問 No. 1-4 における「高専・他大学に在籍したことがある」の選択有無ごとに調べました(図 4-5.2)。高専・他大学の在籍経験のある学生は、在籍経験のない学生に比べ、教員や東工大 Slack(現 Science Tokyo Slack)から情報を得る学生が多く、教員は25%、東工大 Slackは40.2%です。一方で、東工大公式 SNS アカウントでは4.6%、X(旧 Twitter)では11.2%とこれらの情報源から情報を得る割合が低いことが分かりました。また、入学直後の時期は、同期の学生や研究室内での人間関係がまだ十分に構築されていないため、情報源として多く挙げられる「友人」が高専・他大学の在籍経験のある学生全体の32.8%、「教員」が25.0%を占めているにもかかわらず、そうした相手を十分に活用できていない可能性も考えられます。

学生への情報発信ツールとして、大学統合以前の2023年1月からSlackの運用が開始されています。2025年3月現在でも一部の情報はメールで発信されていますが、学内の重要連絡やニュースを含む情報発信手段およびコミュニケーションツールとして Science Tokyo Slack が積極的に利用されています。Slack 上では学内の各部署による発信が主であり、学生からの発信や質問は少ない現状にあります。Slack に相談窓口を設置することで、学生からのコミュニケーションが活発化し、Slack のさらなる有効活用につながると期待できます。

「2024 年春 ようこそ東工大へ³」では、履修プランの組み立てや学修を進める上でのサポートとして、学修コンシェルジュが紹介されています。学修コンシェルジュは、学修活動全般に関する相談に対応するだけでなく、新入生や編入生が本学での学修にいち早く適応し、主体性を持って学修活動に取り組めるよう支援するガイダンスの開催を始めとして、多角的・多面的な支援を提供しています。

学修コンシェルジュによるサポートの現状を調査するため、学生支援センターとのキャンパスミーティングを実施し、以下の回答をいただきました。

Q1. 学修コンシェルジュによる新入生ガイダンスは、新入生の何割程度が参加されますか。特に秋入学、編入生、留学生、社会人学生では何割程度の学生が参加されていますか。

A1. 編入生の編入生ガイダンスへの参加率はほぼ 100%です。2024 年秋に開催した大学院ガイダンスは、2 日間開催し、日本語と英語でそれぞれ 2 回ずつ実施しました。日本語で実施されたガイダンスの参加者数は合計 92 人、英語で実施されたガイダンスの参加者数は合計 145 人です。このガイダンスでは、留学生かどうかを参加学生に確認していないため、明確な留学生数は不明です。

Q2. 学修コンシェルジュによる相談は、現在、メールや対面、Zoom で実施されています。相談を Slack から受け付けることは可能でしょうか。

A2. 対面での相談は予約なしで実施することが可能です。メールや Zoom で相談することも可能です。Slack での相談受付は検討中です。相談内容には個人的な内容を含むものが多く、匿名性を維持した連絡方法を検討中です。

Q3. 学修コンシェルジュが Slack 上で配信されている #st-配信-学修コンシェルジュ チャンネルの登録者数はどのようになっていますか。

A3. #st-配信-学修コンシェルジュは旧「東京工業大学 学修コンシェルジュ」公式 LINE アカウントのチャンネルです。LINE アカウントで配信している際は登録者数が累計 3,500 人でした。Slack では学生・教職員を合わせて 300 人ほどと登録者が減少しています。

現状の学修コンシェルジュの相談窓口の課題として、質問窓口がメールや Zoom、対面など、相談者によっては心理的なハードルが高く、気軽に相談しづらい点が挙げられます。また、寄せられた相談内容や対応によって得られた知見が、学修コンシェルジュの間で共有されるにとどまり、他の学生に十分に展開されていない点も課題です。特に、同様の疑問を持つ可能性のある他の相談者や、新入生、編入生、留学生などにとって、こうした情報が共有されていないことは、学びの機会の損失にもつながりかねません。質問窓口を Slack のワークフローを活用し、ワークフローのフォームから送信

³ 旧・東京工業大学「2024 年春 ようこそ東工大へ」: <https://www.titech.ac.jp/public-relations/about/stories/welcome2024> (最終閲覧日: 2025 年 2 月 25 日)

できるようにすることで、気軽に質問ができるようになると期待できます。また、新入生、編入生、留学生によくある質問を Slack 上で他の学生に共有することで、同じ内容の問い合わせ対応の回数を減らす効果も期待できます。

提言

以上を踏まえて、新入生、編入生、留学生向け相談窓口の設置について次のように提言します。

1. Slack のワークフローを用いた期間限定の相談窓口の設置および相談内容の公開

まずは、新入生、編入生、留学生がより多くのサポートを要すると予想される 1Q や 3Q に期間を限定し、Slack ワークフローによる学修コンシェルジュの学修相談窓口を設置することを提言します。ワークフローの概要は図 4-5.3 です。ワークフローのフォームによる相談形式にすることで、担当教職員にのみ相談を伝えることができ、匿名性を担保できます。

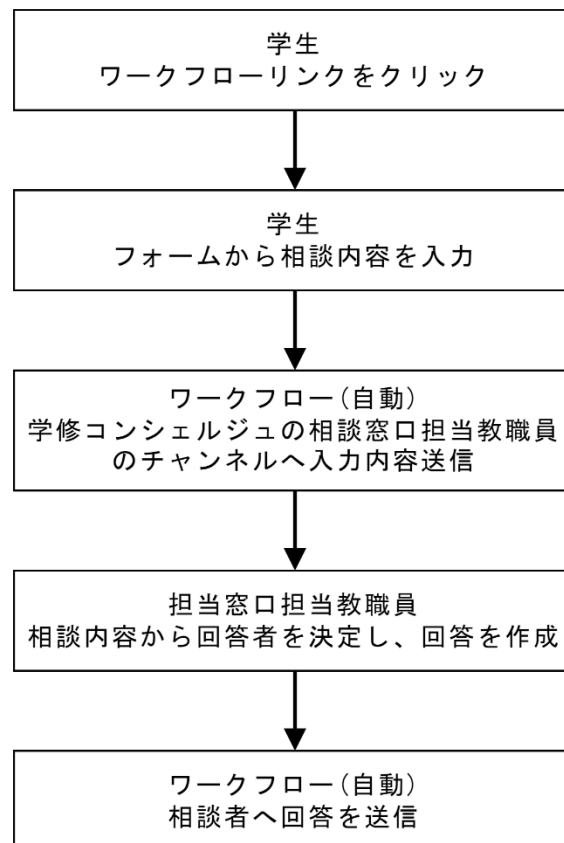


図 4-5.3 新入生・編入生・留学生の学修相談窓口の Slack ワークフロー概要

相談への回答、および Q&A 公開に関するワークフローの詳細は図 4-5.4 の通りです。学修コンシェルジュの相談窓口担当教職員は、寄せられた相談内容に応じて回答者を決定します。学修コンシェルジュが従来の学修相談で受けていた相談には、学修コンシェルジュの教職員が回答を作成します。その他の相談先からの回答が望ましい場合には、大岡山学生支援センターが支援する学生団体等や、他部署の教職員に回答作成を依頼します。

サービス

相談内容と回答は、相談者個人が特定されかねない内容や個人的な内容を含む事例、相談者が非公開を望む事例については、相談窓口担当教職員の判断で非公開とします。多くの学生が疑問に感じると予想される内容は事例として Slack への投稿など本学構成員のみが閲覧できる方法で公開します。

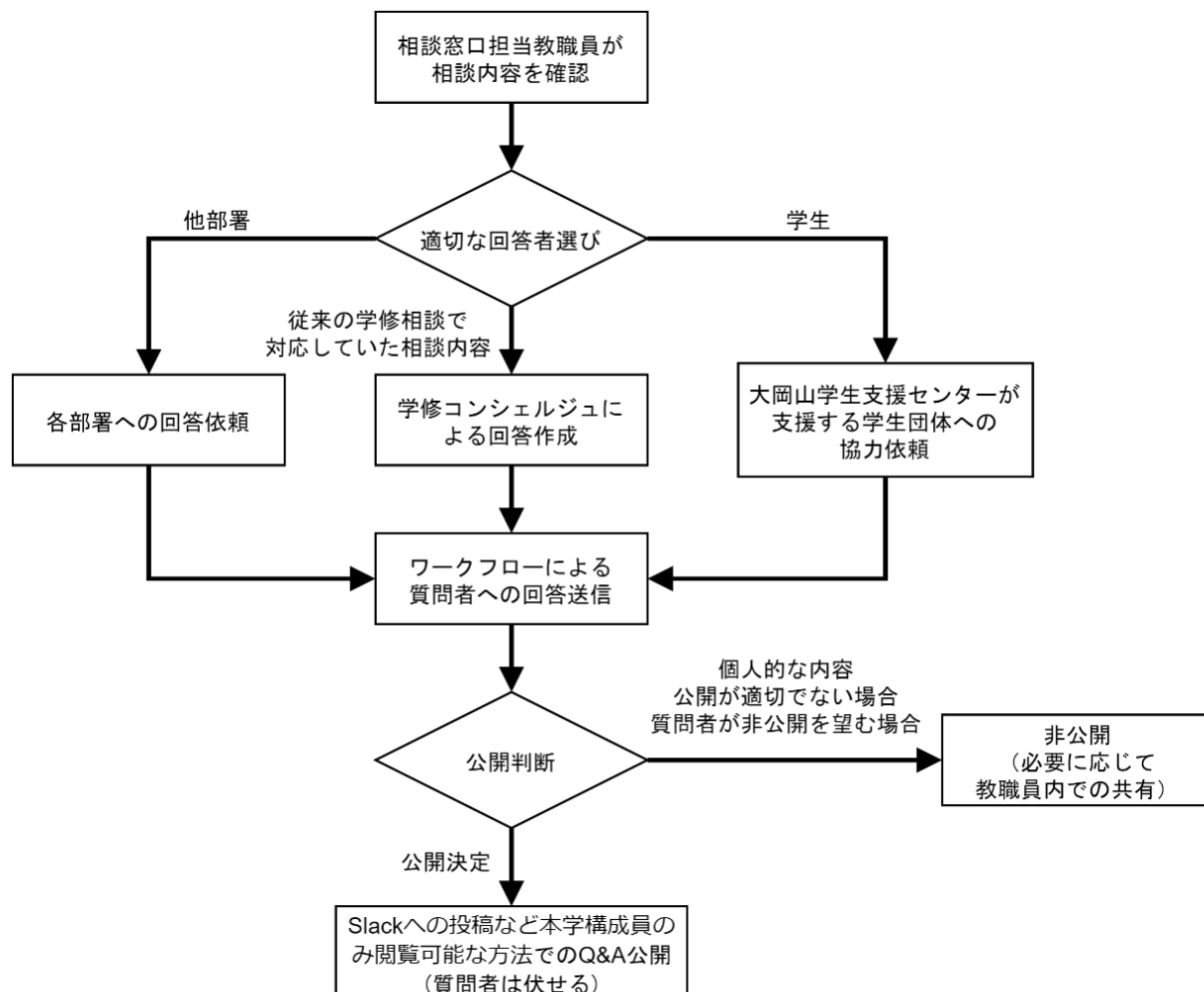


図 4-5.4 相談への回答、および Q&A 公開に関するワークフローの詳細

提言 4-6 防災訓練の参加促進

学生の意見

設問 No. 7-13「多くの学生が、防災・避難訓練に参加するためにはどのような施策等を行えば良いか教えてください。」に以下のような意見が寄せられました。

- 周知を強化する(同様意見 33 件)
- 訓練を実施するタイミングや頻度を工夫する(同様意見 28 件)
- 特典など参加によって何らかのメリットが得られるようにする(同様意見 24 件)
- 強制度合いを高める(同様意見 19 件)
 - 授業の一部として組み込めばよい(同様意見 11 件)
- 訓練に参加することの重要性や必要性を伝えることに力を入れる(同様意見 15 件)

現状分析

本学理工学系では、毎年 11 月上旬の水曜日に大地震の発生を想定した防災訓練を実施しています。午前中の授業終了時刻である 12 時 25 分から、大岡山キャンパスとすずかけ台キャンパスにて、避難訓練を中心とする総合訓練が実施されます。同時に、学生と教職員へのメール配信にて、安否確認システムの訓練も行っています。大岡山キャンパスのウッドデッキ周辺では、14 時まで消火器や煙体験、地震体験等からなる個別訓練も実施しており、総合訓練を終えた後に参加するケースが多く見られます。

設問 No. 7-11「昨年の学内の防災訓練に参加しましたか。」への回答からは、在学していた学生のうち、安否確認メールには 75%ほどが対応した一方、実地訓練(総合訓練・個別訓練)への参加者はのべ 2 割にも満たないことがわかりました(図 4-6.1)。

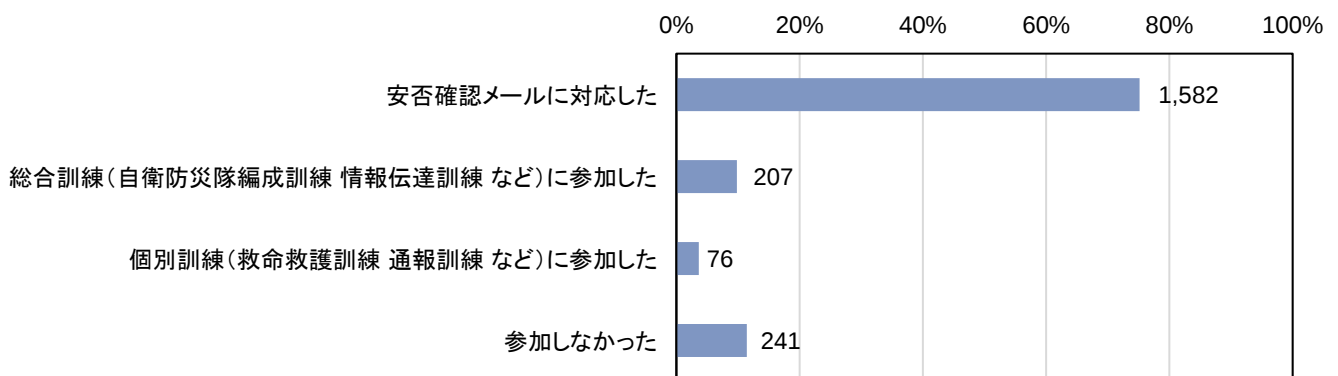


図 4-6.1 2023 年の学内の防災訓練への参加状況(複数選択可／「在学していなかった」選択者は全数から除外)

設問 No. 7-12「防災訓練に参加しなかった理由を教えてください。」に対する回答は図 4-6.2 のようになっています。

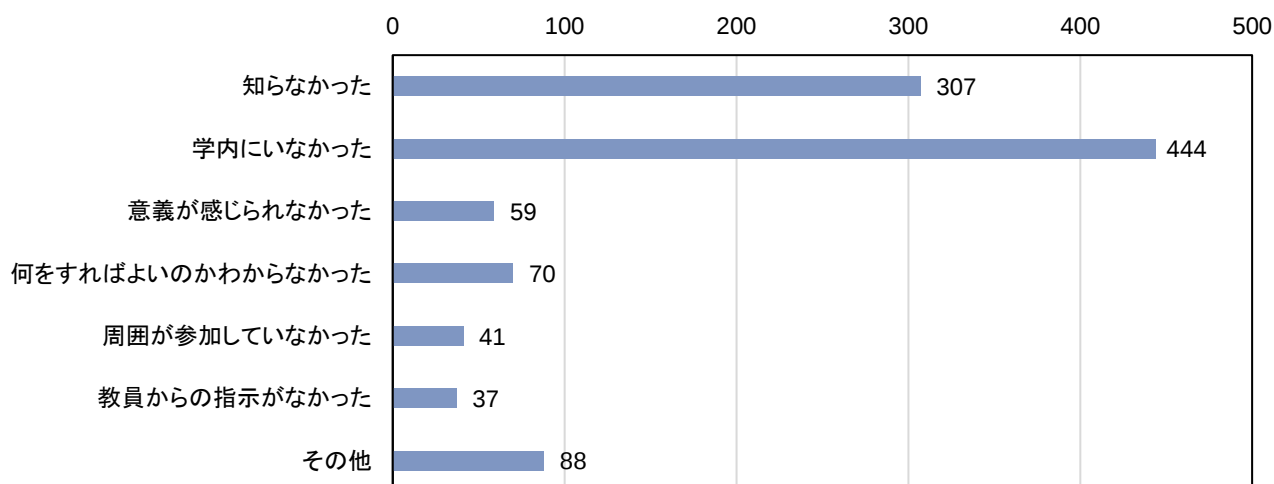


図 4-6.2 学内の防災訓練に参加しなかった理由(複数選択可)

防災訓練に参加しなかった理由で最も多い「学内にいなかった」には、その日大学に用がなかった学生だけでなく、午前は学内にいたものの防災訓練が行われる昼休みには学外に出てしまった学生も含んでいると予想されます。防災訓練は水曜日の昼休みの時間に行われますが、特に学士課程では午後に授業のない学生が多く、防災訓練の日は直前の授業を早く終わらせる教員も多いのが現状です。

次に多い「知らなかった」のほか、「何をすればよいのかわからなかった」「教員からの指示がなかった」などの回答から、実地訓練は実施されることや具体的な訓練の内容が学生に十分認識されていないと考えられます。現在、個別訓練に参加すると訓練参加証(引換券)がもらえ、水やクラッカーなどの非常食と交換できる仕組みになっていますが、設問 No. 7-13「多くの学生が、防災・避難訓練に参加するためにはどのような施策等を行えば良いか教えてください。」では 2023 年度の不参加者を含む多くの学生から「参加特典として何かもらえるようにする」ことが提案されていることから、学生への周知が不十分なのがうかがえます。図 4-6.2 の「意義が感じられなかった」「周囲が参加していなかった」からも、訓練に参加しなければならない／すべきものであるという認識が希薄なことが課題であると推測されます。

設問 No. 7-13「多くの学生が、防災・避難訓練に参加するためにはどのような施策等を行えば良いか教えてください。」では、目的を防災訓練の参加にとどめることなく、学生の防災意識を高め、学内に限らず様々な状況下で適切な避難行動をとれるようにすることが重要ではないかと指摘する声もありました。

上記の状況を踏まえ、環境安全課およびリベラルアーツ研究教育院業務推進課とのキャンパスミーティングを実施し、以下のような回答をいただきました。

Q1. 防災訓練の日程を水曜日の 4 限終了時刻に設定しているのはなぜですか。

- A1. 水曜日の午後には授業が少なく、授業への影響が小さく済むためです。
- Q2. 現在はどうような方法で学生に防災訓練の周知をしていますか。
- A2. 昨年は9月～11月にメールニュース、10月と11月にはSlackでも訓練の実施を通知しました。あわせて、訓練の内容や流れを説明する2分程度の動画も配信しました。防災・交通安全部門のホームページでも情報を発信し、防災訓練のポスターを掲載しています。
- Q3. 防災訓練を事前予告なしに実施したり、年に複数回実施したりすることは可能ですか。
- A3. 事前予告なしで授業のある日に実施した方が効果的だとは考えており、そのような検討も行われたことはありますが、授業や消防署のご協力、近隣への影響を考慮すると難しいのが実情です。
- Q4. 立志プロジェクトなど多くの学生が履修する授業に防災訓練や震災・防災学習を取り入れることは可能ですか。
- A4. 災害時には防災教育をあまり受けてこなかった留学生が弱者になる可能性が高いため、来年度はGSEP¹の立志プロジェクトに防災教育の回を設ける予定です。日本人学生向けの授業に取り入れることも検討はしています。応用化学コースで安全・危機管理、薬品やガスの扱い、消火方法、環境保全、救急救命実習を含む講義を開講する、各系・コースやホームページを通して防災や安全管理に関する資料を配布するなどの方法でも、学生の安全に対する意識向上を目指しています。
- Q5. 防災訓練の参加促進のために、大学生協と連携した取り組みを行うことは可能ですか。
- A5. 本学と生協の間には災害時の協力協定があります。以前、防災訓練の際に豚汁を提供してもらったことがありましたが、負担が大きいことから近年は行っていません。防災訓練に際して生協から何かを提供してもらう場合、支出を生協と大学のどちらが負担するのかという点を検討し、合意のうえで進める必要があります。

提言

以上を踏まえて、防災訓練の参加促進に関して次のように提言します。

1. 告知に用いるツールと内容の両面から、防災訓練の周知を強化する

防災訓練の実施を案内するビラ配布や教員からの呼びかけなども行い、より長期間かつ複数回にわたって訓練への参加を促すべきだと考えます。その際、訓練および非常食配布の実施場所や学生がとるべき行動をわかりやすく示し、英語を併記することを提案します。

2. 防災訓練を学生が参加しやすい日時に設定し、全員で行う訓練だという意識を学内で共有する

学生および教職員に、防災訓練の参加を標準と認識してもらうためには、必修の授業中に実施し、研究室所属学生や教職員だけでなく、学士課程の学生にも講義室からの避難、点呼の流れに参加してもらうなどの施策が考えられます。

¹ 東京科学大学 GSEP: <https://www.tse.ens.titech.ac.jp/~gsep/>（最終閲覧日：2025年3月14日）

3. 非常食配布の周知を進めるとともに、学生にとってより魅力的な参加特典を検討する

参加特典の案としては、アルファ米や実用的な防災グッズの配布、炊き出しなどが挙げられます。また、訓練開始から13時まで生協食堂やフードショップを閉める代わりにつばめテラスの営業時間を通常より延ばし、訓練の参加特典として生協のクーポンを配布して、訓練参加後に生協食堂で食事をとれるようにするなど、生協との協働も検討する余地があると考えます。

4. 防災訓練以外の面でも学生の防災意識を高める

立志プロジェクトで震災に遭われた方の話を直接聞く回を設けるなど、学生の防災意識を高めることも結果的に防災訓練の参加率向上に寄与することが期待されます。

意見まとめ 4-7 奨学金支援の強化

学生の意見

奨学金支援に関して、以下の意見や要望が寄せられました。

- 奨学金の内容充実(同様意見 10 件)
- 仕組みや手続き、選考基準の周知が不十分(同様意見 9 件)
- 経済状況による制限がない奨学金の設置(同様意見 6 件)
- 博士後期課程向け奨学金の充実(同様意見 6 件)
- 地方出身学生に対する支援の強化(同様意見 5 件)

現状分析

奨学金は、学生が経済的に安定した生活を送り、学業や研究に専念するために必要な支援です。奨学金には、本学が独自に企画しているもの、国や地方公共団体、日本学生支援機構などの公的機関が企画しているもの、民間の奨学団体が企画しているものの 3 つがあります。今回の調査においては、奨学金についてさまざまな学生の意見が寄せられましたが、本学の施策だけでは解決できないと考えられる意見も多くみられました。そこで、本意見まとめは、本学学生の経済的状況に関わる現状やそれに対する意見を、本学学生の経済的支援の関係者に広く知っていただくことを目的としています。

1. 奨学金の内容充実

現在の奨学金の支給額が物価上昇に対して十分ではないという意見が寄せられました。特に生活費や研究費の増加に対応するため、奨学金の金額を見直すことが求められています。また、返済不要の給付型奨学金の増設を望む声や間接的な支援として学費を下げることを求める声もありました。成績優秀者などに対して積極的に支援を行うべきだとする意見もみられました。

加えて、留学生からは奨学金の選択肢が限られている点が指摘されました。私費留学生への支援を拡充し、より多くの学生が奨学金を受けられるような制度が求められています。

2. 仕組みや手続きの周知が不十分

奨学金の申請手続きや選考基準についての情報が十分に伝わっていないという意見が寄せられました。特に新入生や留学生は、どの奨学金が利用可能か分からず、申請の機会を逃してしまうケースがあるため、より分かりやすく情報を提供することが求められています。また、新入生用の奨学金は、入学後の早い期間で奨学金の申請が締め切られてしまう場合も多いです。新入生オリエンテーションや Slack などを通じて申請についての告知を行うことが必要です。

さらに、本来奨学金を受けるべき学生は、学業と生活費を工面するためのアルバイトで忙しいため、わかりやすく情報

が提示されなければ、奨学金に関する情報に触れる機会がないという意見もみられました。本当に支援が必要な学生に対して情報が届くような情報提供のあり方が求められています。

3. 経済状況による制限がない奨学金の設置

現在、多くの奨学金は親の年収などの経済状況を基準に支給されます。しかし、学生の中には家庭内の関係性や教育方針などのさまざまな事情から親からの支援を受けられない場合があります。そのため、家庭の経済状況に依存しない奨学金制度の設置を求める意見が寄せられました。

いくつかの民間奨学金には、所得制限がないものもありますが、多くの奨学金には、家庭の経済状況による募集の制限があります。所得制限のない奨学金の創設に加え、奨学金の検索機能を強化し、学生の状況にあった奨学金を見つけやすくする工夫も必要であると考えます。

4. 博士後期課程向け奨学金の充実

博士後期課程の学生に対する奨学金が不足しており、研究に専念できる環境が整っていないという声が寄せられました。特に、Tokyo Tech SPRING プログラム(現 Science Tokyo SPRING プログラム)や日本学術振興会の特別研究員制度のような支援制度の充実を求める意見が寄せられています。特に支援対象となる人数を増やすことに対する意見が多くみられました。近年、本学理工学系独自の奨学金であるつばめ博士学生奨学金をはじめ、博士後期課程の学生に対する経済的支援は充実してきているように見えます。しかしながら、未だ必ずしも研究に専念できる環境がすべての博士後期課程の学生に対して用意できているわけではないようです。博士後期課程の学生は、本学および、日本が世界に対してリードした研究を行うために重要な存在であり、適切な待遇の改善が必要であると考えます。

5. 地方出身学生に対する支援の強化

地方出身の学生は、都市部での生活費が高く、経済的負担が大きいという意見が寄せられました。地方出身者向けの支援制度を拡充し、帰省等の交通費や家賃補助などを検討することが求められています。現在、本学理工学系には入学前予約型の地方出身者向け奨学金が存在しますが、公募数は5名であり十分とは言えません。本学が推し進めるDE&Iの理念に照らせば、地方向けの学生に対する支援を拡充させることで、出身の背景が多様な学生を支援することが妥当です。

意見まとめ

奨学金などの学生の経済支援は、大学のほか、国などの公的機関や、民間奨学団体など、幅広い期間が連携して取り組むべき課題です。これらの学生の意見を踏まえ、本学として実態調査や、制度策定、他の機関への働きかけなどの何らかのアクションが取られることを願います。

意見まとめ4-8 学生間交流を促進するための施策

学生の意見

設問 No. 9-1「学生間の交流を推進するために、どのような取り組み（イベントや企画、制度）があれば良いか教えてください。」に寄せられた主な意見をまとめました。

ユニットについて

- ユニットは良い制度だと思う(同様意見 4 件)
- ユニット制度に似た制度の新設
 - 2 年以上でもユニットがほしい(同様意見 4 件)
 - ◇ 工学院(2 件)、物質理工学院、生命理工学院の学生からの意見
 - 学院内のユニットがほしい(同様意見 3 件)
- ユニット外とも交流しやすいようにしてほしい(同様意見 4 件)
- ユニット交流会後にごはんに行けるように、午前中に実施してほしい

新入生の支援について

- オリエンテーション合宿(同様意見 5 件)
- 学院クラスの活用(同様意見 3 件)
 - 生命理工学院(2 件)、物質理工学院の学生からの意見
- 学院や志望する系が同じ人と交流したい(同様意見 2 件)
- 4～6 月に学食スペースを使った交流イベント

授業での交流に関する意見

- グループワーク・課題解決型の授業を増やす(同様意見 8 件)
- 系横断の必修科目を設定する(同様意見 2 件)
- どの系でもある程度のグループワーク・実習を確保してほしい

研究室間交流に関する意見

- 研究発表会のような学術的な交流ができる機会がほしい(同様意見 15 件)
- 研究室間の交流ができる機会がほしい(同様意見 14 件)
- 大学院生の交流機会・院生向けイベントがほしい(同様意見 5 件)
- 研究室と学年をまたいだ縦のつながりがほしい(同様意見 5 件)
- 研究室対抗のスポーツ大会を開催してほしい(同様意見 3 件)
- 学生室を複数研究室の大部屋にしてほしい

国際交流

- 留学生と日本人学生の交流(同様意見 14 件)
- 留学生同士の交流(同様意見 3 件)
 - 文化理解、研修旅行など

新設備・サービスについて

- すずかけ台キャンパスで交流機会や施設を増やしてほしい(同様意見 7 件)
- 医歯学系との交流(同様意見 6 件)
- 様々な専門科目で教えたい人と教わりたい人をマッチング
- 学生が自由に質問や雑談できる掲示板

現状分析

ユニット制度については肯定的な意見が多く寄せられました。本学のユニット制度は、学士課程 1 年生において同じクラスで授業を受ける学生と知り合い、友人を作るきっかけになります。

一方で、ユニット制度では異なる学院に所属する学生が同じユニットに配置されるため、ユニット内における同一学院の学生の割合は少なくなります。そのため、系所属後に同じユニットの学生と受ける授業は、基本的に学士課程 3 年の 3Q あるいは 4Q に開講される教養卒論のみです。このような状況が、同じ学院の学生と交流したいという声や、2 年生以上でもユニットに似た制度がほしい、という声につながったと考えられます。すべての学院には、学院内クラスが存在しますが、初年次専門科目では必ずしもそのクラスを活用しない場合があります。そのため、学院内クラスの活用を求める意見や、学院・志望系が同じ学生との交流を望む意見が寄せられました。

研究室配属後は、研究室内での交流が中心となり、研究室外の人との交流がなくなってしまった、という声がありました。研究室間での交流のため、研究発表のような学術的な交流の他に、スポーツ大会のような研究に直接関係しないイベントの実施を求める意見もありました。例えば、大岡山地区では学内駅伝¹が開催されています。他にも、すずかけ台地区でスポーツ大会(2024 年度は休止)²が実施されていました。

学生同士の交流の場として、新たな設備やサービスの導入を求める声もありました。すずかけ台キャンパスには大学会館があるものの、大岡山キャンパスの Taki Plaza のような交流施設を求める意見が寄せられました。本調査は東京医科歯科大学と東工大の統合前に実施されましたが、統合を形骸化しないように、医歯学系と理工学系の学生交流を求める意見がありました。具体的には、両キャンパスを巡るイベントの開催や、両学系で開講される授業の実施が挙げられました。さらに、飲食を含むイベントの開催を求める声も複数寄せられています。生協第二食堂では 2024 年度に 4 回

¹ 東京科学大学陸上競技部「第 63 回東京科学大学学内駅伝」: <https://www.titech-tfclub.net/ekiden/2024/index.html> (最終閲覧日: 2025 年 3 月 2 日)

² 東京科学大学 すずかけ台キャンパス: <https://www.szc.titech.ac.jp/> (最終閲覧日: 2025 年 3 月 2 日)

NIGHT BAR を開催しています³。

学生が自由に質問や雑談できる場として、気軽な質問や雑談には # z-campuschat-雑談-all、サークルや学生団体等の学生による参加募集には # an-campuslife-student-学生お知らせ-all という Slack チャンネルが用意されています。しかし、Slack に関する肯定的な意見も否定的な意見もあり見られなかったことから十分に周知できてないことが考えられます。

本設問では、具体的なイベントの提案だけでなく、「現状で十分であり、大学が働きかける必要はない」(同様意見 14 件)や「イベント自体を増やすより、周知に力を入れるべき」(同様意見 3 件)という意見も寄せられました。

³ 東京科学大学つばめ生協(大岡山) 公式 X: https://x.com/isct_t_coop_o/status/1882636946490765613 (最終閲覧日: 2025 年 3 月 3 日)

5 DE&I

5 DE&I

提言 5-1 DE&I に関する授業の必修化

学生の意見

本学におけるダイバーシティ・エクイティ&インクルージョン、ダイバーシティ&インクルージョン(DE&I、D&I)に関して、以下の意見が寄せられました。

- 女性用の設備を整備するだけでなく、男性のための施設状況の改善をしてほしい(同様意見 26 件)
- 女子枠導入後、女子枠に関連した中傷(セクハラ)を受けた、または見聞きした(同様意見 10 件)
- 日本的な慣習だけではなく、グローバル基準のキャンパス整備を行うべきである(同様意見 10 件)
 - 英語での情報提供を充実させてほしい
- 女子枠の導入自体が性差別である、性差別を広げるものである(同様意見 6 件)
- DE&I に関して学生があまり理解をしていないと感じるため、必須教養的な授業を作っても良いと思う(同様意見 2 件)

現状分析

東工大では、2024 年 4 月入学の学士課程入試から、総合型選抜および学校推薦型選抜において、女性を対象とした「女子枠」を導入しました¹。学勢調査 2024 は、女子枠で入学した学生が在学している状態で初めて行われた調査であり、女子枠で入学した学生やその周囲の学生からも意見が寄せられました。

また、2023 年度の統計データ²によると、東工大には全課程合わせて 1,854 人の留学生が在籍しています。学勢調査 2024 にも 409 名の留学生が回答しており、英語での情報が欲しいという意見や、ハラルフードの提供に関する意見も寄せられています。

本学理工学系では、DE&I に関する授業として、文系教養科目の選択科目で「教養特論:ジェンダー・セクシュアリティと文化批評³」や「教養特論:障害学⁴」などが開講されています。しかし、いずれも単発で開講される教養特論で、ひとつの

¹ 旧・東京工業大学「東京工業大学が総合型・学校推薦型選抜で 143 人の『女子枠』を導入」:

<https://www.titech.ac.jp/news/2022/065237> (最終閲覧日:2025 年 2 月 15 日)

² 旧・東京工業大学 統計データ 2023 年のデータ「国または地域別留学生数」: <https://www.titech.ac.jp/public-relations/pdf/facts-4-international-2023-02.pdf> (最終閲覧日: 2025 年 2 月 15 日)

³ TOKYO TECH OPEN COURSE WARE「2024 年度 教養特論:ジェンダー・セクシュアリティと文化批評」: <https://www.ocw.titech.ac.jp/index.php?module=General&action=T0300&GakubuCD=7&KamokuCD=110100&KougiCD=202433517&Nendo=2024&vid=03> (最終閲覧日: 2025 年 2 月 15 日)

⁴ TOKYO TECH OPEN COURSE WARE「2024 年度 教養特論:障害学」: <https://www.ocw.titech.ac.jp/index.php?module=General&action=T0300&GakubuCD=7&KamokuCD=110100&KougiCD=202430933&Nendo=2024&vid=03> (最終閲覧日: 2025 年 2 月 15 日)

学問領域について「〇〇学A」(100番台)→「〇〇学B」(200番台)→「〇〇学C」(300番台)のように連なって開講され、積み上げ式の学修が可能な授業ではありません。また、その他の教養科目、専門科目においても全学生がDE&I全般について考え議論するような授業は設けられていません。他大学では、以下に例示するように、DE&Iに関する授業に全学的に取り組んでいる事例があります。

他大学の例

● 大阪大学⁵

➤ ダイバーシティ&インクルージョンの世界

- ◇ 全学共通教育科目
- ◇ 学内外から毎回異なる講師を招くオムニバス形式で実施
- ◇ ダイバーシティに関して様々な側面(生物学的側面・社会的側面、法的側面、国際的側面等)からその本質を学ぶことができる

● 芝浦工業大学⁶

➤ ダイバーシティ入門

- ◇ 全学共通科目
- ◇ ①ダイバーシティの理解、②ダイバーシティの諸相、③ダイバーシティの推進・活用の実践から構成
- ◇ 講義以外に学外ゲストによるリアルな話題提供や学生間の対話が中心

多様な背景を持つ学生を受け入れ、DE&Iを推進しようとしている中で、DE&Iに関しての様々な意見が学勢調査に寄せられた現状を鑑みると、本学でも同様の対応をしていくことが必要だと考えます。特に、本学理工学系では入試女子枠の導入など、他大学よりも多様性を意識した制度の導入をしているため、継続的な学修の機会を多くの学生へ提供することの重要性は高いといえます。

以上の現状を踏まえ、社会連携・DE&I本部、ダイバーシティ推進課とキャンパスミーティングを実施し、以下のような回答をいただきました。

Q1. DE&Iの理解促進のためには議論の機会も必要だと認識しています。DE&Iについて意見交換する場所として現状設けられている、または設置を検討している機会があれば教えていただきたいです。

A1. 2024年10月1日より、DE&I推進のため、社会連携・DE&I本部にDE&I部門を設置しております。

大学全体としてDE&Iを推進するためには、各所の状況を把握していく必要があると考えており、DE&I部門には、

⁵ 大阪大学ダイバーシティ&インクルージョンセンター「授業 ダイバーシティ&インクルージョンの世界」:
<https://www.di.osaka-u.ac.jp/diversity-and-inclusion/> (最終閲覧日: 2025年2月15日)

⁶ 芝浦工業大学 ニュース・プレスリリース「芝浦工業大学では全学共通科目としてダイバーシティ科目を取り入れています」:
<https://www.shibaura-it.ac.jp/headline/detail/nid00001907.html> (最終閲覧日: 2025年2月15日)

DE&I 推進員として、各学院等、関係事務部署等の教職員が参画し、連携が取れる体制をとっています。

また、DE&I について学生同士で議論や意見交換する場として、2025 年度より、全新入生共通の必修科目である「立志プロジェクト」の 1 テーマとして取り上げることが決定しています。

Q2. DE&I に関する授業の必修化について提言しようとしているのですが、そのようなことは検討されていますか。

A2. 前述の「立志プロジェクト」に加え、2025 年度より、ダイバーシティ・エクイティ・インクルージョン科目は、文系教養科目(選択必修科目)として、以下の通り 3 クラス開講いたします。

- 1Q 水曜 34 限(400 番台) 文系エッセンス 57 (英語開講):
Diversity, Equity, and Inclusion (DEI)
- 2Q 水曜 34 限(400 番台) 文系エッセンス 57 (日本語開講):
ダイバーシティ・エクイティ・インクルージョン (DEI)
- 3Q 月曜 56 限(100 番台) 教養特論:
ダイバーシティ・エクイティ・インクルージョン (DEI)

100 番台のクラスは、通常は 1 年生向けなので 1 年生の受講を優先としますが、関心のある方は学年を問わず、講義室の最大収容人数まで聴講が可能とのことです。(現時点では上級生の単位取得はできませんが、希望者は聴講という形で受講が可能です。)

400 番台科目は、大学院生用の科目です。英語開講・日本語開講となっておりますが、英語・日本語の習熟度はあまり気にせず、どなたでも関心のある方を歓迎とのことです。

さらに、文系教養科目「教養特論:障害学」において、DE&I 部門では、ろう者による講義支援をおこなっており、手話通訳者 2 名の配置に係る経費支援を行いました。

Q3. 授業を設置するに至った背景を教えてください。

A3. 以前から DE&I に関してきちんと学んでコンセンサスを取ることに注力するべきだという話は挙がっていました。教職員向けにはアンコンシャスバイアス研修がありますが、学生に対してはそういったものがないため、方法を検討していました。学生向けにはリベラルアーツで授業に組み込んでいくことが望ましいという方向性で進み、2025 年度から具体化できる運びとなりました。今後、形態が変わる可能性もありますが、できる範囲でまずは立志プロジェクトや 100 番台科目から少しずつ導入していくことになりました。

提言

以上を踏まえて、DE&I に関する授業の必修化について次のように提言します。

1. 2025 年度から立志プロジェクトの 1 テーマとしてとして扱うこととなった DE&I について、以降も継続的に扱う
2. 200 番台、300 番台の選択科目での設置を目指す

キャンパスミーティングを通じて、DE&I に関する授業や議論の場を確保しようとする取り組みが進んでいることがわかりました。大学統合に伴い、より多様な学生との交流機会が増えていきます。その中で各学生が DE&I について考え、議論する機会を継続的に確保することに大きな意義があると考えます。できるだけ多くの学生にこうした機会が提供されることを要望します。

提言 5-2 対象者を拡大したリフレッシュスペースの設置

学生の意見

設問 No. 6-9「学内の施設に関する意見があれば教えてください。」と設問 No. 9-2「ダイバーシティ・エクイティ&インクルージョン、ダイバーシティ&インクルージョン（DE&I、D&I）の観点から全ての学生が過ごしやすくするために、改善すべき点があれば教えてください。」に以下の意見が寄せられました。

- 女性専用リフレッシュスペースを設置するのであれば、男性専用、男女兼用のリフレッシュスペースが欲しい（同様意見 26 件）
 - 一女子学生として、体調が優れずそのようなスペースで過ごしたい人は男女関係なくいると思う
 - 「女性向け」以外の施設の整備を中長期的な計画を立てて、着実に進めていく必要があると思う
 - 男女兼用でも個室ライクなリフレッシュスペースが欲しい
- 仮眠室が欲しい（同様意見 12 件）
 - 男女関係なく横になれる仮眠できる空間を設置してほしい
- 女性専用リフレッシュスペースの設置など、女性の特別扱いはやめてほしい（同様意見 4 件）
 - 反感を買うからやめてほしい

現状分析

東工大は、2023 年 10 月に「女性活躍環境改善モデルプロジェクト」として、大岡山キャンパスに本館に女性専用のリフレッシュスペースを新設しました¹。本学の女子学生、女性教職員は授業の合間や昼休みなど、開室時間内は自由に利用することができます²。このリフレッシュスペースの認知度は高いようで、設問 6-9「学内の施設に関する意見があれば教えてください。」や設問 9-2「ダイバーシティ・エクイティ&インクルージョン、ダイバーシティ&インクルージョン（DE&I、D&I）の観点から全ての学生が過ごしやすくするために、改善すべき点があれば教えてください。」に女性専用リフレッシュスペースに関する意見が多く寄せられていました。

特に、男性にも同様に「横になれる」スペースが欲しいという声が多くありました。以前より学勢調査には仮眠室を求める声が寄せられていますが、設置には至っていません。したがって、全学として横になることが想定されているスペースは休養室、リフレッシュスペースに限られます。実際に女性専用リフレッシュスペースの存在に疑問を持つ意見の中に、学生の意見で取り上げた意見の他にも、

- 体調が優れないときに横になりたい学生は女子学生だけではない

¹ 旧・東京工業大学「本館に女性専用のリフレッシュスペースを新設 女性活躍環境改善モデルプロジェクト」:
<https://www.titech.ac.jp/news/2023/067802>（最終閲覧日: 2025 年 2 月 19 日）

² 東京科学大学 DE&I 部門 理工学系「休養室・リフレッシュスペース・車いす」:
<https://www.gec.jim.titech.ac.jp/promotion/rest/>（最終閲覧日: 2025 年 2 月 19 日）

- 男性も多くの人は他人の目があるところで横になろうとは思わない
- 男性も周りを気にせず休める場所が欲しいと思っている可能性を考慮しないのは差別と取られかねない

といった声が寄せられました。女子学生には横になれる場所があるのに男子学生にはないという印象を与えていることが、今回このスペースに対して寄せられた意見の背景となっていると考えられます。

以上の現状を踏まえて、社会連携・DE&I 本部、ダイバーシティ推進課とキャンパスミーティングを実施し、以下のような回答をいただきました。

Q1. 女性専用リフレッシュスペースの設置意図、用途について改めて教えてください。

A1. 東京工業大学基金における寄附メニュー「女性活躍応援基金³」の中で実施した、女子学生・女性研究者のための環境整備に係る「女性活躍環境改善モデルプロジェクト」による支援を基に設置されたものです。

用途としては、設置の検討の際に寄せられた「体調が悪いときに周りの目を気にせず横になれるスペースがほしい」との意見を踏まえ、女子学生、女性教職員が授業の合間や昼休みなど、開室時間内は自由に利用できるスペースとしております。

Q2. 女性専用リフレッシュスペースの利用者数などについて把握し、効果検証をしていますか。

A2. このスペースは、本学の女子学生、女性教職員であれば、事前予約等が不要で自由に利用できるスペースとして開放しており、利用者数の把握は行っておりません。

利用者に対しては、2024 年度初めにアンケート調査を実施し、その結果をもとにリフレッシュスペース横のトイレに生理用品を設置いたしました。

Q3. 学勢調査 2024 の「学内の施設に関しての意見があれば教えてください」という設問に、
「女性の特別扱いはやめてほしい」

「女性だけではなく、男性も体調不良のときに横になれる場所が欲しい」

といった声が寄せられています。このような意見は把握されていますか。

A3. 現在スペースの管理をいただいている理学院の事務とモデルプロジェクトを実施した際に、女性リフレッシュスペースにかかるアンケートを社会連携課で行った際には、男性休養室に関する意見は寄せられていませんでした。男性の休養室が欲しいという意見に関してですが、リフレッシュスペースではないものの、休養室の整備は進んでいます。これまで女性専用の休養室を優先して進めてきたというのは事実ではあります。女性用のスペースはある程度整備できてきていると感じているため、男性も利用できるスペースを整備していくことが次年度からの課題であると認識しています。

³ 東京科学大学「女性活躍応援基金」: <https://www.isct.ac.jp/ja/003/fund/support-areas/empowering-women>（最終閲覧日: 2025 年 3 月 15 日）

Q4. 今後、女性専用に限らず、男性やその他の属性に向けたリフレッシュスペースの設置は予定されていますか。

A4. 建物のスペースによって制限されるところがあるので、今具体的にどこにということとはできないのですが、設置に向けて動いているところです。

また、現在女性しか利用できない休養室の利用対象者を変えていくことで、女性だけではなく、体調不良の男性でも休めるように計画をしているところもあります。

提言

以上を踏まえて、リフレッシュスペースに関して次のように提言します。

1. 女性専用リフレッシュスペースについて、学内から幅広く意見を集める

リフレッシュスペース利用者を対象としたアンケートでは、リフレッシュスペース自体の改善にはつながるものの、対象外の人のリフレッシュスペースの需要に気づくことができません。多くの学生が納得できるようにするためにも、幅広く意見を集めることが必要だと考えます。

2. 男性が利用可能なリフレッシュスペースを新設する

キャンパスミーティングを通して、男性向けの休養室設置に向けた動きが進んでいることがわかりました。学生全員にとって過ごしやすいキャンパスを作っていくためにも、女性だけではなく、段階的に男性、そしてその他の性に向けた施策を行うことも重要だと考えます。

要望まとめ

設問 No. 6-9「学内の施設に関しての意見があれば教えてください。」に本館の女性専用リフレッシュスペースを利用する学生から寄せられた、リフレッシュスペースの環境改善のための要望をまとめます。

- 横になれるようにと謳われているのに、話や自習ができる環境になっているのは、目的に適っていないのではないか(同様意見 3 件)
- 利用可能時間を延ばしてほしい(同様意見 2 件)
- 壁際のソファにカーテンが欲しい(同様意見 2 件)
- リフレッシュスペース横のトイレの足元が開いているのは恥ずかしい(同様意見 2 件)

女性専用リフレッシュスペースは女性であれば自由に利用できるスペースであるため、利用方法は制限されません。一方で、「体調が悪いときに周りの目を気にせず横になれるスペース」と謳っていることから、リフレッシュスペース内でも周りの目を気にせず休める環境を整備することは必要だと考えます。

提言 5-3 入試改革目標の明確化

学生の意見

本学の入試改革について、以下の意見が寄せられました。

- 女子枠の反対・縮小を求める(同様意見 88 件)
- 女子枠への説明を求める(同様意見 31 件)

現状分析

学勢調査 2024 では、設問 No. 9-2「ダイバーシティ・エクイティ&インクルージョン、ダイバーシティ&インクルージョン (DE&I、D&I) の観点から全ての学生が過ごしやすくするために、改善すべき点があれば教えてください」と設問 No. 9-4「最後に全体を通して意見があれば自由に記入してください。」に入試女子枠への意見が多く寄せられました。学生の関心が高いことが分かります。

最も多かった意見は、女子枠への反対意見です。反対の理由としては特に以下の意見が多く寄せられました。

- 女子への差別につながる(同様意見 22 件)
- 男子への逆差別となる(同様意見 11 件)

次に多かったのは、女子枠設置について説明を求める意見です。特に説明を求める理由として以下の意見が寄せられました。

- 意義を改めて伝えてほしい(同様意見 12 件)
- 女子枠導入による効果を検証・公開してほしい(同様意見 3 件)
- 女子枠における目標を知りたい(同様意見 2 件)

本調査では女子枠に関する選択式の設問を設けていませんが、学勢調査 2022 追加調査では、女子枠に関連した調査を行いました。設問 No. 27「女子学生の比率が増えることについてどう思いますか」では、女子枠という入試方法から離れて、大学内で女子学生の比率が増加することそのものについての意見を調査しました。そして、設問 No. 30「女子学生比率の増加という目的とその方法論を受けて、女子枠を導入するという取り組み全体についてどう思いますか」では、女子枠という入試での取り組み自体への賛否を調査しました。

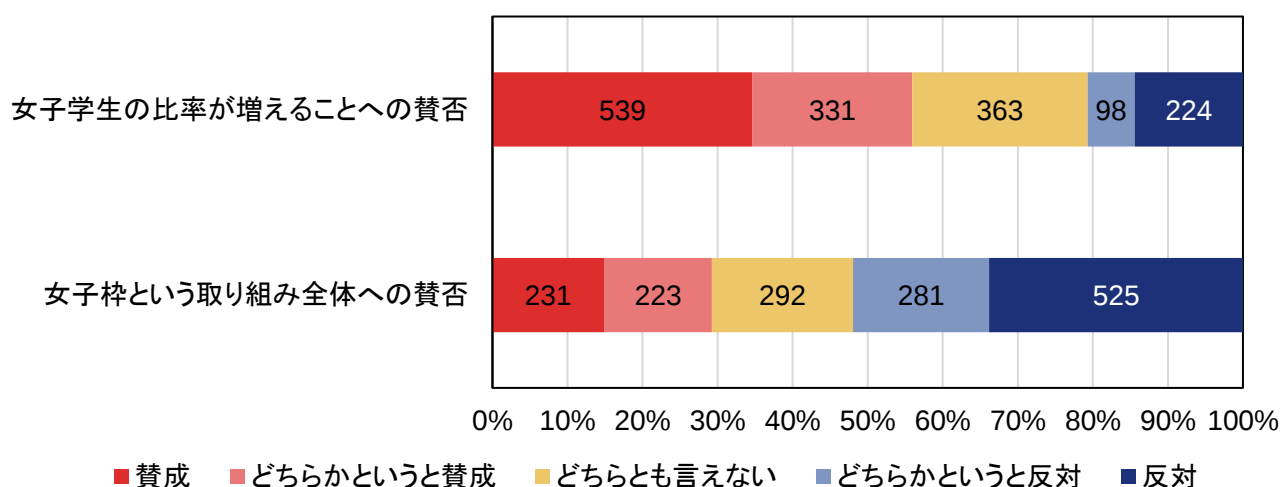


図 5-3.1 学勢調査 2022 追加調査

設問 No. 27「女子学生の比率が増えることについてどう思いますか」と設問 No. 30「女子学生比率の増加という目的とその方法論を受けて、女子枠を導入するという取り組み全体についてどう思いますか」の回答比率と回答数

その 2 問について、回答比率と回答者数をまとめたデータを図 5-3.1 として示します。女子比率が増えることそのものについては、過半数の学生が肯定的な意見を持っていることが分かります。一方で、女子枠という取り組みについては、「どちらかという反対」と「反対」という回答の和が過半数を占めており、「賛成」と「どちらかという賛成」の和については回答の約 3 割という結果になりました。

2025 年度 4 月入学者のための入試では、総合型・学校推薦型選抜を合わせて 143 人の女子枠を導入しています。この人数は学士課程 1 学年の募集人数 1,028 人の約 14% を占めます。現在の学士課程全体の女性比率は約 13% です。女子枠の導入により、学士課程入学者の女性比率は 20% 以上になることを見込んでいます¹。

本学 HP²では、女子枠導入の意義として、「本学のみならず、日本の学士課程の理工系の女性比率が低迷しているのは、その根底に歴史的な男女差別やアンコンシャスバイアス（無意識の偏見）の影響があると考えられます。（中略）学びの環境におけるダイバーシティ&インクルージョン（D&I）推進の第一歩として、理系分野は男性の領域だから、あるいは本学の女子学生は少数派だからなどといったアンコンシャスバイアスにとらわれることなく、優秀な女子学生にぜひ本学に入学してほしいというメッセージを強烈に打ち出す必要があると考え、一般選抜（前期日程）とは異なる総合型選抜及び学校推薦型選抜のなかに、一般枠とならんで女子枠を導入する判断をしました。『女子枠』導入は、それを是正するため

¹ 旧・東京工業大学「東京工業大学が総合型・学校推薦型選抜で 143 人の「女子枠」を導入」:

<https://www.titech.ac.jp/news/2022/065237>（最終閲覧日：2025 年 2 月 25 日）

² 旧・東京工業大学「東工大ダイバーシティ&インクルージョン」:

<https://www.titech.ac.jp/diversity-inclusion#initiatives-system>（最終閲覧日：2025 年 2 月 25 日）

のポジティブアクション(男女共同参画社会基本法第2条に定義される『積極的改善措置』)の一つです。この環境の実現に向けて、性別だけでなくエスニシティなど多岐にわたる配慮を行いつつ、男性が圧倒的多数を占める本学学生数の現状において、男女格差の是正を行うことはD&I実現の一步となります。」と説明しています。

また、ポジティブアクションの取り組みの期限として、「今回の『女子枠』導入にとどまらず、多様性を確保するための諸施策を引き続き実施し、それらの効果について常に検証するとともに、『女子枠』を上記のポジティブアクションとしての**特別措置**と捉えて、今後も、D&Iの進捗状況に応じて、**施策実施期間の設定・選抜方法等を見直していく方針**」(太字・下線は学生スタッフによる)と説明しています。一方で、本学は「施策実施期間の設定・選抜方法等」については公開していません。また、学士課程における女性比率増加やアンコンシャスバイアスの解消を調べるための指標や方法も示していません。

これらの現状を踏まえ、女子枠が設置された経緯と目標設定について調査するため、入試課とのキャンパスミーティングを実施し、以下の回答をいただきました。

Q1. 女子枠における具体的な目標(特に数値目標)は設置・公表されていますか。

A1. 具体的な目標(特に数値目標)は、設置・公表していません。

Q2. 女子枠の効果は具体的にどのように検証している、またはする予定でしょうか。

A2. まずは女子枠を設置した効果として女性比率が上がったかどうか、さらに、入学後の成績も含めて検証を行い、常に見直しを行っていく予定です。

Q3. 目標が達成されるか達成が近づいた際に、女子枠は撤廃されますか。

A3. 具体的な目標を設置しているものではありませんが、女子枠の設置は時限的な特別措置のため、女子枠の設置が必要なくなるくらい女子学生が増えれば、見直されることになります。

Q4. 女子枠の女子の定義(社会的・精神的な性ではなく、戸籍上の性で定義する方法)、人数、選抜方法はどのような経緯で設定されたのでしょうか。

A4. 決定は学長のリーダーシップによるトップダウンですが、総合型・学校推薦型選抜は各学院で実施するため、各学院で綿密に議論・検討を行い、大学として取りまとめました。

提言

以上を踏まえて、女子枠導入をはじめとした入試改革について次のように提言します。

1. 女子枠設置を通じた女子学生の割合向上や男女格差の是正における具体的な目標を設定し、公開する

女子枠における目標設定がされないまま、施策だけが先行している状況だと考えます。施策実施期間の設定・選抜方法の見直しのために、まずは目標を設定し、公開することを求めます。

2. 女子枠を特別措置と考え、目標達成までのロードマップを作成し、公開する

本学 HP³において、女子枠はポジティブアクションの一環として位置付けられています。

- 効果検証方法
- 同時に実施する諸施策

などの検討・実施状況が明確になっておらず、どのように入試改革の目標を達成するのか明確ではありません。そのため、女子枠という特別措置の施策廃止までのロードマップを作成し、公開することを求めます。

女子枠以外の入試方式の要望

女子枠に対する意見の中に、次のような意見が寄せられました。

- 女子枠を導入するのであれば、他の入試方法も検討すべき(同様意見 12 件)

このような他の入試方法を検討すべきという意見のうち、具体的な方法として挙げられていたものは以下の通りです。

- 地方出身者枠(同様意見 7 件)
- LGBTQ 枠(同様意見 2 件)
- 障害者枠
- 生物入試

入試課とのキャンパスミーティングでは、女子枠の設置された経緯と目標設定についての質問と同時に、他の入試方式の検討状況についても、以下のように回答をいただきました。

Q5. より多様な学生に入学してもらうため、一般入試での理科学科目に生物入試を導入することは可能ですか。できないとしたら何が課題ですか。

A5. 検討中です。

Q6. 医歯学系の保健衛生学科や口腔保健学科は理工学系の男性比率よりもさらに高い女性比率です。そのような学部について、男子枠の設置はありますか。

A6. 今のところ、その予定はありません。

真に多様性を推進する環境を育てるための入試方式として、「女子枠」に限定されない、様々な方法が挙げられています。他の「枠」や生物科目の導入など、より多様な観点を取り入れた入試制度が求められています。

³ 旧・東京工業大学「東工大ダイバーシティ&インクルージョン」:
<https://www.titech.ac.jp/diversity-inclusion#initiatives-system> (最終閲覧日: 2025 年 2 月 25 日)

6 その他

6 その他

提言 6-1 「すずかけ」名称の継続的な使用

学生の意見

すずかけ台キャンパスの名称について学生から以下の意見が寄せられました。

- すずかけ台キャンパスを横浜キャンパスに名称変更しないでほしい(同様意見 36 件)

現状分析

すずかけ台キャンパスの名称変更についての検討が進められていることが、一部報道 や大学 HP にて、2021 年 3 月に明らかになりましたが、その後、大学から正式な発表がないために名称変更が承認されたかどうかは明らかになっていませんでした。しかし、2024 年 6 月 21 日に実施された、国立大学法人東京工業大学 令和6年度第6回役員会の議事要録に、「芝田理事・副学長から、資料2に基づき、すずかけ台キャンパスの『横浜キャンパス』への名称変更について説明があり、審議の結果、これを承認した」との記載がありました¹。大学から名称変更が公に発表されたわけではないものの、役員会議事要録が公開されたことにより、すずかけ台キャンパスの名称変更が承認されたことが明らかになりました。

第6回役員会議事要録は、学勢調査 2024 調査期間である 2024 年 6 月 24 日から 7 月 24 日までの間に公開されたと思われるため、本調査では名称変更に関する設問を設けていません。しかし、

- 設問 No. 8-1「現行の東工大の制度のうち、統合後も変えないで欲しい制度は何かありますか、またそれはなぜですか。」
- 設問 No. 9-4「最後に全体を通して意見があれば自由に記入してください。」

には、合計 39 件²の名称変更に対抗する意見が寄せられていることから、学生からの関心の高さがうかがえます。

すずかけ台キャンパスは 1975 年に「長津田キャンパス」として開設されました。1979 年からはすずかけ祭が開催されています。2001 年に本学の創設 120 周年を記念して、長津田キャンパスは最寄り駅であるすずかけ台駅にちなみ、「すずかけ台キャンパス」に名称変更しました。その翌年には、すずかけ台学生会館が設立されました。学生会館は「すずかけホール」という呼称で親しまれています³。2019 年からはすずかけ祭をすずかけサイエンスデイに名称変更し、開催されています。

¹ 旧・東京工業大学「国立大学法人東京工業大学 役員会議事要録 令和6年度 第6回 役員会 議事要録」:
<https://www.somuka.titech.ac.jp/somu/yakuinkai/R6/yakuinR6-6.pdf> (最終閲覧日: 2025 年 3 月 8 日)

² 1 名の回答者が両設問に本件に関する回答をした場合は 1 件とカウント

³ 東京科学大学 すずかけ台学生会館: <https://www.szc.titech.ac.jp/gakumu/sub1.html> (最終閲覧日: 2025 年 2 月 20 日)

その他

「すずかけ台」という名称は東急田園都市線すずかけ台駅の駅名として初めて使用されました。この駅は 1972 年に開通しました。本学の新たなキャンパスの最寄り駅となる新駅名として、本学から「すずかけ」の名称が提案され、東急側がそれを受け入れたことで、「すずかけ台」という駅名が誕生しました。「すずかけ」という名称は、プラトンが主催したアカデミアに植えられていたというスズカケノキから着想を得て、谷口修名誉教授が提案したものです⁴。

これらの現状を踏まえて、すずかけ台キャンパス名称変更の経緯と理由、学内での意見収集の機会を調査するため、再開発推進課・すずかけ台総務課とのキャンパスミーティングを実施し、以下のような回答をいただきました。

Q1. Science Tokyo HP にて公開されている「令和6年度 第6回 役員会 議事要録」にすずかけ台キャンパスの「横浜キャンパス」への名称変更について承認された、との記載がありました。名称変更についてのこれまでの経緯と理由について教えていただきたいです。

A1. キャンパス所在地の地元自治体である横浜市との連携を強化していくため、横浜市と本学は 2021 年 3 月に包括連携協定を締結しています。協定のポイントは、

- イノベーションの創出及びスタートアップ支援に向けた拠点形成の推進
- 理工系総合大学の研究資源を活かした地域の教育活動、国際化等の推進

となっており、協定締結に向けた協議の中で、「横浜キャンパス」への改称という話が出たことが発端です。その後、2022 年 2 月に策定した「キャンパス・イノベーションエコシステム構想 2031⁵」において、すずかけ台キャンパスを、多様な地域貢献を含め横浜市との連携協力のもと、イノベーション拠点として再開発を進めていくこと、横浜キャンパスへの改称を検討中であることを公表しています。

これらの状況を踏まえて学内検討を重ね、2024 年 6 月の役員会において、すずかけ台キャンパス創立 51 年目の節目である 2026 年 4 月から「横浜キャンパス」に名称変更することを決定しました。

Q2. 名称変更について学内で意見を募る機会がありましたか。

A2. 名称変更は事務負担も大きくなります。すずかけ台キャンパスで活動する教職員の方々にご意見を伺い、国際的なキャンパスにしたい、ということで横浜の名称を取り入れることに理解が示されました。

Q3. キャンパス名称変更について、学内外から意見を募る機会を設けようとはしていますか。（学内でのアンケート、パブリックコメント等）

A3. 名称変更に関する公表時期は現在調整中ですが、現時点で、今後学内外から意見を募る予定はありません。

⁴ 東京科学大学 生命理工学院 生命理工学系「『すずかけ台駅名由来記』谷口 修 名誉教授」:
https://www.bio.titech.ac.jp/access/access_pdf/suzukake.pdf（最終閲覧日: 2025 年 2 月 24 日）

⁵ 東京工業大学 キャンパス革新オフィス「キャンパス・イノベーションエコシステム構想 2031」:
<http://www.xcio.sisetu.titech.ac.jp/xcie2031/>（最終閲覧日: 2025 年 2 月 20 日）

提言

以上を踏まえて、キャンパス名称変更について次のように提言します。

1. すずかけ台キャンパスから横浜キャンパスへの名称変更後も、キャンパス内での施設名やイベント名には「すずかけ」の名称をできる限り残す方向で検討を進める

名称変更については、すずかけ台キャンパスで主に活動する教職員の間で一定の合意が得られたと考えられます。しかし、本調査では名称変更に関する設問を設けていないにもかかわらず、「すずかけ」という名称が学生から愛されていることが分かる意見が多数寄せられました。長津田キャンパスの時代から、「すずかけ祭」など、すずかけ台キャンパスで施設名やイベント名に長く使用されてきた、本学にとって親しみ深い名称であることから、キャンパスの名称が変更された後も引き続き「すずかけ」の名称が使用されることが望ましいと考えます。

提言 6-2 大学執行部との対話機会の設置

学生の意見

設問 No. 9-4「最後に全体を通して意見があれば自由に記入してください。」に以下の意見が寄せられました。

- 学生の意見を聞いてほしい(同様意見 18 件)
 - 制度を変えるときは事前にアンケートを取ってほしい(同様意見 6 件)
 - 形だけの説明会はやめてほしい(同様意見 3 件)
 - 学生向け説明会の実施時刻を、授業時間帯ではなく、9-10 限のような多くの学生が授業のない時間帯に開催してほしい
 - 学生の意見をどう反映させたのか、公開すべき
- 学生に最近の取り組みの意図、メリットが伝わっていない。当事者である学生に受け入れられるような取り組みをしてほしい(同様意見 5 件)
- 改革を勝手に進めて、進んでいる状態だと既成事実にしないでほしい(同様意見 2 件)
- 益前学長に対して親近感を持っている学生は多いと思うので、Slack の #z-学長の日常とひとりごと のようなチャンネルは大竹理事長も引き継いでほしい

現状分析

学勢調査 2022 実施以降、本学では東京医科歯科大学との統合と入試改革による女子枠設置をはじめとした多くの改革が実施されました。大学統合と入試改革については学勢調査 2022 追加調査でも学生から説明を求める意見が多数寄せられました。さらに、学勢調査 2024 でも本学の改革への反対意見や説明を求める意見が寄せられています。学勢調査 2024 では、「執行部との対話の機会の設置を求めますか。」などといった直接的な設問を設けていませんが、対話を求める意見が設問 No. 9-4「最後に全体を通して意見があれば自由に記入してください。」に複数寄せられたことから、執行部の取り組みに対し、学生が時に疑問を感じ、説明を求め、学生の参画を求めていることが分かります。

益前学長による大学統合と入試改革について、学生からは反対意見も寄せられましたが、改革の意義を伝えるための学生説明会と対話会は複数回実施されました。しかしながら、大学統合後、現執行部による大学運営の方針等に関わる学生説明会や学生との対話会はほとんど実施されていません。特に、全学生を対象とする説明会や対話の機会は現状、設置されていません。

益前学長による学生説明会や対話会の設置経緯、現執行部による学生説明会の実施予定を調査するため、総務課とのキャンパスミーティングを実施し、以下の回答をいただきました。

Q1. 益前学長のときは、入試改革や統合等の大きな決定については、学長による学生説明会と対話会がありました。

これはどのような経緯で設置されたのでしょうか。

A1. 益前学長による学生説明会と対話会等は、大学運営における重要な決定事項について、学生の皆さんにも直接説明する場として設けられたものです。これらの説明会等は、特に益前学長が学生にも説明が必要であると判断した場合に開催されており、大学運営における透明性を確保し、学生との対話を重視する姿勢の一環として行われてきました。このような取り組みを通じて、学生の皆さんに大学の方針や背景を理解していただくとともに、意見交換を通じてより良い大学運営を目指してきた経緯があります。

Q2. 大竹理事長による、Science Tokyo の目指すビジョン等の学生向け説明会の実施予定はありますか。

A2. 現在、大竹理事長と田中学長による Science Tokyo のビジョン等を構成員向けに説明する場として、タウンホールミーティング¹が実施されています。このタウンホールミーティングは、10 月 1 日に発足した Science Tokyo がその力を最大限に発揮するために、「執行部と構成員がこれまでの歴史と文化を尊重しつつ、一つにまとまり Our Team をつくっていくことが大切である」という理事長と学長の思いを具現化した取り組みです。

このタウンホールミーティングでは、「新大学をより善くするアイデアを共有する」というコンセプトのもと、自由でフラットな雰囲気の中で双方向のコミュニケーションが行われています。また、「多忙で時間がつかれない、意見を言っても仕方がないと思ったとしたら、その部分に重要なヒントが隠れているはず。できるだけ多くの想いや提案を届けて欲しい」との呼びかけも行われています。今後、学生に対しても、このようなタウンホールミーティングを実施します。

ぜひ、多くの学生に参加していただきたいです。

Q3. タウンホールミーティングの開催形式について教えてください。

A3. 最初は大竹理事長と田中学長が Science Tokyo のビジョン等を説明した後、参加者の質問に答える形式で実施されました。

タウンホールミーティングは対話によるアイデア共有を目的としたミーティングです。できるだけ、多くの学生が参加することが望ましいと考えられます。そのため、益前学長が実施した以下の説明会や対話会の参加人数について、

- 入試課:「『東工大の入試改革について:D&I の観点から』在学生と益学長の対話会」
- 企画戦略課:「統合して東京科学大学が目指すビジョン等に関する説明会」

への学生参加者数をうかがいました(表 6-2.1、表 6-2.2)。

¹ 東京科学大学「大竹理事長、田中学長と構成員の対話の場『タウンホールミーティング』を開催」:
<https://www.isct.ac.jp/ja/news/95mo040g3ob7> (最終閲覧日: 2025 年 2 月 26 日)

表 6-2.1 「『東工大の入試改革について:D&I の観点から』在学生と益学長の対話会」への参加者数

実施日時	開催場所	人数	使用言語
2022 年 11 月 29 日 9:30～10:30	Zoom	登録者 71 名 参加者数 不明	日本語
2022 年 12 月 1 日 12:00～13:00	Zoom	登録者数不明	日本語
2022 年 12 月 9 日 9:00～10:30	すずかけ台キャンパス J2 棟 J221 講義室	参加者 開始時 3 名 (延べ人数は不明)	日本語
2022 年 12 月 9 日 11:30～13:00	大岡山キャンパス 70 周年記念講堂	参加者 開始時 16 名 (延べ人数は不明)	日本語

表 6-2.2 「統合して東京科学大学が目指すビジョン等に関する説明会」への参加者数

日時	開催場所	人数	備考
2023 年 7 月 11 日 17:30～18:30	Zoom	登録者:343 (東京医科歯科大:168、東工大:175) 参加者:214 (東京医科歯科大:105、東工大:109)	東京医科歯科大と東工大の合同開催 言語:日本語(英語同時通訳)
2023 年 7 月 14 日 12:30～13:30	Zoom	登録者:67 参加者:43	東工大向け 言語:日本語(ウェビナーによる自動翻訳)

開催日時と場所を単純に比較することは難しいですが、授業時間外、特に 7-8 時限(医歯学系では 4 講)終了後の 17:30～18:30 にオンラインで実施した場合に参加者数が多かったことが分かります。また、対面実施での参加者数が非常に少ないことが分かります。

提言

以上を踏まえて、大学執行部との対話の機会の設置について次のように提言します。

1. 学生に対してもタウンホールミーティングを実施する
2. Q&A 形式以外の実施形式の導入とともに、参加対象、テーマの工夫をすることで、より多くの学生が参加できるようにする

対面でのタウンホールミーティングに、より多くの学生が参加するためには、実施形式や参加対象、テーマの工夫が必要だと考えます。現状実施されているタウンホールミーティングの Q&A 形式は対話の場として一定の機能を果たしますが、参加者が多い場合、発言者が限られ、結果として、一部の学生の発言を多くの学生が一方向的に聞く構図になりがちです。また、特定の話題に偏ったり、発言しにくい学生の声が埋もれたりする可能性があり、双方向性が低下し、多様な意見を十分に引き出すことが難しいという課題があります。

このような課題を解決するために、Q&A 形式以外の実施形式の導入を提案します。例えば、学生とのパネルディスカッション形式では、特定のテーマに基づいて意見交換を行うことで、執行部と学生の間でそのテーマに関するより深い議論を交わすことができ、参加者にとっても質問をしやすくなると考えられます。一方で、懇親会のようなカジュアルな場を設けることで、学生が気軽に日常的な悩みや意見を率直に話しやすい雰囲気を作ることも提案します。

さらに実施形式だけでなく、参加対象となる学生層やテーマ設定にも工夫を加えることが必要だと考えます。学院や課程によって学生が直面する課題や関心は異なります。対象となる学生層を限定したり、テーマを設定したりすることで、より関心の高い内容に焦点を当てた対話が可能となります。このように設定を明確にすることで、学生は「自分が意見を述べる場である」という意識を持ちやすくなり、対面での「双方向のコミュニケーション」と多様な意見の収集につながります。

3. 参加を希望する全学生がタウンホールミーティングに参加できることを目標とし、開催時間帯、開催場所の需要を調査しつつ、複数回実施する

これまでの説明会への学生参加状況を踏まえると、授業時間外、特に 15:25-17:05 の 7-8 時限(医歯学系では第 4 時限または第 4 講)終了後が、学生にとって参加しやすい時間帯であると考えられます。また、ウェビナー等を利用したハイブリッド形式での実施も提案します。最初のうちはタウンホールミーティングにハイブリッド形式を取り入れることで、より多くの学生が容易に参加できるようになります。また、対面実施の会場の様子を知ることで、次回以降の対面参加を促す効果も考えられます。都合のつかない人が参加を諦める形式よりも、継続的に参加ができるような形式であることが望まれます。

実施形式・参加対象やテーマ・開催時間帯と形式の工夫を通じて、特定の学生だけではなく、より多くの学生が参加しやすくなり、多様な意見を引き出すことができるようになると考えます。タウンホールミーティングが学生にとって実質的なコミュニケーションの場となるよう、試行錯誤を続け、多くの学生と対話することを求めます。

7 調査資料集

7.1 基本情報

(1) 現在、あなたの所属している課程を教えてください。

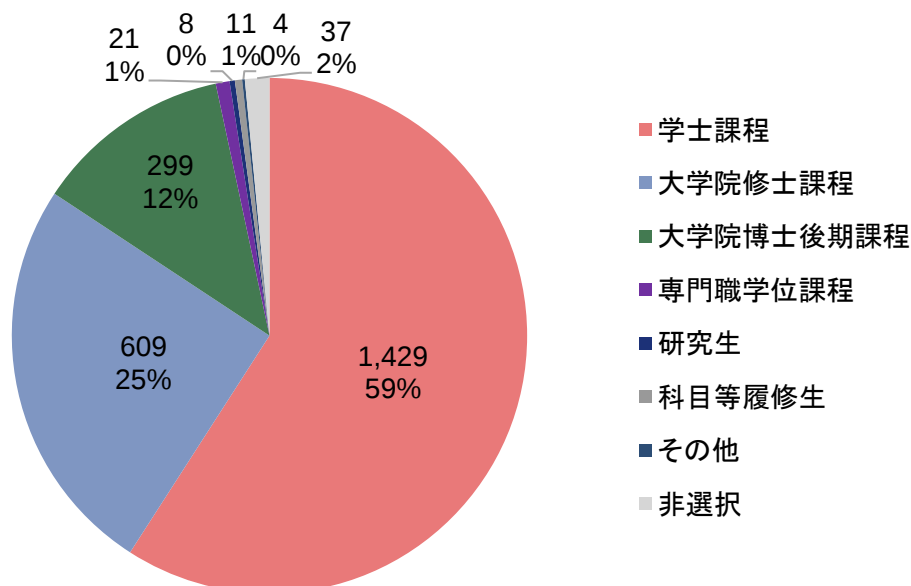


図 7-1.1 所属課程

(2) あなたの受験方式を教えてください。

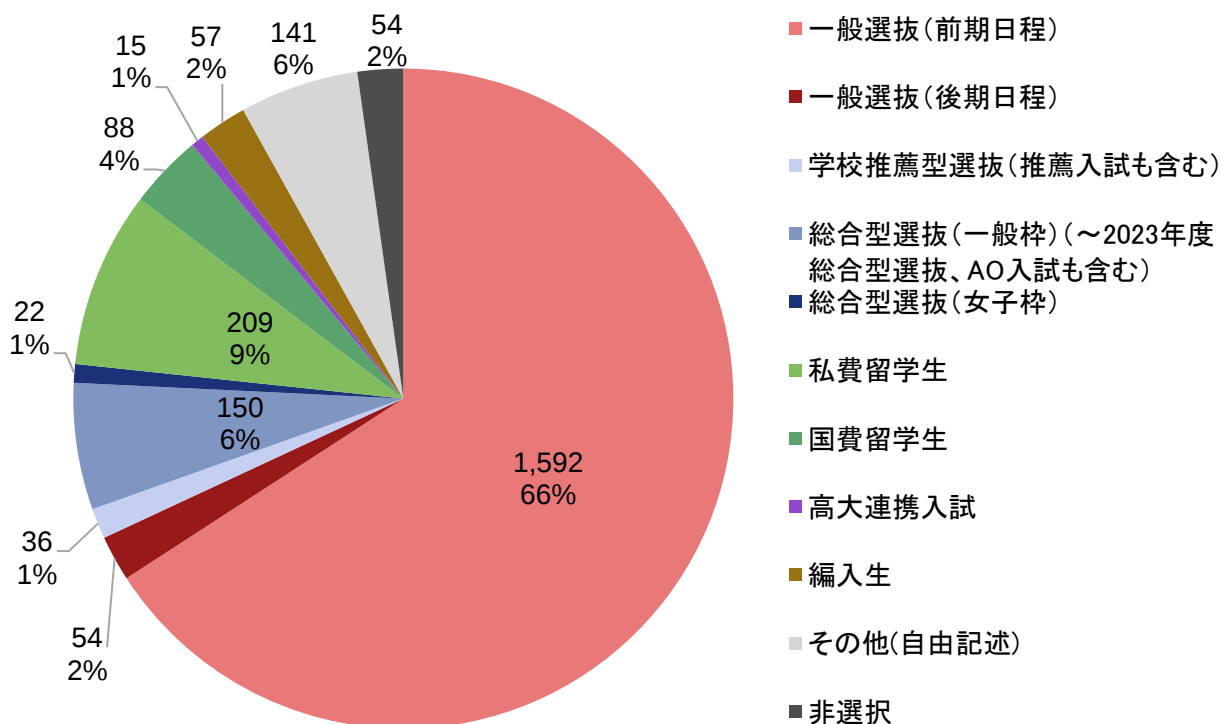


図 7-1.2 受験方式

(3) 現課程への入学年度を教えてください。

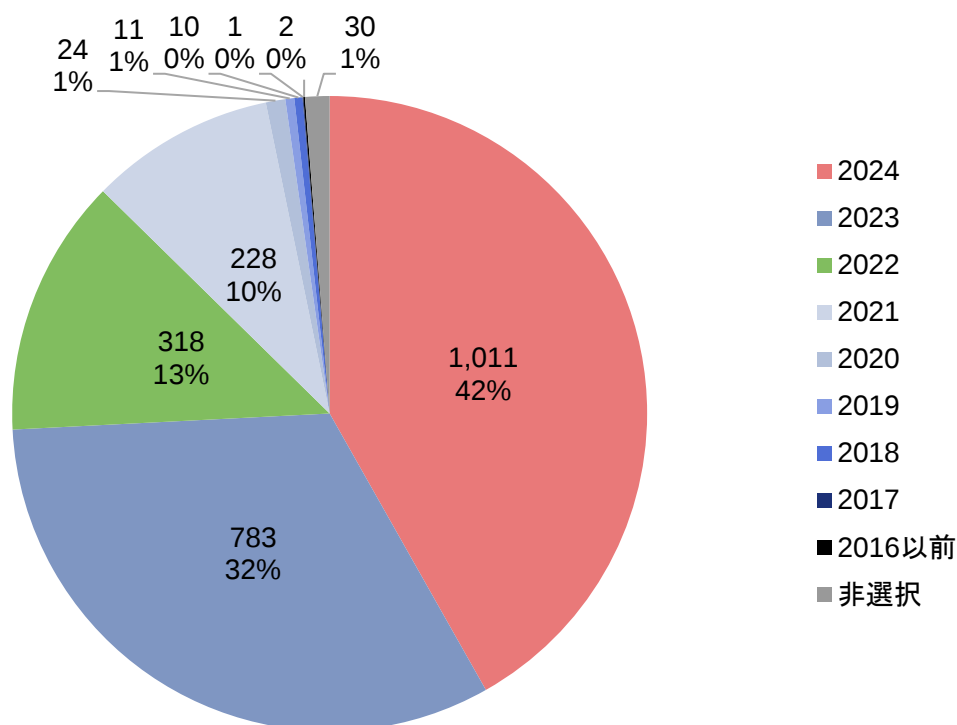


図 7-1.3 入学年度

(4) 高専や他大学に在籍していたことがある

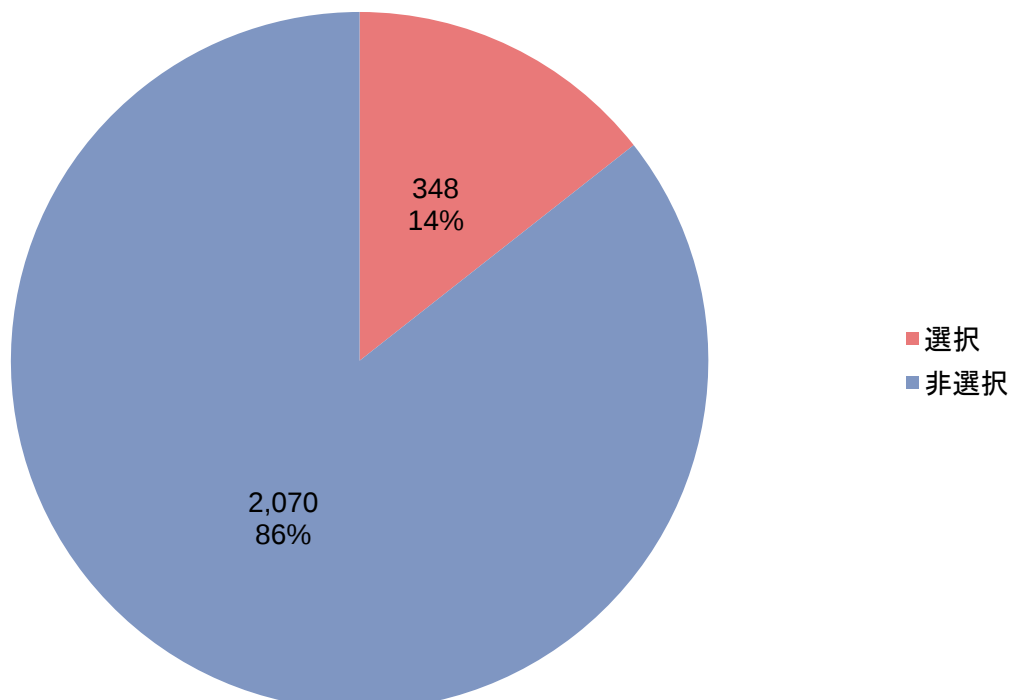


図 7-1.4 高専や他大学への在籍経験

(5) 留学生である

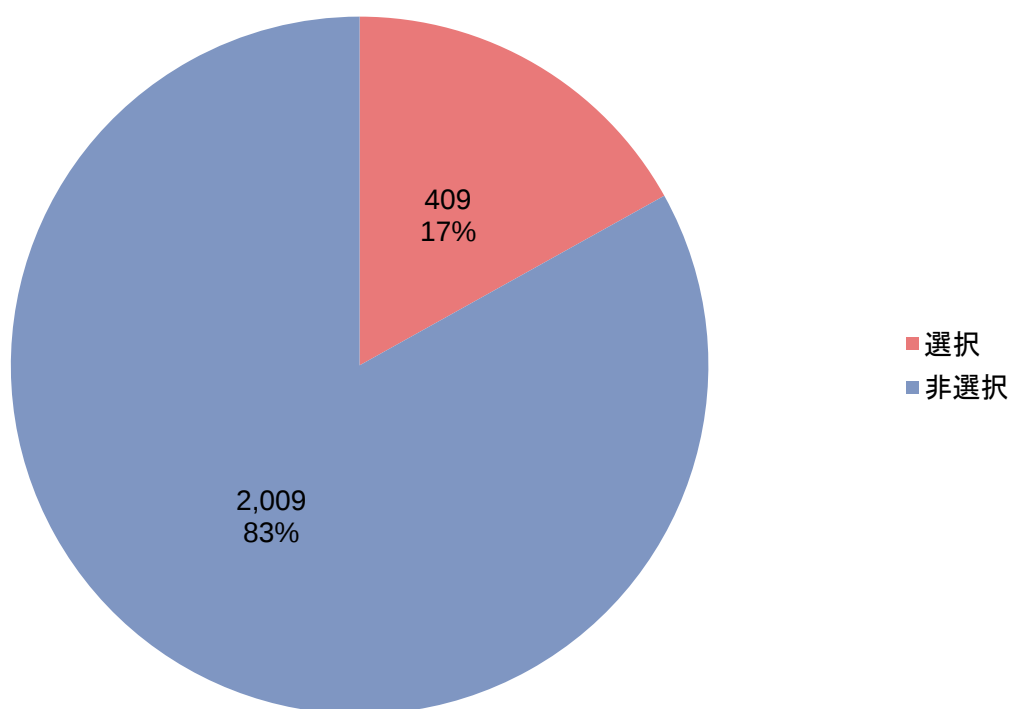


図 7-1.5 留学生であるか

(6) あなたの所属する学院を教えてください。

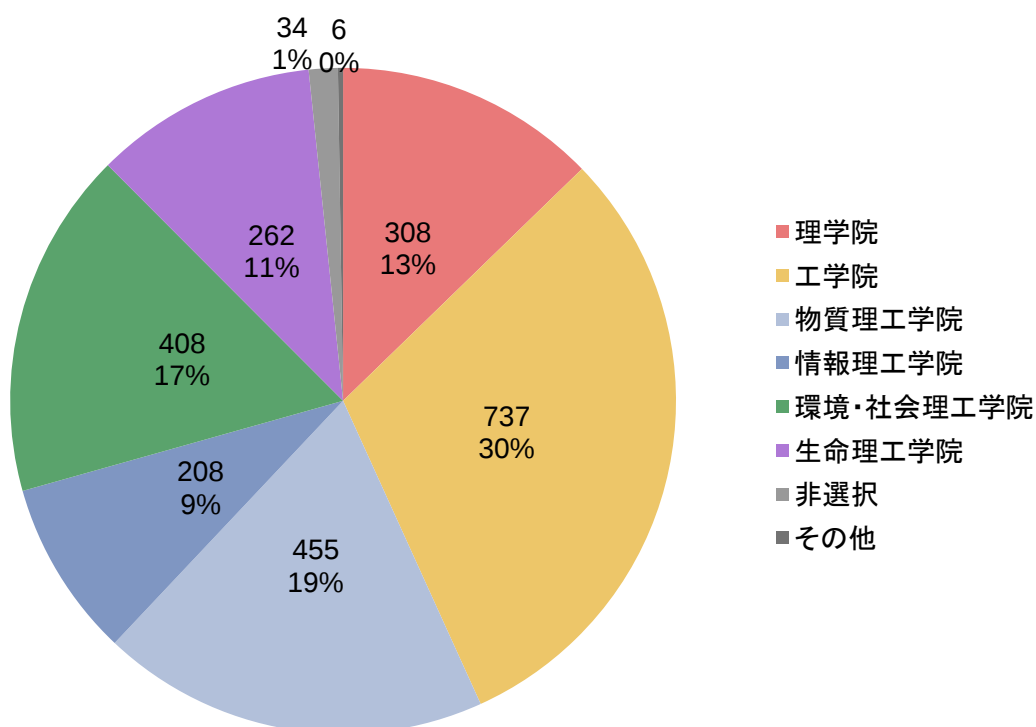


図 7-1.6 所属学院

(7) あなたの所属する系を教えてください。

表 7-1.7 所属系

系	選択者数	割合	系	選択者数	割合
数学系	46	2%	数理・計算科学系	47	2%
物理学系	73	3%	情報工学系	97	4%
化学系	52	2%	生命理工学系	182	8%
地球惑星科学系	46	2%	建築学系	87	4%
機械系	168	7%	土木・環境工学系	61	3%
システム制御系	80	3%	融合理工学系	129	5%
電気電子系	131	5%	社会・人間科学系	34	1%
情報通信系	100	4%	イノベーション科学系	22	1%
経営工学系	73	3%	系に所属していない	506	21%
材料系	192	8%	非選択	133	6%
応用化学系	159	7%			

(8) あなたの所属するコース・課程を教えてください。

表 7-1.8 所属コース

コース名	選択者数	割合	コース名	選択者数	割合
数学コース	21	0.9%	土木工学コース	33	1.4%
物理学コース	30	1.2%	地球環境共創コース	51	2.1%
化学コース	30	1.2%	社会・人間科学コース	33	1.4%
地球惑星科学コース	21	0.9%	イノベーション科学コース	9	0.4%
機械コース	74	3.1%	技術経営専門職学位課程	22	0.9%
システム制御コース	40	1.7%	エネルギーコース	13	0.5%
電気電子コース	61	2.5%	エネルギー・情報コース	19	0.8%
情報通信コース	51	2.1%	エンジニアリングデザインコース	24	1.0%
経営工学コース	27	1.1%	ライフエンジニアリングコース	42	1.7%
材料コース	102	4.2%	原子核工学コース	15	0.6%
応用化学コース	73	3.0%	知能情報コース	27	1.1%
数理・計算科学コース	25	1.0%	都市・環境学コース	37	1.5%
情報工学コース	19	0.8%	地球生命コース	6	0.2%
生命理工学コース	84	3.5%	コースに所属していない	1,092	45.2%
建築学コース	31	1.3%	非選択	306	12.7%

(9) 性別を教えてください。

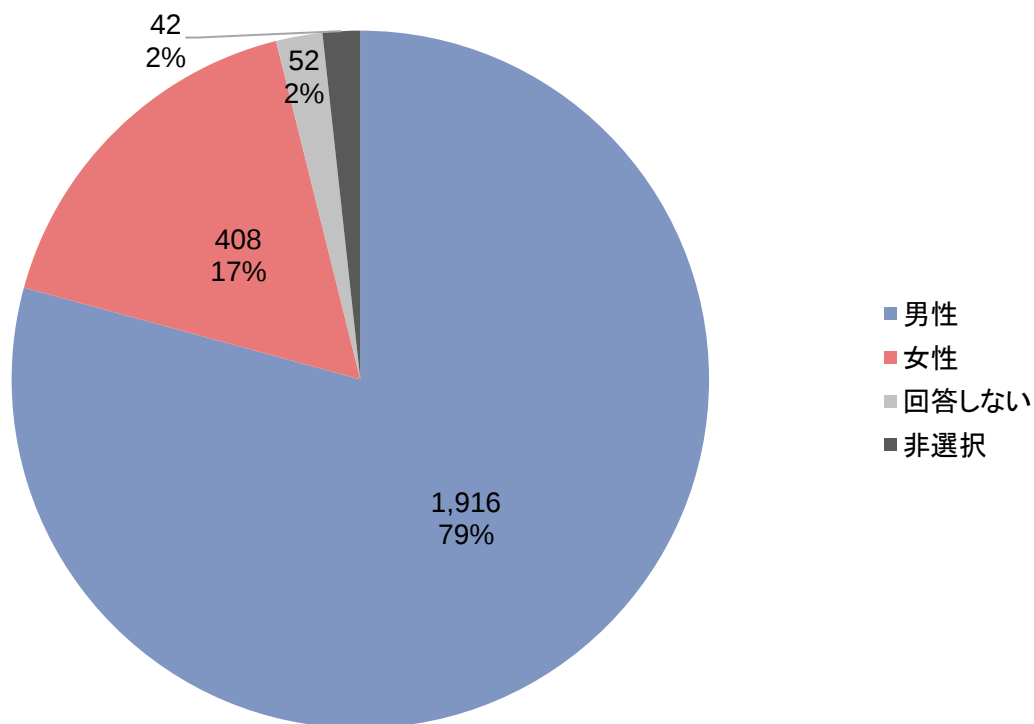


図 7-1.9 性別

7.2 大学生活

(10) キャンパスでの主な活動場所を教えてください。

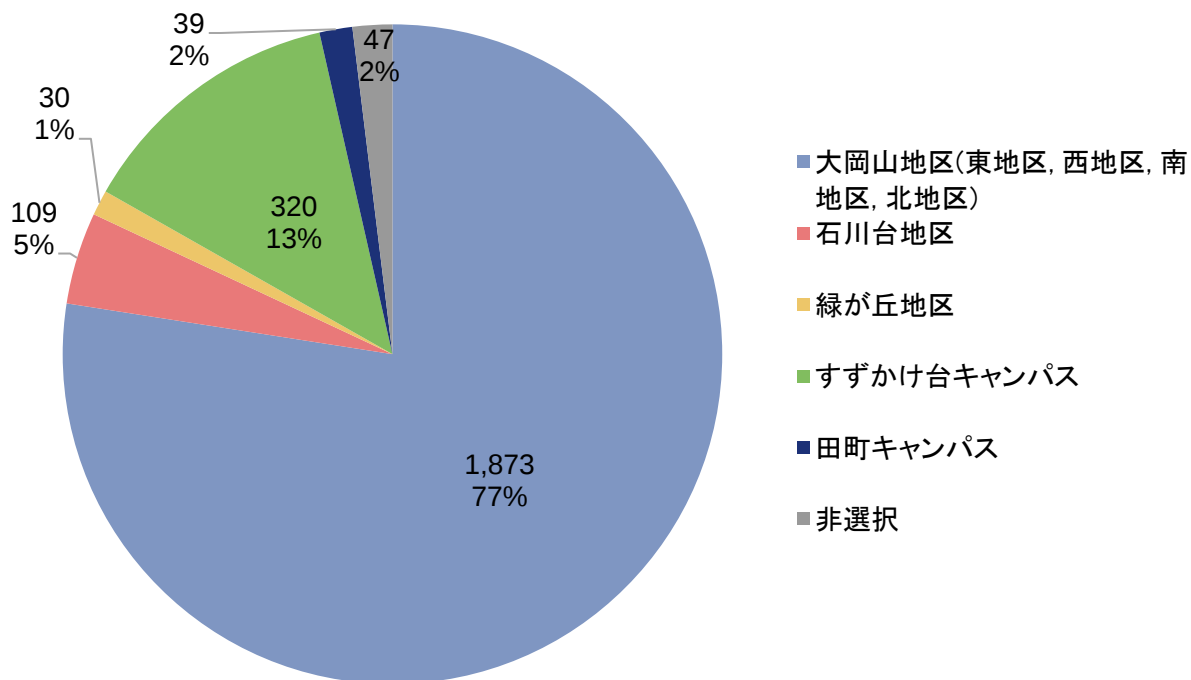


図 7-2.1 活動場所

(11) サークル等の課外活動について、参加しているものがあれば教えてください。(複数選択可)

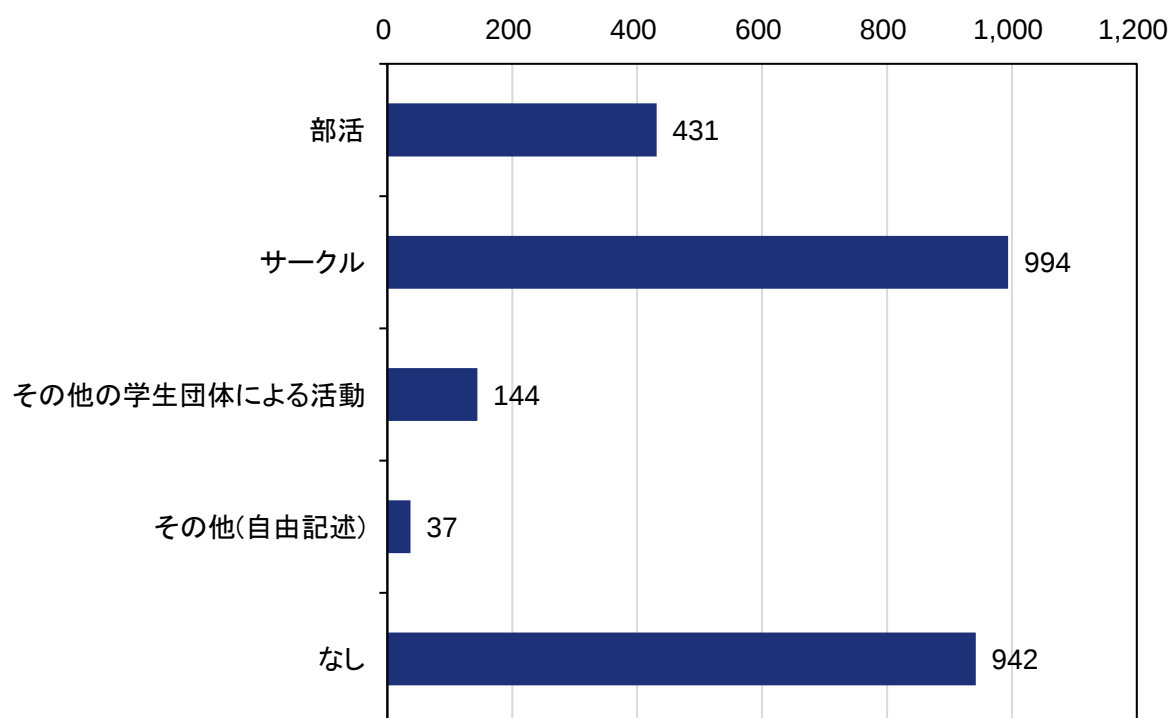


図 7-2.2 部活・サークル等への参加の有無

7.3 学修

(12) 東工大(科学大)がどのような人材を育成していくべきかについて教えてください。(複数選択可)

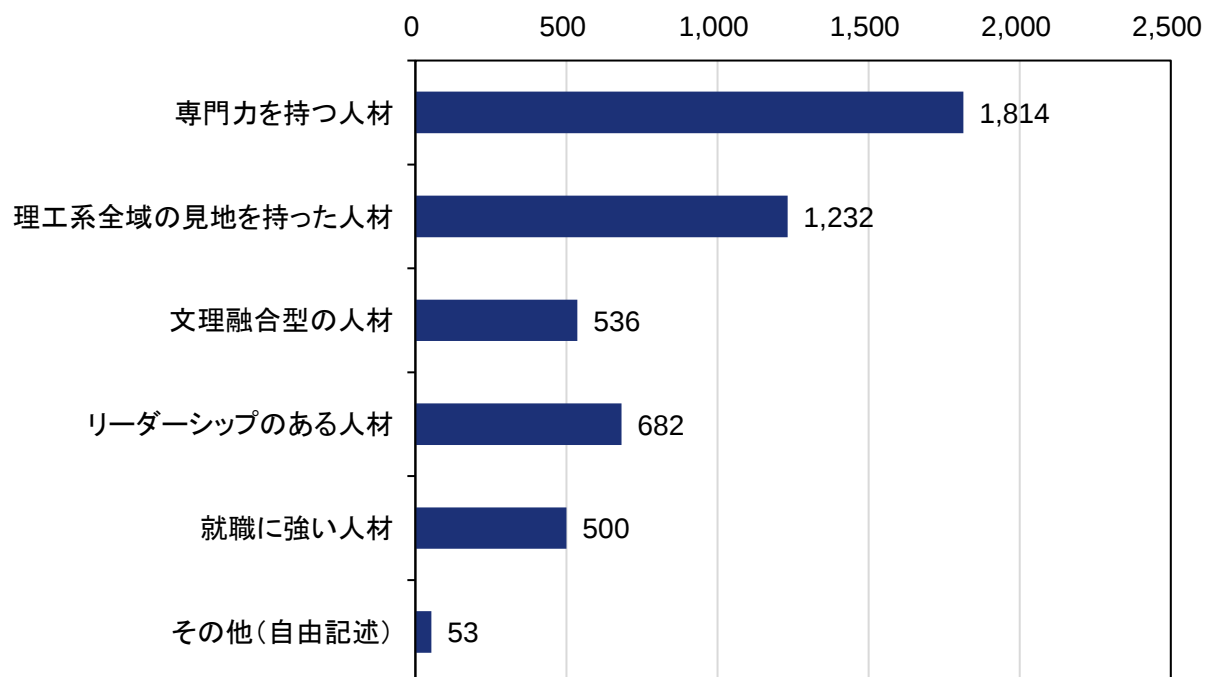


図 7-3.1 人材育成の方針

(13) 本学に進学した理由を教えてください。(複数選択可)

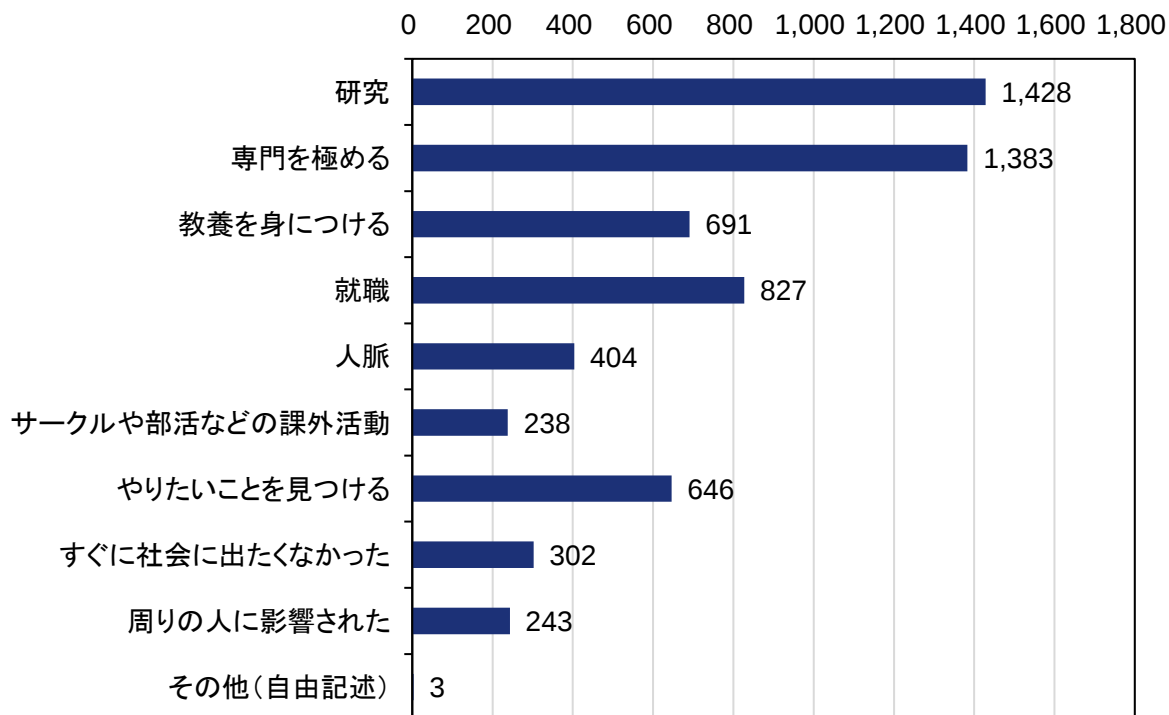


図 7-3.2 本学への進学理由

(14) 東工大生としてプライドを持っていますか。

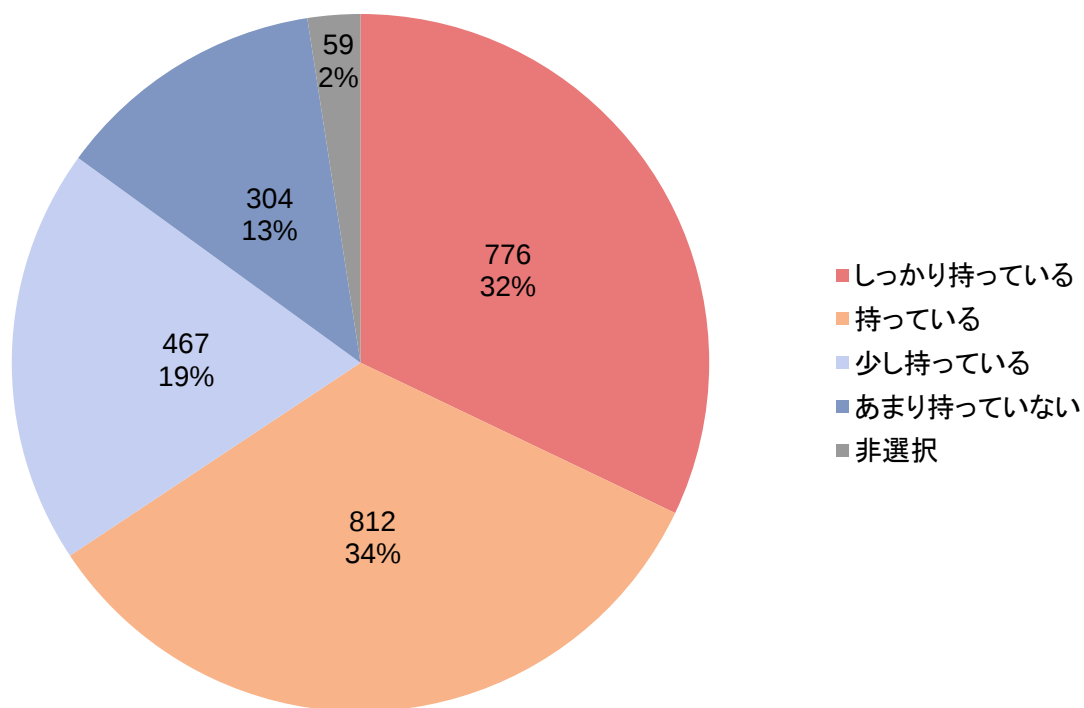


図 7-3.3 東工大生としてのプライド

(15) 以下の教育プログラムの中で参加したい、参加している、または参加していたものがあれば教えてください。(複数選択可) ※アントレプレナーシップ教育グローバル教育オプション科目は GEO と表記します。

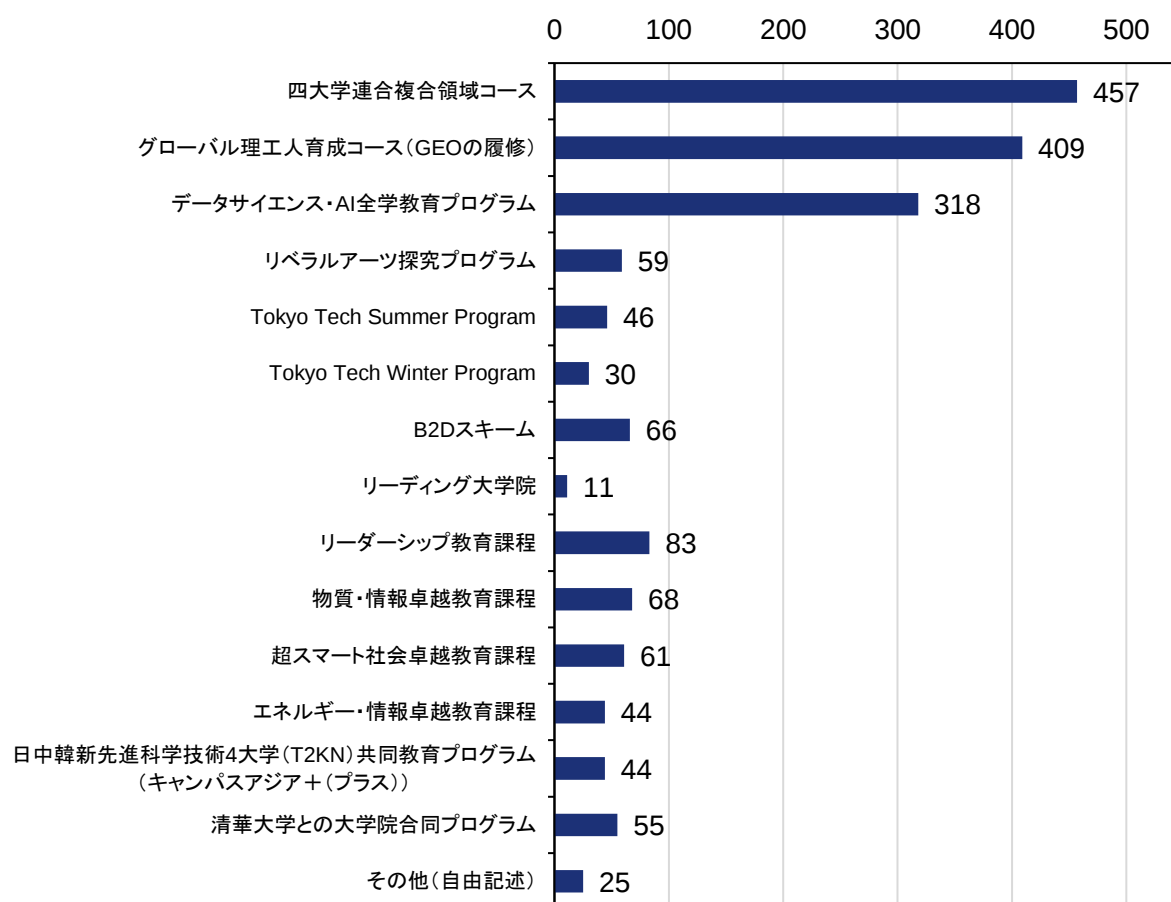


図 7-3.4 教育プログラム

(16) 進学予定について、以下のうちあてはまるものを選んでください。

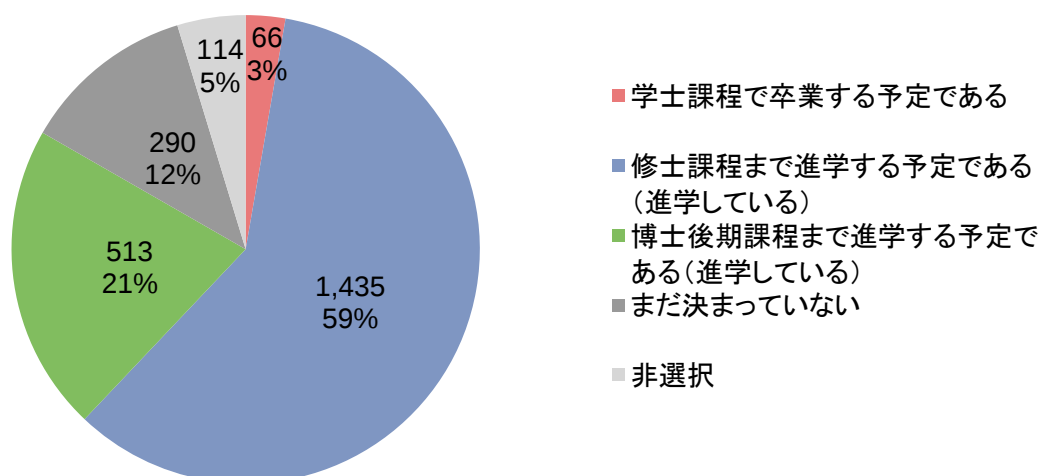


図 7-3.5 進学予定

(17) 本学での修士課程進学を選択しないのはなぜですか。(複数選択可)

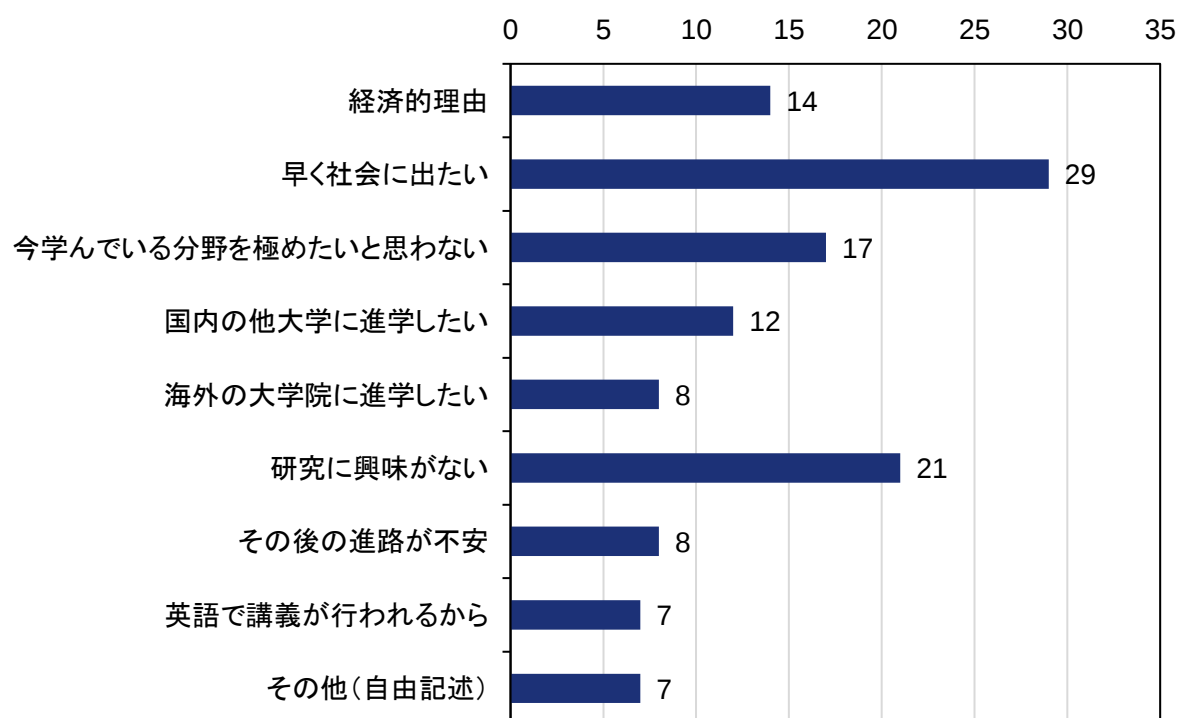


図 7-3.6 本学で修士課程に進学しない理由

(18) 修士課程に進学した、または進学希望なのはなぜですか。

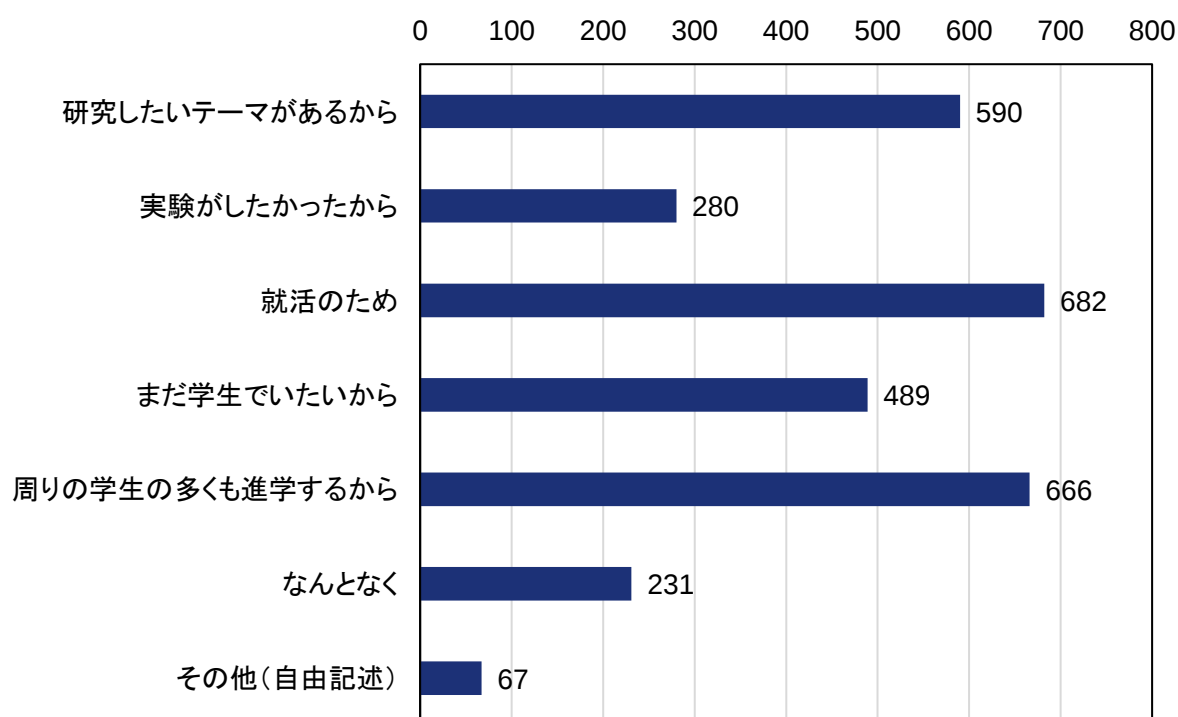


図 7-3.7 修士課程に進学する理由

(19) 本学での博士後期課程進学を選択しないのはなぜですか。(複数選択可)

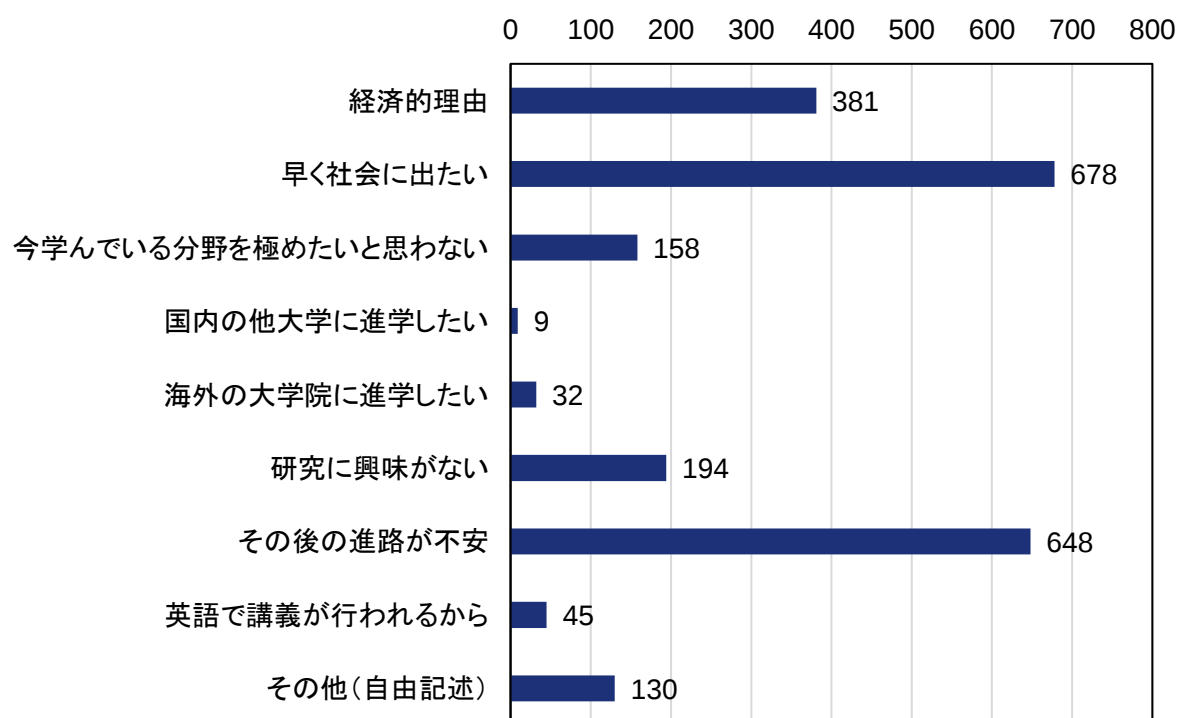


図 7-3.8 本学で博士後期課程に進学しない理由

(20) 博士後期課程に進学した、または進学希望である理由を教えてください。

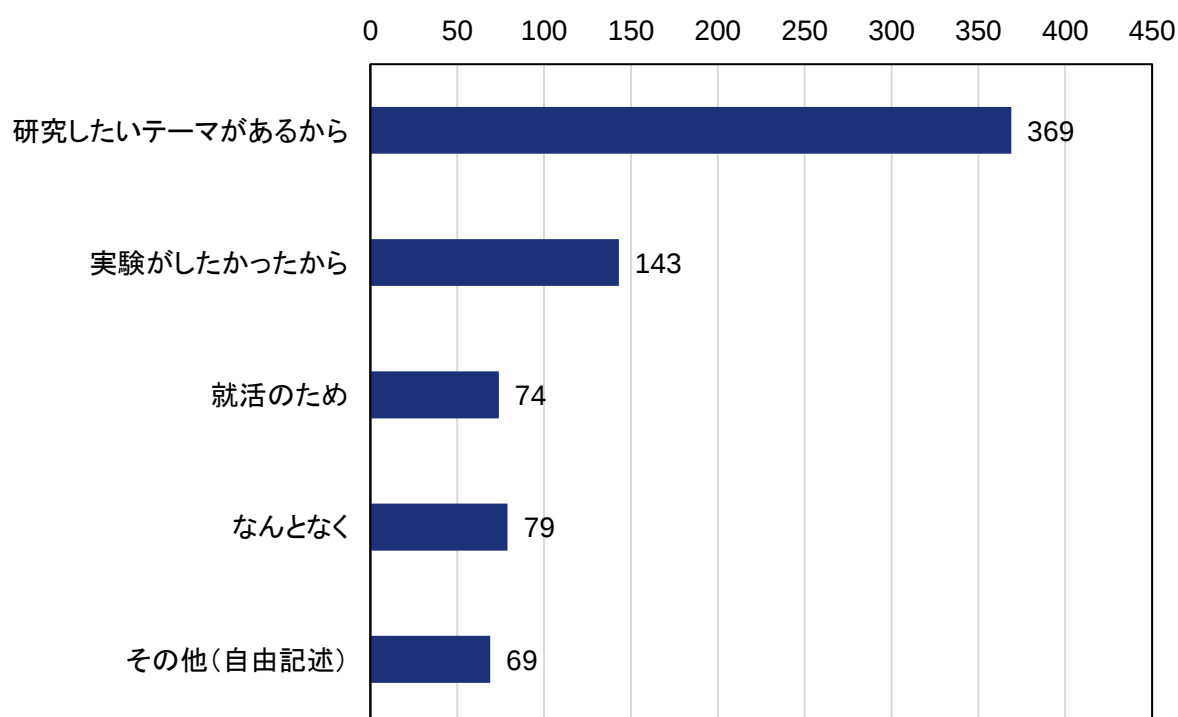


図 7-3.9 博士後期課程に進学する理由

7.4 学修サービス

(21) あなたは留学したことがありますか。(非留学生対象)

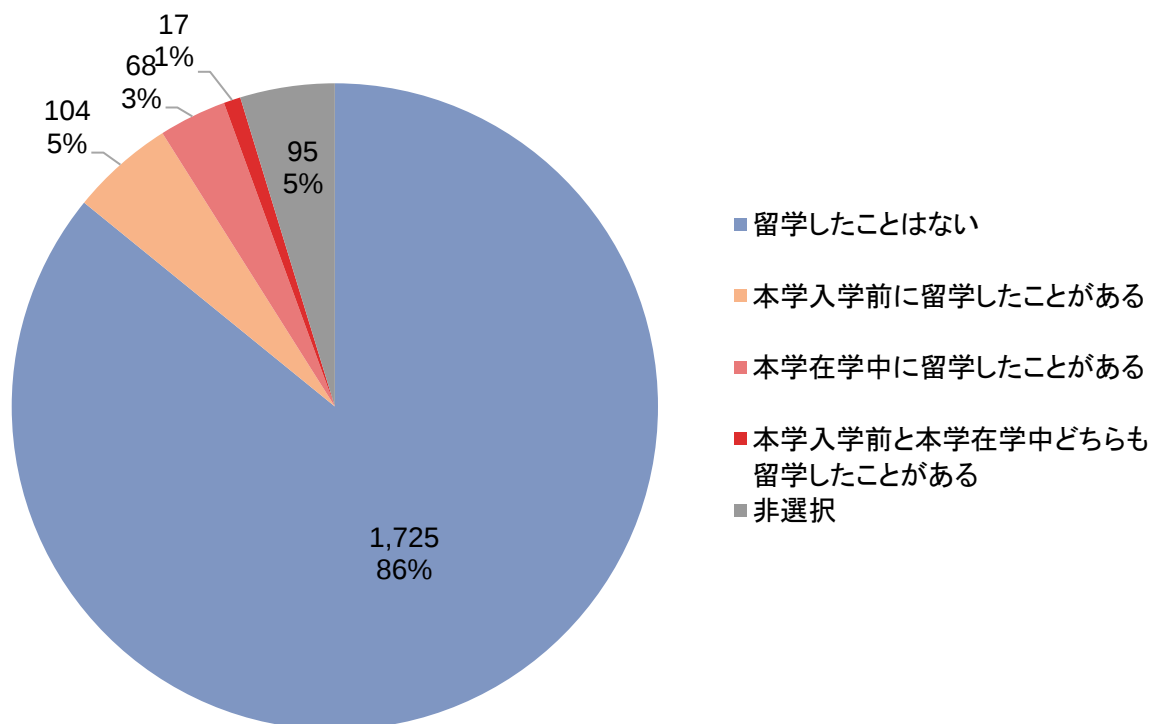


図 7-4.1 留学経験(非留学生対象)

(22) あなたは本学以外に留学したことがありますか。(留学生)

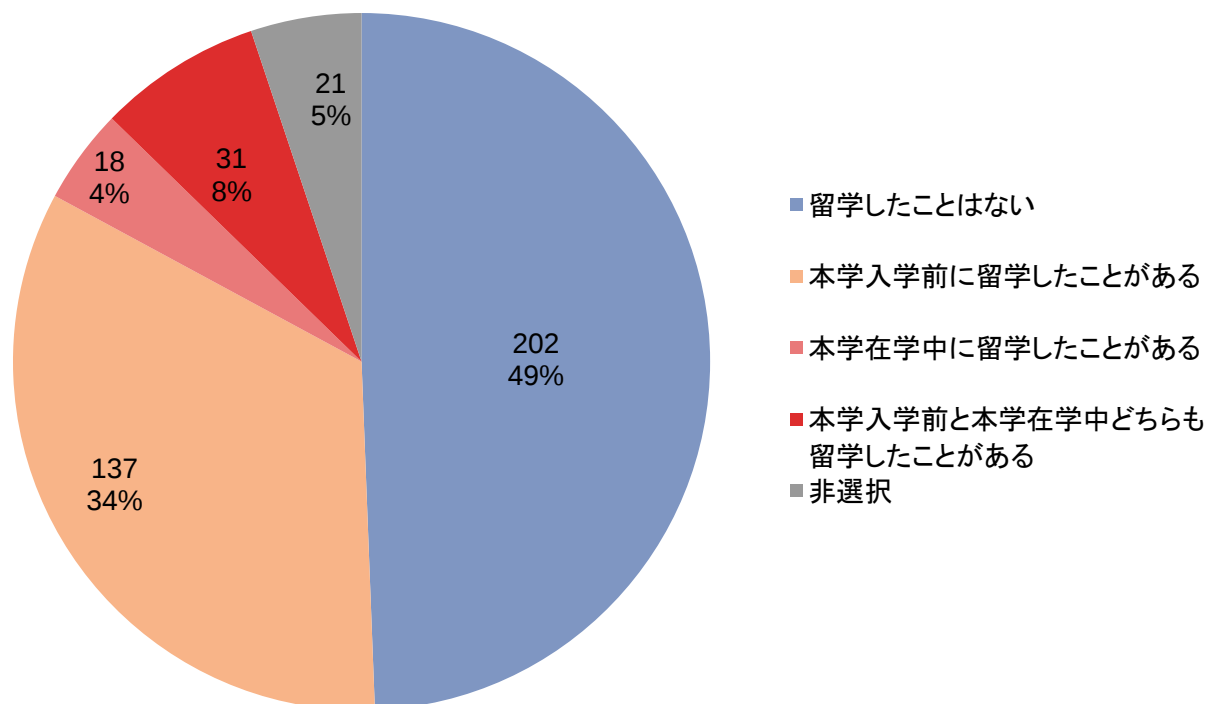


図 7-4.2 留学経験(留学生対象)

(23) 在学中に留学したいと思いますか。

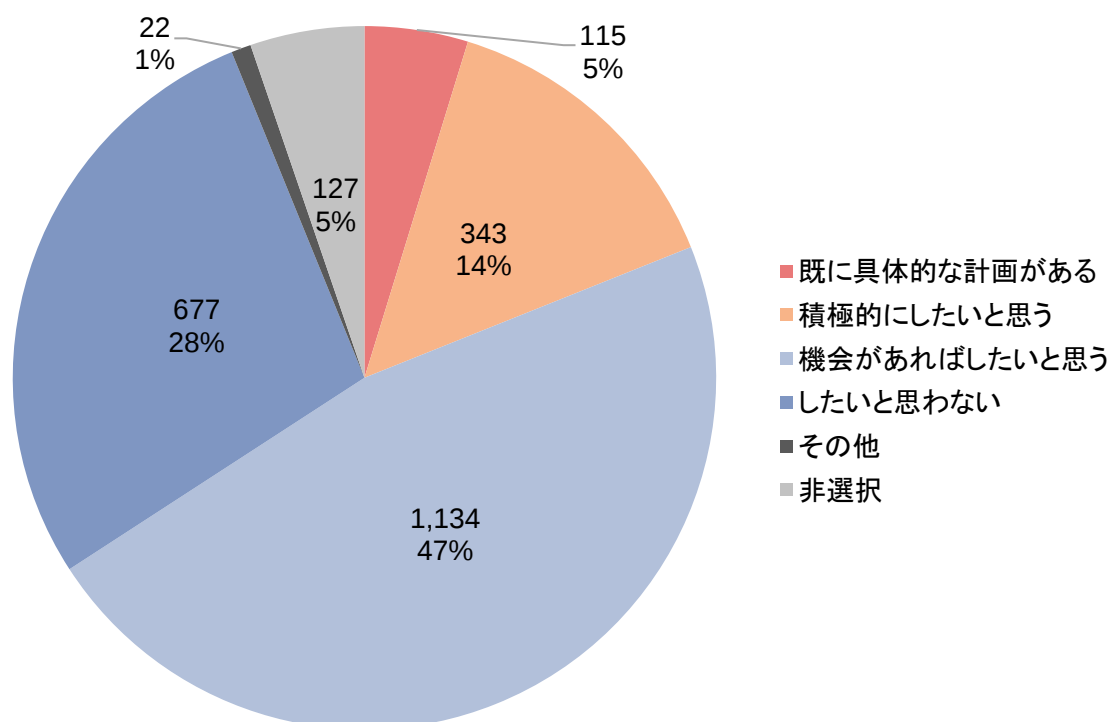


図 7-4.3 留学したいと思うか

(24) 留学をしようと思ったきっかけを教えてください。(複数選択可)

※アントレプレナーシップ教育グローバル教育オプション科目は GEO と表記します。

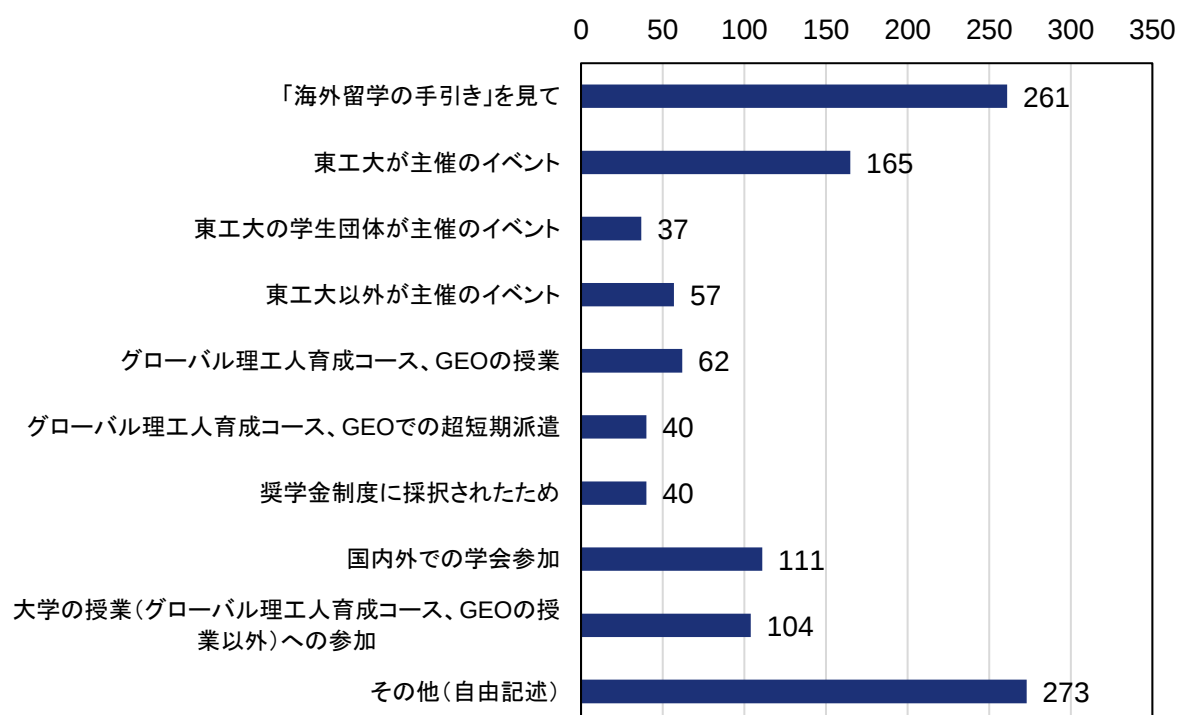


図 7-4.4 留学をしようと思ったきっかけ

(25) 留学を考える上で何か障壁はありますか。(複数選択可)

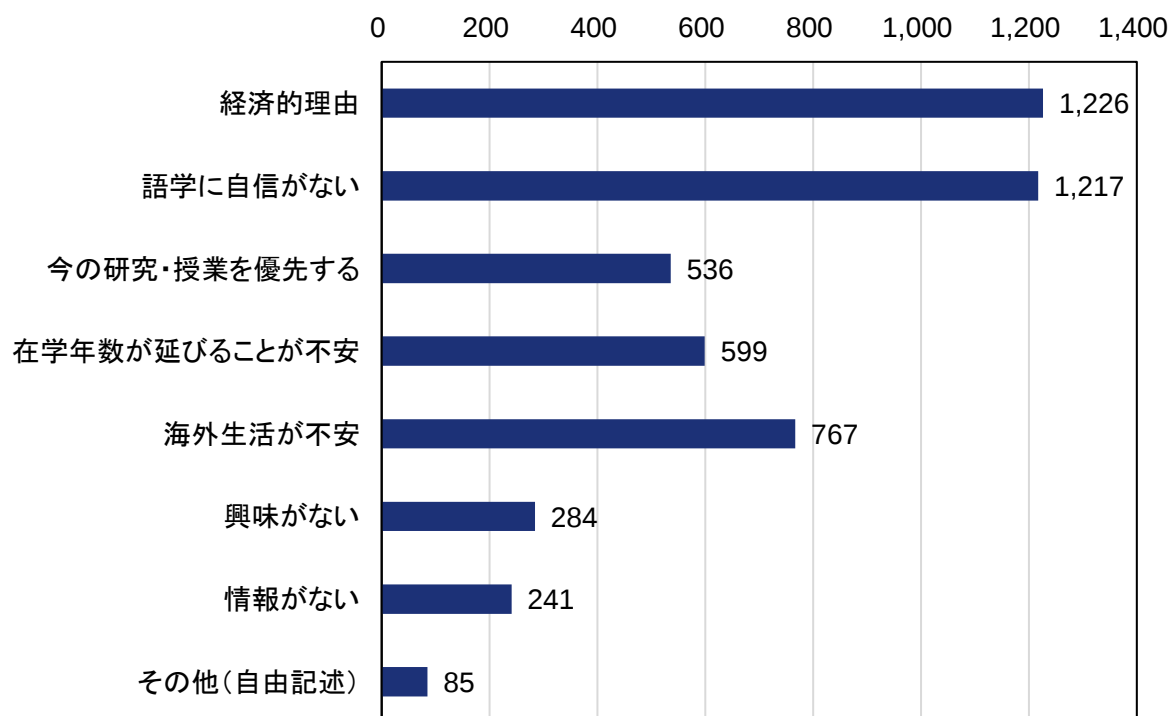


図 7-4.5 留学の障壁

(26) 起業について、ご自身の考えに当てはまるものを教えてください。

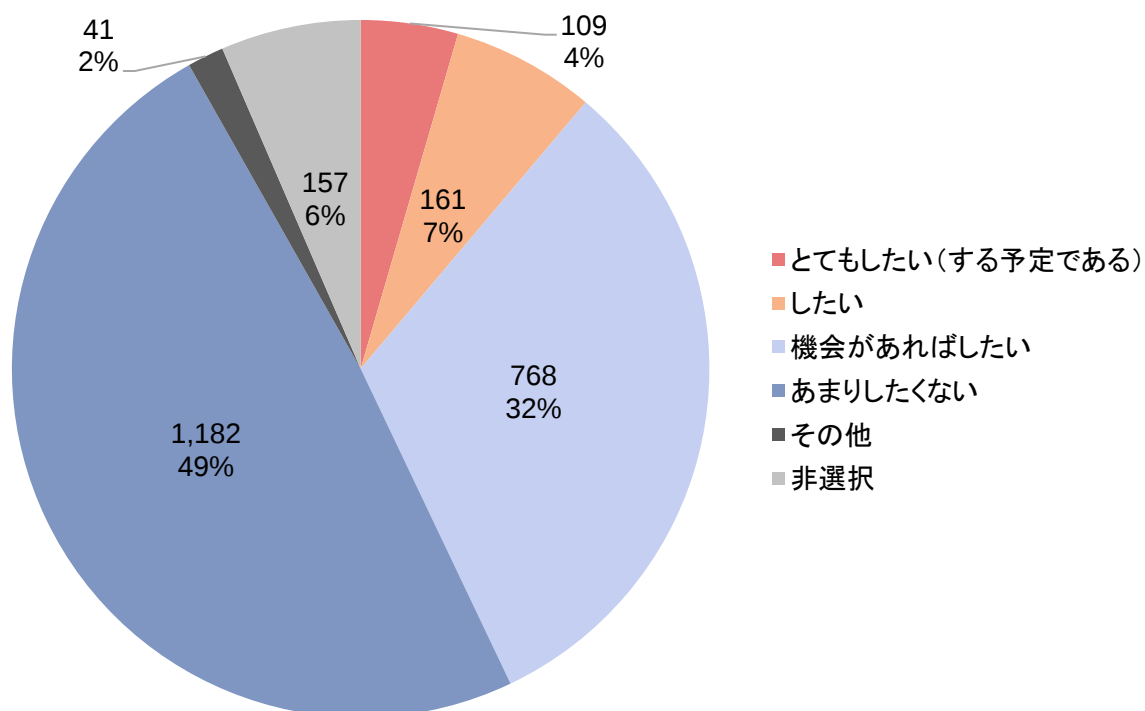


図 7-4.6 起業についての考え

(27) 起業に関する東工大の取り組みについて、知っているものを教えてください。(複数選択可)

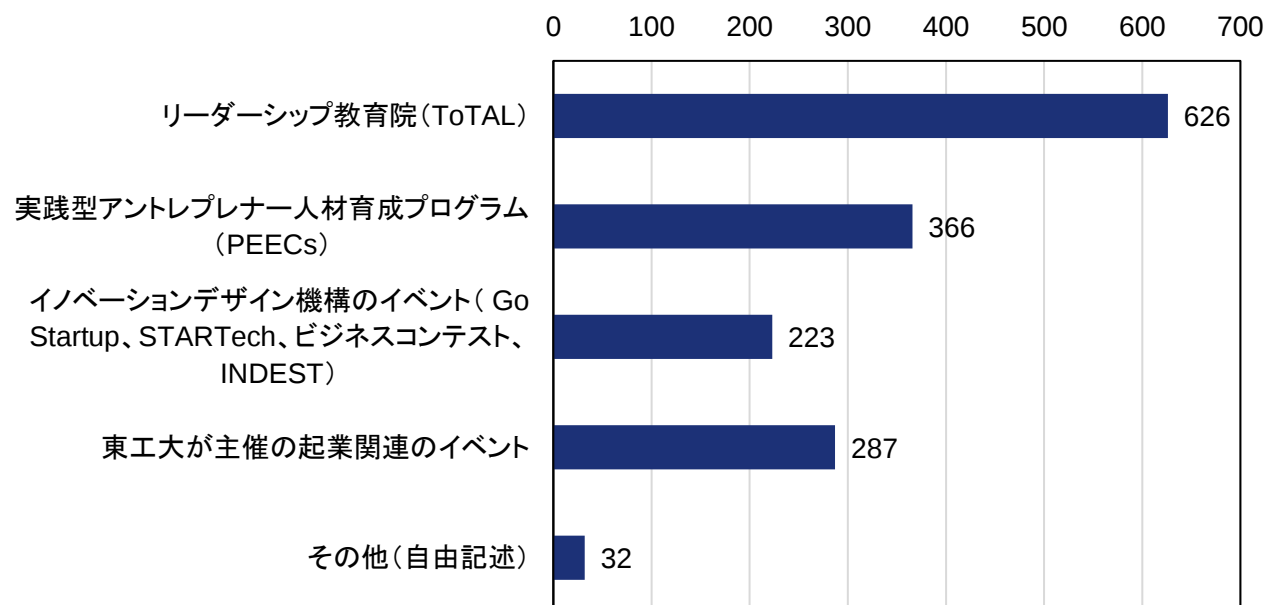


図 7-4.7 起業についての取り組みの認知度

7.5 食事

(28) 平日の昼食は主にどこを利用していますか。(複数選択可)

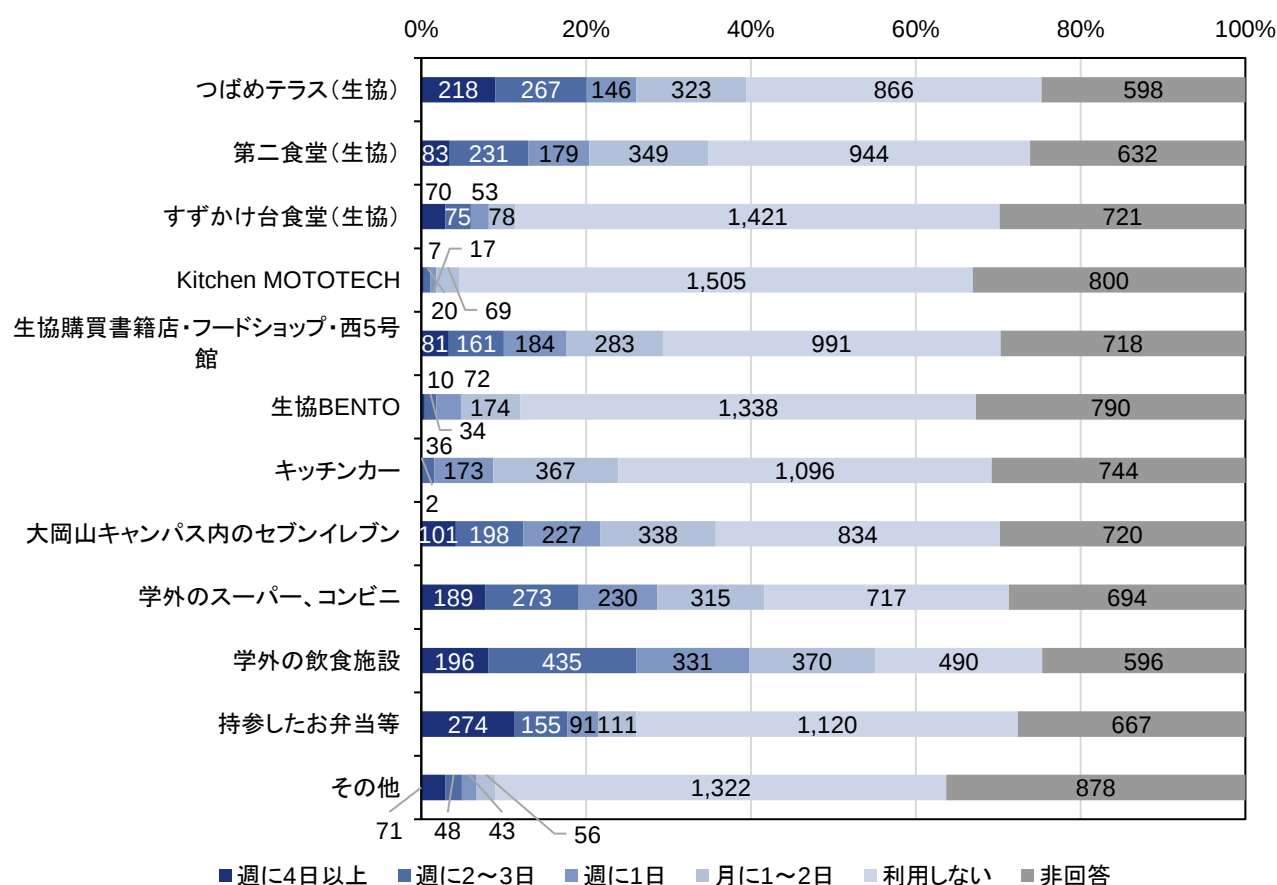


図 7-5.1 平日の昼食で利用する場所

(29) 平日の昼食をとる際に重視している点を教えてください。(複数選択可)

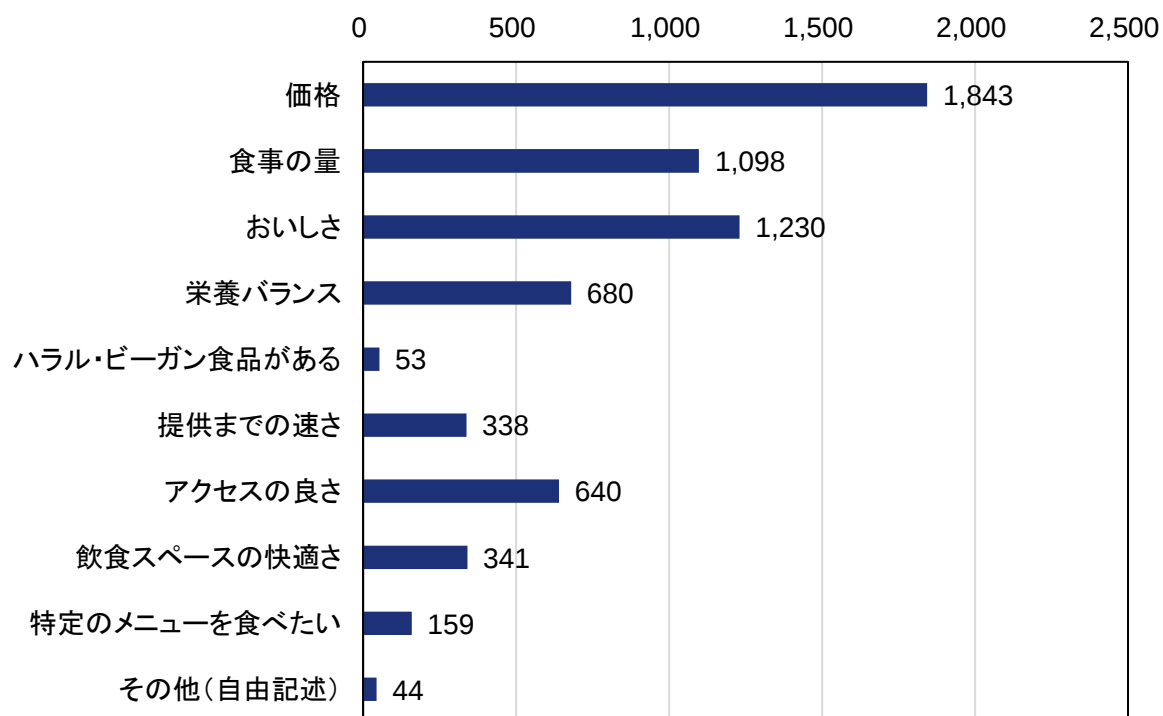


図 7-5.2 平日の昼食で重視する点

(30) 平日の昼食の予算は平均いくらくらいですか。

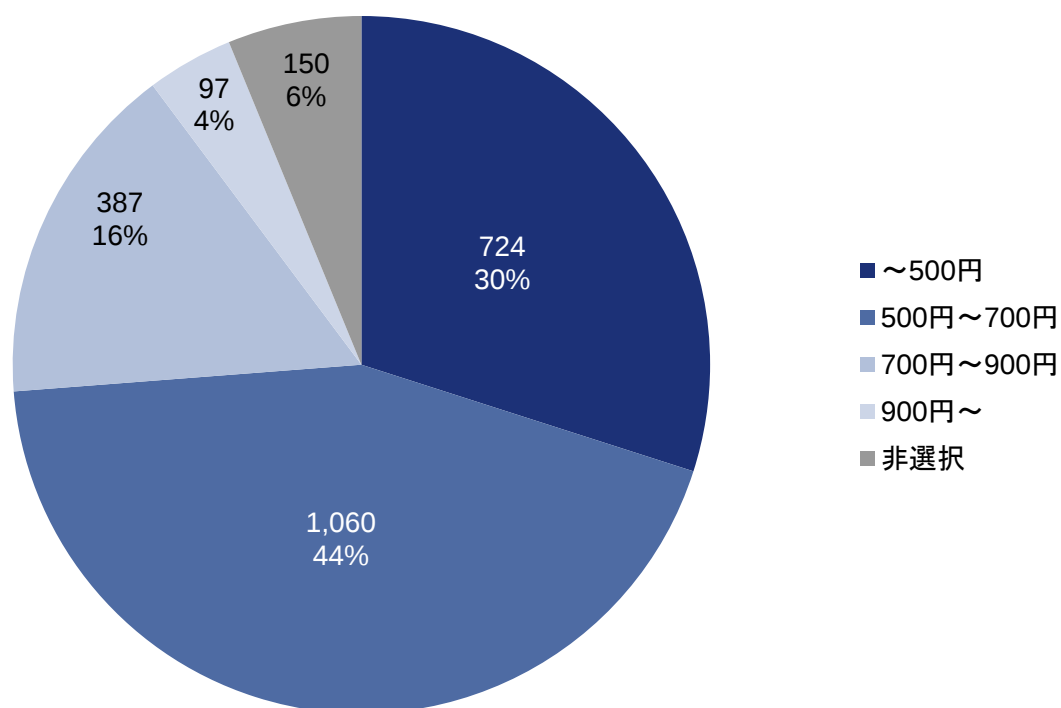


図 7-5.3 平日の昼食の予算

7.6 施設

(31) 生協購買部をどの程度利用していますか。

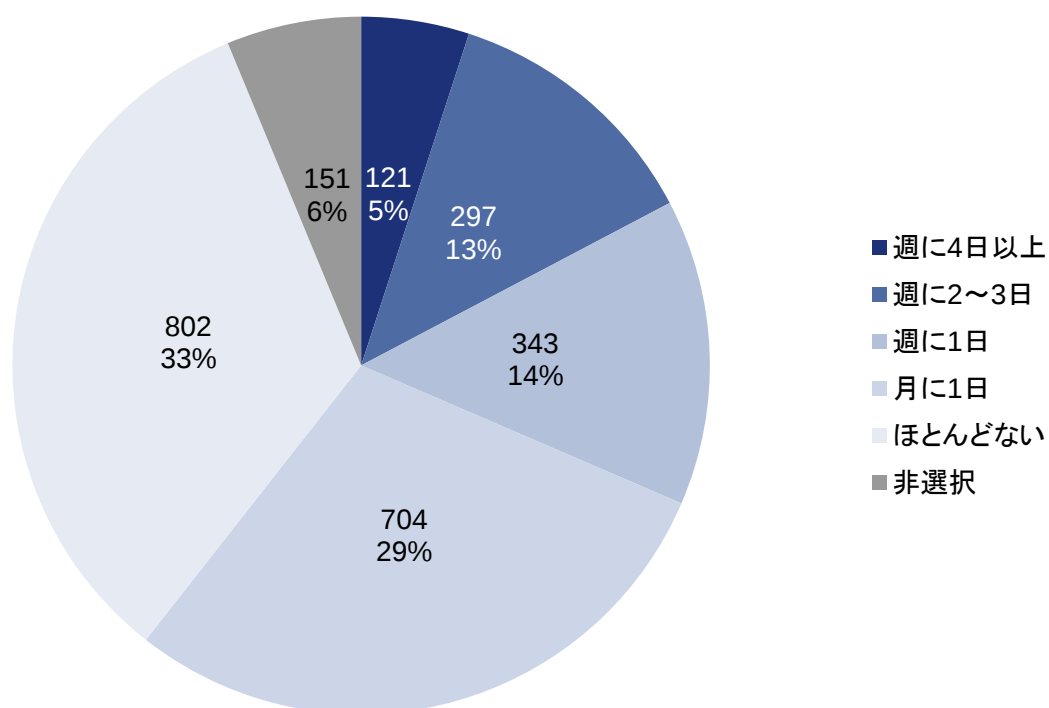


図 7-6.1 生協購買部の利用頻度

(32) 附属図書館をどの程度利用していますか。

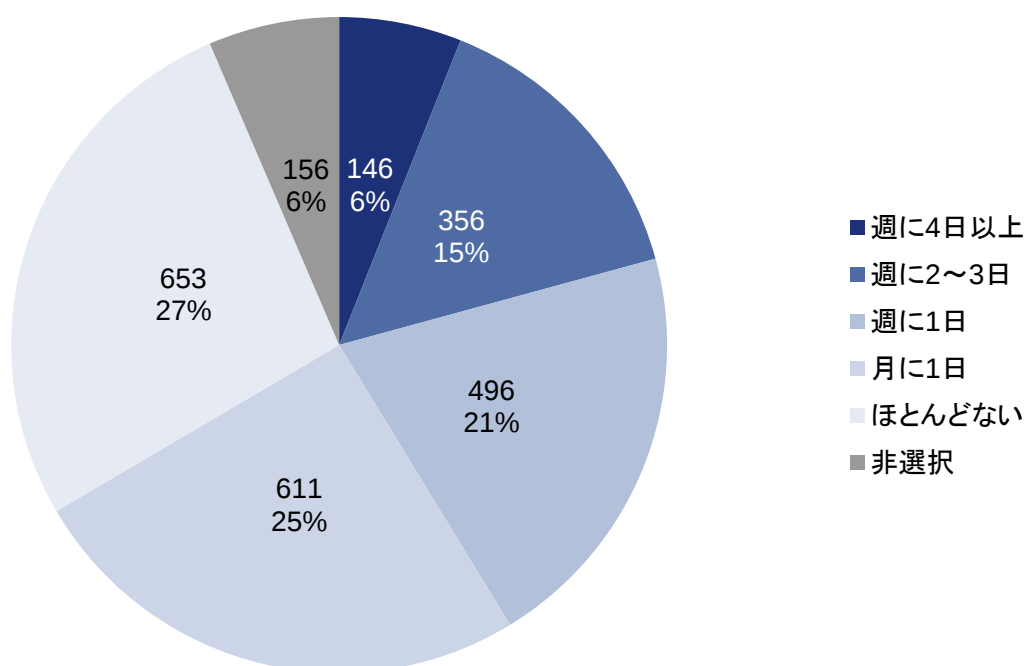


図 7-6.2 附属図書館の利用頻度

(33) Taki Plaza をどのような用途で、どれくらいの頻度で利用していますか。(複数選択)

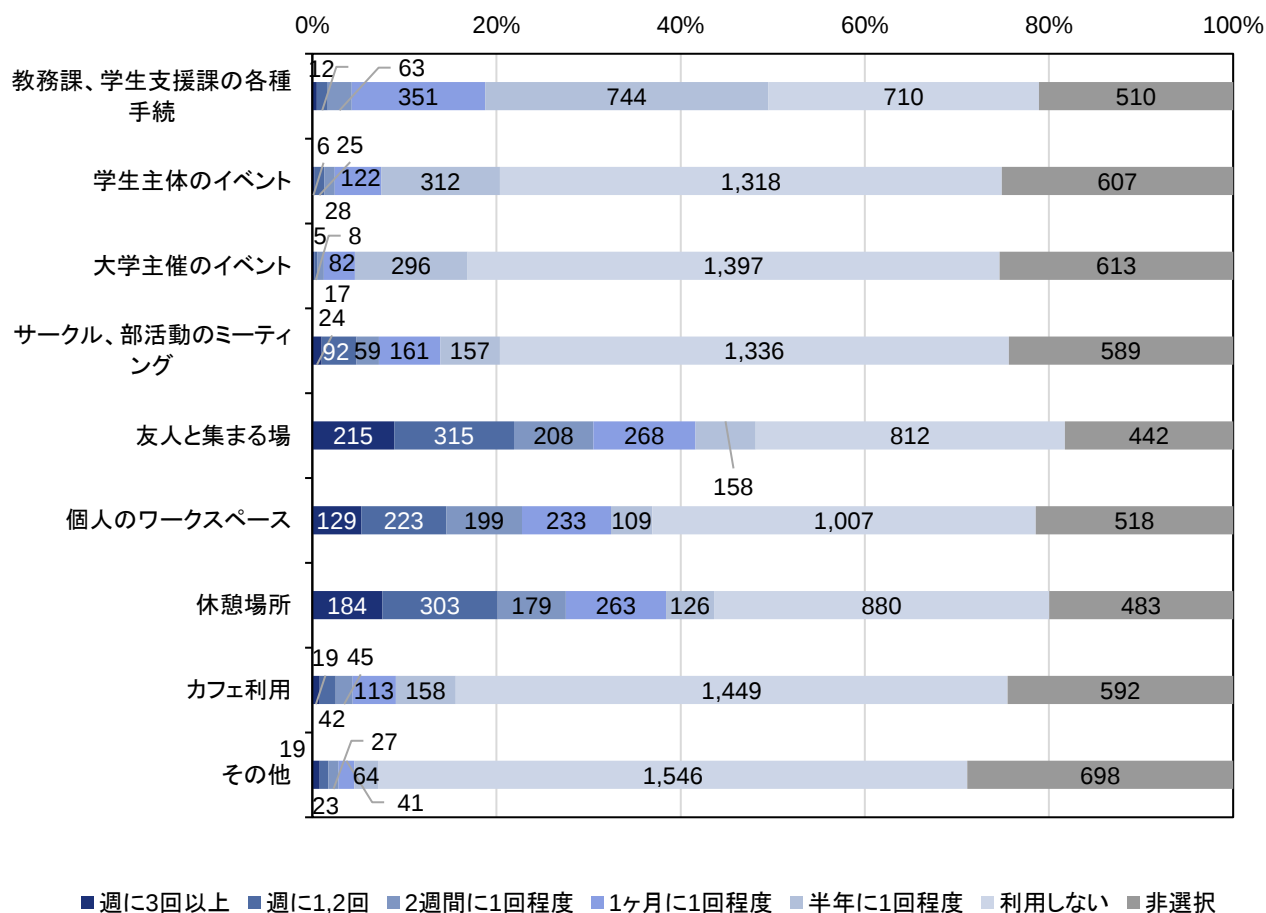


図 7-6.3 Taki Plaza の利用目的と頻度

(34) 学生支援の一環として、キャンパス内一部の女子トイレ及び多目的トイレに生理用品の提供が行われています。それについて知っていますか。

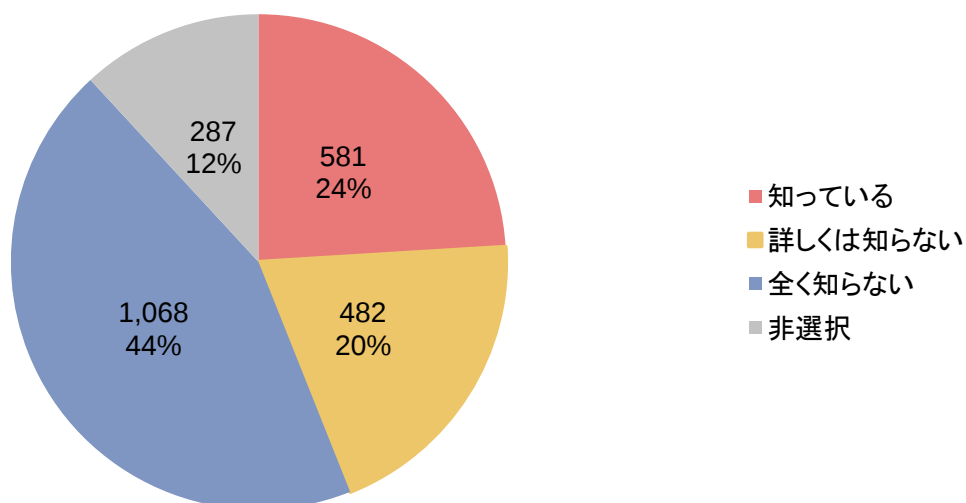


図 7-6.4 生理用品提供の認知度

7.7 大学全般

(35) 授業や学内行事など大学の発信する情報を得るために主に利用するものを選択してください。(複数選択可)

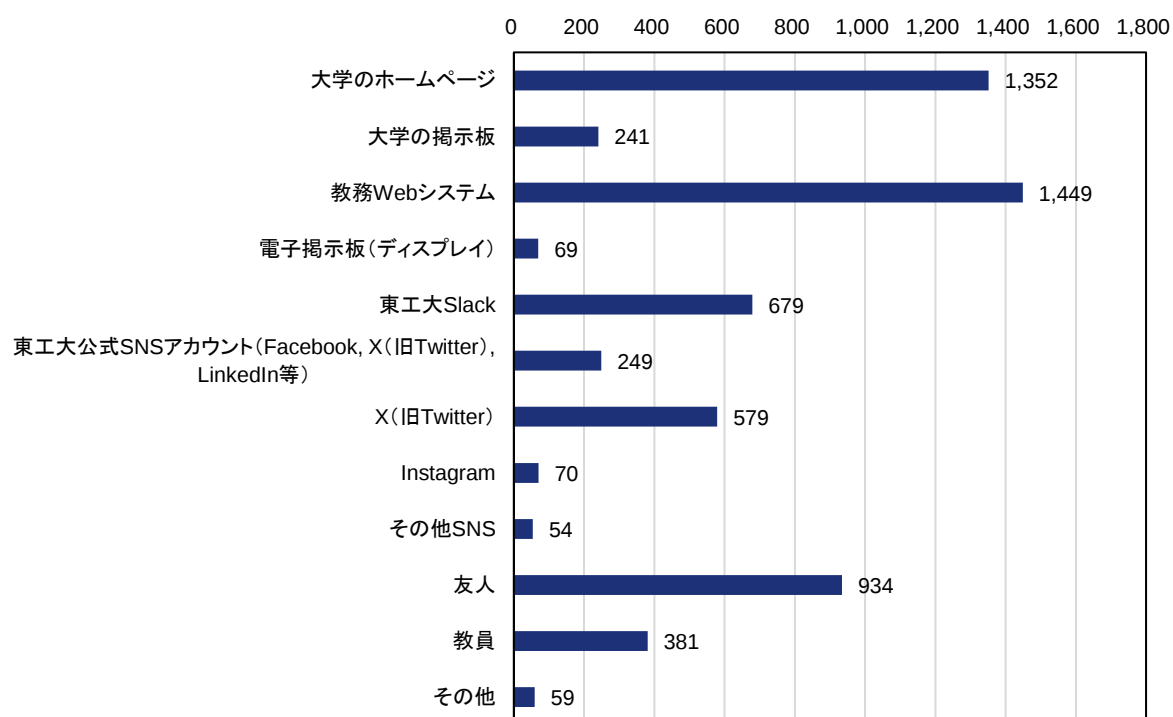


図 7-7.1 行事などの情報源

(36) 奨学金・経済的支援について、受給したことがあるものを教えてください。(複数選択可)

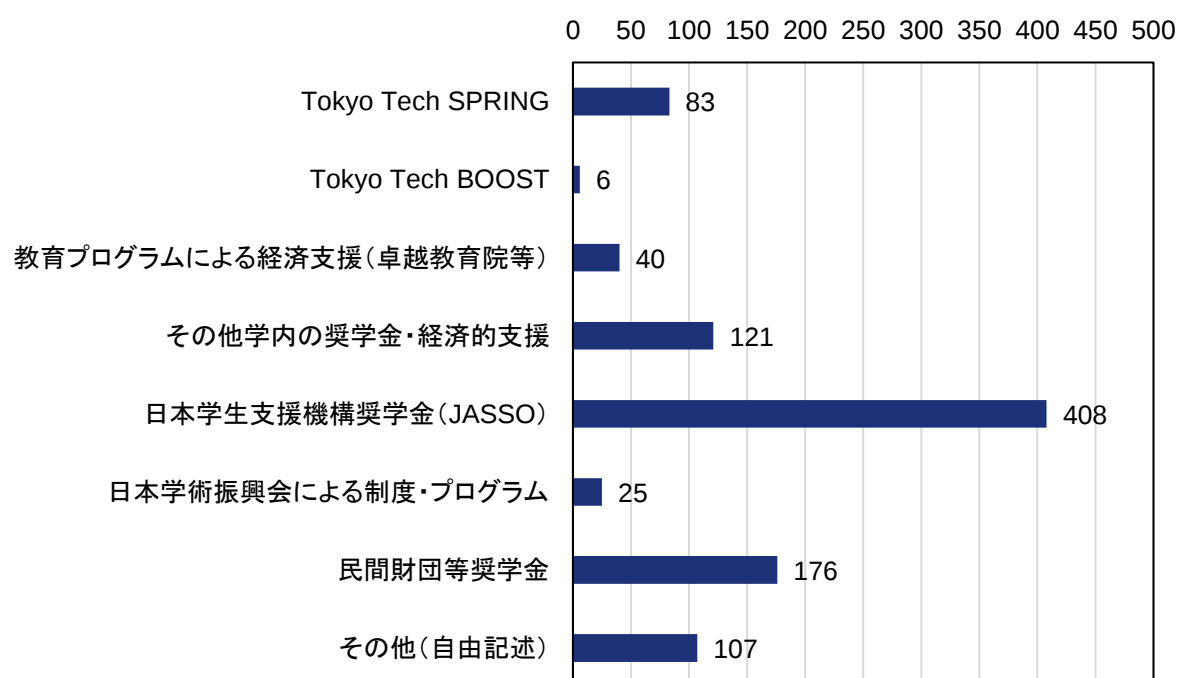


図 7-7.2 奨学金・経済支援の認知度

(37) ハラスメント(アルコール・セクシャル・アカデミック・パワーハラスメント・その他のハラスメント)を見聞きしたことがありますか。

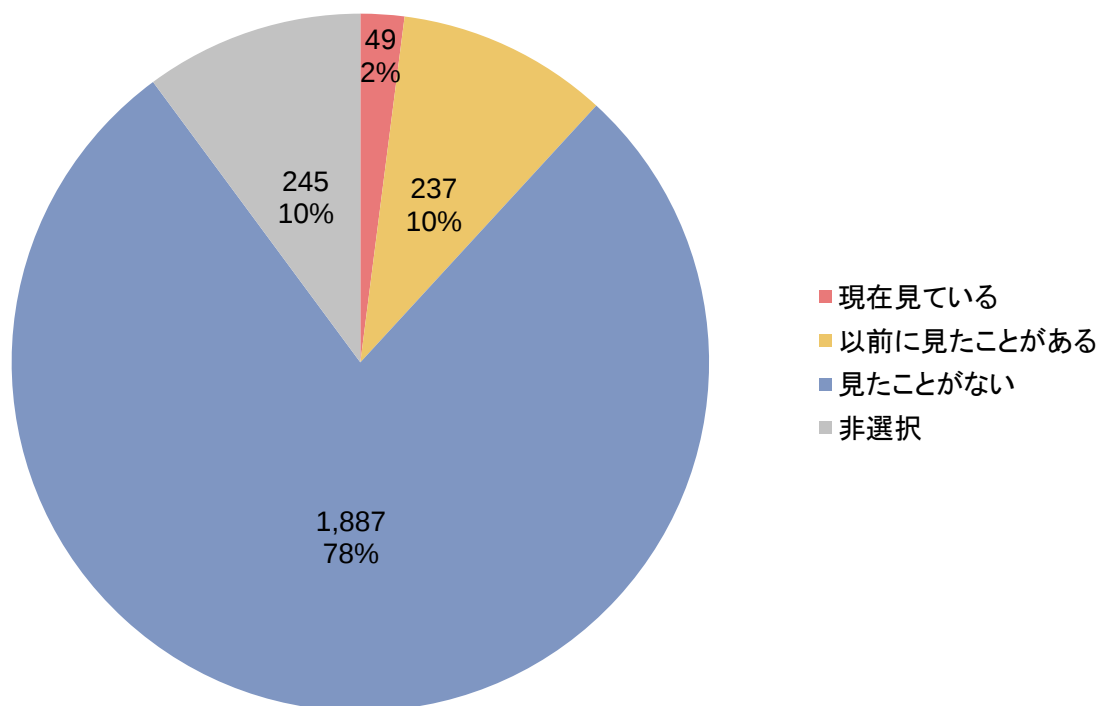


図 7-7.3 ハラスメントを見聞きしたことがあるか

(38) どのようなハラスメントを見聞きしたことがありますか。(複数選択可)

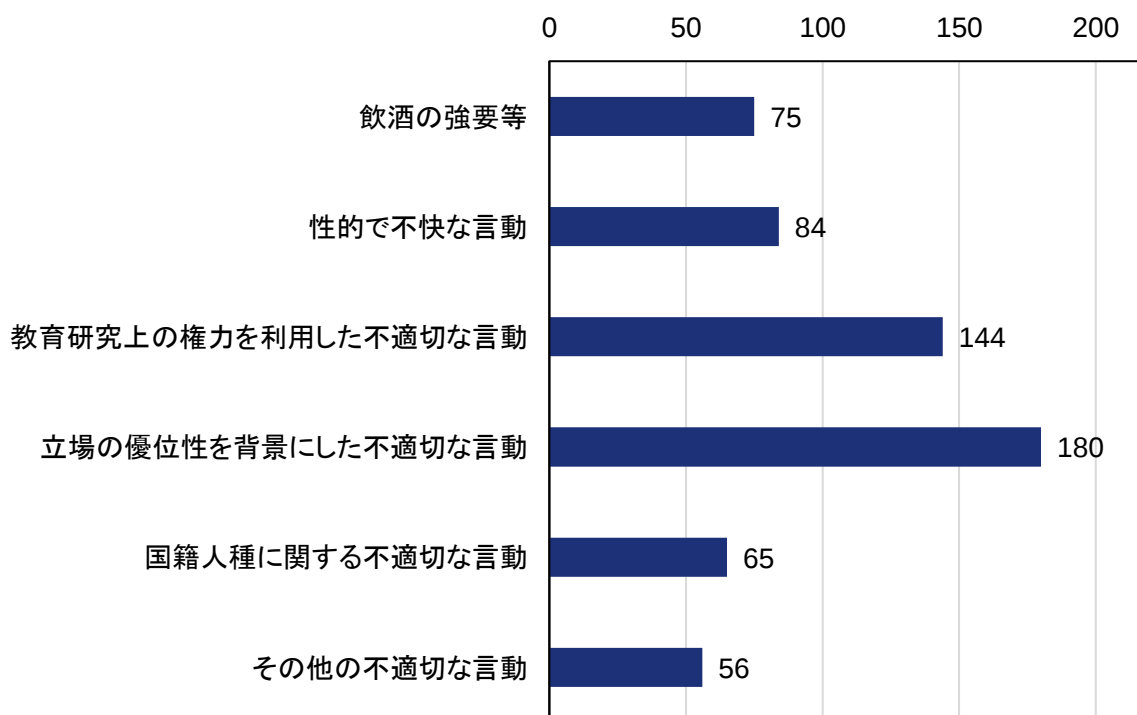


図 7-7.4 どのようなハラスメントを見聞きしたか

(39) 昨年の学内の防災訓練に参加しましたか。(複数選択可)

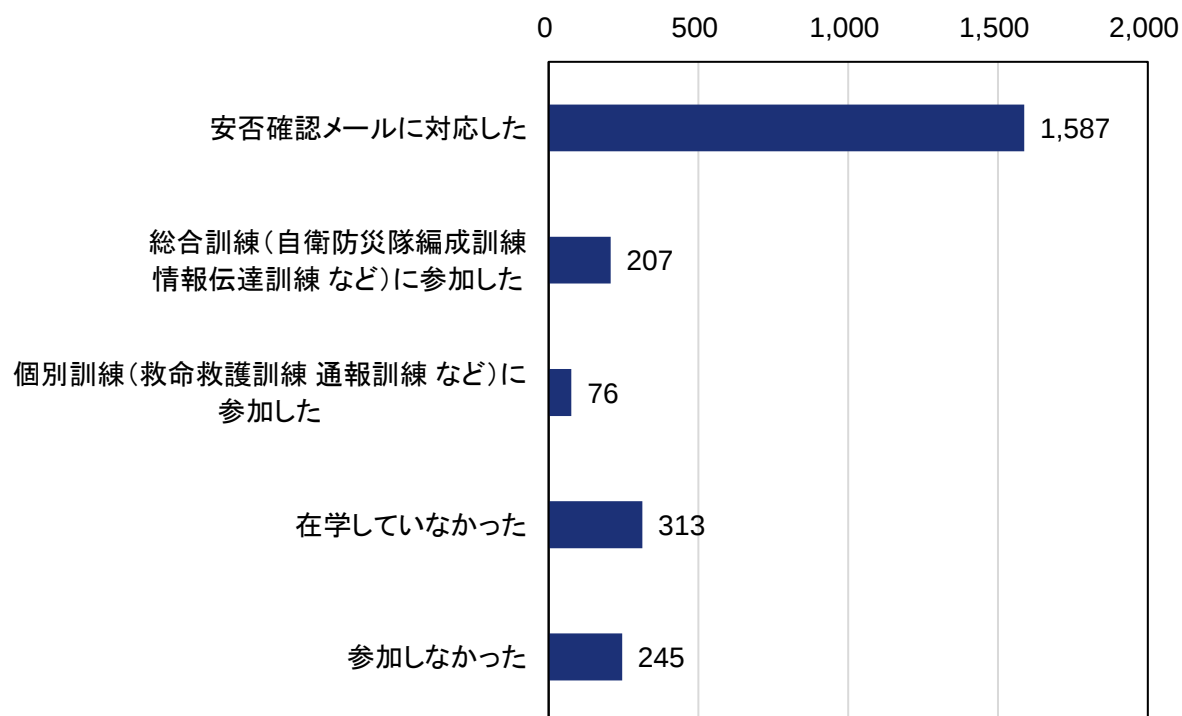


図 7-7.5 昨年の防災訓練への参加

(40) 防災訓練に参加しなかった理由を教えてください。(複数選択可)

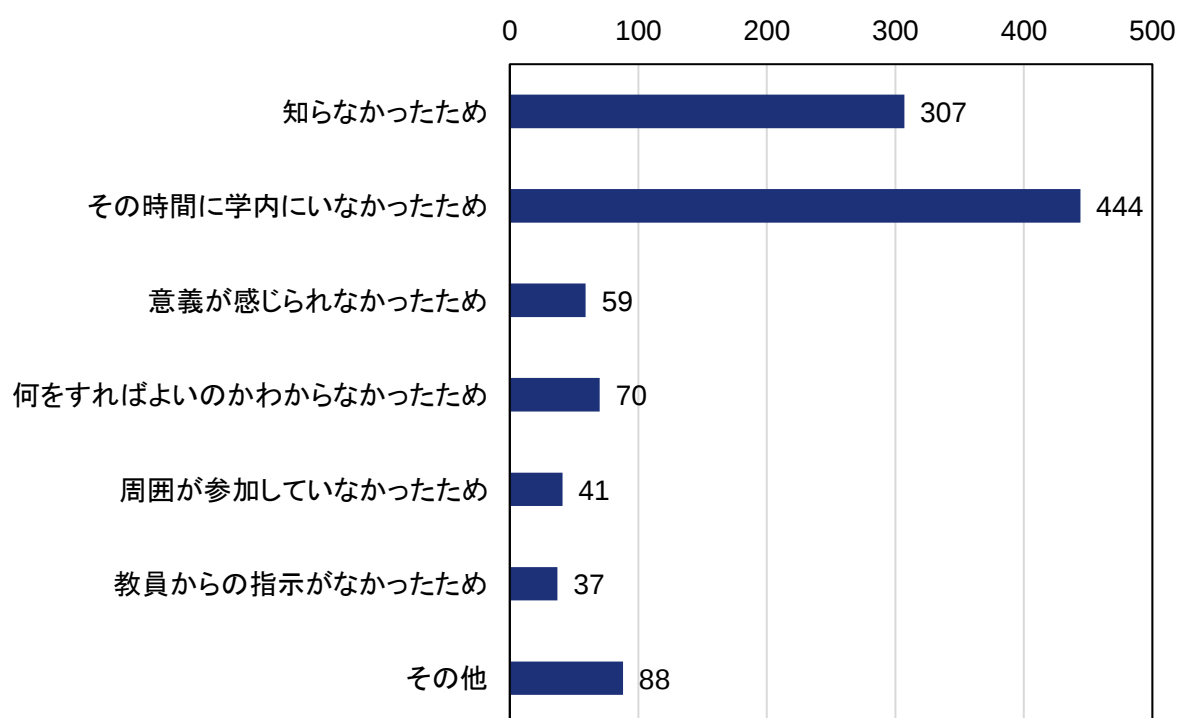


図 7-7.6 防災訓練に参加しなかった理由

7.8 その他

(41) 生成 AI を利用していますか。生成 AI を利用している場合、利用目的をおしえてください。（複数選択可）

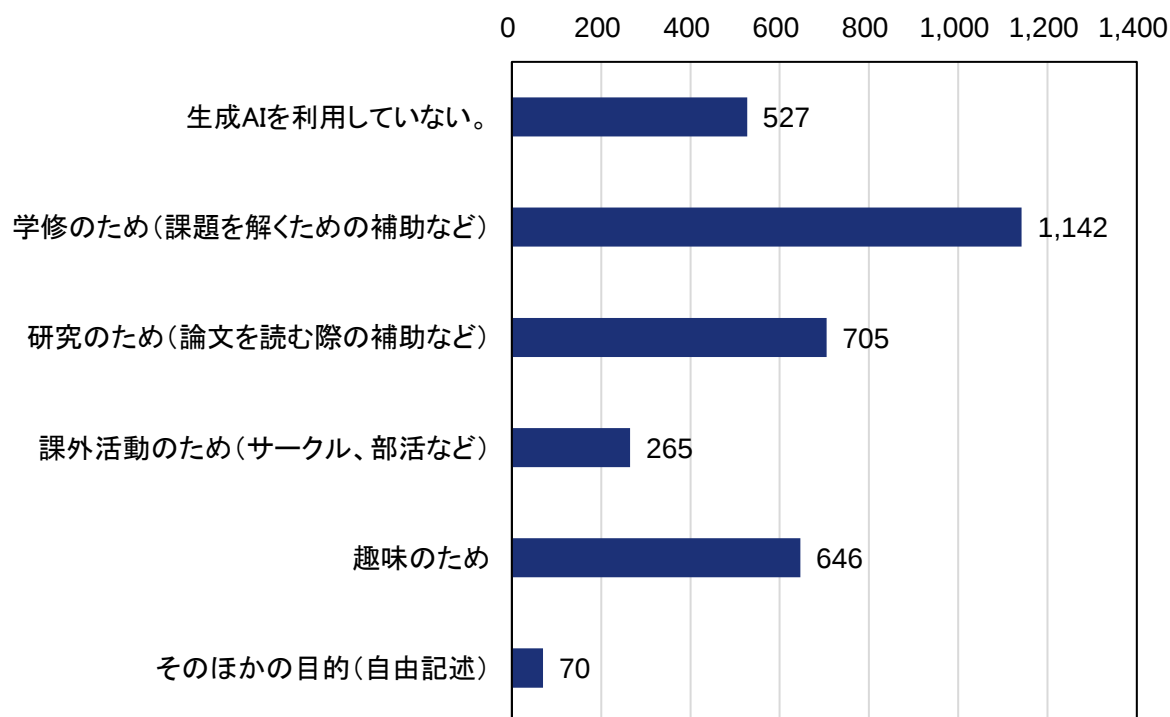


図 7-8.1 生成 AI の利用目的

(42) 生成 AI を利用するとき、生成 AI から得られる情報をどのくらい信用していますか。

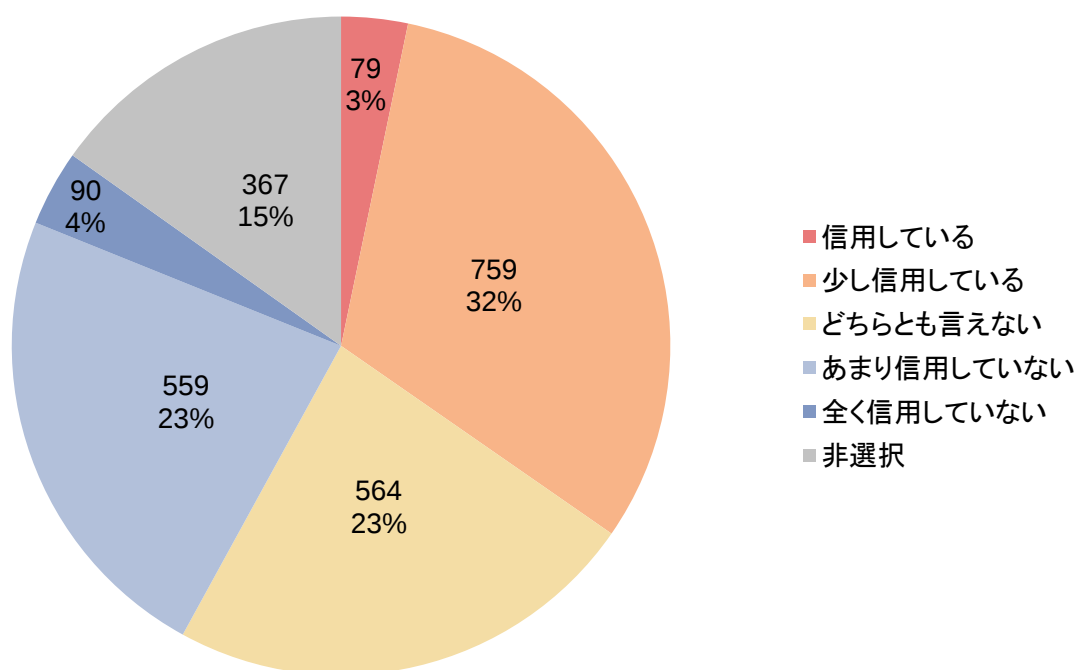


図 7-8.2 生成 AI の情報をどれくらい信用するか

7.9 学勢調査 2024 設問一覧(日本語)

○:ラジオボタン □:チェックボックス

I. 基本

1-1 現在あなたの所属している課程を教えてください。

○学士課程 ○大学院修士課程 ○大学院博士後期課程 ○専門職学位課程 ○研究生 ○科目等履修生

1-2 あなたの受験方式を教えてください。

○一般選抜(前期日程) ○一般選抜(後期日程) ○学校推薦型選抜(推薦入試も含む) ○総合型選抜(一般枠)(～2023年度総合型選抜、AO入試も含む) ○総合型選抜(女子枠) ○私費留学生 ○国費留学生 ○高大連携入試編入生 ○その他

1-3 現課程への入学年度を教えてください。

○2024 ○2023 ○2022 ○2021 ○2020 ○2019 ○2018 ○2017 ○2016 以前

1-4 以下に該当する方はチェックを入れてください。(複数選択可)

□高専や他大学に在籍していたことがある □留学生である

1-5 あなたの所属する学院を教えてください。

○理学院 ○工学院 ○物質理工学院 ○情報理工学院 ○生命理工学院 ○環境・社会理工学院 ○その他(自由記述)

1-6 あなたの所属する系を教えてください。

○系に所属していない ○数学系 ○物理学系 ○化学系 ○地球惑星科学系 ○機械系 ○システム制御系 ○電気電子系 ○情報通信系 ○経営工学系 ○材料系 ○応用化学系 ○数理・計算科学系 ○情報工学系 ○生命理工学系 ○建築学系 ○土木・環境工学系 ○融合理工学系 ○社会・人間科学系 ○イノベーション科学系

1-7 あなたの所属するコース・課程を教えてください。

○コースに所属していない ○数学コース ○物理学コース ○化学コース ○地球惑星科学コース ○機械コース ○システム制御コース ○電気電子コース ○情報通信コース ○経営工学コース ○材料コース ○応用化学コース ○数理・計算科学コース ○情報工学コース ○生命理工学コース ○建築学コース ○土木工学コース ○地球環境共創コース ○社会・人間科学コース ○イノベーション科学コース ○エネルギーコース ○エネルギー・情報コース ○エンジニアリングデザインコース ○ライフエンジニアリングコース ○原子核工学コース ○知能情報コース ○都市・環境学コース ○地球生命コース ○技術経営専門職学位課程

1-8 性別を教えてください。

○男性 ○女性 ○回答しない

II. 大学生活

大学生活についてお聞きます。

2-1 キャンパスでの主な活動場所を教えてください。

○大岡山地区(東地区, 西地区, 南地区, 北地区) ○緑が丘地区 ○石川台地区 ○すずかけ台キャンパス ○田町キャンパス

2-2 サークル等の課外活動について、参加しているものがあれば教えてください。(複数選択可)

☐部活 ☐サークル ☐その他の学生団体による活動 ☐なし ☐その他(自由記述)

III. 学修

大学の教育・講義についてお聞きます。

3-1 東工大(科学大)がどのような人材を育成していくべきかについて教えてください。(複数選択可)

☐グローバルな人材 ☐専門力を持つ人材 ☐理工系全域の見地を持った人材 ☐文理融合型の人材 ☐リーダーシップのある人材 ☐就職に強い人材 ☐その他(自由記述)

3-2 本学に進学した理由を教えてください。(複数選択可)

☐研究 ☐専門を極める ☐教養を身につける ☐就職 ☐人脈 ☐サークルや部活などの課外活動 ☐やりたいことを見つける ☐すぐに社会に出たくなかった ☐周りの人に影響された ☐その他(自由記述)

3-3 東工大生としてプライドを持っていますか。

☐しっかり持っている ☐持っている ☐少し持っている ☐あまり持っていない

3-4 教養科目(理工系教養科目、文系教養科目、英語科目、第二外国語科目、日本語・日本文化科目、広域教養科目、教職科目、キャリア科目(2023 年度まで)、アントレプレナーシップ科目(2024 年度以降))への意見があれば教えてください。(2000 字以内)

3-5 現在在籍している系・コース等の授業・制度への意見があれば教えてください。(2000 字以内)

3-6 学士課程の研究室所属について意見があれば教えてください。(2000 字以内)

例: 時期、研究室プロジェクト、研究室決定方法、B2D

3-7 英語で開講される科目について意見があれば教えてください。(2000 字以内)

3-8 授業の録画配信について意見があれば教えてください。(2000 字以内)

3-9 以下の教育プログラムの中で参加したい、参加している、または参加していたものがあれば教えてください。(複数選択可)

☐四大学連合複合領域コース ☐グローバル理工人育成コース(アントレプレナーシップ教育グローバル教育オプション科目の履修) ☐データサイエンス・AI 全学教育プログラム ☐リベラルアーツ探究プログラム ☐Tokyo Tech Summer Program ☐Tokyo Tech Winter Program ☐B2D スキーム ☐リーディング大学院 ☐リーダーシップ教育課程 ☐物質・情報卓越教育課程 ☐超スマート社会卓越教育課程 ☐エネルギー・情報卓越教育課程 ☐日中韓新先進科学技術 4 大

学(T2KN)共同教育プログラム(キャンパスアジア+(プラス)) ☐ 清華大学との大学院合同プログラム ☐ その他(自由記述)

3-10 前問で選んだものに対して、参加したい、参加している、または参加していた理由を教えてください。(2000字以内)

記入例 グロ理: DSAI:

本学での進学についてお聞きます。

3-11 進学予定について、以下のうちあてはまるものを選んでください。

☐ 博士後期課程まで進学する予定である(進学している) ☐ 修士課程まで進学する予定である(進学している) ☐ 学士課程で卒業する予定である ☐ まだ決まっていない

3-12 本学での修士課程進学を選択しないのはなぜですか。(複数選択可)

☐ 経済的理由 ☐ 早く社会に出たい ☐ 今学んでいる分野を極めたいと思わない ☐ 国内の他大学に進学したい ☐ 海外の大学院に進学したい ☐ 研究に興味がない ☐ その後の進路が不安 ☐ 英語で講義が行われるから ☐ その他(自由記述)

3-13 修士課程に進学した、または進学希望なのはなぜですか。

☐ 研究したいテーマがあるから ☐ 実験がしたかったから ☐ 就活のため ☐ まだ学生でいたいから ☐ 周りの学生の多くも進学するから ☐ なんとなく ☐ その他(自由記述)

3-14 本学での博士後期課程進学を選択しないのはなぜですか。(複数選択可)

☐ 経済的理由 ☐ 早く社会に出たい ☐ 今学んでいる分野を極めたいと思わない ☐ 国内の他大学に進学したい ☐ 海外大学院に進学したい ☐ 研究に興味がない ☐ その後の進路が不安 ☐ 英語で講義が行われるから ☐ その他(自由記述)

3-15 博士後期課程に進学した、または進学希望である理由を教えてください。

☐ 研究したいテーマがあるから ☐ 実験がしたかったから ☐ 就活のため ☐ なんとなく ☐ その他(自由記述)

学修サービス

留学についてお聞きます。

4-1 あなたは留学したことがありますか。

☐ 本学入学前と本学在学中どちらも留学したことがある ☐ 本学在学中に留学したことがある ☐ 本学入学前に留学したことがある ☐ 留学したことはない

4-2 あなたは本学以外に留学したことがありますか。

☐ 本学入学前と本学在学中どちらも留学したことがある ☐ 本学在学中に留学したことがある ☐ 本学入学前に留学したことがある ☐ 留学したことはない

4-3 在学中に留学したいと思いますか。

☐ 既に具体的な計画がある ☐ 積極的にしたいと思う ☐ 機会があればしたいと思う ☐ したいと思わない ☐ その他(自由記述)

4-4 留学をしようと思ったきっかけを教えてください。(複数選択可) ※アントレプレナーシップ教育グローバル教育オプション

ョン科目は GEO と表記します。

☐「海外留学の手引き」を見て ☐東工大が主催のイベント ☐東工大の学生団体が主催のイベント ☐東工大以外が主催のイベント ☐グローバル理工人育成コース、GEO の授業 ☐グローバル理工人育成コース、GEO での超短期派遣 ☐奨学金制度に採択されたため ☐国内外での学会参加 ☐大学の授業(グローバル理工人育成コース、GEO の授業以外)への参加 ☐その他(自由記述)

4-5 留学をしようと思ったきっかけを教えてください。(2000 字以内)

4-6 留学を考える上で何か障壁はありますか。(複数選択可)

☐経済的理由 ☐語学に自信がない ☐今の研究・授業を優先する ☐在学年数が延びることが不安 ☐海外生活が不安 ☐興味がない ☐情報が無い ☐その他(自由記述)

4-7 留学を考える上での障壁を取り除くために、どのような新しい制度、授業科目、サービスがあれば良いか教えてください。(2000 字以内)

4-8 東工大の現在の留学制度について意見があれば教えてください。(2000 字以内)

起業についてお聞きます。

4-9 起業について、ご自身の考えに当てはまるものを教えてください。

☐とてもしたい(する予定である) ☐したい ☐機会があればしたい ☐あまりしたくない ☐その他(自由記述)

4-10 起業に関する東工大の取り組みについて、知っているものを教えてください。(複数選択可)

☐リーダーシップ教育院(ToTAL) ☐実践型アントレプレナー人材育成プログラム(PEECs) ☐イノベーションデザイン機構のイベント(Go Startup、STARTech、ビジネスコンテスト、 INDEST) ☐東工大が主催の起業関連のイベント ☐その他(自由記述)

IV. 食事

大学における食事についてお聞きます。

5-1 平日の昼食は主にどこを利用していますか。(複数選択可)

行

☐つばめテラス(生協) ☐第二食堂(生協) ☐すずかけ台食堂(生協) ☐Kitchen MOTOTECH ☐生協購買書籍店・フードショップ・西 5 号館 ☐生協 BENTO ☐キッチンカー ☐大岡山キャンパス内のセブンイレブン ☐学外のスーパー、コンビニ ☐学外の飲食施設 ☐持参したお弁当等 ☐その他

列

☐週に 4 日以上 ☐週に 2~3 日 ☐週に 1 日 ☐月に 1~2 日 ☐利用しない

5-2 平日の昼食をとる際に重視している点を教えてください。(複数選択可)

☐価格 ☐食事の量 ☐おいしさ ☐栄養バランス ☐ハラル・ビーガン食品がある ☐提供までの速さ ☐アクセスの良さ ☐飲食スペースの快適さ ☐特定のメニューを食べたい ☐その他(自由記述)

5-3 平日の昼食の予算は平均いくらくらいですか。

○ ～500 円 ○ 500 円～700 円 ○ 700 円～900 円 ○ 900 円～

5-4 生協食堂のメニューで増やしてほしいものがあれば教えてください。(2000 字以内)

5-5 学内レストラン(生協食堂含む)・ショップ・キッチンカーについて要望があれば教えてください。(2000 字以内)

現状ある店舗についての要望は、店舗名を明示してください。

V. 施設

学内の施設についてお聞きします。

6-1 生協購買部をどの程度利用していますか。

○週に 4 日以上 ○週に 2～3 日 ○週に 1 日 ○月に 1 日 ○ほとんどない

6-2 生協購買部に対する要望があれば教えてください。(2000 字以内)

6-3 附属図書館をどの程度利用していますか。

○週に 4 日以上 ○週に 2～3 日 ○週に 1 日 ○月に 1 日 ○ほとんどない

6-4 附属図書館に対する要望があれば教えてください。(2000 字以内)

6-5 Taki Plaza をどのような用途で、どれくらいの頻度で利用していますか。(複数選択)

行

○教務課、学生支援課の各種手続 ○学生主体のイベント ○大学主催のイベント ○サークル、部活動のミーティング
○友人と集まる場 ○個人のワークスペース ○休憩場所 ○カフェ利用 ○その他

列

○週に 3 回以上 ○週に 1, 2 回 ○2 週間に 1 回程度 ○1 ヶ月に 1 回程度 ○半年に 1 回程度 ○利用しない

6-6 Taki Plaza の設備やイベントに対する要望があれば教えてください。(2000 字以内)

6-7 学生支援の一環として、キャンパス内一部の女子トイレ及び多目的トイレに生理用品の提供が行われています。それについて知っていますか。生理用品の提供については、本学 HP「生理用品の提供」

(<https://www.titech.ac.jp/student-support/students/health/free-sanitarypad>)をご覧ください。

○知っている ○詳しくは知らない ○全く知らない

6-8 現在生理用品が設置されている場所以外で、設置してほしい場所があれば教えてください。(2000 字以内)

6-9 学内の施設に関しての意見があれば教えてください。(2000 字以内) 例: 講義施設、体育館、グラウンド、リフレッシュスペース

VI. 大学

大学全般についてお聞きします。

7-1 授業や学内行事など大学の発信する情報を得るために主に利用するものを選択してください。(複数選択可)

調査資料集

☐大学のホームページ ☐大学の掲示板 ☐教務 Web システム ☐電子掲示板(ディスプレイ) ☐東工大 Slack ☐東工大公式 SNS アカウント(Facebook, X(旧 Twitter), LinkedIn 等) ☐X(旧 Twitter) ☐Instagram ☐その他 SNS ☐友人 ☐教員 ☐その他

7-2 東工大ポータル(T2SCHOLA, 教務 Web, 東工大メールシステム, ポートフォリオなど)、Slack、Box や OCW について何か意見があれば教えてください。(2000 字以内)

7-3 奨学金・経済的支援について、受給したことがあるものを教えてください。(複数選択可)

☐Tokyo Tech SPRING ☐Tokyo Tech BOOST ☐教育プログラムによる経済支援(卓越教育院等) ☐その他学内の奨学金・経済的支援 ☐日本学生支援機構奨学金(JASSO) ☐日本学術振興会による制度・プログラム ☐民間財団等奨学金 ☐その他(自由記述)

7-4 学生生活サービス(キャリア支援、奨学金、保険、サークル活動への支援など)について何か意見や要望があれば教えてください。(2000 字以内)

7-5 教員・職員の対応に関して意見があれば教えてください。(2000 字以内)

ハラスメントについてお聞きます。

7-6 ハラスメント(アルコール・セクシャル・アカデミック・パワーハラスメント・その他のハラスメント)を見聞きしたことがありますか。

☐現在見ている ☐以前に見たことがある ☐見たことがない

7-7 どのようなハラスメントを見聞きしたことがありますか。(複数選択可)

☐飲酒の強要等 ☐性的で不快な言動 ☐教育研究上の権力を利用した不適切な言動 ☐立場の優位性を背景にした不適切な言動 ☐国籍人種に関する不適切な言動 ☐その他の不適切な言動

7-8 ハラスメント相談窓口について要望があれば教えてください。(2000 字以内)

ハラスメント相談窓口については、本学 HP「ハラスメント対策」

(<https://www.titech.ac.jp/0/students/counseling/harassment>)を参照してください。

7-9 現在公欠制度が適用されない事由以外で、公欠制度を利用したい事由はありますか。(2000 字以内)

公欠制度については、「公欠制度について」(<https://www.titech.ac.jp/student/pdf/certificates-submitting-forms-current-koketsu-seido.pdf>)をご覧ください。

公欠制度についてお聞きます。

7-10 公欠制度について何か意見があれば教えてください。(2000 字以内)

防災についてお聞きます。

7-11 昨年の学内の防災訓練に参加しましたか。(複数選択可)

☐安否確認メールに対応した ☐総合訓練(自衛防災隊編成訓練 情報伝達訓練 など)に参加した ☐個別訓練(救命救護訓練 通報訓練 など)に参加した ☐在学していなかった ☐参加しなかった

7-12 防災訓練に参加しなかった理由を教えてください。(複数選択可)

☐知らなかったため ☐その時間に学内にいなかったため ☐意義が感じられなかったため ☐何をすればよいのかわからなかったため ☐周囲が参加していなかったため ☐教員からの指示がなかったため ☐その他

7-13 多くの学生が、防災・避難訓練に参加するためにはどのような施策等を行えば良いか教えてください。(2000 字以

内)

VII. その他

東京医科歯科大学との統合についてお聞きます。

8-1 現行の東工大の制度のうち、統合後も変えないで欲しい制度は何かありますか、またそれはなぜですか。(2000 字以内)

例:学修カリキュラム、系・研究室所属システム、大学院入試システム(A, B 日程など)、T2SCHOLA 等学修システム、留学制度など

8-2 現行の東工大の制度のうち、統合を機に変わって欲しい制度は何かありますか、またどう変わって欲しいですか。(2000 字以内)

例:学修カリキュラム、系・研究室所属システム、大学院入試システム(A, B 日程など)、T2SCHOLA 等学修システム、留学制度など

生成 AI についてお聞きます。

8-3 生成 AI を利用していますか。生成 AI を利用している場合、利用目的をおしえてください。(複数選択可)

☐ 生成 AI を利用していない。 ☐ 学修のため(課題を解くための補助など) ☐ 研究のため(論文を読む際の補助など)
☐ 課外活動のため(サークル、部活など) ☐ 趣味のため ☐ そのほかの目的(自由記述)

8-4 生成 AI の具体的な使い方についておしえてください。(2000 字以内)

8-5 生成 AI を利用するとき、生成 AI から得られる情報をどのくらい信用していますか。

☐ 信用している ☐ 少し信用している ☐ どちらとも言えない ☐ あまり信用していない ☐ 全く信用していない

VIII. 全体

全体を通してお聞きます。

9-1 学生間の交流を推進するために、どのような取り組み(イベントや企画、制度)があれば良いか教えてください。(2000 字以内)

9-2 ダイバーシティ・エクイティ&インクルージョン、ダイバーシティ&インクルージョン(DE&I、D&I)の観点から全ての学生が過ごしやすくするために、改善すべき点があれば教えてください。(2000 字以内)

ダイバーシティ&インクルージョン(D&I)については、本学 HP「東工大ダイバーシティ&インクルージョン」([\[https://www.titech.ac.jp/diversity-inclusion\]](https://www.titech.ac.jp/diversity-inclusion))を参照してください。

9-3 ほしいと思う制度、サービス、施設などがあれば教えてください。(2000 字以内)

9-4 最後に全体を通して意見があれば自由に記入してください。(2000 字以内)

7.10 Questions of Student Survey 2024 (English)

☐ : radio button ☐ : check box

I. Basic information

1-1 What is your current status at Tokyo Tech?

☐ Bachelor's degree student ☐ Master's degree student ☐ Doctoral degree student ☐ Professional master's degree student ☐ Research student ☐ Non Degree Students ☐ Other

1-2 What was your path to admission?

☐ General selection (first round) ☐ General selection (second round) ☐ School recommendation selection (including entrance exam for recommended candidates) ☐ Comprehensive selection (general), including those who enrolled via the comprehensive selection exam in 2023 or before, and Admissions Office exam ☐ Comprehensive selection (Female only quota) ☐ Privately funded student ☐ MEXT Scholarship student ☐ High school-university collaboration entrance exam ☐ Transfer student ☐ Other (please specify)

1-3 Year enrolled in your current program.

☐ 2024 ☐ 2023 ☐ 2022 ☐ 2021 ☐ 2020 ☐ 2019 ☐ 2018 ☐ 2017 ☐ 2016 or before

1-4 Check the items that apply.

☐ I have attended other technical colleges or universities. ☐ I am an international student.

1-5 Which school are you affiliated with?

☐ School of Science ☐ School of Engineering ☐ School of Material and Chemical Technology ☐ School of Computing ☐ School of Life Science and Technology ☐ School of Environment and Society ☐ Other (please specify)

1-6 Which department are you affiliated with?

☐ Not affiliated with a department ☐ Department of Mathematics ☐ Department of Physics ☐ Department of Chemistry ☐ Department of Earth and Planetary Sciences ☐ Department of Mechanical Engineering ☐ Department of Systems and Control Engineering ☐ Department of Electrical and Electronic Engineering ☐ Department of Information and Communications Engineering ☐ Department of Industrial Engineering and Economics ☐ Department of Materials Science and Engineering ☐ Department of Chemical Science and Engineering ☐ Department of Mathematical and Computing Science ☐ Department of Computer Science ☐ Department of Life Science and Technology ☐ Department of Architecture and Building Engineering ☐ Department of Civil and Environmental Engineering ☐ Department of Transdisciplinary Science and Engineering ☐ Department of Social and Human Sciences ☐ Department of Innovation Science

1-7 Which graduate major and program are you in?

☐ No major ☐ Graduate Major in Mathematics ☐ Graduate Major in Physics ☐ Graduate Major in Chemistry ☐ Graduate Major in Earth and Planetary Sciences ☐ Graduate Major in Mechanical Engineering ☐ Graduate Major in Systems and Control Engineering ☐ Graduate Major in Electrical and Electronic Engineering ☐ Graduate Major in Information and Communications Engineering ☐ Graduate Major in Industrial Engineering and Economics ☐ Graduate Major in Materials Science and Engineering ☐ Graduate Major in Chemical Science and Engineering ☐ Graduate Major in

Mathematical and Computing Science ○Graduate Major in Computer Science ○Graduate Major in Life Science and Technology ○Graduate Major in Architecture and Building Engineering ○Graduate Major in Civil Engineering ○Graduate Major in Global Engineering for Development, Environment and Society ○Graduate Major in Social and Human Sciences ○Graduate Major in Innovation Science ○Graduate Major in Energy Science and Engineering ○Graduate Major in Energy Science and Informatics ○Graduate Major in Engineering Sciences and Design ○Graduate Major in Human Centered Science and Biomedical Engineering ○Graduate Major in Nuclear Engineering ○Graduate Major in Artificial Intelligence ○Graduate Major in Urban Design and Built Environment ○Graduate Major in Earth-Life Science ○Graduate Major in Technology and Innovation Management

1-8 Gender

○Male ○Female ○Rather not specify

II. Lifestyle

Please answer the following questions about lifestyle habits.

2-1 In which area of campus do you spend much time of yours?

○Ookayama area (North, South, East or West) ○Midorigaoka area ○Ishikawadai area ○Suzukakedai campus
○Tamachi campus

2-2 What extracurricular activities, if any, do you participate in (multiple selections allowed) ?

☐ School clubs ☐ Student clubs ☐ Other student organizations ☐ Other (please specify) ☐ None

III. Studies

Please answer the following questions about university education and lectures.

3-1 Please tell us what kinds of human resources Tokyo Tech (Institute of Science Tokyo) should develop. (multiple selections allowed)

☐ Global talent ☐ People with expertise and professional skills ☐ People with insight into matters related to science and technology ☐ People who can combine the humanities and sciences ☐ People with leadership skills ☐ People with skills useful for finding employment ☐ Others (please describe)

3-2 Please indicate your reasons for attending the Institute. (for Professional skills, employment, overall competence, etc) (multiple selections allowed)

☐ for Research ☐ mastering a specialty ☐ acquiring education ☐ finding a job ☐ networking ☐ extracurricular activities such as clubs and activities ☐ finding what I want to do ☐ didn't want to go out into the world right away ☐ influenced by people around me ☐ other (please describe)

3-3 Are you proud to be a Tokyo Tech student?

○Yes, absolutely ○Yes, somewhat ○Yes, sort of ○No, not at all

3-4 Please let us know if you have any opinions about the liberal arts courses (Basic Science and Technology Courses, Humanities and Social Science Courses, English Language Courses, Second Foreign Language Courses,

Japanese Language and Culture Courses, Breadth Courses, Teacher Education Courses, Career Development Courses) (until AY 2023), and/or entrepreneurship courses (from AY 2024). (Maximum 1250 words)

3-5 Please let us know if you have opinions about classes and systems of your current department, graduate major, etc. (Maximum 1250 words)

3-6 Please let us know if you have any opinions about laboratory affiliations during bachelor's degree programs. (Maximum 1250 words)

Example: Timing, laboratory projects, method for deciding laboratories, B2D

3-7 Please let us know if you have any opinions about classes taught in English. (Maximum 1250 words)

3-8 Please let us know if you have any opinions about the streaming of recorded class videos. (Maximum 1250 words)

3-9 Please tell us if you wish to participate, are participating, or was participating with any of the following education programs. (multiple selections allowed)

☐Multidisciplinary Program of the Confederation of the Four Universities ☐Global Scientists and Engineers Course (Entrepreneurship Education Global Education Option Course) ☐University-Wide Education Program in Data Science and Artificial Intelligence ☐Liberal Arts Exploration Program ☐Tokyo Tech Summer Program ☐Tokyo Tech Winter Program ☐B2D Scheme ☐Leading Graduate Schools ☐Tokyo Tech Academy for Leadership (ToTAL) program ☐Tokyo Tech Academy for Convergence of Materials and Informatics (TAC-MI) program ☐Tokyo Tech Academy for Super Smart Society Program (WISE-SSS) ☐Tokyo Tech Academy of Energy and Informatics Program ☐Joint Education and Research Programs of Top Asian Science and Engineering Universities (T2KN) (CAMPUS Asia Plus) ☐Tokyo Tech-Tsinghua University Joint Graduate Program ☐Others (please describe)

3-10 Please tell us why you would like to participate, are participating, or have participated in the program you selected in the previous question. (Maximum 1250 words)

Example: GSEC, DSAI

Please answer the following questions about postgraduate education.

3-11 Please select the following that apply to your plans for higher education.

☐I am a master's student planning to advance to a doctoral program at the Institute / I am a doctoral student. ☐I am a bachelor's student planning to advance to a master's program at the Institute / I am a master's student planning to leave the Institute once I obtain my degree. ☐I am a bachelor's student planning to leave the Institute once I obtain my degree. ☐Undecided

3-12 If you are not planning to advance to a doctoral program at the Institute, please indicate the reasons why. (multiple selections allowed)

☐Financial reasons. ☐I want to begin work. ☐I am not interested in pursuing my current field of study. ☐I would like to enroll in another local university. ☐I would like to pursue postgraduate studies abroad. ☐I am not interested in research. ☐I am concerned about my future career. ☐The courses are conducted in English. ☐Other (please specify)

3-13 Why did you/would you want to enter a master's program? (multiple selections allowed)

☐I have a theme I want to research ☐I wanted to do experiments ☐For job hunting ☐I still want to be a student

☐ Many students around me are also going on to higher education ☐ No special reason ☐ Other (please specify)

3-14 If you are not planning to advance to a doctoral program at the Institute, please indicate the reasons why. (multiple selections allowed)

☐ Financial reasons. ☐ I want to begin work. ☐ I am not interested in pursuing my current field of study. ☐ I would like to enroll in another local university. ☐ I would like to pursue postgraduate studies abroad. ☐ I am not interested in research. ☐ I am concerned about my future career. ☐ The courses are conducted in English. ☐ Other (please specify)

3-15 Why did you/would you want to enter a doctoral program? (multiple selections allowed)

☐ I have a theme I want to research ☐ I wanted to do experiments ☐ For job hunting ☐ No special reason ☐ Other (please specify)

IV. Education-related services

Please answer the following questions about studying abroad.

4-1 Have you ever studied abroad?

☐ Yes, both before and after enrolling at Tokyo Tech. ☐ Yes, after enrolling at Tokyo Tech. ☐ Yes, before enrolling at Tokyo Tech. ☐ No, I have not.

4-2 Have you ever studied abroad at another university or college?

☐ Yes, both before and after enrolling at Tokyo Tech. ☐ Yes, after enrolling at Tokyo Tech. ☐ Yes, before enrolling at Tokyo Tech. ☐ No, I have not.

4-3 Do you wish to study abroad while enrolled at Tokyo Tech?

☐ Yes, I already have plans to do so. ☐ Yes, I am actively working to do so. ☐ Yes, if I have the chance. ☐ No. ☐ Others (please describe)

4-4 Please tell us why you decided to study abroad. (multiple selections allowed)

Note: The Global Education Option Course of Entrepreneurship Education is abbreviated as GEO.

☐ I read the Guide to Study Abroad for Tokyo Tech Students ☐ I attended a Tokyo Tech-sponsored event ☐ I attended a Tokyo Tech student organization-sponsored event ☐ I attended an event sponsored by other organizations ☐ Global Scientists and Engineers Course, GEO classes ☐ Global Scientists and Engineers Course, GEO super-short-term study abroad program ☐ I was chosen for a scholarship program ☐ Attended an academic conference (both in Japan or abroad) ☐ Attended a university class (other than Global Scientists and Engineers Course and GEO) ☐ Others (please describe)

4-5 Why did you decide to study abroad? (Maximum 1250 words)

4-6 Is there anything that prevents you from studying abroad? (multiple selections allowed)

☐ Financial reasons. ☐ I am not confident with my foreign language skills. ☐ I want to prioritize my current studies and research. ☐ I am concerned about extending the duration of my enrollment at the university. ☐ I am worried about staying in a foreign country. ☐ I am not interested. ☐ I do not have enough information. ☐ Other (please specify)

4-7 Is there anything that prevents you from studying abroad? If so, please let us know what kind of new systems,

courses, or services are needed to remove these barriers? (Maximum 1250 words)

4-8 Please let us know if you have any opinions regarding Tokyo Tech's studying abroad programs. (Maximum 1250 words)

Please answer the following questions about entrepreneurship.

4-9 Please tell us what you think about entrepreneurship as it applies to you.

○Very much want to (plan to) ○Want to ○Want to if given the opportunity ○Do not want to ○Other(please describe)

4-10 What do you know about Tokyo Tech's efforts regarding entrepreneurship? (multiple selections allowed)

☐Tokyo Tech Academy for Leadership (ToTAL) ☐Practical-Based Entrepreneurship Education Courses (PEECs)
☐Innovation Design Platform events (Go Startup, STARTech, Business Contest, INDEST) ☐Tokyo Tech-sponsored entrepreneurship events ☐Others (please describe)

V. Food in Tokyo Tech

Please answer the following questions about the lunch.

5-1 Where do you normally get lunch on weekdays?

Row

○University Co-op's Tsubame Terrace ○University Co-op's Second Cafeteria ○University Co-op's Suzukakedai Cafeteria ○Kitchen MOTOTECH ○University Co-op Ookayama Bookstore, University Co-op Food Shop, West Bldg. 5, or Co-op BENTO ○I use the food trucks. ○I use the 7-Eleven on Ookayama Campus. ○I go to off-campus supermarkets or convenience stores. ○I go to off-campus restaurants. ○I bring my own lunch. ○Others

Column

○Four or more times a week ○Two to three days a week ○Once a week ○One or two days a month ○Not at all

5-2 What is the most important factor when deciding what to eat for lunch on weekdays?

☐Price ☐Amount of food ☐Taste ☐Nutritional balance ☐Halal, vegan options ☐Speed ☐Accessibility ☐Comfort of eating space ☐Particular food I wish to eat ☐Others (please describe)

5-3 What is your budget for lunch on weekdays?

○Less than 500 yen ○500 to 700 yen ○700 to 900 yen ○More than 900 yen

5-4 Please let us know if there is anything you would like to see added to the menu at the Co-op cafeterias. (Maximum 1250 words)

5-5 Please let us know if you have any requests for the on-campus restaurants (including the Co-op cafeterias), shops or food trucks. (Maximum 1250 words)

If you have requests for existing stores, please indicate the store name.

VI. The Institute's facilities

Please answer the following questions about the Institute's facilities.

6-1 How frequently do you use the University Co-op Shops?

☐Four or more times a week ☐Two to three days a week ☐Once a week ☐One or two days a month ☐Not at all

6-2 Please provide any comments or requests you may have regarding the University Co-op Shops. (Maximum 1250 words)

6-3 How frequently do you use the Institute's libraries?

☐Four or more times a week ☐Two to three days a week ☐Once a week ☐One or two days a month ☐Not at all

6-4 Please provide any comments or requests you may have regarding the libraries. (Maximum 1250 words)

6-5 How often and for what purpose do you use Taki Plaza?

Row

☐To complete procedures at the Student Division or Student Support Division ☐For student-centered events ☐For Tokyo Tech-sponsored events ☐For extracurricular and club meetings ☐To hang out with friends ☐For use personal workspace ☐Space for relaxation ☐To use a café ☐Other

Column

☐Three or more times a week ☐Once or twice a week ☐Once every two weeks ☐Once a month ☐Once every six months ☐Never used

6-6 Please let us know if you have any requests regarding Taki Plaza facilities and events. (Maximum 1250 words)

6-7 Did you know that as part of Tokyo Tech's student support services, free sanitary pads are offered in some female restrooms and multipurpose toilets across our campuses?

For more information, please visit the following page "Sanitary Pads for All Who Need Them" of the Tokyo Tech website : <https://www.titech.ac.jp/english/student-support/students/health/free-sanitarypad>

6-8 Please let us know if there are additional locations where you would like free pads to be offered. (Maximum 1250 words)

6-9 Please let us know if you have any opinions regarding on-campus facilities. (Maximum 1250 words)

Examples: Lecture rooms, gymnasiums, sports grounds, relaxation spaces

VII. The Institute

Please answer the following questions about the general questions

7-1 How do you acquire information regarding courses and events at Tokyo Tech?

☐Tokyo Tech website ☐Campus bulletin boards ☐Web System for Students and Faculty ☐Electronic bulletin board ☐Tokyo Tech Slack ☐Tokyo Tech official SNSs (Facebook, X [formerly Twitter] , LinkedIn, etc.) ☐X (former Twitter) ☐Instagram ☐Other SNSs ☐Friends ☐Faculty member ☐Other(please describe)

7-2 Please let us know if you have any opinions regarding the Tokyo Tech Portal (T2SCHOLA, Web System for Students and Faculty, Tokyo Tech Mail System, Learning Portfolio, etc.), Slack, Box, or OCW. (Maximum 1250 words)

7-3 Please indicate which scholarships/financial aid you have received. (multiple selections allowed)

☐Tokyo Tech SPRING ☐Tokyo Tech BOOST ☐Financial aid through educational programs (Tokyo Tech Academy, etc.) ☐Other on-campus scholarships/financial aid ☐Japan Student Services Organization scholarship loans (JASSO) ☐Japan Society for the Promotion of Science programs ☐Privately funded scholarships ☐Others (please describe)

7-4 Please let us know if you have any opinions or requests regarding student life services (career support, scholarships, insurance, aid for extracurricular activities, etc.). (Maximum 1250 words)

7-5 Please provide any comments you may have regarding the services provided by faculty and administrative staff. (Maximum 1250 words)

Please answer the following questions about harassment.

7-6 Have you ever witnessed any form of harassment at the Institute (sexual, academic, power, alcohol-related, etc.)?

☐Yes, currently there is a case(s) of harassment to which I have been witness. ☐Yes, I have in the past. ☐No, I have not.

7-7 What kinds of harassment have you heard of or witnessed? (multiple selections allowed)

☐Forced drinking ☐Sexually offensive language or behavior ☐Inappropriate language or behavior using educational or research authority ☐Inappropriate language or behavior based on superiority of position ☐Inappropriate language or behavior regarding nationality or race ☐Other inappropriate language or behavior (please specify)

7-8 Please let us know if you have any requests regarding the Harassment Consultation Service. (Maximum 1250 words)

For more information about the Harassment Consultation Service, please visit the “Harassment Policy” page of the Tokyo Tech website : <https://www.titech.ac.jp/english/0/students/counseling/harassment>

Please answer the following questions about authorized absences.

7-9 Are there any other reasons that you would like to use the authorized absence system other than the current valid reasons? (Maximum 1250 words)

See “Agreement on Authorized Absence” for more information.

(<https://www.titech.ac.jp/english/student/pdf/177-agreement-on-authorized-absences.pdf>)

7-10 Please let us know if you have any opinions regarding the authorized absence system. (Maximum 1250 words)

Please answer the following questions about disaster preparedness.

7-11 Did you participate in the disaster drill last year? (multiple selections allowed)

☐I responded to the safety confirmation mail. ☐I participated in the comprehensive drill (formation of self-preparedness disaster response teams, information communication training, etc.) ☐I participated in the optional drills (first-aid drills, reporting drills, etc.) ☐I was not enrolled at Tokyo Tech at that time. ☐I did not participate.

7-12 Please tell us why you did not participate in the disaster drill. (multiple selections allowed)

☐Did not know about them ☐Was not on campus at the time ☐Did not feel the need to ☐Did not know what to do ☐No one around me was participating ☐Was not instructed by an instructor ☐Other

7-13 Please tell us what measures, etc. should be taken to encourage more students to participate in disaster and evacuation drills. (Maximum 1250 words)

VIII. Others

Please answer the following questions about your opinions regarding the integration with Tokyo Medical and Dental University.

8-1 Among currently available systems at Tokyo Tech, please name anything you want to be maintained even after the integration, and explain why.

Example: Curriculum, department/laboratory affiliation, graduate admission system (A/B schedule, etc.), learning management system (T2SCHOLA, etc.), study-abroad programs, etc.

8-2 Among currently available systems at Tokyo Tech, name anything you want to be improved through integration, and explain how you want to be changed.

Example: Curriculum, department/laboratory affiliation, graduate admission system (A/B schedule, etc.), learning management system (T2SCHOLA, etc.), study-abroad programs, etc.

Please answer the following questions about generative AI.

8-3 Do you use generative AI, and if yes, for what purpose? (multiple selections allowed)

☐ I do not use generative AI. ☐ I use it for education (assistance in completing assignments, etc.). ☐ I use it for research (assistance in reading papers, etc.). ☐ I use it for extracurricular activities (clubs, etc.). ☐ I use it as a hobby. ☐ I use it for other purposes. (please specify)

8-4 Please tell us about your specific use(s) of generative AI. (Maximum 1250 words)

8-5 When you use generative AI, how much do you trust the information it generates?

☐ I trust it completely. ☐ I trust it to a certain degree. ☐ Neutral ☐ I do not trust it that much. ☐ I do not trust it at all.

IX. Overall

Please answer the following question about your overall experience at the Institute.

9-1 Please tell us what kinds of initiatives (events, projects, systems) you would like to see to promote interaction among students. (Maximum 1250 words)

9-2 What improvements, if any, are needed to make it easier for all students in terms of diversity, equity and inclusion, diversity and inclusion (DE&I, D&I)? (Maximum 1250 words)

For more information on diversity and inclusion, please visit the page “Diversity and Inclusion at Tokyo Tech” of the Tokyo Tech website: <https://www.titech.ac.jp/english/diversity-inclusion>

9-3 Tell us about any systems, services or facilities you would like to see added. (Maximum 1250 words)

9-4 Please provide any comments regarding your overall experience at the Institute. (Maximum 1250 words)

8 謝辞

学勢調査 2024 アンケートの実施及び、本提言書の作成に際し、多くの皆様にご協力をいただきましたので、ここに感謝の意を表したいと思います。

まず、学勢調査 2024 のアンケート調査に回答してくださった 2,418 名の本学理工学系学生の皆様に御礼の言葉をお伝えしたいと思います。皆様から頂いた声はすでに多くの教職員にフィードバックされ、今後の改善の参考にさせていただいております。多数の貴重なご意見をありがとうございました。

次に、ご多用の中キャンパスミーティングなどを通じて意見交換の機会を設けてくださり、本提言書の作成に多大なご協力をいただいた、本学教員の皆様、職員の皆様、生協の皆様に深く感謝申し上げます。皆様のご協力なしには、本提言書の完成はありませんでした。本当にありがとうございました。

2025 年 3 月

学勢調査 2024 学生スタッフ一同

学勢調査 2024 に協力していただいた本学学生の皆様

社会連携・DE&I 本部の皆様

事務局(下記)の皆様

総務企画部総務課

総務企画部企画戦略課

総務企画部広報課

総務企画部ダイバーシティ推進課

総務企画部環境安全課

総務企画部すずかけ台総務課

人事部人材育成課

施設部再開発推進課

情報部情報企画課

情報部図書館情報管理課

情報部図書館利用支援課

教育推進部教務課

教育推進部学生支援課

教育推進部入試課

教育推進部全学教育推進課

教育推進部国際教育課

学院等事務部環境・社会理工学院業務推進課

学院等事務部リベラルアーツ研究教育院業務推進課

リベラルアーツ研究教育院の皆様

データサイエンス・AI 全学教育機構の皆様

学生支援センターの皆様

東京科学大学つばめ生活協同組合の皆様

9 学勢調査 2024 学生スタッフ

代 表	生命理工学院	生命理工学系	学士 4 年	松本 淳弥
副代表	工学院	システム制御系システム制御コース	修士 1 年	吉村 亮哉
副代表	工学院	情報通信系	学士 3 年	東 翼

学修班

班 員	工学院	機械系エンジニアリングデザインコース	博士 1 年	野村 彩乃
班 員	工学院	システム制御系システム制御コース	修士 1 年	吉村 亮哉

施設班

班 員	環境・社会理工学院	建築学系建築学コース	博士 1 年	高井 峻
班 員	環境・社会理工学院	土木・環境工学系都市・環境学コース	修士 1 年	大河原 早紀
班 員	環境・社会理工学院	融合理工学系地球環境共創コース	修士 1 年	永岡 由之
班 員	環境・社会理工学院	融合理工学系	学士 4 年	飯干 成美

サービス班

班 員	環境・社会理工学院	融合理工学系地球環境共創コース	修士 2 年	渡部 晃子
班 員	環境・社会理工学院	土木・環境工学系都市・環境学コース	修士 1 年	大河原 早紀
班 員	環境・社会理工学院	融合理工学系地球環境共創コース	修士 1 年	永岡 由之
班 員	工学院	情報通信系	学士 3 年	東 翼

DE&I 班

班 員	工学院	機械系エンジニアリングデザインコース	博士 1 年	野村 彩乃
班 員	環境・社会理工学院	融合理工学系地球環境共創コース	修士 2 年	渡部 晃子
班 員	環境・社会理工学院	土木・環境工学系都市・環境学コース	修士 1 年	大河原 早紀
班 員	工学院	システム制御系システム制御コース	修士 1 年	吉村 亮哉
班 員	環境・社会理工学院	融合理工学系	学士 4 年	飯干 成美

その他班

班 員	生命理工学院	生命理工学系	学士 4 年	松本 淳弥
班 員	情報理工学院	数理・計算科学系	学士 3 年	知念 優

表紙作成

生命理工学院	生命理工学系	学士 3 年	山崎 彩佳
--------	--------	--------	-------

データ分析

情報理工学院	数理・計算科学系	学士 3 年	知念 優
--------	----------	--------	------

アドバイザー

理学院	物理学系物理学コース	博士 2 年	吉田 拓暉
生命理工学院	生命理工学系生命理工学コース	修士 1 年	長谷川 義人

所属・学年は 2025 年 3 月末現在

10 学勢調査 2024 WG 教職員スタッフ

環境・社会理工学院	教授	鍵 直樹(主査)
学生支援センター	教授	伊東 幸子
学生支援センター	マネジメント准教授	山田 恵美子
総合研究院	准教授	長谷川 純
リベラルアーツ研究教育院	教授	弓山 達也
リベラルアーツ研究教育院	教授	猪原 健弘
保健管理センター	教授	齋藤 憲司
保健管理センター	准教授	高田 純
アントレプレナーシップ教育機構	特任教授	太田 絵里
学生支援課	課長	平山 隆広
学生支援課支援企画グループ	グループ長	岡村 純
学生支援センター	事務支援員	下段 幸子
学生支援センター	事務支援員	奈須野 美穂
超スマート社会卓越教育院/工学院	特任教授	西原 明法